

南相馬市埋蔵文化財調査報告第11集

# 浦尻貝塚 3

第2分冊 ー自然遺物編ー



## 例 言

1. 本書は福島県南相馬市小高区大字浦尻字南台他に所在する浦尻貝塚の発掘調査報告書であり、2分冊からなるうちの「自然遺物編」である。
2. 報告する調査は、第1分冊「土器編」記載のとおりである。
3. 本書は当該調査の縄文時代の貝類などの動物遺体を含む貝層・遺物包含層ならびにこれらから出土した動物遺体・植物遺体などの自然遺物についての報告である。貝層・遺物包含層の調査状況について「浦尻貝塚1」ですでに報告しているが、報告時は出土遺物の整理作業が完了していなかったため、改めて記載を行っている。
4. 調査体制・指導機関等については第1分冊の土器編の例言に記載している。
5. 本書を含めた浦尻貝塚の自然遺物を含む貝層等の調査、自然遺物の基礎的な分類作業は、樋泉岳二氏（早稲田大学）・植月学氏（山梨県立博物館）の両氏にご指導いただいたほか、多大なご協力を賜った。記して感謝の意を示したい。
6. 本書に関わる自然遺物の同定・分析ならびに原稿執筆は次の方々をお願いした。（敬称略）

樋泉岳二（早稲田大学） 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

江田真毅（鳥取大学） 鳥類

黒住耐二（千葉県立中央博物館） 微小貝類

谷畑美帆（明治大学） 人骨

吉川純子（古代の森研究舎） 植物遺体

また、イノシシ遺体については、山崎京美氏（いわき女子短期大学）に計測・分析を実施していただいた。なお、植物遺体の分析は委託業務として行っている。

7. 本書の編集は、川田強・樋泉岳二が行った。本書の執筆分担は下記のとおりである。各節の文末にも執筆者名を記載している。

川田強	第1章 第1～5・7節、附編2
川田強・佐川久	第1章 第6節
樋泉岳二	第2章 第1・2・5節
江田真毅	第2章 第3節
黒住耐二	第2章 第4節
谷畑美帆	第3章
吉川純子	第4章
山崎京美	附編1
川田強・樋泉岳二	附編3

8. 本書に掲載した遺物の写真撮影の分担は下記のとおりである。

川田 強	貝類・魚類・イノシシ遺体を除く哺乳類遺体
山崎京美	イノシシ遺体
江田真毅	鳥類遺体

9. 本書（第2分冊）作成に協力いただいた方々は第1分冊の例言に記載した。

10. 本書で掲載した資料は、全て南相馬市教育委員会が保管している。

## 凡 例

- 1 本書に掲載した遺物写真の縮尺は各図版に掲載している。
- 2 本文中に記載した縄文時代各時期に相当する土器型式は次のとおりである。

前期初頭	花積下層式
前期前葉	宮田Ⅲ群（大木1式）
前期中葉	大木2 a・2 b式
前期後葉	大木3・4式
前期末葉	大木5・6式
中期初頭	大木7 a式
中期前葉	大木7 a・7 b式
中期中葉	大木8 a・8 b式
中期後葉	大木9・10式
中期末葉	大木10式
後期前葉	綱取Ⅰ・Ⅱ式
後期中葉	堀ノ内Ⅱ式・加曾利B式
後期末葉	新地式
晩期前葉	大洞B・BC式
晩期中葉	大洞C1・C2式
晩期後葉	大洞A式
晩期末葉	大洞A'式
- 3 本文中に記載する調査方法・出土箇所による資料の分類方法、名称は第1章第2節に記載する。
- 4 本報告土器型式の記載は「浦尻貝塚1」（小高町教育委員会2005）、「浦尻貝塚2」（南相馬市教育委員会2006）ならびに本報告第1分冊の記載に基づく。なお、表記した土器型式のうち、大木7 a式のみ古・新の2段階に分けて表記した。この基準は本報告第1分冊第3章に示した。

## 第2分冊－自然遺物編－ 目次

例言

凡例

目次

第1章 貝層等の出土状況 .....	1
第1節 貝層等の概要 .....	1
第2節 調査方法 .....	7
第3節 台ノ前南貝層の調査状況 .....	13
第4節 台ノ前北貝層の調査状況 .....	24
第5節 西向貝層の調査状況 .....	32
第6節 小迫北貝層ならびに小迫北地区東の谷・西の谷の調査状況 .....	42
第7節 貝層の形成状況 .....	52
第2章 動物遺体 .....	59
第1節 動物遺体分析の概要 .....	59
第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類 .....	59
第3節 鳥類 .....	127
第4節 微小貝類 .....	137
第5節 動物遺体群の変遷とその背景 .....	153
第3章 出土人骨 .....	159
第4章 炭化種実 .....	161
附編1 浦尻貝塚出土のイノシシ遺体について .....	169
附編2 明治期の相双地方の漁業 .....	186
附編3 角部内南台貝塚・片草貝塚の動物遺体 .....	197

## 第1～4章 挿図目次

図 1	浦尻貝塚調査状況図 (S= 1/2500) ……………	2
図 2	南台・台ノ前・西向地区調査全体図 (S = 1/1000) ……………	5
図 3	31T 実測図 (S = 1/100・1/40) ……………	14
図 4	31T 獣骨・魚骨出現度 ……………	16
図 5	31T 計測混貝率 ……………	16
図 6	38T 実測図 (S = 1/100・1/40) ……………	17
図 7	38T 獣骨・魚骨出現度 ……………	18
図 8	38T 計測混貝率 ……………	18
図 9	39T 実測図 (S = 1/100・1/40) ……………	21
図 10	43T 実測図 (S = 1/100・1/40) ……………	22
図 11	54T 実測図 (S = 1/80・1/60) ……………	25
図 12	54T 断面図 (S = 1/40) ……………	26
図 13	54T 獣骨・魚骨・土器出現度 ……………	27
図 14	54T 計測混貝率 ……………	27
図 15	63T 実測図 (S = 1/60) ……………	30
図 16	64T 実測図 (S = 1/200・1/20) ……………	33
図 17	64TS1 獣骨・魚骨・土器出現度 ……………	35
図 18	64TS1 計測混貝率 ……………	35
図 19	64TS2 獣骨・魚骨・土器出現度 ……………	35
図 20	64TS2 計測混貝率 ……………	35
図 21	64TS3 獣骨・魚骨・土器出現度 ……………	36
図 22	64TS3 計測混貝率 ……………	36
図 23	64TS4 獣骨・魚骨・土器出現度 ……………	36
図 24	64TS4 計測混貝率 ……………	36
図 25	小迫北・南地区調査状況図 (S = 1/1000) ……	43
図 26	72T、1～3G 実測図 (S=1/100) ……………	44
図 27	小迫北地区東の谷コラムサンプル断面図 (S = 1/20) ……………	45
図 28	小迫北地区東の谷獣骨・魚骨・土器出現度 ……	47
図 29	小迫北地区東の谷計測混貝率 ……………	47
図 30	IV区断面図 (S= 1/60) ……………	48
図 31	IV区実測図 (S= 1/100) ……………	49
図 32	IV区獣骨・土器出現度 ……………	50
図 33	台ノ前北・台ノ前南・西向貝層断面模式図 (S = 1/200・1/100) ……………	54
図 34	浦尻貝塚計測混貝率の比較 ……………	56
図 35	浦尻貝塚獣骨出現度の比較 ……………	56
図 36	浦尻貝塚魚骨出現度の比較 ……………	56
図 37	浦尻貝塚土器出現度の比較 ……………	56
図 38	浦尻貝塚における貝類組成の変遷 ……………	62
図 39	少数種の中で特徴的な変遷を示す貝類の例 ……	63
図 40	台ノ前北・台ノ前南貝層 (大木5～9式期) におけるアサリの殻長分布……………	64
図 41	西向貝層 (綱取II式期)・小迫貝層 (大洞 BC～C2式期) におけるアサリの 殻長分布 ……………	65
図 42	西向貝層 (綱取II式期)・小迫貝層 (大洞 BC～C2式期) におけるハマグリ (左) ・ヤマトシジミ (右) の殻長分布 ……………	65
図 43	浦尻貝塚の貝層サンプルから 2.5mm・1mm メッシュで回収された魚類の組成 (NISP) ……	68
図 44	浦尻貝塚の貝層サンプルから 2.5mm・1mm メッシュで回収された魚類の組成 (MNI) ……	69

図 45	浦尻貝塚における魚類遺体 (現地採集・水洗 5mm資料) の変遷 (NISP) ……	70
図 46	浦尻貝塚における魚類遺体 (現地採集・水洗 5mm資料) の変遷 (MNI) ……	71
図 47	浦尻貝塚から出土したスズキ属の歯骨高分布 ……	72
図 48	浦尻貝塚から出土したブリ属の椎骨幅分布 ……	72
図 49	浦尻貝塚から出土したカツオの椎骨幅分布 ……	72
図 50	浦尻貝塚における鳥獣類遺体 (現地採集・水洗 5mm資料) の変遷 (NISP) ……	74
図 51	浦尻貝塚における鳥獣類遺体 (現地採集・水洗 5mm資料) の変遷 (MNI) ……	75
図 52	浦尻貝塚における微小貝類の サンプル別個体数 ……………	140
図 53	浦尻貝塚における微小陸産貝類の 生息場所類型組成の時代別変化 ……………	143
図 54	浦尻貝塚炭化種実分析試料採取地点 ……………	161
図 55	浦尻貝塚出土炭化種実の種構成 (百分率) ……	164

## 第1～4章 写真図版目次

写真図版 1	浦尻貝塚出土の貝類遺体 (1) ……………	77
写真図版 2	浦尻貝塚出土の貝類遺体 (2) ……………	78
写真図版 3	浦尻貝塚出土の魚類遺体 (1) ……………	79
写真図版 4	浦尻貝塚出土の魚類遺体 (2) ……………	80
写真図版 5	浦尻貝塚出土の魚類遺体 (3) ……………	81
写真図版 6	浦尻貝塚出土のシカ遺体 (1) ……………	82
写真図版 7	浦尻貝塚出土のシカ遺体 (2) ……………	83
写真図版 8	浦尻貝塚出土のイノシシ遺体 (1) ……	84
写真図版 9	浦尻貝塚出土のイノシシ遺体 (2) ……	85
写真図版 10	浦尻貝塚出土の哺乳類遺体 ……………	86
写真図版 11	浦尻貝塚出土の鳥類遺体 (1) ……………	135
写真図版 12	浦尻貝塚出土の鳥類遺体 (2) ……………	136
写真図版 13	浦尻貝塚出土の炭化種実 ……………	165

## 附編 1 挿図目次

図 1	浦尻貝塚出土のイノシシ資料数 (NISP) ……………	169
図 2	部位別にみる属性分析結果……………	170

## 附編 2 挿図目次

図 1	相双地方全体図……………	187
-----	--------------	-----

## 附編 3 挿図目次

図 1	南相馬市小高区の貝塚分布図(S = 1/60,000) ……	197
-----	--------------------------------	-----

## 第1～4章 表目次

表 1	浦尻貝塚動物遺体サンプル一覧	8
表 2	31T サンプルの詳細	15
表 3	38・39T サンプルの詳細	19
表 4	54T サンプルの詳細	27
表 5	64T サンプルの詳細 (S1・S2)	37
表 6	64T サンプルの詳細 (S3・S4)	38
表 7	小迫北地区サンプルの詳細	46
表 8	浦尻貝塚変遷表	53
表 9	浦尻貝塚の貝層等の計測混貝率、 獣骨・魚骨・土器出現度	55
表 10	浦尻貝塚から出土した動物遺体の種名一覧	60
表 11	浦尻貝塚の貝層サンプル (5mmメッシュ) から検出された貝類遺体	88
表 12	浦尻貝塚の貝層サンプル 2.5mmメッシュで 回収された脊椎動物遺体の同定結果	92
表 13	浦尻貝塚の貝層サンプル 1mmメッシュで 回収された脊椎動物遺体の同定結果	94
表 14	浦尻貝塚の貝層サンプルから 2.5mm・1mm メッシュで回収された脊椎動物遺体の組成 (1) : 同定標本数 (NISP)	97
表 15	浦尻貝塚の貝層サンプルから 2.5mm・1mm メッシュで回収された脊椎動物遺体の組成 (2) : 最小個体数 (MNI)	98
表 16	浦尻貝塚貝層サンプル 2.5mm・1mmメッシュで 回収された魚類遺体 (詳細な同定を行った以 外の資料) の概要観察結果	99
表 17	浦尻貝塚台ノ前南貝層における現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 魚類遺体の同定結果	100
表 18	浦尻貝塚台ノ前北貝層における現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 魚類遺体の同定結果	102
表 19	浦尻貝塚西向貝層における現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 魚類遺体の同定結果	105
表 20	浦尻貝塚小迫貝層における現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 魚類遺体の同定結果	107
表 21	浦尻貝塚台ノ前南貝層における現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 爬虫類・哺乳類遺体の同定結果	108
表 22	浦尻貝塚台ノ前北貝層における現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 爬虫類・哺乳類遺体の同定結果	110
表 23	浦尻貝塚西向貝層における現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 爬虫類・哺乳類遺体の同定結果	114
表 24	浦尻貝塚小迫貝層における現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 爬虫類・哺乳類遺体の同定結果	116
表 25	浦尻貝塚から出土したイノシシ顎骨 ・歯の詳細	118
表 26	浦尻貝塚から出土したシカ顎骨・歯の詳細	121
表 27	浦尻貝塚から出土したイヌ科 (タヌキ・キツネ・イヌ・オオカミ) 顎骨・歯の詳細	123
表 28	浦尻貝塚から出土したその他の哺乳類の 顎骨・歯の詳細	124
表 29	浦尻貝塚から現地採集および水洗 5mm メッシュで回収された魚類遺体の組成 (NISP・MNI)	125

表 30	浦尻貝塚から現地採集および水洗 5mm メッシュで回収された鳥獣類遺体の組成 (NISP・MNI)	126
表 31	浦尻貝塚台ノ前南貝層から現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 鳥類遺体の同定結果	132
表 32	浦尻貝塚台ノ前北貝層から現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 鳥類遺体の同定結果	132
表 33	浦尻貝塚西向貝層から現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 鳥類遺体の同定結果	134
表 34	浦尻貝塚小迫北地区から現地採集 および水洗 5mmメッシュで回収された 鳥類遺体の同定結果	134
表 35	浦尻貝塚出土の微小貝類	138
表 36	浦尻貝塚出土微小陸産貝類の時代別変遷	142
表 37	浦尻貝塚出土微小海産貝類の時代別変遷	145
表 38	浦尻貝塚出土微小貝類の詳細	149
表 39	浦尻・北原貝塚における動物遺体群の変遷	150
表 40	浦尻貝塚出土人骨	160
表 41	台ノ前南貝層 (31T、38T) 出土炭化種実	162
表 42	台ノ前北貝層 (54T、63T) 出土炭化種実	162
表 43	西向貝層 (64T) 出土炭化種実	162
表 44	小迫北地区出土炭化種実	162
表 45	SK107 クリ計測値	163

## 附編 1 表目次

表 1	浦尻貝塚出土のイノシシ資料数 (NISP)	172
表 2	浦尻貝塚出土のイノシシ四肢骨による年齢	172
表 3	浦尻貝塚出土のイノシシ頭骨一覧	173
表 4	浦尻貝塚出土のイノシシ歯一覧	174
表 5	浦尻貝塚出土のイノシシ肩甲骨一覧	176
表 6	浦尻貝塚出土のイノシシ寛骨一覧	176
表 7	浦尻貝塚出土のイノシシ四肢骨一覧	177
表 8	浦尻貝塚出土のイノシシ中手足骨 ・指趾骨一覧	178
表 9	浦尻貝塚出土のイノシシ踵骨・距骨一覧	182
表 10	浦尻貝塚出土のイノシシ椎骨・肋骨一覧	183

## 附編 2 表目次

表 1	明治 12 年水産旧慣調より作成した 相双地方沿岸漁業の内容	188
表 2	明治 12 年水産旧慣調より作成した 相双地方内水面 (浦) 漁業の内容	192
表 3	明治 35 年福島県水産試験場事業報告より 作成した漁期	194
表 4	明治期の相双地方の漁業概要	195

## 附編 3 表目次

表 1	角部内南台貝塚 (現地採集・水洗資料) の貝類遺体の同定結果	200
表 2	角部内南台貝塚 (現地採集・水洗資料) の魚類遺体の同定結果	200
表 3	角部内南台貝塚 (現地採集・水洗資料) の鳥獣類遺体の同定結果	200
表 4	片草貝塚 (現地採集資料) の貝類遺体の同定結果	200
表 5	片草貝塚 (現地採集資料) の魚類・甲殻類遺体の同定結果	200
表 6	片草貝塚 (現地採集資料) の鳥獣類遺体の同定結果	200



# 第1章 貝塚等の調査状況

## 第1節 貝層等の概要

### 第1項 はじめに

本書は、小高町教育委員会（現南相馬市教育委員会）が、平成12～15年度に行った浦尻貝塚第1～4次調査のうち、縄文時代の貝などの動物遺体を含む貝層・遺物包含層ならびにこれらから出土した動物遺体・植物遺体などの自然遺物についての報告である。貝層・遺物包含層の調査状況について「浦尻貝塚1」（小高町教育委員会2005）ですでに報告されているが、報告時は出土遺物の整理作業が完了していなかったため、今回、改めて報告するものである。

本報告では、「浦尻貝塚1」の報告内容から大幅な変更はないが、「浦尻貝塚1」で詳細に触れることができなかった動物遺体や植物遺体の詳細な内容、土器の出土量や各層の堆積の細別時期について報告する。動物遺体の内容は第2章で報告し、本章では主に貝層等の調査状況、動物遺体の出土状況、出土量の検討を行うこととする。

### 第2項 貝層等各地点の概要

浦尻貝塚で確認された縄文時代の遺構の分布範囲は、東西約400m、南北約300mの範囲に及び、標高25～28mを計る段丘を中心に位置する。現在のところ、貝層が確認されているのは、竪穴住居等が確認される段丘平坦面の崖線にあたり、これらの貝層は住居等の遺構内貝層ではなく、いずれもいわゆる斜面貝層に相当する。貝層の範囲は、トレンチによる調査に加え、検土杖によるボーリング調査・表面調査により確認した。

南北に伸びる舌状段丘上（南台地区）は、前期後葉以降後期中葉までの遺構が確認されるが、その段丘の東西斜面に貝層が形成されている。段丘東側の斜面の貝層は南北に縦列して2箇所分布しており、北から「台ノ前北貝層」・「台ノ前南貝層」としている。段丘西側には、1箇所の斜面貝層を確認し、これを「西向貝層」と称している。いずれも東西幅15～20m、南北長30～40mを計る大規模な貝層である。

これらの貝層は、前期後半からのものが認められ、前期末葉～中期前葉を中心とし、後期前葉までに形成されたと考えられている。貝層からは貝類ではアサリ、魚類ではスズキ、ウナギ属、鳥獣類ではシカ・イノシシ・カモ類などが多く出土している。このほか、西向地区斜面下では焼獣魚骨が出土する土坑（SK671）が1基確認されている。

遺跡南側の東西に伸びる舌状段丘を中心とした小迫北地区では、段丘平坦面に後期後葉から晩期中葉と考えられる柱穴が多数確認されている。その分布範囲の東西に埋没谷があり、東側を「東の谷」、西側を「西の谷」と称している。このうち東の谷では、12×10mの範囲で小規模な貝層が確認され、これを中心に動物遺体が含まれる層を「小迫貝層」としている。小迫貝層は晩期前葉～中葉（大洞BC～C2式期）に形成され、北側に位置する台ノ前北貝層等とは、規模や形成状況だけでなく、時期もまったく異なるものである。出土する動物遺体の内容も大きく変わり、貝類ではヤマトシジミ・イソシジミ、魚類ではエイ・サメ類、フナが増加が認められる。

また、西の谷では、貝は確認されなかったものの多量の土器とともに、焼獣魚骨が出土する遺物包含層が確認されている。この遺物包含層は、後期末葉～晩期中葉（新地式～大洞C2式期）の所産と考えられている。

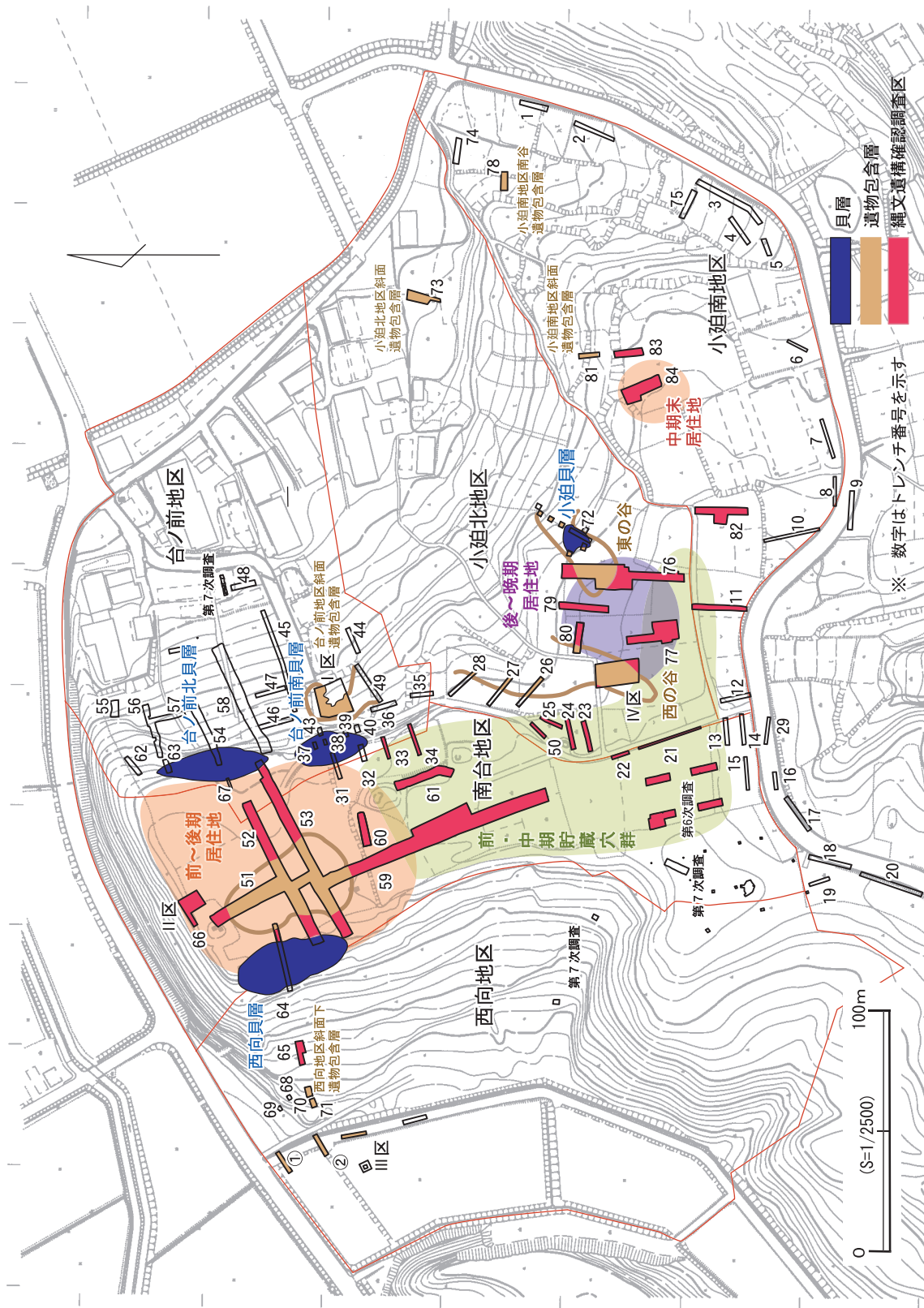


図1 浦尻貝塚調査状況図 (S=1/2500)

このように浦尻貝塚からは合計4箇所の斜面貝層と焼獣魚骨が出土する遺物包含層1箇所、土坑が1基確認されており、前期後葉以後晩期中葉までの各時期にわたる動物遺体が認められる。しかし、中期末～後期初頭（大木10式～綱取I式期）、後期中葉（加曾利B式期）の貝層は確認されておらず、現在のところ、貝層の形成については断続期間があったと考えている。

### 第3項 調査年次の略称

本報告で対象とする資料に付した調査の略称は次のとおりである。なお、第5次調査以後の調査では貝層等を調査しておらず、取り上げた自然遺物はない。

UM 1	第1次調査	平成12年度調査
UK 2	第2次調査	平成13年度調査
UK 3	第3次調査	平成14年度調査
UK 4	第4次調査	平成15年度調査

### 第4項 基本土層

浦尻貝塚の基本土層を示しておく。「浦尻貝塚1」の記載に基づく。

I層 表土。近代の耕作土と考えられる。

II層 黒色土。谷堆積土でIII層上に堆積。

III層 縄文時代の堆積層。各地区で細別される。

IV層 ローム層。以下に細別される。

IV-1層 軟質ローム（ソフトローム）。

IV-2層 硬質ローム（ハードローム）。

IV-3層 軟質ローム（砂質ローム）。

V層 第四紀の段丘堆積物でIV層下に堆積するもの。砂・砂レキ・レキ・シルトから構成される。谷部を中心に堆積する縄文時代以前と考えられるローム質シルト等の無遺物層も含めた。

VI層 凝灰岩質シルト 第三紀の堆積層と考えられる段丘の基盤層である。

### 第5項 貝層・遺物包含層の分類

このうちIII層については、南台・西向・台ノ前地区（以下「南台地区等」と称する。）と小迫北・南地区（以下「小迫地区」と称する。）で大きく分け、それぞれ細別した。以下にその内容を記しておく。

#### （1）南台地区等

III-1層 暗褐色基調の砂質土。粘質がない堆積土である。南台地区台地北部を中心に堆積する

III-2層 台地上に堆積するもので、暗褐色・褐色を基調とする。III-1層に比較し、粘質がある。

III-3層 縄文時代の貝層。貝の含有率は極めて低いが、鳥獣魚骨を含み、調査状況からみて一連の堆積と考えられる層も含めた。

III-4層 西向・台ノ前地区の斜面部のIII-3・5層下にあり、ほとんど縄文時代の遺物を含まない層である。

III-5層 西向・台ノ前地区の斜面部の堆積層のうちIII-3層以外のもので一定量の遺物が含まれるものをまとめた。

(2) 小迫地区

- Ⅲ-1層 黒褐色・暗褐色混貝土層。縄文時代晩期。
- Ⅲ-2層 小迫北地区台地の西の谷に堆積する焼鳥獣魚骨を含む遺物包含層。
  - Ⅲ-2a層 黒褐色土。晩期前葉～中葉。
  - Ⅲ-2b層 暗褐色土。後期中葉～晩期前葉。
- Ⅲ-3層 小迫北地区台地の東の谷に堆積する遺物包含層。
  - Ⅲ-3a層 暗褐色・黒褐色土。晩期前葉～中葉。鳥獣魚骨含む。
  - Ⅲ-3b層 暗褐色土。後期中葉～晩期前葉。鳥獣魚骨含まない。
- Ⅲ-4層 Ⅲ-1～3層下に堆積する縄文時代の遺物を含まない層。
- Ⅲ-5層 Ⅲ-1～4層以外の縄文包含層を一括した。

(川田強)

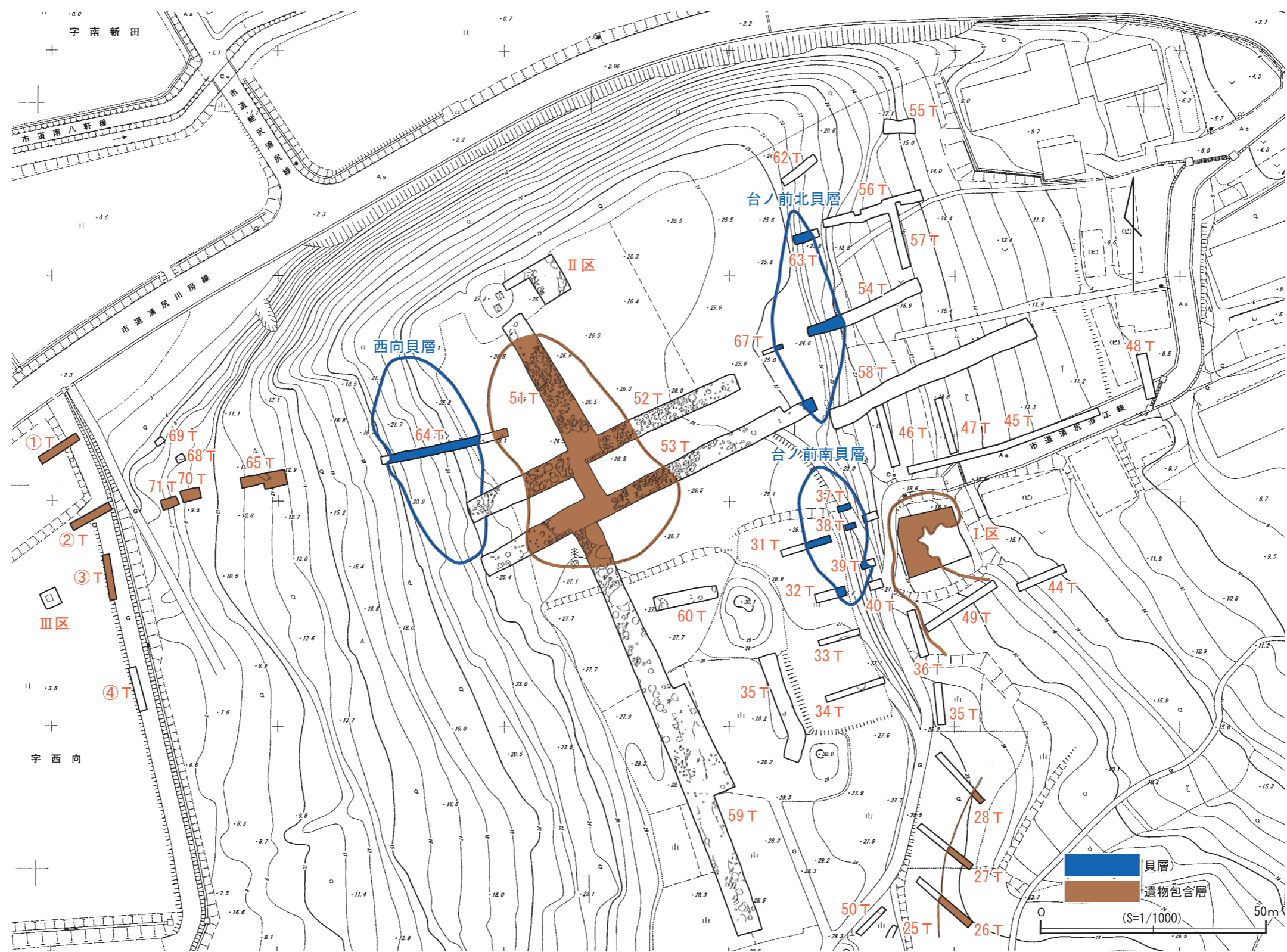


図2 南台・台ノ前・西向地区調査全体図 (S = 1/1000)

## 第2節 調査方法

### 第1項 土壌サンプリングの方法

動物遺体を含む貝層・遺物包含層の土壌は、取り上げ単位別に土嚢袋に入れて採取した。サンプルは、調査区（トレンチ）により、取り上げの単位が異なっており、これは、第3節以下で調査区ごとに詳述する。

貝層等を掘り込んで調査した調査区の土壌サンプルの概略は表1のとおりである。これらのうち、31T、38TⅣ層、Ⅳ区サブトレンチ1以外の貝層・遺物包含層において、掘削して調査を行ったものは、すべての土壌を採取している。動物遺体を含む遺構の土壌サンプリングは一部しか行っていない。

コラムサンプルは適宜採取する面積を設定しているが、Ⅳ区サブトレンチ1以外のコラムサンプルの1サンプルの厚さは5cmで統一している。これらのコラムサンプルは、層の傾斜等に合わせて採取したのではなく、標高に対して平行にすきとる形で採取したものである。

### 第2項 資料の採集

現地で確認できた土器等の人工遺物、貝以外の動物遺体の資料は各層等、取り上げ単位ごとに採集した。採取した土壌サンプルは、第一合成製のウオーターセパレーション5mm・2.5mm・1mmメッシュの篩を3段に重ねて水洗洗浄した。5mmメッシュの篩に残された資料は、室内で、土器・石・骨・炭化物・土等に選別した。Ⅳ区の調査では、サンプル以外の土壌をすべて現地で5mmメッシュの篩により、乾ふるいを行い、微細資料の採集にあたっている。同じく64T、72T、1～6Gの調査においても、貝層上面の覆土について、5mmメッシュの乾ふるいを行い、貝層確認作業時に採集できなかった資料の採集を行った。

これらから、動物遺体等の資料には、現地採集資料、現地で行った5mmメッシュの乾ふるい採集資料（以下「現5資料」と表記する。）、5mm・2.5mm・1mmメッシュの各篩で採集した水洗資料（以下、「〇mm水洗資料」と表記する。）があることになる。

なお、土壌サンプルの体積は、第3・4次調査で採取したサンプル（64T、72T、1G、3G）のみ、サンプルを自然乾燥した後、体積を計測したが、それ以外のサンプルでは洗浄前のサンプル体積は計測していない。また、サンプル洗浄中に浮き上がった資料も、第4次調査では採取したが、それ以外は行っておらず、この浮き上がって採取した第4次調査資料は、今回分析対象にしていない。

貝層の上面、表土、貝層が確認できない調査区の資料（貝層の二次堆積と考えられる層位など）なども適宜、同定等の対象とした。記載では、貝層内から採集した資料を「貝層中」、貝層上面の資料を「貝層上」、表土の資料を「表土」、貝層が確認できなかった調査区や層位から得られた資料を「貝層外」としている。

### 第3項 土壌サンプルの時期

各土壌サンプルの時期は、同一と考えられる層から出土した土器から判断した。出土土器の表記は、「浦尻貝塚2」（南相馬市教育委員会2006）、本報告第1分冊の記載に基づく。一部のサンプルは、サンプル中から出土した<sup>14</sup>C年代測定を行っており（バリノサーヴェイ株式会社2005・国立歴史民俗博物館・年代測定研究グループ2006）、この結果は表1に記載している。なお、「貝層中」以外の資料の時期は、位置関係や堆積状況から本来帰属したと推定したものを記したが、他の時期の混入も想定される資料である。

第2節 調査方法

表1 浦尻貝塚動物遺体サンプル一覧

調査区	貝層名・地区名	集計単位・表記	層名・サンプル名	サンプル別	状況	層大別	時期	備考
31 T	台ノ前南貝層	L III	III層	ブロック	貝層中	土	大木7 a 古	III層。
		L III C	III C層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a 古	III層最下層に確認される。L III貝層。サンプルS 9～14と同一層。
		L IV	IV層	ブロック	貝層中	土	大木5～6	基本的には貝を含まない層。出土土器と年代測定から、大木5～6とする。
		L IV 1	L IV 1貝層	ブロック	貝層中	混貝土	大木5～6	
		L IV 2	L IV 2貝層	ブロック	貝層中	混貝土	大木5～6	サンプルS 17・18と同一層。
		S 1～3	III A層	コラム	貝層中	土	大木7 a 古	III A層相当。
		S 4～8	III B層	コラム	貝層中	土	大木7 a 古	III B層相当。
		S 9～14	III C・E層	コラム	貝層中	混貝土	大木7 a 古	L III貝層と同一層のため、時期を大木7 a (古)とする。
		S 15・16	IV a層	コラム	貝層中	土	大木5～6	
		S 17・18	IV a層	コラム	貝層中	混貝土	大木5～6	L IV 2と同一層。年代測定あり (4950 ± 40)。大木5式相当?
		サンプル	III層	コラム	貝層中	土・混貝土	大木5～7 a 古	コラムサンプル一括出土資料。
38 T	台ノ前南貝層	L III	L III	ブロック	貝層中	混貝土・土主体	大木7 a 新～7 b または大木9	
		L III d～f	III C 1層	ブロック	貝層中	混貝土	大木9	斜面上位上層。L III dとしてサンプリング。
			III C 2・3、III D 1層	ブロック	貝層中	混貝土・土主体	大木9	斜面上位上層。L III e～fとしてサンプリング。
		L III g	III D 2・3、III E層	ブロック	貝層中	混貝土・土主体	大木7 a 新～7 b	中～下層。L III gとしてサンプリング。
		L III h	III F 1・2層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a 新	下層。L III hとしてサンプリング。
		L III i	III G層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a 新	貝層最下層。L III iとしてサンプリング。
		L III上	III A～D層	ブロック	貝層中	混貝土・土主体	大木7 a 新～7 b または大木9	上層。L III上として一括してサンプリング。
		L III下	III E～G層	ブロック	貝層中	混貝土・土主体	大木7 a 新	下層。L III下として一括してサンプリング
		L III下1	III G層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a 新	貝層最下層。L III下1として一括してサンプリング。
		L IV	L IV a	ブロック	貝層中	土	大木6～7 a 古	
		A 1～6	III A層	コラム	貝層中	混貝土・土主体	大木7 a 新～7 b または大木9	年代測定有り (4399 ± 34)。
		A 7～11	III A・D・E層	コラム	貝層中	混貝土・土主体	大木7 a 新～7 b	年代測定有り (4497 ± 37)。
		A 12～15	III E～G層	コラム	貝層中	混貝土・土主体	大木7 a 新	
		A 16～21	IV a層	コラム	貝層中	混貝土・土主体	大木6～7 a 古	
39 T	台ノ前南貝層	L III上	2～4層	ブロック	貝層中	混貝土・土主体	大木7 b～網取	II dとしてサンプリング。
		L III	5～7層	ブロック	貝層中	混貝土・土主体	大木7 b	III eとしてサンプリング。
			III層	現	貝層中	混貝土・土主体	大木7 b	III～IV層としてサンプリング。
		III-3層上	III層上面	現	貝層上		大木6～9	
41 T	台ノ前南貝層	L II	II	現	貝層外	大木6～9	二次堆積。	
46 T	台ノ前北貝層	一括	I・II層	現	貝層外	大木6～8 b	二次堆積。	
52 T	南台地区	一括	I・II層	現	貝層外	後期中葉以前		
53 T	南台地区ほか	一括	1層	現	貝層外	後期中葉以前		
	台ノ前北貝層	53 T 東 III-3層	III-3層	現	貝層中	土主体	大木3～4	L III-2、サブトレ①、東2としてサンプリング。

第1章 貝層等の調査状況

調査区	貝層名・地区名	集計単位・表記	層名・サンプル名	サンプル別	状 況	層大別	時 期	備 考	
54T	台ノ前 北貝層	54T Ⅲ-3層 上面	I・II層	現	表 土		大木6～8 b	Ⅲ-3層上面。	
			1・5層	ブロック	貝層上		大木6～8 b	Ⅲ-3層上面。	
			a層	3・4～6層	現	貝層上		大木6～8 b	Ⅲ-3層上面。
			b層	2層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a新～7 b	貝層最上層。年代測定有り (4270 ± 40)。
			c層	7層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新～7 b	上層。
			d層	8層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a新～7 b	上層。
			e層	9層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新～7 b	上層。
				10層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新～7 b	上層。年代測定有り (4495 ± 35)。
				11層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新～7 b	上層。年代測定あり (4555 ± 35)。
				13層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新～7 b	上層。
			f層	12層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a新～7 b	上～中層。
				15層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a新～7 b	上～中層。年代測定有り (4500 ± 40、4430 ± 40)。
			g層	14層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新～7 b	上～中層。
				16層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新～7 b	中層。
				17層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新～7 b	中層。
				18層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新～7 b	中層。
				19層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新～7 b	中層。
			h層	20層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a新	中層。
				21層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a新	中層。
			i層	22層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a新	斜面下位中～下層。表土下検出部分があるため、表土からの混入も考えられる。
				23層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a新	斜面下位中～下層。表土下検出部分があるため、表土からの混入も考えられる。
			j層	24層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新	下層。
				25層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a新	下層。年代測定有り (4515 ± 35)。
			k層	26層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a古～新	下層。
				27層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 a古～新	下層。年代測定有り (4620 ± 40)。
			1層上	28層	ブロック	貝層中	土主体	大木7 a古～新	貝層下。
			1層下	29層	ブロック	貝層中	土主体	大木6～7 a古	貝層下。
	30層	ブロック	貝層中	土主体	大木6～7 a古	貝層下。年代測定有り (4575 ± 35、4570 ± 40)。表土下検出部分があるため、表土からの混入も考えられる。			
	Ⅲ-4層上	31a・b・c層	ブロック	貝層中	シルト	大木6以前	貝層形成以前の自然堆積。貝層からの混入か？ 31層、31層上としてサンプリング。		
	Ⅲ-4層下	31 d・e層	ブロック	貝層中	シルト	前期前半以前	貝層形成以前の自然堆積。貝層からの混入か？ 31層下、31層下2としてサンプリング。		
	g-1層	17～28層	ブロック	貝層中	混貝土・土主体	大木7 a古～新	中～下層。A～0・10～28としてサンプリング。		
56T	台ノ前 北貝層	56T 一括	I・II層		貝層外		大木6～8 b	二次堆積。	
58T	台ノ前 北貝層	58T 一括	I・II層		貝層外		大木6～8 b	二次堆積。	
62T	台ノ前 北貝層	62T 一括	I・II層		貝層外		大木6～8 b	二次堆積。数片のみ。	
63T	台ノ前 北貝層	1層	1 a層	現	貝層中	土主体	大木7 b～8 a	漸移層。	
			1 d層	現	貝層中	土主体	大木7 b～8 a	漸移層。	
			2層	2層	ブロック	貝層中	混貝土	大木7 b～8 a	
			Ⅲ-3層 上面	I・II層	現	表土・ 貝層上		大木6～8 b	1 b～d層としてサンプリング。





#### 第4項 資料の分析対象

動物遺体の分析対象については、樋泉岳二氏と南相馬市教育委員会で協議し、決定した。このうち2.5mm・1mm水洗資料は、各調査区で、時期・堆積状況等を考慮した上で分析対象のサンプルを選別した。また、2.5mm・1mm水洗資料が多量にあるサンプルでは、水洗後の容積で500mlを目安に上限を設定した。

各種類により、対象とした資料は次のとおりである。

- ・貝類 5mm水洗資料を同定・計数・分析の対象とした。
- ・微小貝類 1mm水洗資料を同定・計数・分析の対象とした。
- ・鳥獣魚骨 現地採集資料、現5資料、水洗資料すべてを同定・計数・分析の対象とした。ただし、各種の部位により、同定等の対象から外したのものがある。
- ・植物遺体 5mm水洗資料を同定・計数・分析の対象とした。
- ・人工遺物 現地採集試料、現5資料、5mm水洗資料を対象とした。本書第2分冊の報告では時期、出土状況、出土量等のみ適宜記載する。

#### 第5項 同定・分析作業の方法

各動物遺体については、樋泉岳二氏、植月学氏の指導のもと、作業員が資料の選別ならびに基礎的な分類を行った。同定は、作業員の基礎的な分類を踏まえ、貝類・獣魚骨を樋泉岳二氏、鳥骨を江田真毅氏、微小貝類を黒住耐二氏、人骨を谷畑美帆氏が行った。植物遺体の同定等は、作業員が選別した炭化物をパリノサーヴェイ株式会社・古代の森研究舎に委託して行った。貝類の計測・計数、2.5mm・1mm水洗資料以外の獣魚骨の計数は、樋泉岳二氏の指導のもと作業員が行い、それ以外の計測・計数・分析については、各資料の同定を行った担当者が実施した。

#### 第6項 層の特徴等記載の方法

各層は、調査時の色調、堆積状況や各資料の出土量等の観察に基づき、分類した。調査後、これらを整理する必要が生じたことから、混貝率を基準に各層の表記をまとめた。このため、各層の混貝率を肉眼観察以外に提示することとした。また、混貝率だけではなく、各層で出土する各資料の相対的な量など層の特徴を提示するために、以下に記載する方法による各資料の出現度(=包含密度)を算出している。

##### (1) 混貝率

「浦尻貝塚1」の記載と同じく、各サンプルにおいて、5mm水洗資料の貝体積が、洗浄前サンプル体積に対して何%含まれるかを示した。この混貝率を、肉眼観察の混貝率との誤認をさけるため、「計測混貝率」とした。計測混貝率には、2.5mm以下の水洗資料で採集される貝破片の体積は含まれていないため、実際量より低く見積もられるが、相対的な浦尻貝塚の各層の貝の混入度は示すことができる。

各土壌サンプルの洗浄前の体積については、各サンプルの採取方法ならびに記録方法が異なるため、次に掲げる3種の方法により、計測・算出した。

計測方法① 採取した洗浄前の土壌サンプルの体積を計測。(64T、72T、1G、3G、IV区)

計測方法② 50cm角等の一定面積のコラムサンプルで、サンプル採取した面積と厚さを乗じて体積を算出。(31T、38T)

## 第2節 調査方法

計測方法③ 平均厚さ法によって算出。採取したサンプルの平面分布上に25cmグリットを設定し、その交点の厚さの総計を交点数で割り、平均の厚さを求め、それに面積を乗じて体積を算出。(31T全体、38T全体、54T)

土壌等の性質にも左右される点はあるものの①が最も正確な体積であると評価される。②、③は計算上の体積となるが、相対的な傾向を捉えるにあたっては、大きな誤差はないと考えている。

### (2) 動物遺体を含む貝層・遺物包含層の層分類基準

「浦尻貝塚1」では、各層を次のとおり分類した。以下の記述はこの分類に基づく。

混貝土層 層中の貝の混入が比較的多いもの。計測混貝率で概ね10%以上のものである。

土主体層 層中の貝の混入が少ないもの。計測混貝率で概ね10%以下である。台ノ前・西向地区の貝層では、褐色系統の明るい色調のものが多い。また、貝層最下層にあたり、鳥獣骨、土器の出土多い層も含めた。

土層 肉眼で貝の混入が認められなかったものであるが、混貝土層及び土主体層同様、動物遺体が含まれるなど、一連のものと考えられるもの。小迫貝層では、暗褐色～黒褐色土を基調とし、台ノ前・西向地区の貝層では土主体層と同様に褐色を基調とするものが多い。

このうち、台ノ前北・南貝層、西向貝層には魚骨・鳥獣骨が出土するが、貝をあまり含まない土層・土主体層がある。通常「遺物包含層」と称されてもよい検出状況であるが、本遺跡では、貝以外の動物遺体の包含状況や堆積過程から、貝を多く含む混貝土層と一連のものと考えられるので、これらを一括して貝層としている。

### (3) 出現度

31・38・54・64・72T、1・3G、IV区のサンプルに含まれる土器、鳥獣骨、魚骨について相対的な量を比較するため、10cm<sup>3</sup>あたりにどの程度含まれるかを示した。サンプル体積の算出方法は計測混貝率と同様である。

土器の出現度は、各サンプルの5cm以上の土器片が何片含まれるかを提示するものである。よって、小破片が多い場合は多い数字となり、接合率が高く大形破片が多い場合は低い数値を示す可能性がある。この点で、出土数だけではなく、出土土器の体積も示す必要があるといえるが、今回は時間的に及ばなかった。第2～4次調査のみサンプルごとに示すことができた。

鳥獣骨ならびに魚骨の出現度は、現地採集ならびに5mm水洗資料で、同定した資料数をカウントしたものである。よって、2.5mmメッシュ以下で採取される資料の多寡については、傾向が異なる可能性がある。また、層に多く含まれる種や部位によって大きな差が生じる。このため、この算出方法は、各貝層・遺物包含層の絶対的な資料数を提示するものではないが、一定程度の各サンプルの相対的な比較をすることは可能と考えた。

(川田強)

### 第3節 台ノ前南貝層の調査状況

#### 第1項 概要（図2）

台ノ前南貝層は、東西最大約14m、南北約31mを測る。確認したトレンチは31・32・37～39・43Tである。31・32Tで上端が、39・43Tで下端が確認されている。確認された最大厚は約1.0m（31T）を測る。下端の標高は39Tで21.0m、43Tで20.8m、上端の標高は31Tで25.2m、32Tで26.0mを測り、43Tで確認した貝層下端と31Tで確認した上端の比高差は約4.4mである。斜面上位にある31・32Tでは土層・土主体層が多く、斜面下位の37～39Tでは混貝土層が中心である。貝層を掘り込んで調査したのは、斜面上位にあたる31Tと斜面下位にあたる38・39・43Tである。

#### 第2項 31Tの調査状況（図3）

##### （1）調査方法

トレンチ内を全面的に掘り込んで調査を行っている。貝層（Ⅲ－3層）を掘りこんで調査した面積は約7.6㎡である。水洗洗浄のサンプルは、北東隅に50cm角のコラムサンプルを設定し、IV a層までの土壌サンプルを採取している。また、IV層中に確認された貝ブロックについてはブロックサンプルを採取しているが、採取時の土壌体積の記録はとっていない。

コラムサンプルは土・土主体層を中心とするが、後述するLⅢ貝層、LⅣ2貝層を含んでおり、S9～14はLⅢ貝層、S17・18はLⅣ2貝層に相当する。

##### （2）堆積状況

Ⅱ層（黒褐色土）下に褐色土を基調とする大別Ⅲ－3層（貝層）が確認されている。地形に沿って西から東に向けて傾斜して堆積し、東側が最も層厚があり、厚さ約1.0mを測る。西側上端はⅡ層が水平に堆積しており、Ⅱ層堆積以前に削られた可能性が高い。

土層・土主体層（ⅢA・B・D層）が大部分をしめ、斜面下位の最下層に混貝土層（ⅢC・E層）が認められる。この混貝土層をLⅢ貝層と称する。

Ⅲ層下には黒褐色土を基調とし、基本的には貝・鳥獣骨等をほとんど含まないIV層が堆積するが、2箇所において貝ブロックを確認し、それぞれLⅣ1・2貝層とした。

LⅣ1はIV b層、LⅣ2はIV a層中から確認されている。LⅣ1・2貝層は、Ⅲ層ならびにLⅢ貝層とは連続した堆積ではなく、明確な間層をもって確認している。

##### （3）サンプルの略称

サンプルから得られた資料は、Ⅲ層中を「LⅢ」、LⅢ貝層を「LⅢ貝層」、IV層中を「LⅣ」とした。またコラムサンプル資料を上から順に「S1～18」とし、コラムサンプル内の資料を「サンプル」とした。LⅣ1・2貝層はそれぞれ「LⅣ1」、「LⅣ2」と表記した。

##### （4）土器の出土状況

比較的多くの土器片が出土し、一定量の大形破片も含まれている。IV a層以下では大形破片・出土量も少なくなり、IV b層以下では極めて少量である。31TのLⅢまでの土器出現率は0.24であり、54Tの上層に類似し、54T下層に比較すると土器の出土量は少ない。

##### （5）動物遺体の出土状況（表2、図4・5）

ⅢA層は動物遺体をほとんど含まず、ⅢB層で鳥獣骨の出土が少量認められ、極少量の貝が含まれる。LⅢ貝層に相当するⅢC・E層は比較的多くの貝を含み薄い堆積の混貝土層を形成し、貝類以外

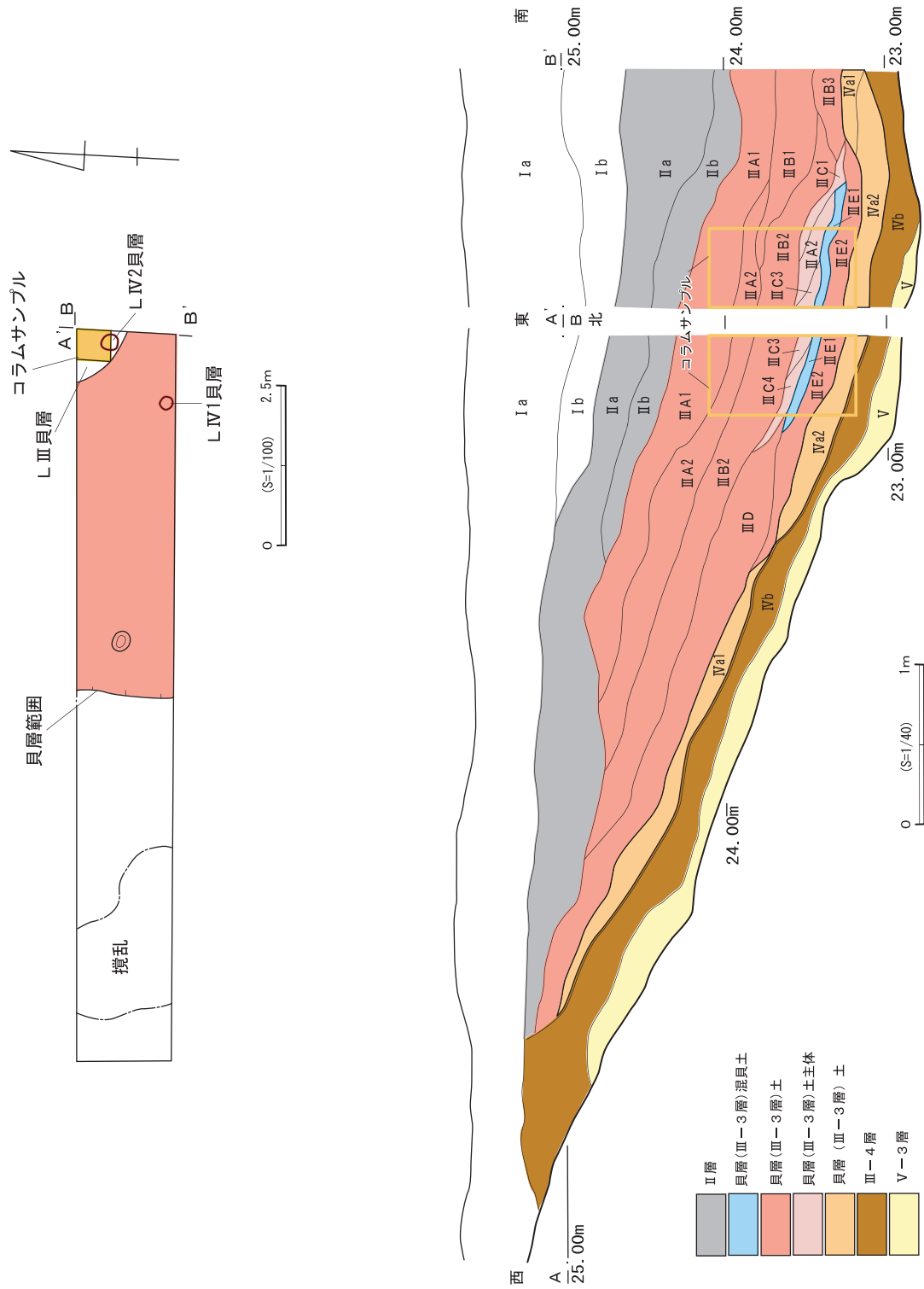


図3 31T 実測図 (S=1/100・1/40)

の動物遺体が多く認められる。IV層以下では動物遺体は、LIV1・2貝層を除き、ほとんどない。このような調査時の所見について、コラムサンプル出土量から確認しておく。まず貝の混入であるが、コラムサンプル中の計測混貝率ではⅢA層相当で0.1%以下、ⅢB層相当で0.4%、ⅢC・E層（LⅢ貝層）で4.7%を示す。LⅢ貝層相当のサンプルであるS11の計測混貝率は15.6%であり、31T中のコラムサンプルでは最も高い数値であるが、Ⅲ層中全体の計測混貝率は2.2%しかなく、極めて低い計測混貝率であり、LⅢ貝層は、限定的な貝の廃棄であったと考えられる。また、LIV2貝層にあたるコラムサンプル（S17・18）の計測混貝率は0.6%であり、LⅢ貝層に比較しても少なく、LIV2貝層はさらに小規模で限定された貝の廃棄であると位置づけられる。

コラムサンプル中の魚骨は、混貝土層であるⅢA層（S1～3）からは同定可能な資料の出土がなく、ⅢB層（S4～8）以下で下層になるに従い増加し、LⅢ貝層（S9～14）が最も多い。IV層ではLIV2貝層（S17・18）のみで出土が認められる。同じく、鳥獣骨もコラムサンプル中では総数が少ないものの、ほぼ同様の出土傾向を示している。これらの結果は、調査時の所見を裏付けている。

表2 31T サンプルの詳細

サンプル名	層対応	土量 [cm]	貝体積 [cm]	獣骨数	魚骨数	計測 混貝率	獣骨 出現度	魚骨 出現度	時期	備考	2.5mm 分析量 (ml)	1mm 分析量 (ml)
S1	ⅢA	12,500				0.0%	0.00	0.00	大木7a古		○	200
S2	ⅢA	12,500	7			0.1%	0.00	0.00	大木7a古			
S3	ⅢA	12,500				0.0%	0.00	0.00	大木7a古			
S4	ⅢB	12,500	7	2	1	0.1%	0.16	0.08	大木7a古		○	
S5	ⅢB	12,500	17.5	3		0.1%	0.24	0.00	大木7a古			
S6	ⅢB	12,500	35	1	3	0.3%	0.08	0.24	大木7a古			
S7	ⅢB	12,500	140	1	18	1.1%	0.08	1.44	大木7a古		○	550
S8	ⅢB	12,500	70	2	42	0.6%	0.16	3.36	大木7a古			
S9	ⅢC・E	12,500	70	1	37	0.6%	0.08	2.96	大木7a古	LⅢ貝層	○	300
S10	ⅢC・E	12,500	860	3	18	6.9%	0.24	1.44	大木7a古	LⅢ貝層		
S11	ⅢC・E	12,500	1950	4	76	15.6%	0.32	6.08	大木7a古	LⅢ貝層	○	300
S12	ⅢC・E	12,500	460	5	60	3.7%	0.40	4.80	大木7a古	LⅢ貝層		
S13	ⅢC・E	12,500	115	1	35	0.9%	0.08	2.80	大木7a古	LⅢ貝層	○	
S14	ⅢC・E	12,500	35	2	14	0.3%	0.16	1.12	大木7a古	LⅢ貝層		
S15	IVa	12,500				0.0%	0.00	0.00	大木5～6		○	
S16	IVa	12,500				0.0%	0.00	0.00	大木5～6			
S17	IVa	12,500	70	2	25	0.6%	0.16	2.00	大木5～6	LIV2貝層	○	※500
S18	IVa	12,500	70	1	39	0.6%	0.08	3.12	大木5～6	LIV2貝層		
ⅢA計		37,500	7	0	0	0.1%	0.00	0.00				
ⅢB計		62,500	270	9	64	0.4%	0.14	1.02				
ⅢC・E計		75,000	3,490	16	240	4.7%	0.21	3.20				
IVa (S17・18)計		25,000	140	3	64	0.6%	0.12	2.56				
Ⅲ層計		175,000	3,767	25	304	2.2%	0.14	1.74				
Ⅲ・IV層計		225,000	3,907	28	368	1.7%	0.12	1.64				
IV1貝層	IVb		495						大木5～6		○	○
IV2貝層	IVa2		35						大木5～6		○	○
LⅢ貝層	ⅢC2・6		495						大木7a古		○	○

(註) 分析量の○印は全ての洗浄後サンプルの資料の選別をしたが、分析量を計測していないものである。

(註) 分析量の※印は洗浄後サンプル量の上限を設定して資料の選別を行ったものである。

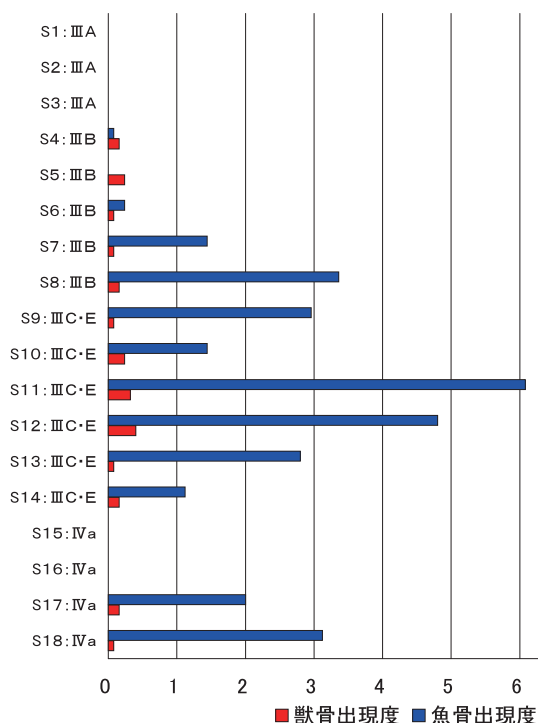


図4 31T 動物骨・魚骨出現度

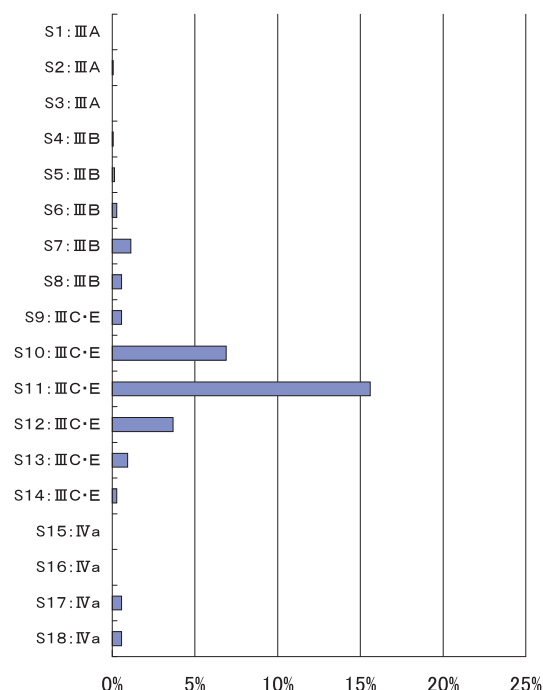


図5 31T 計測混貝率

31 T 貝層は、浦尻貝塚の貝層の中では、全体的に貝の混入、獣魚骨の出土が少ない。特にⅢ A・B 層というほとんど貝を含まない土層が最大70cmの厚みをもって堆積していることが大きな特徴である。

(6) 形成時期

Ⅲ層中からは、大木7 a 式 (Ⅳ-1 類) の大形破片が多く出土しているほか、大木7 b 式 (Ⅳ-2 類) が出土していないので、大木7 a 式期以前に形成されたと考えられる。また、Ⅳ-3 類とした無文の土器群の出土が少ないなど古い特徴を示し、大木7 a 式の中でも古段階を中心に形成されたと考えられる。Ⅲ層最下層にあたるL Ⅲ貝層に相当するコラムサンプルS11からは大木6 式 (Ⅲ-4 類) が多く出土しているが、コラムサンプル以外の同じL Ⅲ貝層であるⅢ C~E 層で大木7 a 式古段階が出土しているため、L Ⅲ貝層も大木7 a 式期古段階の形成と考えられる。

Ⅳ a 層出土土器は少量の大木3~4 式 (Ⅲ-1・2 類) のほか、大木5~6 式 (Ⅲ-3・4 類) が比較的多く出土している。大木7 a 式の出土が見られないため、大木6 式期を下限とし、大木5~6 式期に収まると考えられるが、形成開始は大木3~4 式期まではさかのぼる可能性もある。

Ⅳ層中のL Ⅳ 2 貝層は、明確な共伴遺物がないが、Ⅳ a 層出土遺物に併せ、L Ⅲ貝層と明確な間層を持って確認された状況を考慮し、大木6 式期以前、大木5 式期に近い段階の可能性が高いと推定される。現時点では同様に共伴遺物がない31 T Ⅳ b 層中のL Ⅳ 1 層もこの段階に位置づけておく。なお、L Ⅳ 2 貝層中にあたるコラムサンプルS17において、サンプル中の種実の<sup>14</sup>C年代測定を行い、<sup>14</sup>C年代で4950±40BPの測定結果が得られている。これを近年の年代測定結果にあわせると、大木5 式に相当する年代観であり、出土土器と大きな隔たりがない (小林2004等)。本報告では、年代測定結果もあわせ、Ⅳ層の動物遺体については、大木5~6 式期の所産としておく。

第3項 38Tの調査状況 (図6)

(1) 調査方法

貝層(Ⅲ-3層)上面まで表土を掘削した後、西側及び北側にサブトレンチを設定し、掘り下げて調査を行った。貝層を掘りこんで調査した面積は約1.6㎡である。サブトレンチ内はⅢG層より上位の土壌を水洗洗浄サンプルとして取り上げている。

北側に設定したサブトレンチでは、現地調査時で混貝土層を中心とする概ねⅢA~D層までを上層、土主体層が多いⅢE~Gまでを概ね下層とを大別し、一括してブロックサンプルを採取している。また、北側サブトレンチ内にコラムサンプル(40×50cm)を設定し、Ⅴa層上面までのサンプルを採取している。西側に設定したサブトレンチでは層毎に一括したブロックサンプルを採取している。

(2) 堆積状況

38TではⅠ層(表土)及びⅡ層下にトレンチ全体で貝層が確認された。貝層の厚さは40~80cmを測り、地形に沿って西から東に向けて傾斜して堆積している。東側ではⅡ層が欠落しており、後世に削られたと考えられる。主となる貝層は混貝土層で、ⅢA2~5・C1・D・F層が該当する。土主体層はⅢB・C2~3・E・Gが相当し、混貝土層と互層となって堆積している。38T土主体層は、31T土主体層と比較すると褐色を基調とする点は類似するが、混貝率は高く、層厚は薄い。Ⅳa層は黒褐色を基調とし、貝・鳥獣骨の出土が少ないが、土器の出土が多いことからⅣa層を貝層最下層とした。

(3) サンプル略称

北側サブトレンチのブロックサンプルのうちⅢD層より上位を「LⅢ上」、ⅢE~G層を「LⅢ下」、これらの一括を「LⅢ」とした。Ⅳa層は一括して「LⅣ」としている。コラムサンプルは上から順に「A1~21」としている。西側サブトレンチのブロックサンプルは、調査時のサンプル名称を用いⅢC・D1層を「LⅢd~f」、ⅢD2~3・E・Fを「LⅢg~h」、ⅢGを「LⅢi」とした。

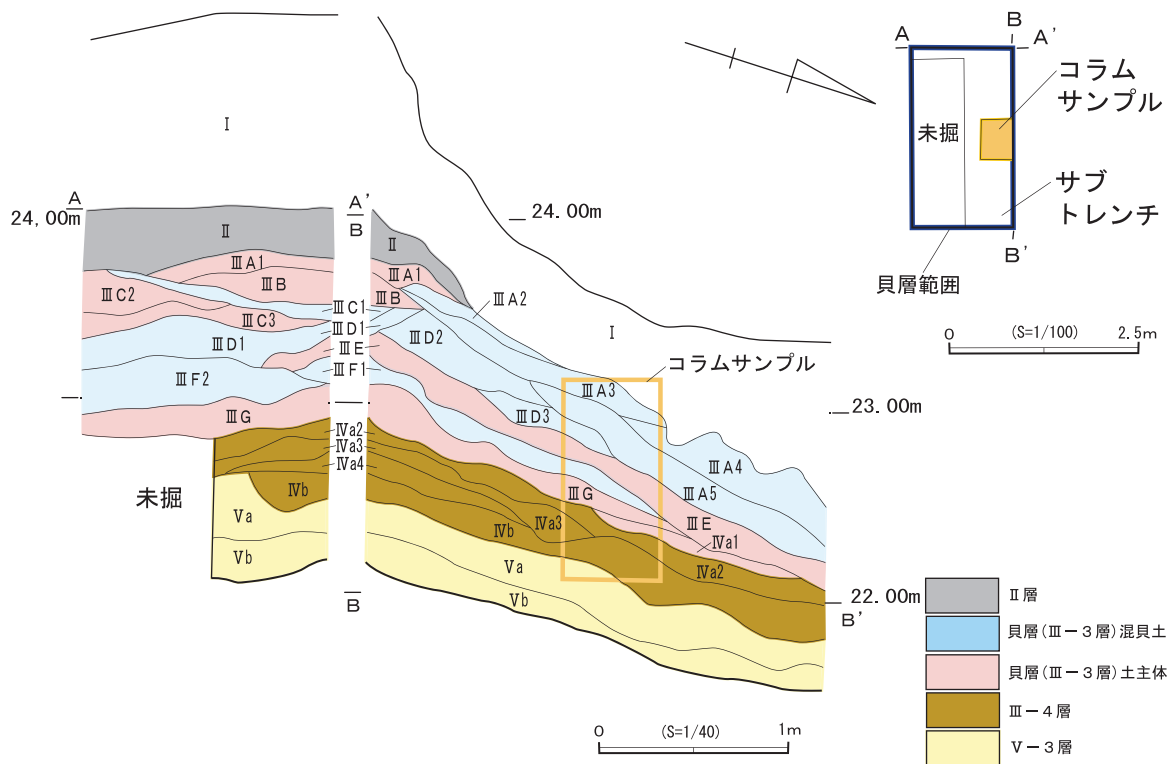


図6 38T 実測図 (S=1/100・1/40)



(4) 土器の出土状況

ⅢA～E層までは比較的大形破片は少ないものの、一定量出土した。最下層のⅢG層で大形破片が多く、出土量も増加する。Ⅳa層においても一定の出土量があるが、Ⅳb層ではほとんど出土しない。54T全体よりは少ないが、54T上層や31Tに比較すると多くの土器が出土していると言える。

(5) 動物遺体の出土状況〈表3、図7・8〉

調査段階では、Ⅲ層では貝類以外の動物遺体の出土量については特に多寡は認められなかった。Ⅳa層にも少量の鳥獣骨等が認められる。コラムサンプル中には、Ⅳa～b層まで少量の貝を認めたが、現地調査時はほとんど確認できなかった。

層毎の計測混貝率は不明だが、Ⅲ層全体の計測混貝率は24.6%、コラムサンプル中のⅢ層全体は17.8%、Ⅳa層まで含めて14.7%と浦尻貝塚の貝層の中では、高い比率を示している。しかし、各コラムサンプルの計測混貝率をみると、A2はきわめて数値が高く、サンプルの面積・厚さが異なるな

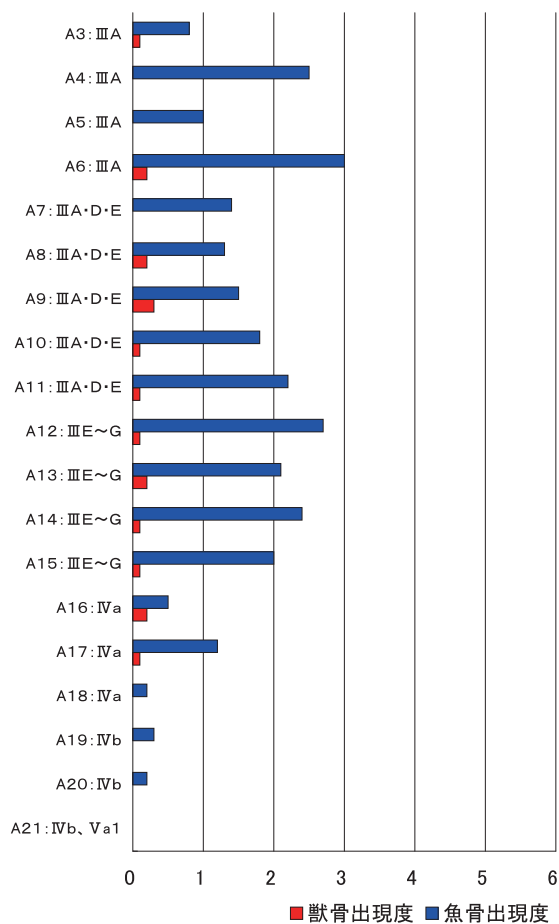


図7 38T 獸骨・魚骨出現度

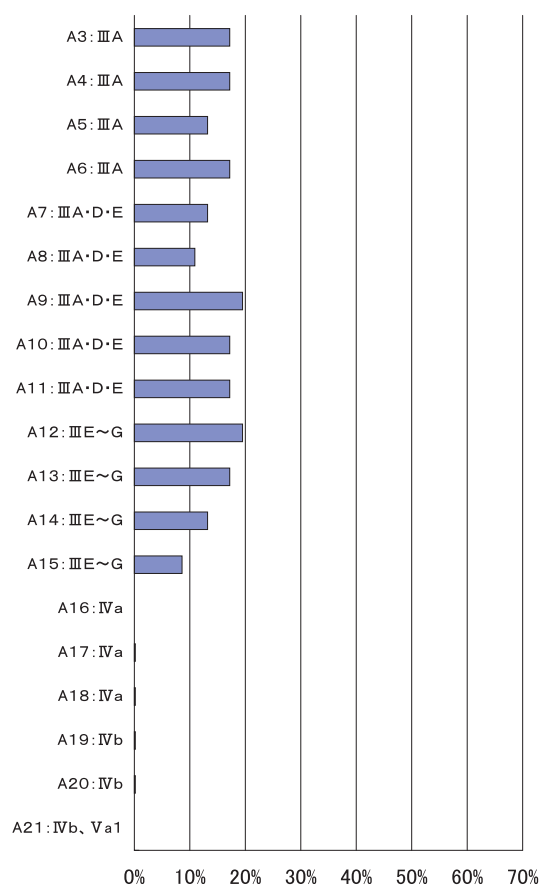


図8 38T 計測混貝率

表3 38・39T サンプルの詳細

調査区名	サンプル名	層対応	土量 [cm]	貝体積 [cm]	獣骨数	魚骨数	計測混貝率	獣骨出現度	魚骨出現度	時期	2.5mm 分析量 (ml)	1mm 分析量 (ml)
38T	A 1	ⅢA	3,750	860.0		16	22.9%	0.00	4.27	大木7 a新~7 b or 大木9	○	400
	A 2	ⅢA	10,000	4,590.0	5	149	45.9%	0.50	14.90	大木7 a新~7 b or 大木9	○	
	A 3	ⅢA	10,000	1,720.0	1	8	17.2%	0.10	0.80	大木7 a新~7 b or 大木9	○	
	A 4	ⅢA	10,000	1,720.0		25	17.2%	0.00	2.50	大木7 a新~7 b or 大木9	○	
	A 5	ⅢA	10,000	1,320.0		10	13.2%	0.00	1.00	大木7 a新~7 b or 大木9	○	
	A 6	ⅢA	10,000	1,720.0	2	30	17.2%	0.20	3.00	大木7 a新~7 b or 大木9	○	
	A 7	ⅢA・D・E	10,000	1,320.0		14	13.2%	0.00	1.40	大木7 a新~7 b	○	
	A 8	ⅢA・D・E	10,000	1,090.0	2	13	10.9%	0.20	1.30	大木7 a新~7 b	○	
	A 9	ⅢA・D・E	10,000	1,950.0	3	15	19.5%	0.30	1.50	大木7 a新~7 b	○	
	A 10	ⅢA・D・E	10,000	1,720.0	1	18	17.2%	0.10	1.80	大木7 a新~7 b	○	
	A 11	ⅢA・D・E	10,000	1,720.0	1	22	17.2%	0.10	2.20	大木7 a新~7 b	○	300
	A 12	ⅢE~G	10,000	1,950.0	1	27	19.5%	0.10	2.70	大木7 a新	○	
	A 13	ⅢE~G	10,000	1,720.0	2	21	17.2%	0.20	2.10	大木7 a新	○	
	A 14	ⅢE~G	10,000	1,320.0	1	24	13.2%	0.10	2.40	大木7 a新	○	300
	A 15	ⅢE~G	10,000	860.0	1	20	8.6%	0.10	2.00	大木7 a新	○	
	A 16	Ⅳa	10,000	0.0	2	5	0.0%	0.20	0.50	大木6~7 a古	○	
	A 17	Ⅳa	10,000	17.5	1	12	0.2%	0.10	1.20	大木6~7 a古	○	
	A 18	Ⅳa	10,000	17.5		2	0.2%	0.00	0.20	大木6~7 a古	○	
	A 19	Ⅳb	23,750	17.5		3	0.1%	0.00	0.13	大木6以前	○	
	A 20	Ⅳb	50,000	17.5		2	0.0%	0.00	0.04	大木6以前	○	
	A 21	Ⅳb、Ⅴa 1	60,000				0.0%	0.00	0.00	大木6以前	○	
	A 1~15計		143,750	25,580	20	412	17.8%	0.14	2.87			
	A 1~18計		173,750	25,615.0	23	431	14.7%	0.13	2.48			
	A 3~18計		160,000	20,165.0	18	266	12.6%	0.11	1.66			
	A 3~15計		130,000	20,130	15	247	15.5%	0.12	1.90			
	A 1~21計		307,500	25,650.0	23	436	8.3%	0.07	1.42			
38T	LⅢ	Ⅲ		20,168.4								
	LⅢd	ⅢC 1		27,875.2						大木9		
	LⅢe	ⅢC 2・3		1,904.0						大木9		
	LⅢe~f	ⅢC~D 1		25,704.0						大木9		
	LⅢf下	ⅢD 1下		1,950.0						大木9		
	LⅢf	ⅢD 1		3,956.0						大木9		
	LⅢg	ⅢE		2,925.0						大木7 a新~7 b		
	LⅢh	ⅢF 2		7,110.0						大木7 a新		
	LⅢi	ⅢG		0.0						大木7 a新		
	LⅢ上	ⅢA~D 3		27,875.2						大木7 a新~7 b or 大木9		
LⅢ下	ⅢE~G		124,946.4						大木7 a新			
	ブロック サンプル計			244,414.2								
38T	ブロック・コラム サンプル計		1,096,200	270,029.2			24.6%					
39T	LⅢ上	2~4層		7,482.0								
	LⅢ	5~7層		19,387.0							500	※ 200

(註) 分析量の○印は全ての洗浄後サンプルの資料の選別をしたが、分析量を計測していないものである。

(註) 分析量の※印は洗浄後サンプル量の上限を設定して資料の選別を行ったものである。

### 第3節 台ノ前南貝層の調査状況

ど、サンプル採取方法に誤りがあった可能性が高い。このことから、上層のA1・2を除いたⅢ・Ⅳa層相当コラムサンプルの計測混貝率(A3~18)は、12.6%と低い数値となるが、それでも31・54Tと比較すると、高い比率を示す。また、上下で大きな計測混貝率の差はなく、Ⅳa層(A16~18)において、急激に減少する。Ⅳa・b層相当コラムサンプルでは0.2%以下の計測混貝率であり、貝はほとんど出土していない。

鳥獣魚骨も、コラムサンプルの資料数の比較から、その相対的な量を確認する。なお、A1・2は先述の理由から、比較分析の対象から外しておく。Ⅲ層中の魚骨の出土傾向は、ほぼまんべんなくある。貝が多いサンプルは魚骨出現率が高い傾向があり、増減パターンは貝類と共通する。ただし、魚骨はⅣa層(A16~18)から減少するものの、一定量の出土が認められ、貝類ほどの大きな減少は認められない。鳥獣骨はコラムサンプル中では出土量が少ないが、下層に多い傾向がみられる。

#### (6) 形成時期

Ⅳa層は、大木6~7a式期古段階の出土が多く、貝の廃棄以前の層位でもあり、堆積期間が長いことが想定されることから、広く大木6~7a式期古段階の堆積としておく。

Ⅲ層最下層にあたるⅢG層は、大木7a新~7b式にあたる無文土器(Ⅳ-3類)の大形破片が含まれており、下層にあたるⅢE~G層からは、明確な大木7b式が出土していないことから、ⅢE~G層は大木7a式期新段階以降の堆積と考えられる。斜面上位上層にあたるⅢA1・C層には大木9式、大木7b式が含まれることから、大木9式期まで下がると考えられる。

この上下層に挟まれ、斜面下位中~上層にあたるⅢA3~5層ならびに斜面上位中層にあたるⅢD層は、大木7a新~7b式を中心に出土するが、出土量が少なく、時期を限定することが困難である。38TⅢ層から大木8a・b式の出土がなく、堆積状況も明確な間層が認められず、下層の大木7a新段階とした層から継続して堆積していることから、下限を大木7b式期とも考えられる。しかし、斜面上位上層に大木9式の層位(ⅢA1・C層)があり、これとも明確な間層をもっていないことから、大木7a式期新段階~大木7b式期が中心で、上層部は大木9式期の可能性もある層としておく。

なお、斜面下位上層にあたるコラムサンプルA4(ⅢA3・5層)及び下位中層のコラムサンプルA11(ⅢA5・E・F1層)のサンプル中の種実の<sup>14</sup>C年代測定を行っている。いずれも<sup>14</sup>C年代で、A4が4400±40BP、A11が4490±40の測定結果が得られている。近年の測定結果にあわせると(小林2004等)、これらはほぼ大木7b式期の範疇に収まると言え、概ね出土土器からみた年代と一致する。

### 第4項 32~34T・37Tの調査状況

32~34Tでは、Ⅱ層下に貝層(Ⅲ-3層)が確認されているが、掘り下げて調査を実施していない。上面確認状況は31Tに類似し、貝の散布が少量認められ、形成時期も31Tと同様の可能性が高い。

37Tでは、表土下トレンチ全体で貝層が確認されている。平面的な観察からは土主体層及び混貝土層が主体となり、31Tと比較すると混貝率は高い。掘り下げて調査を行っておらず、時期等は不明であるが、隣接する38・39Tと同様と推定される。

### 第5項 39Tの調査状況(図9)

#### (1) 調査方法

表土を掘削し、貝層の上位まで掘り下げた段階で、南側に50cm幅のサブトレンチを設定した。サブトレンチのみ、掘り下げて調査を行った。貝層を掘りこんで調査した面積は約0.9m<sup>2</sup>である。2~4層、5~9層の上下にわけた水洗洗浄サンプルを取り上げている。サンプル体積は算出していない。

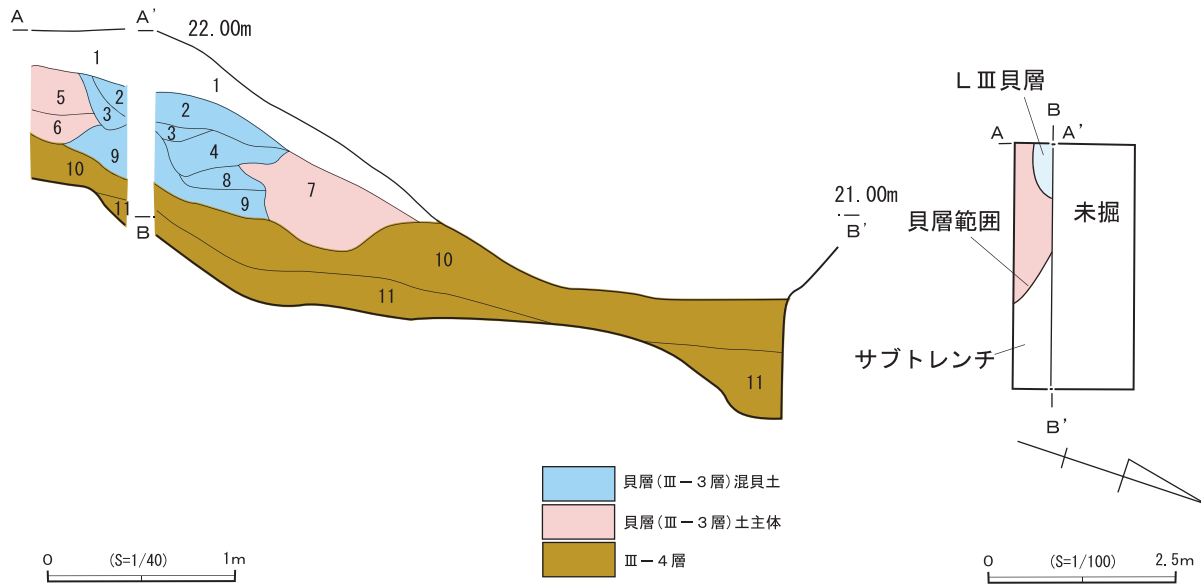


図9 39T 実測図 (S=1/100・1/40)

(2) 堆積状況

サブトレンチ内の斜面側（西側）の1.5～2 mの範囲でのみ貝層を確認した。貝層の厚さは最大50 cmを測り、地形に沿って西から東に向けて傾斜して堆積している。東側では貝層が欠落していることから、後世に削られた部分も多いと考えられる。貝層は、混貝土層と土層が互層となり、堆積している。貝層が部分的で東に広がらないことから、台ノ前南貝層の南端にあたると思われる。

(3) サンプル略称

1～4層のブロックサンプルをLⅢ上、5～9層のブロックサンプルをLⅢと称する。

(4) 土器・動物遺体の出土状況

貝層中から少量の遺物が出土している。調査範囲が狭小で、層的なデータを提示できないが、38Tに比較して、特に出土量の大きな違いは認められない。

(5) 形成時期

大木5～綱取式までの破片資料が出土しているが、比較的大木7 a・7 b式が多く、特に大木7 b式の大形破片が出土している。大木9～綱取式はきわめて少数であり、これは、限定された調査範囲等の調査状況から、流れ込みやサンプリングエラーの可能性もある。このことから、大木7 b式期の所産としておく。

第6項 43Tの調査状況 (図10)

43Tは表土を除去し、南側に幅50cmのサブトレンチを設定し、貝層（Ⅲ-3層）を確認したものである。斜面上位に混貝土層（2層）を確認したが、部分的であり、詳細は不明である。混貝率は低く、貝が少量混じる程度であった。多くが後世に削平を受けたか、急斜面にあたるため崩落したと考えられる。所属時期は不明だが、斜面上位にあたる38T貝層と一連の層位と考えられる。土壌サンプル

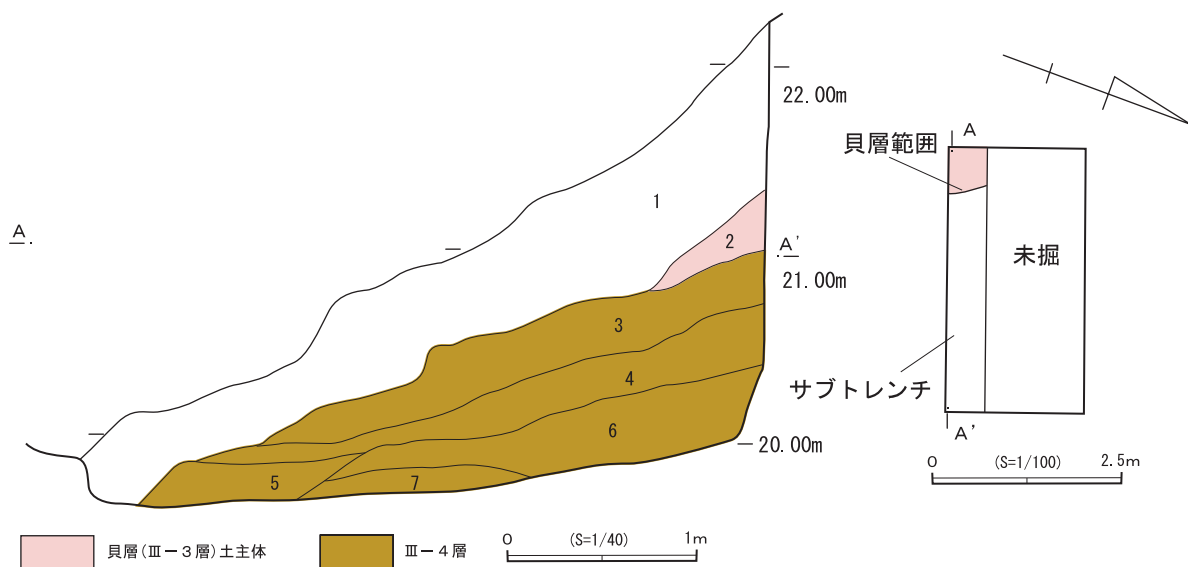


図10 43T実測図 (S=1/100・1/40)

ルの採取はしていない。

#### 第7項 台ノ前南貝層の形成過程

これまで記した調査成果から、台ノ前南貝層の形成過程は次のように考えられる。

##### 大木5～6式期

斜面上位にあたる31TⅣ層堆積中に小規模な貝ブロックが認められる(31TLⅣ1・2貝層)。一定量の土器、鳥獣骨、魚骨が貝とともに廃棄されるが、連続した貝等の廃棄は認められず、31TLⅢ貝層とは明確に時期差を持つ。

##### 大木6式期

31・38Tの連続した貝等の廃棄前段階である(31TⅣa層、38TⅣa層)。明確な貝等の動物遺体の廃棄は認められないが、土器が一定量出土しており、上位の連続した堆積の貝層の上限時期である。

##### 大木7a式期古段階

斜面下位の38Tでは、大木6式期と同様と考えられる(38TⅣa層)。ただし、本格的な貝等の廃棄が開始されている可能性はある。

斜面上位の31Tでは部分的な貝等の廃棄であるLⅢ貝層を契機として、土や土器の廃棄が認められる(31TⅢ層)。土の廃棄は特に盛んで、最大厚1.0mを測るほどの層厚をもつ。なお、この土の廃棄は、居住地を掘削したことによもよると想定している(小高町教育委員会2005)。貝等の動物遺体の廃棄は、初期段階に盛んであるが、連続した貝の廃棄は斜面上位では認められず、さらに、上層にいくに従い、貝だけではなく、鳥獣骨、魚骨も減少する。斜面上位の上層では、土器以外ほとんど出土しなくなる。

##### 大木7a式期新段階

堆積は、斜面上位の31Tには認められず、斜面下位の38T等のみ認められる。斜面下位では貝等の廃棄が本格的に始まる(38TⅢE～G層)。斜面上位はこの段階以降の貝層の形成は認められない。

この初期段階に土器の大形破片も多い傾向がある。魚骨も開始段階が多く、やや遅れて貝が廃棄され、これ以後、貝と魚骨の廃棄が同様の増減傾向で認められる。これらの廃棄は、何度かの土を主体とする層を挟みながらも、ほぼ連続して行われ、混貝率も高い。混貝土層中に挟まれる土主体層は、

混貝土層の形成中にも、まとまった土の廃棄があったことを示すものと考えている。

#### 大木7 b 式期

大木7 a 式期新段階と明確に線引きすることが困難であるが、斜面下位では連続した貝の廃棄が行われていると考えられる(38TⅢA～D層、39TⅢ層)。貝の混貝率も前段階との大きな差は認められない。鳥獣骨、魚骨、土器は上層に行くに従い、やや減少する傾向がある。

#### 大木8 a・b 式期

調査した範囲内では明確な貝層の形成は認められず、土器も少ない。台ノ前南貝層では、貝層を形成していない段階といえる。

#### 大木9 式期

斜面下位では、その上位部分の上層に一定量の土器を含んでいる(38TⅢA1・C層)。このため、貝の廃棄はこの段階にもなされていたと考えられる。ただし、大木7 b 式期以前と大きな差が認められないため、明確な線引きは困難である。混貝率も大きくは異ならず、鳥獣骨、魚骨の出現度も大きな変化が認めにくい。また、この段階より新しい貝層の形成は、これまでの調査範囲内では認められなかった。

(川田強)

## 第4節 台ノ前北貝層の調査状況

### 第1項 概要（図2）

台ノ前北貝層は、東西最大約15m、南北約47mを測る。確認したトレンチは、53・54・63・67Tである。54・63Tで下端が、53・67Tで上端が確認されている。確認された最大厚は約1.8m（54T）を測る。下端の標高は54Tで19.6m、63Tで21.5m、上端の標高は53Tで25.0m、67Tで24.5mを測り、54T下端と67T上端の比高差は約4.9mである。

確認された層は土主体層が多く、平面的な検出状況では、54・63Tで混貝土層と土主体層が互層となっており、53Tでは混貝土層、67Tでは土層が中心である。貝層を掘り込んで調査を行ったのは、斜面下位の54Tであり、また63Tでは上層部分の一部のみ掘り下げて調査を行った。

46T、54T東側、56～58Tでは貝層は確認されなかったが、二次体積と考えられる混貝土層が確認されており、下端部は破壊された部分が多いと推定される。特に46T、56T、58TではⅡ層中に多量の貝及び動物遺存体が確認されている。また、56～58T以东においても過去に貝層が確認されたとの情報もあり、部分的に坪掘りを行ったが、現時点では確認することができなかった。

### 第2項 54Tの調査状況（図11・12）

#### （1）調査方法

54Tでは、北側壁際にサブトレンチを設定し、貝層下までの調査を実施している。掘り込んで調査した面積は約4.8m、サブトレンチ幅は60cmである。調査は平面的な観察により層位を分別し、層毎に悉皆ブロックサンプルを採取している。現地調査では、できる限り細別したが、最終的には、これを30層にまとめた。また、これらの集計を行う際にa～1層の12層にさらに大別してまとめて記述している。このうち、1・3～6層（大別a層）は上層からの影響が認められ、漸移層と認識し、サンプリングを行わなかった。採取時の土壌サンプル量の記録はとっていない。また、コラムサンプルは採取していない。

#### （2）堆積状況

西側の段丘法面部分の約8mにわたって、表土下に貝層（Ⅲ－3層）が西から東に地形に沿って傾斜して堆積している状況が確認されている。東側は削平を受けており、貝層はより東に広がっていた可能性が高い。貝層確認時は、平面的に混貝土層と土主体層が互層となっている状況が確認された。平面観察では、斜面下位に混貝土層、斜面上位に土主体層が多く堆積している。確認された貝層の最大厚は1.8mを測る。

堆積状況は上層に比較的貝の混入率が高い混貝土層（大別b層）があり、以下混貝土層と土主体層が互層となっている。断面から観察した堆積状況から見ると、斜面上位及び下層に土主体層が多く、斜面下位及び上層に混貝土層が多い傾向が認められる。最下層は獣魚骨・土器の出土量が多いが、混貝率の低い大別1層（計測混貝率2%以下）が堆積しており、貝の本格的な廃棄はk層からと考えられる。また、土主体層は褐色系統の色調であり、台ノ前南貝層（31T）の土主体層・土層と類似しているが、31Tの上層部分のような土層中心の層位は認められず、わずかながら貝の混入が認められる。貝層下は黒色系統のシルト層が堆積している。

#### （3）サンプルの略称

各層は30層にわたる各サンプルをさらにa～1層にまとめて集計を行っている。1層のみ上（28層）と下（29・30層）にわけて集計した。その他に、貝層上面からの一括出土資料がある。

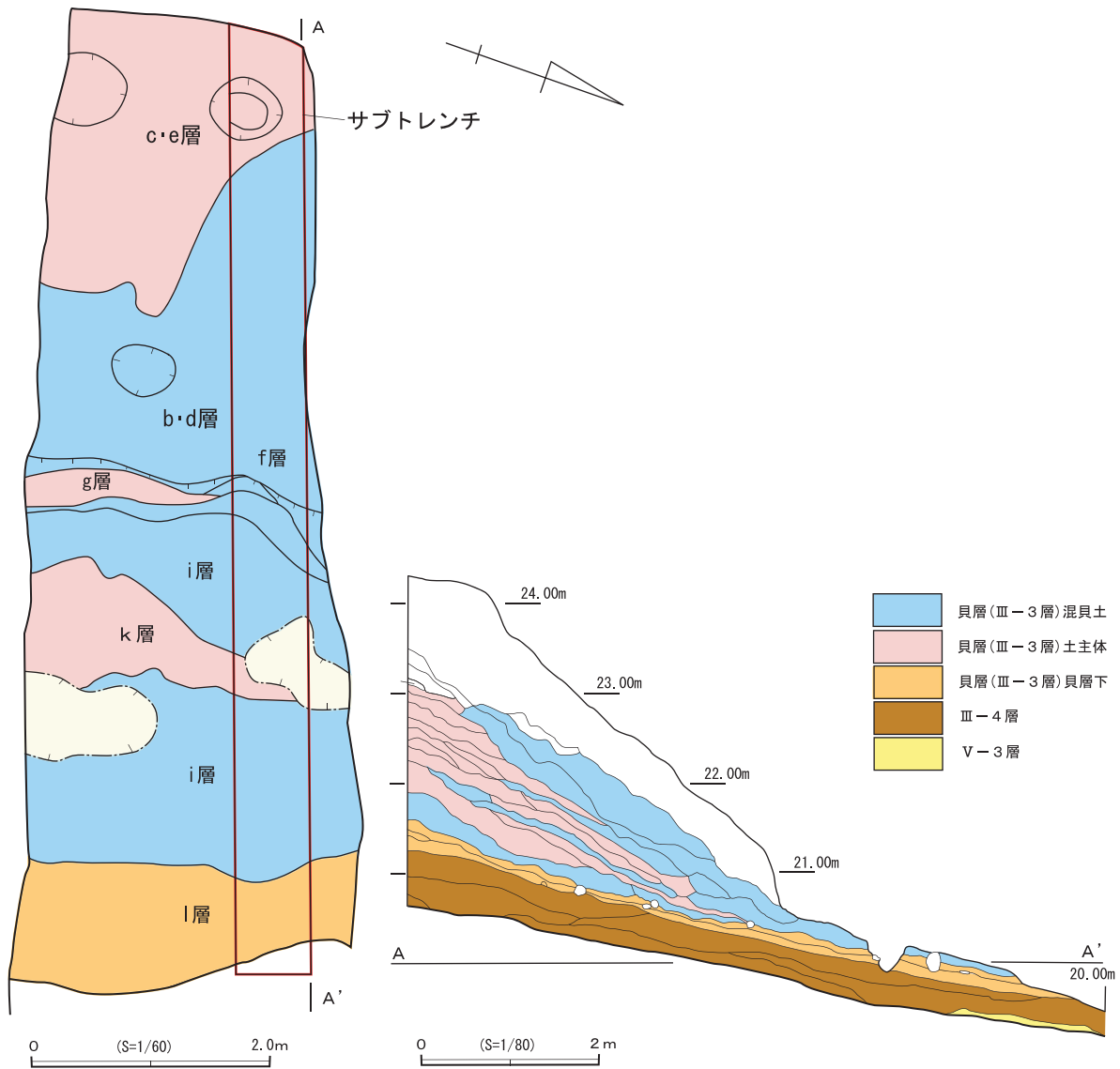


図11 54T 実測図 (S=1/80・1/60)

(4) 土器の出土状況 (表4、図13)

最下層の土主体層 l 層 (28~30層) と貝が多くなる k 層 (26・27層) で極めて多くの土器が出土し、土器出現度は2.0を越えている。特に大形破片も多い。j 層 (22・23層) 以上では、出土量が減少しているが、斜面下位の表土下にあたる i 層 (24・25層) では多くの土器が認められる。このため、54T 全体の土器出現度は1.12と浦尻貝塚の中では、最も高い数値を示している。

上層は下層に比べ出土量は減少する。混貝土層と土主体層の土器の出現度は上層、下層ほどの大きな差が認められないが、h・i 層以上は土器・貝・鳥獣骨・魚骨の増減パターンは一致する傾向が認められるので、中~上層では、これらの廃棄が同時に行われることが多いとも考えられる。ただし、最上層の b 層は貝が多いにもかかわらず土器は少なく、この傾向と一致しない。





図12 54T断面図 (S = 1 / 40)

表4 54T サンプルの詳細

大別層	細別層	土量 (cm)	貝体積 (cm)	獣骨数	魚骨数	土器数	計測 混貝率	獣骨 出現度	魚骨 出現度	土器 出現度	時 期	2.5mm 分析量 (ml)	1mm 分析量 (ml)
b層	2層	397,941.4	66,335	55	509	107	16.7%	0.14	1.28	0.27	大木7a新~7b	※500	※500
c層	7層	59,800.0	70	2	7	20	0.1%	0.03	0.12	0.33	大木7a新~7b		
d層	8層	233,213.7	22,065	43	67	148	9.5%	0.18	0.29	0.63	大木7a新~7b		
e層	9~11 ・13層	451,342.0	6,950	50	106	195	1.5%	0.11	0.23	0.43	大木7a新~7b		
f層	12・15層	180,590.0	33,435	49	168	133	18.5%	0.27	0.93	0.74	大木7a新~7b	※500	※500
g層	14・ 16~19層	463,181.2	5,565	75	289	189	1.2%	0.16	0.62	0.41	大木7a新~7b	※500	※500
h層	20・21層	145,564.5	11,700	48	46	112	8.0%	0.33	0.32	0.77	大木7a新		
i層	22・23層	202,291.0	46,575	75	64	438	23.0%	0.37	0.32	2.17	大木7a新		
j層	24・25層	487,338.0	11,925	105	1,083	270	2.4%	0.22	2.22	0.55	大木7a新		
k層	26・27層	354,747.3	17,540	254	1,534	781	4.9%	0.72	4.32	2.20	大木7a古~新	※500	※500
l層上	28層	314,041.1	5,495	134	380	848	1.7%	0.43	1.21	2.70	大木7a古~新		
l層下	29・30層	303,548.1	468	95	640	771	0.2%	0.31	2.11	2.54	大木6~7a古	※500	※500
b~l 層計		3,593,598.3	228,123	985	4,893	4,012	6.3%	0.27	1.36	1.12			
c~l 層計		3,195,656.8	161,787.5	930.0	4,384	3,905	5.1%	0.29	1.37	1.22			
b~k 層計		2,976,009.0	222,160.0	756.0	3,873	2,393	7.5%	0.25	1.30	0.80			

(註) 分析量の※印は洗浄後サンプルを上限を設定して資料の選別を行ったものである。

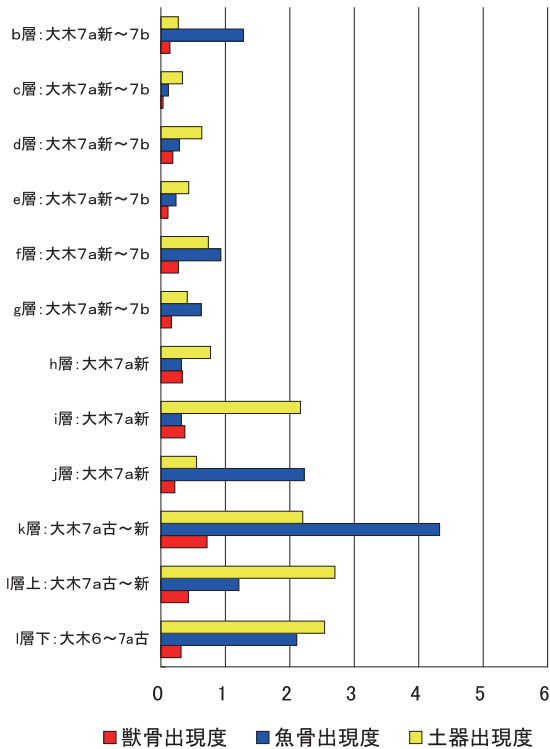


図13 54T 獣骨・魚骨・土器出現度

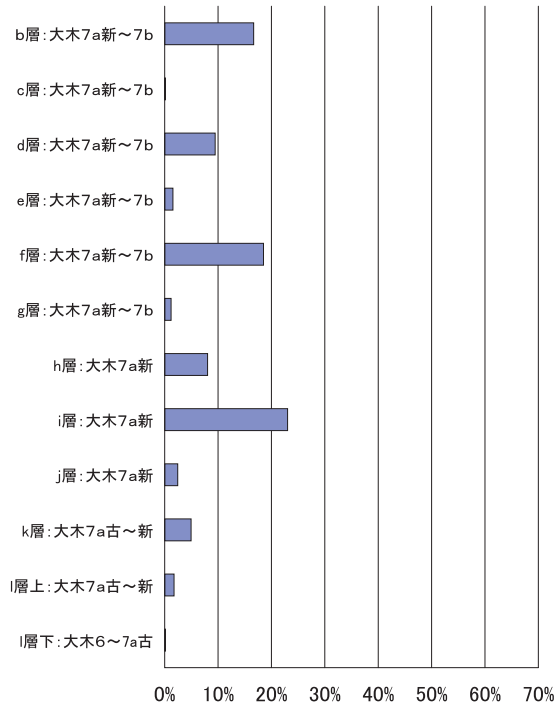


図14 54T 計測混貝率

#### (5) 動物遺体の出土状況〈表4、図13・14〉

混貝土層の計測混貝率は、大別のb層(2層)で16.7%、f層(12・15層)で18.5%、i層(22・23層)で23.0%等であり、15%以上を示すものが多い。土主体層は、e層(9・10・11・13層)で1.5%、g層(14・16～19層)で1.2%、j層(24・25層)で2.4%等、極少量の貝しか含まれておらず、その差異は明確である。54Tの計測混貝率は、混貝土層は38TLⅢ(15.5%)に、土主体層は31TLⅢ(2.2%)に近い数字と言える。この混貝土層・土主体層が互層となっているため、54T全体の計測混貝率は6.3%、最下層の大別1層を除いても7.5%と、31T・38Tの中間的な数値を示している。

鳥獣骨は貝の廃棄初期段階と考えられるk層をピークとして、その下層1層上に多く出土しており、上層に行くに従い減少する。出土の割合は土器と同じく、特にj層以上とk層以下では大きな差がある。また、出現度は54T全体で0.27と31・38Tに比較すると鳥獣骨が多く出土していると言える。

同じく魚骨もk層に出土のピークがあり、下層に多い傾向が認められる。k層の上下j・1層も多く、h層以上では激減している。出現率は、全体で1.36であり、38Tに比較するとやや少ない傾向にある。

土主体層においても動物遺体は多く出土しており、活動の停止時期を示すものではないとすることができ、先述したように、土器・貝・鳥獣骨・魚骨の増減傾向は特にg層以上で一致する傾向があり、これらの廃棄は同時に行われることが多いとも指摘できる。

#### (6) 形成時期

各出土土器は、60cm幅のサブトレンチ内で得られた資料であり、各層の時期決定は難しい。「浦尻貝塚1」では暫定的な年代間を示したが、整理作業の進展にあわせ、一部変更をしておく。

最も下層の31d～e層では、早期末から前期前葉の土器破片が少量出土しており、前期前葉以前の堆積と考えられる。31a～c層は前期前葉以前の土器も出土するが、一定量の太木3～6式が出土している。このことから、ほぼ前期前葉～前期末葉までに堆積したものと考えられる。

1層下(30層)は、貝の本格的な廃棄の前段階とされる層である。太木6式の大型破片が出土している他、太木7a式古段階が少量含まれている(註1)。このことから、太木6式期を中心とし、下限を太木7a式古段階までとしておく。

1層上(28層)は貝が一定量含まれてくる段階であり、貝の廃棄開始段階と考えられる。太木6式の大型破片はなくなり、破片数も減少する。一方太木7a式の大型破片が多く、出土量も多い。また、破片資料において、無文のⅣ-3類より、縦位結節回転文のⅣ-4類が多い。貝の本格的な廃棄にあたるk層(26・27層)においても、太木7a式期古段階の大型破片の出土があり、同様な状況である。このことから、k層・1層上は太木7a式期古段階に堆積の中心があると考えられるが、太木7a式新段階に多い無文のⅣ-3類も少量含まれることから、太木7a式期古～新段階の所産としておきたい(註2)。

土器が激減するj層(24・25層)ならびにh層(20・21層)からは、太木7a式古段階の資料がなくなり、21層では新段階の大型破片も認められることから、太木7a式期新段階と考えておく。

斜面下位にあたるi層(22・23層)は斜面前方に位置する混貝土層であり、h層との前後関係が不明な点があるが、太木7a式期新段階を中心とした土器の出土があり、j・h層とほぼ同時期の堆積と考えられる。ただし、表土下に検出された部分も多いので、表土からの混入も想定される。

この上位のb～g層（7～19層）は無文のIV-3類が多く、大木7b式も少量ながら、破片資料として含まれている。また、貝層の上面からは大木8b式や9式が出土しているが、貝層中からは出土していない。よって、これらは大木7a式期新段階～7b式期にかけて堆積したものと考えられる。連続した堆積であるとともに、調査面積が狭く、土器も小破片が多いことから、それぞれの細別時期を判断することは難しい。

サンプル中の種実の<sup>14</sup>C年代測定を行っている。30層で4570±40BP、4575±35BP、27層では4620±40BPと30層に比べやや古い年代を示す。10～25層では4550±35BP～4440±35BPと30層よりは新しい年代を示す。これらは大きく取れば大木7a～8a式期の年代とされ（小林2004等）、ほぼ整合的といえるが、大気中の炭素濃度が一定しなかった時期とされているので、年代測定数の増や土器編年の進展を踏まえて、今後の検討が必要である。

また、2層では、4270±40BPと著しく新しい年代を示しており、サンプリングエラーや混入も想定される他、最上層であるため、出土土器から考えられる以上に新しい段階まで形成されていた可能性も指摘される。

### 第3項 53T東の調査状況

台地上に位置する53T東端では、貝層（Ⅲ-3層）を幅約1.0mで確認した。上面を確認しただけで掘り下げて調査は実施していない。1層は灰ブロックが集中して認められ、2層では少量の貝が混入している。表土直下に確認されており、上層が削平されている可能性が高い。また、台地上で検出されたことから貝層形成の初期段階にあたと推定される。3・4層も貝の混入は確認できなかったが、Ⅲ-3層に含まれる可能性がある。

土壌サンプリングを行っていないので動物遺体については不明な点が多い。土器は上面から大木3～4式の大形破片が出土しており、大木3～4式期に形成されたものと考えられる。

### 第4項 63Tの調査状況（図15）

#### （1）調査方法

表土を掘削し、貝層検出面より上位まで掘り下げた段階で、南側に長さ130cm、幅60cmのサブトレンチを設定した。サブトレンチのみ、掘り下げて調査を行った。掘りこんで調査した面積は約0.7㎡である。2層途中までのサンプルを採取しているが、貝層の大部分は掘り込んで調査を行っていない。

#### （2）堆積状況

西側の段丘法面部分の約4mにわたって、貝層（Ⅲ-3層）が確認されている（註3）。東側は溝状に後世に掘り込まれており、貝層はより東に広がっていた可能性が高い。貝層確認時は、54Tと同様に平面的に混貝土層と土主体層が互層となっている状況が確認された。表土下に確認された1層は漸移層と考えられる。主に、斜面上位に混貝土層、斜面下位に土主体層が堆積しており、土層の特徴も含めて54Tとほぼ共通している。2層（土主体層）は褐色基調を呈している。

#### （3）サンプル略称

1・2層の層位名をサンプル名とした。

#### （4）土器の出土状況

貝層上面から、大形破片を含めて比較的多くの土器が出土している。54T等の出土状況とほぼ変わらないものと考えられる。

第4節 台ノ前北貝層の調査状況

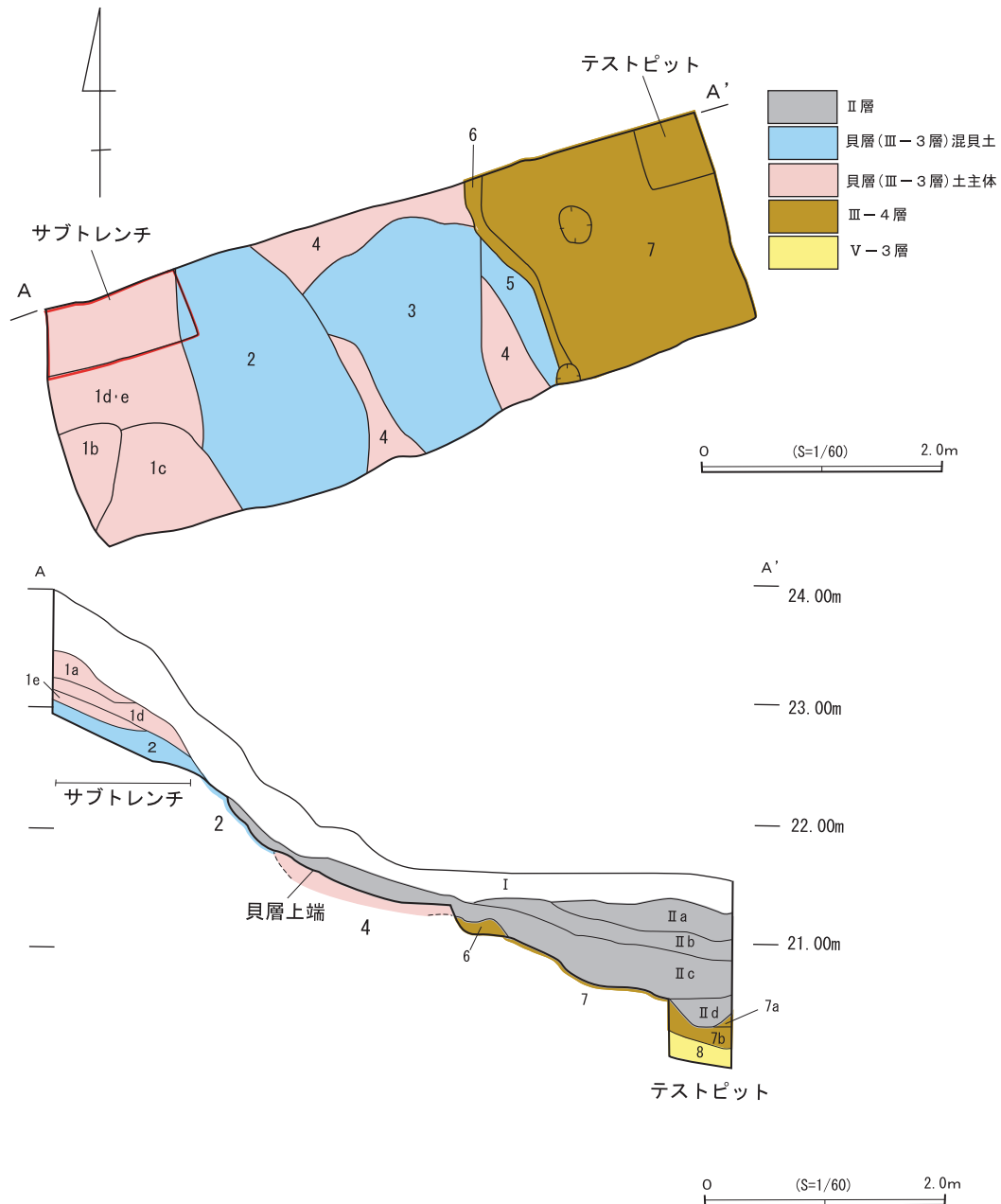


図 15 63T 実測図 (S=1/60)

(5) 動物遺体の出土状況

混貝土層の混貝率は38T (台ノ前南貝層斜面下位) ほど高いものではなく、鳥獣骨の出土量等を含め、詳細は不明であるが、54Tとほぼ同様と考えられる。

(6) 形成時期

サブトレンチ内では、漸移層の1層からは大木7b式、貝層と考えられる2層からは大木7b~8a式が出土している。上面からは、大木7b式~綱取式までの破片資料が出土しているが、比較的大木7b式が多く、大木8b式も目立つ。このことから、1~2層はほぼ大木8b式期には堆積が終了していると考え、大木7b~8a式期の所産としておく。なお、それ以下の層の時期については、掘り下げていないので詳細は不明であるが、54Tに比較すると、大木7a式が少なく大木7b式の出土が多いので、多くが大木7b式期に位置づけられる可能性が高い。

### 第5項 67Tの調査状況

台地上に位置する67Tは東側の斜面方向に向かって1.7mにわたり、土層を中心とした貝層（Ⅲ-3層）を確認した。掘り下げて調査は行っていないので、詳細は不明だが、約6m東に位置する54TⅢ-3層と一連のものと考えられる。Ⅲ-3層範囲の西側はV-2層が確認される。出土遺物は上面からも出土が少なく、不明な点が多い。

### 第6項 台ノ前北貝層の形成過程

これまでの調査成果から台ノ前北貝層の形成過程は次のように考えられる。

#### 大木3～4式期

台地上の53T東で貝の廃棄が認められ、詳細は不明だが、台ノ前北貝層の形成の開始と考えられる。

#### 大木5式期

土器の出土はあるものの明確な貝層は確認されていない。

#### 大木6式期

斜面下位の54Tの本格的な貝の廃棄の前段階である（54T l層下）。土器が多く廃棄されるほか、鳥獣骨、魚骨の廃棄は活発化する。

#### 大木7 a式期古段階

斜面下位の54Tでは本格的な貝の廃棄が開始される（54T l層上・k層）。貝の廃棄とともに土器、鳥獣骨、魚骨の多量な廃棄が認められる。土器も大形破片も多く、鳥獣骨・魚骨も他の段階をはるかに凌駕する。しかしながら層厚はなく、段丘側に寄った堆積をしている。貝は上位層の混貝土層に比較すると量は少ない。斜面上位の67Tでは、台ノ前南貝層の31T等と類似した土・土主体層であり、斜面上位には台ノ前南貝層と同様の土の廃棄層が形成された可能性が高い。台ノ前北貝層において、この段階以降、斜面上位の様相は詳細不明である。

#### 大木7 a式期新段階

斜面下位の54Tで混貝土層と土主体層が互層になって堆積している（54T h・i・j層）。このことから、土と貝の廃棄が繰り返されたと考えられ、貝の廃棄も前段階より明確である。54Tでは、次段階の大木7 b式期との区別が困難であるが、この傾向は次段階まで引き継がれるものと考えられる（54T b～g層）。土器の出土量は前段階に比べ少なく、魚骨、鳥獣骨も同様である。これらの廃棄は貝の廃棄とともに行われることが多い傾向がある。

#### 大木7 b式期

斜面下位の54Tでは前段階から引き続いた形成がなされていた可能性が高いが、前段階との線引きが難しい（54T b～g層）。最上層のb層は、層厚がある混貝土層であり、貝の廃棄が盛んであるにもかかわらず、土器の出土が少ないなど、その下層とは分別しやすい。54T貝層の最終段階として、やや様相を異にしており、下限も不明な点がある。

斜面下位の別地点にあたる63Tでは、この段階が貝層の形成の中心であった可能性が高い。混貝土層と土主体層が互層になっており、詳細は不明であるが、堆積状況は54Tと同様と考えられる。

#### 大木8 a式期

斜面下位の63Tで貝層中に土器が含まれており、前段階から形成されている貝層の下限をこの段階に位置づけられる。この段階以降の貝層の形成は、台ノ前北貝層では、現在のところ認められない。

(川田強)

## 第5節 西向貝層の調査状況

### 第1項 概要（図2）

西向貝層は、東西最大約20m、南北約49mを測る。64Tで上下端が確認されており、削平部分を挟んではいるが、東側上端の標高が約25.5m、西側下端で約20.0mを測り、上下端の比高差は約5.5mである。土主体層の上位及び斜面下位に混貝土層が堆積している状況が認められた。

また、52T西では貝層（Ⅲ－3層）上に竪穴住居が構築されている。53T西では、西端に破碎貝混じりの西a b層を確認したが、貝の混入状況もまだらであることから、後世の影響を受けているものと考えられる。過去に福島大学考古学研究会で調査したDトレンチは、53T西に隣接するものと推定され、厚さ約20cmの貝層が確認されている（福島大学考古学研究会1971）。しかし、今回のボーリング調査等では当該部分までの貝層の広がり確認できなかった。調査後、耕作等の影響により破壊されている可能性もある。

また西向地区斜面下部は、表土上から多くの破碎貝が認められており、過去の表面調査でも貝層の分布が指摘されてきた（森1991等）。65T等のトレンチによる調査及びボーリング調査により、破碎貝は表土中に含まれるもので二次堆積であることが確認され、現時点では斜面下部において貝層は認められない。これらの二次堆積の破碎貝は、耕作等により西向貝層が破壊され、斜面下部まで崩落したのと考えられる。

### 第2項 64Tの調査状況（図16）

#### （1）調査方法

貝層（Ⅲ－3層）確認後、平面観察により、さらに層を細別して分布状況を確認した。また、台地上の貝層部分にサブトレンチ1を設定し、15～25cm掘り下げて貝層上端の確認を行った。平面的な観察を踏まえ、50cm角のサンプルを4箇所設定し、それぞれサンプルを採取している。コラムサンプル部分しか貝層を掘り込んでおらず、掘り込んだ調査面積は合計1.0㎡に過ぎない。

この中でS1・S2は同一レベルのサンプル中に明確に混貝土層と土・土主体層を分けることが可能であったため、これらは同一レベルのサンプルでも分別して採取した。

また、貝層下の堆積状況を確認するため、コラムサンプルのほか、グリット・サブトレンチ2を設定して調査を行っている。最も下層にあたるサブトレンチ2では、シルト層の下層に砂層が確認され、以下砂質シルトと砂レキが互層となって堆積している。

#### （2）サンプル略称

コラムサンプルはそれぞれS1～4という名称を用い、サンプルは上から採取した順に番号をつけた。S1・2では混貝土層をA、土・土主体層をBとしてサンプル番号の次に付した。動物遺体の集計は、コラムサンプル毎に後述する細別層にあたる（a～c）層にまとめて表記した。コラムサンプル以外の動物遺体は、Ⅲ－3層上面として一括した。

#### （3）堆積状況

貝層は、東側の台地上から西側の斜面下部に向かって約14m、さらに削平部を挟んで、約5mの範囲でI・II層下に確認されている。検出状況から上部は一部削られているものと判断される。台地上にあたる貝層分布範囲の東側では、SD02がV－2層を掘り込んで構築されている。SD02東側はⅢ－1層（暗褐色系砂質土・縄文包含層）の堆積が認められる。

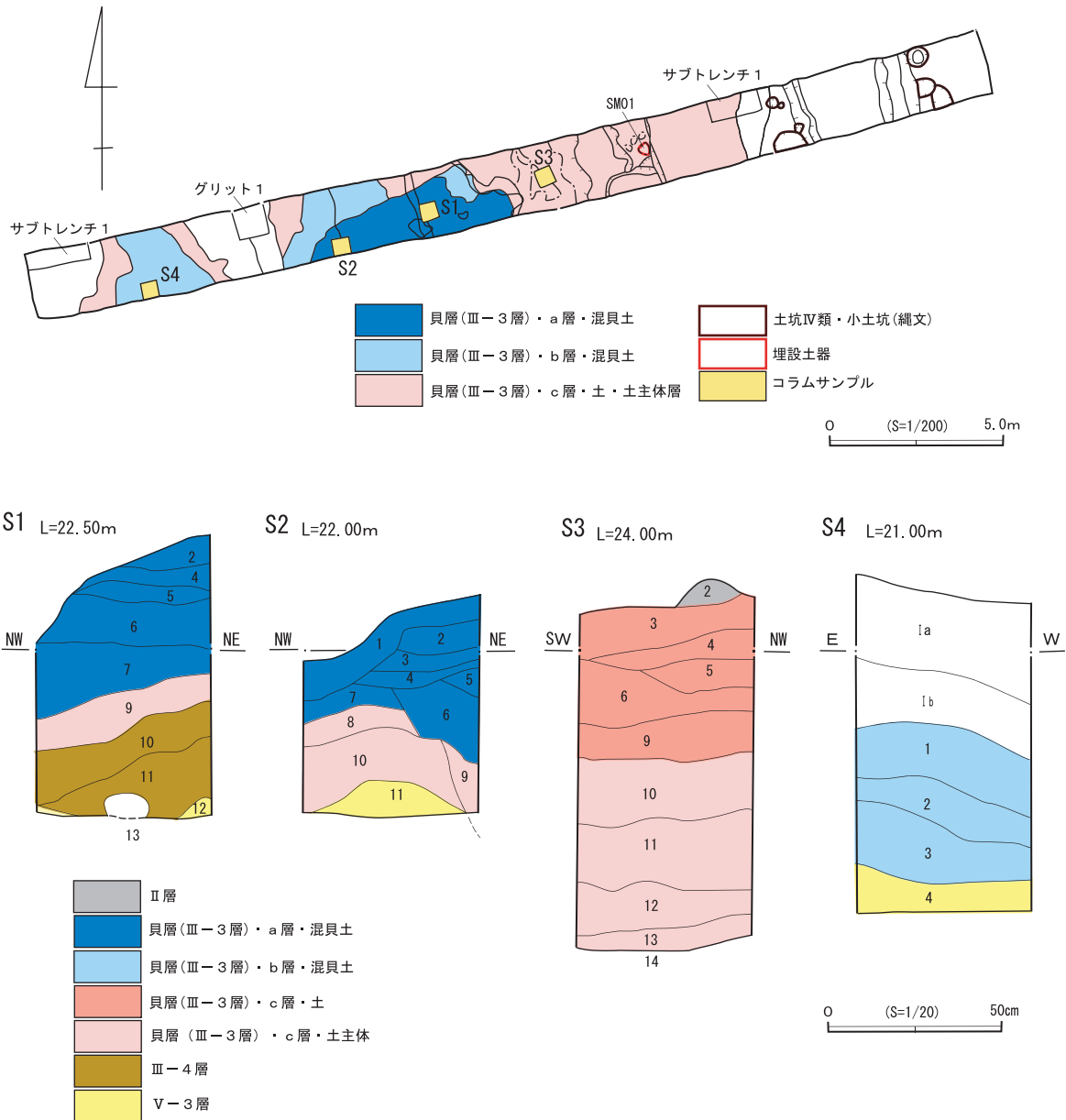


図16 64T実測図 (S=1/200・1/20)

貝層確認時は、平面的に土主体層の上層及び斜面下位に混貝土層が堆積している状況が確認された。この貝層を平面的な観察により、次のように分別した。

- a層 混貝土層を中心とし、黒褐色土を基調とするものである。混貝率が比較的高く、平面観察では最も上層にあたる。出土土器には綱取式を含む。
- b層 混貝土層を中心とし、暗褐色土、褐色土を基調とするものである。混貝率はa層に比較し低いものである。a層下、c層上に堆積しており、斜面下に多く認められる。
- c層 土主体層を中心とし、褐色を基調とするものである。台ノ前南・北貝層の土主体層・土層と類似する。a・b層の下層に堆積している。
- d層 貝層最下層にあたり、貝をほとんど含まない層である。

さらにこれらを細別し、それぞれ算数字を付して区分した。なお、コラムサンプルのS1・S2はa層・c層、S3はc層、S4はb層に相当する。

c層はa・b層の下位にあたるものであり、斜面上位を中心に分布する。台地上の貝層は、ほぼc



層であり、斜面下位のc層の上位にa・b層が堆積する。S3のc層では約90cmの堆積が認められ、S3の14層はV-3層にあたる褐色シルト（砂質シルト）と漸移的であることから、c層はほぼ1m前後の堆積と推定される。S3のc層上層は貝を含まない土層が中心であり、下層に至り少量の貝を含む土主体層となり、台ノ前南貝層の斜面上位にあたる31Tの堆積状況に類似する。また、S2ではc層がV-3層を掘り込んでいるような堆積状況が確認される。

a層は斜面下部に約6mの範囲で確認されている。コラムサンプルのS1・S2のa層は、最大厚はそれぞれS1で約40cm、S2で約70cmを測る。いずれもa層下に25~30cmのc層が確認されているが、c層を掘り込んだような状況を呈し、a層形成以前に遺構が形成されていた可能性がある。

b層は、斜面下部に分布しており、台ノ前南貝層の斜面下部38Tや台ノ前北貝層の斜面下部にあたる54Tの混貝土層（b層・i層）に類似した堆積状況を示す。斜面下部のa層下に認められたものと、削平部を挟んでさらに西側の斜面下に確認されたものがある。いずれもa層に比較し、混貝率は低く、褐色の色調である。S4では最大厚約40cmを測る。

#### （4）土器の出土状況（表5・6、図17・19・21・23）

64Tでは、コラムサンプル採取部分以外は、貝層を掘り込んでおらず、土器の多寡については不明な点が多いが、貝層上面からは比較的多くの土器が出土しており、特にc層上面では大形破片の出土が認められる。しかし、c層上から埋設土器（SM01）も認められるため、これらの土器はc層堆積後の遺構構築などによるものである可能性がある。

S1（1~10A）・S2（1~12A）のa層では、下層に多い傾向がみられ、特にS2の下層に大形破片が出土している。土器の増減パターンが、貝・魚骨とは一致していないことが指摘できる。b層のS4では小破片が全体的に出土しており、特に上下の出土量の差は認められない。c層のS3は最上層に土器の出土がないが、全体的にまんべんなく土器が出土している。

S1・S2のa層の土器出現度は0.46・0.22、S4（b層）が0.47、S3（c層）が0.31であり、これらに大きな差はないが、54Tに比較すると少ない。

#### （5）動動物体の出土状況（表5・6、図17~24）

a層は混貝土層である。S1では、全体的にはアサリを主体とするが、2・6層はマテガイの集中が見られ、3層がアサリ主体、5層はアサリ・イボキサゴが多いことが認められるなど、特定貝種の包含状況が層序の分類基準となる状況が認められた。計測混貝率は29.8%と高い数値を測る。S2のa層のうち、2・3層はアサリ・イボキサゴ、5層でアサリ・マテガイが多く見られ、下層にあたる6層はツメタガイの集中層である。S1と同様、特定の貝種が集中して堆積する状況が認められた。計測混貝率は36.7%と高い数値を測る。この数値は、浦尻貝塚の貝層の中では最も高く、中層にピークを持つあり方も共通している。間に土主体層・土層をまったく含まず堆積する点は、台ノ前南・北貝層とは大きな違いである。

a層は魚骨も多く、S1で2.82、S2で1.66と高い出現度を示し、おおむね貝と同じく中層にピークを持ち、増減パターンも類似する。一方、鳥獣骨の出現度は、S1で0.11、S2で0.15と台ノ前南貝層の31Tや38Tと同様であり、台ノ前北貝層の54Tより少ない。下層にほとんど含まれず、貝・魚骨とは異なる増減パターンを示す。

b層も混貝土層であるが、a層のような特定の貝種が集中する状況はない。破砕貝が多く認められ、上層は破壊されている部分が多いと考えられる。下層から上層に向かって増加する傾向がある。計測混貝率はS4では9.0%と比較的低い数値を示す。また、魚骨出現度0.61、鳥獣骨出現度は0.13と

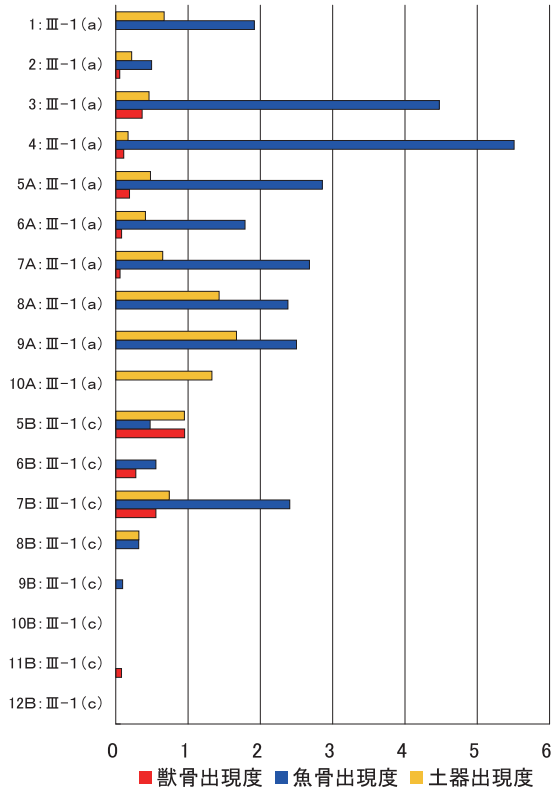


図 17 64TS1 獣骨・魚骨・土器出現度

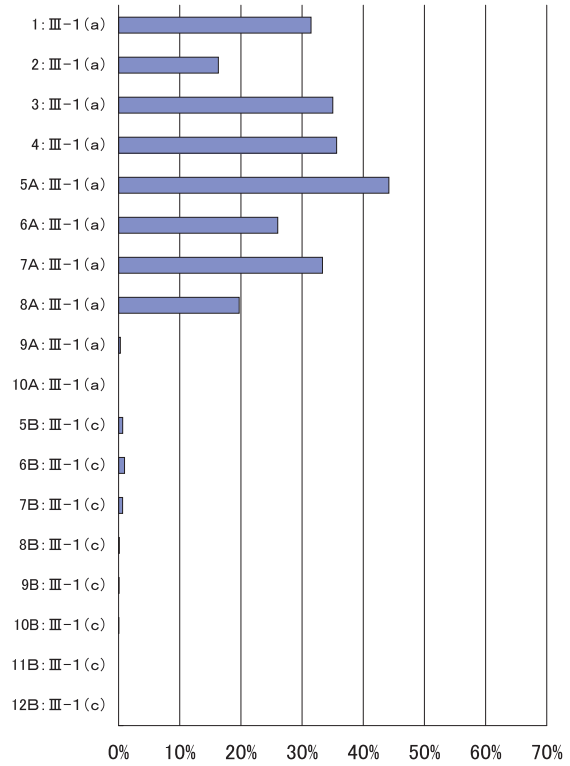


図 18 64TS1 計測混貝率

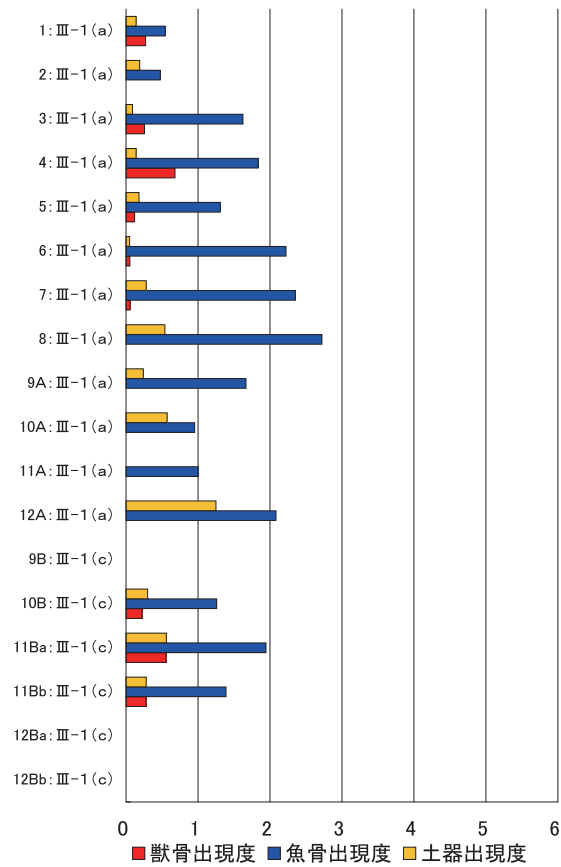


図 19 64TS2 獣骨・魚骨・土器出現度

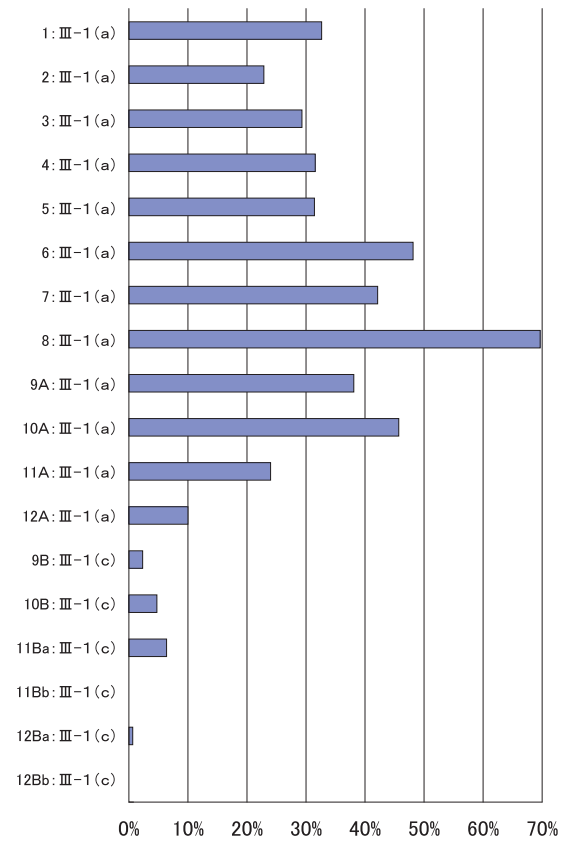


図 20 64TS2 計測混貝率

第5節 西向貝層の調査状況

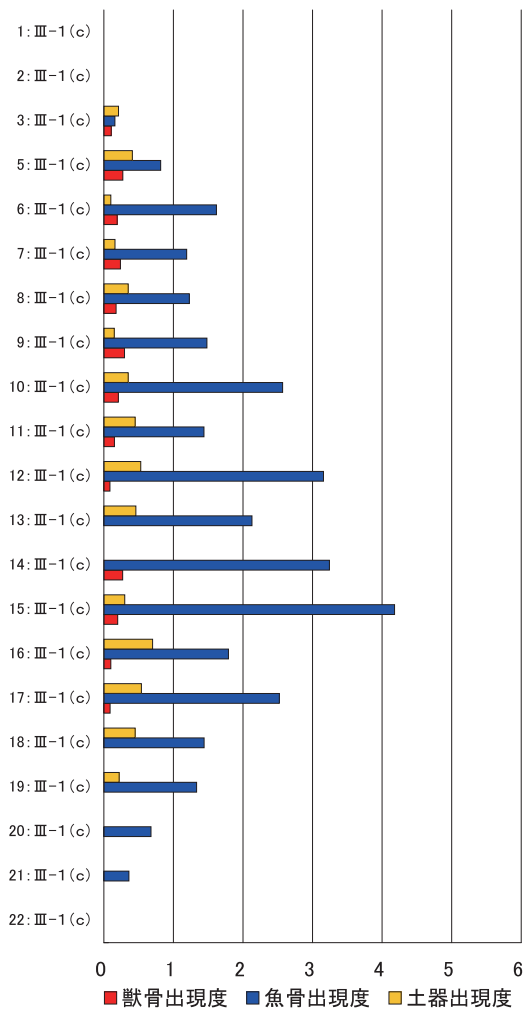


図 21 64TS3 獣骨・魚骨・土器出現度

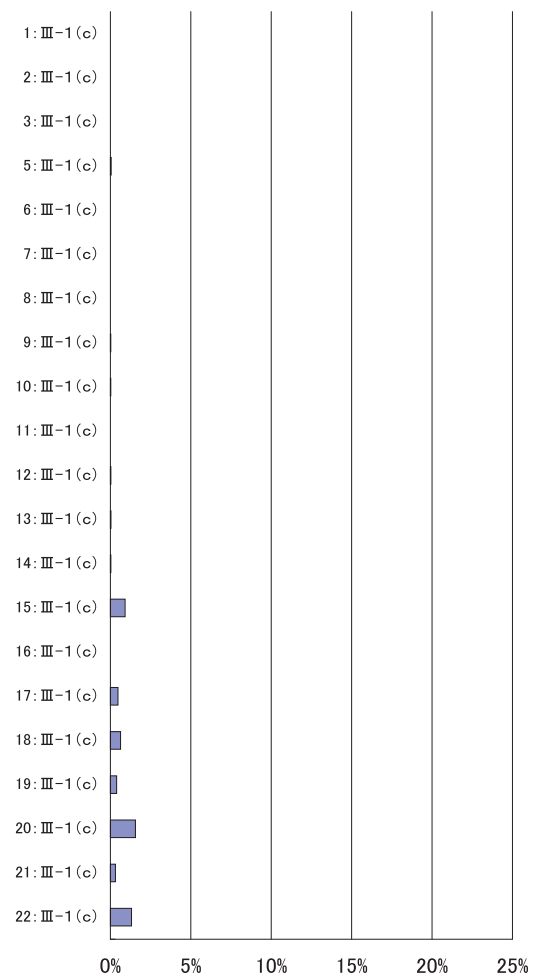


図 22 64TS3 計測混貝率

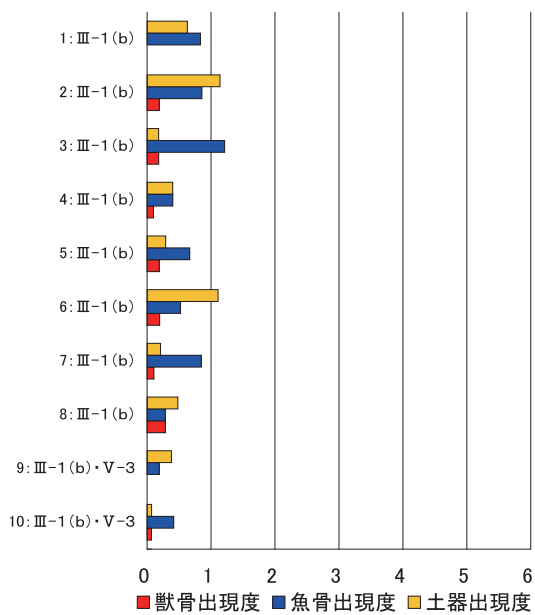


図 23 64TS4 獣骨・魚骨・土器出現度

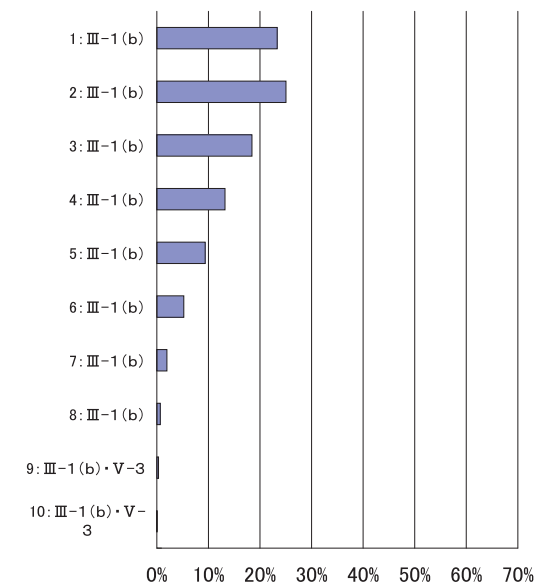


図 24 64TS4 計測混貝率

表5 64T サンプルの詳細 (S1・S2)

サンプル名	層対応	土量 [cm]	貝体積 [cm]	獣骨数	魚骨数	土器数	計測 混貝率	獣骨 出現度	魚骨 出現度	土器 出現度	時期	2.5mm 分析量 (ml)	1mm 分析量 (ml)
S1-1	Ⅲ-1(a)	12000	3776.0		23	8	31.5%	0.00	1.92	0.67	網取Ⅱ		
S1-2	Ⅲ-1(a)	18150	2960.0	1	9	4	16.3%	0.06	0.50	0.22	網取Ⅱ		
S1-3	Ⅲ-1(a)	10950	3835.0	4	49	5	35.0%	0.37	4.47	0.46	網取Ⅱ	250	50
S1-4	Ⅲ-1(a)	18150	6470.0	2	100	3	35.6%	0.11	5.51	0.17	網取Ⅱ		
S1-5A	Ⅲ-1(a)	10500	4640.0	2	30	5	44.2%	0.19	2.86	0.48	網取Ⅱ		
S1-6A	Ⅲ-1(a)	12300	3200.0	1	22	5	26.0%	0.08	1.79	0.41	網取Ⅱ		
S1-7A	Ⅲ-1(a)	16800	5600.0	1	45	11	33.3%	0.06	2.68	0.65	網取Ⅱ		
S1-8A	Ⅲ-1(a)	2100	414.0		5	3	19.7%	0.00	2.38	1.43	網取Ⅱ	50	100
S1-9A	Ⅲ-1(a)	1200	3.5		3	2	0.3%	0.00	2.50	1.67	網取Ⅱ		
S1-10A	Ⅲ-1(a)	1500				2	0.0%	0.00	0.00	1.33	網取Ⅱ		
S1-A層一括	Ⅲ-1(a)				6						網取Ⅱ		
S1-Ⅲ-1(a)計		103650	30898.5	11	292	48	29.8%	0.11	2.82	0.46	網取Ⅱ		
S1-5B	Ⅲ-1(c)	2100	14.0	2	1	2	0.7%	0.95	0.48	0.95	大木6~8a		
S1-6B	Ⅲ-1(c)	3600	35.0	1	2		1.0%	0.28	0.56	0.00	大木6~8a		
S1-7B	Ⅲ-1(c)	5400	35.0	3	13	4	0.6%	0.56	2.41	0.74	大木6~8a		
S1-8B	Ⅲ-1(c)	6300	7.0		2	2	0.1%	0.00	0.32	0.32	大木6~8a		
S1-9B	Ⅲ-1(c)	10500	7.0		1		0.1%	0.00	0.10	0.00	大木6~8a		
S1-10B	Ⅲ-1(c)	13500	3.5				0.0%	0.00	0.00	0.00	大木6~8a	150	※500
S1-11B	Ⅲ-1(c)	12600		1			0.0%	0.08	0.00	0.00	大木6~8a		
S1-12B	Ⅲ-1(c)	13500					0.0%	0.00	0.00	0.00	大木6~8a		
S1-Ⅲ-1(c)計		67500	101.5	7	19	8	0.2%	0.10	0.28	0.12	大木6~8a		
S2-1	Ⅲ-1(a)	7350	2400.0	2	4	1	32.7%	0.27	0.54	0.14	網取Ⅱ		
S2-2	Ⅲ-1(a)	10500	2400.0		5	2	22.9%	0.00	0.48	0.19	網取Ⅱ		
S2-3	Ⅲ-1(a)	11700	3430.0	3	19	1	29.3%	0.26	1.62	0.09	網取Ⅱ	400	450
S2-4	Ⅲ-1(a)	14700	4640.0	10	27	2	31.6%	0.68	1.84	0.14	網取Ⅱ		
S2-5	Ⅲ-1(a)	16800	5280.0	2	22	3	31.4%	0.12	1.31	0.18	網取Ⅱ		
S2-6	Ⅲ-1(a)	18900	9099.0	1	42	1	48.1%	0.05	2.22	0.05	網取Ⅱ		
S2-7	Ⅲ-1(a)	17850	7520.0	1	42	5	42.1%	0.06	2.35	0.28	網取Ⅱ		
S2-8	Ⅲ-1(a)	7350	5120.0		20	4	69.7%	0.00	2.72	0.54	網取Ⅱ		
S2-9A	Ⅲ-1(a)	8400	3200.0		14	2	38.1%	0.00	1.67	0.24	網取Ⅱ	150	220
S2-10A	Ⅲ-1(a)	5250	2400.0		5	3	45.7%	0.00	0.95	0.57	網取Ⅱ		
S2-11A	Ⅲ-1(a)	3000	720.0		3		24.0%	0.00	1.00	0.00	網取Ⅱ		
S2-12A	Ⅲ-1(a)	2400	240.0		5	3	10.0%	0.00	2.08	1.25	網取Ⅱ		
S2-A層一括	Ⅲ-1(a)	2400			2	1	0.0%	0.00	0.83	0.42	網取Ⅱ		
S2-Ⅲ-1(a)計		126600	46449.0	19	210	28	36.7%	0.15	1.66	0.22	網取Ⅱ		
S2-9B	Ⅲ-1(c)	600	14.0				2.3%	0.00	0.00	0.00	大木6~8a	○	10
S2-10B	Ⅲ-1(c)	13500	640.0	3	17	4	4.7%	0.22	1.26	0.30	大木6~8a		
S2-11Ba	Ⅲ-1(c)	3600	230.0	2	7	2	6.4%	0.56	1.94	0.56	大木6~8a	80	250
S2-11Bb	Ⅲ-1(c)	3600		1	5	1	0.0%	0.28	1.39	0.28	大木6~8a	40	150
S2-12Ba	Ⅲ-1(c)	5400	35.0				0.6%	0.00	0.00	0.00	大木6~8a		
S2-12Bb	Ⅲ-1(c)	3000					0.0%	0.00	0.00	0.00	大木6~8a		
S2-Ⅲ-1(c)計		29700	919.0	6	29	7	3.1%	0.20	0.98	0.24	大木6~8a		

(註) 分析量の○印は全ての洗浄後サンプルの資料の選別をしたが、分析量を計測していないものである。

(註) 分析量の※印は洗浄後サンプル量の上限を設定して資料の選別を行ったものである。

第5節 西向貝層の調査状況

表6 64T サンプルの詳細 (S3・S4)

サンプル名	層対応	土量 [cm]	貝体積 [cm]	獣骨数	魚骨数	土器数	計測 混貝率	獣骨 出現度	魚骨 出現度	土器 出現度	時期	2.5mm 分析量 (ml)	1mm 分析量 (ml)
S3-1	Ⅲ-1(c)	1,200	0.0		0	0	0.0%	0.00	0.00	0.00	大木7a古		
S3-2	Ⅲ-1(c)	3,300	0.0		0	0	0.0%	0.00	0.00	0.00	大木7a古		
S3-3	Ⅲ-1(c)	18,900	0.0	2	3	4	0.0%	0.11	0.16	0.21	大木7a古	80	270
S3-4	Ⅲ-1(c)		0.0	2	1	1					大木7a古		
S3-5	Ⅲ-1(c)	7,350	3.5	2	6	3	0.0%	0.27	0.82	0.41	大木7a古		
S3-6	Ⅲ-1(c)	10,500	0.0	2	17	1	0.0%	0.19	1.62	0.10	大木7a古		
S3-7	Ⅲ-1(c)	12,600	0.0	3	15	2	0.0%	0.24	1.19	0.16	大木7a古		
S3-8	Ⅲ-1(c)	17,100	0.0	3	21	6	0.0%	0.18	1.23	0.35	大木7a古		
S3-9	Ⅲ-1(c)	13,500	3.5	4	20	2	0.0%	0.30	1.48	0.15	大木7a古		
S3-10	Ⅲ-1(c)	14,400	3.5	3	37	5	0.0%	0.21	2.57	0.35	大木7a古		
S3-11	Ⅲ-1(c)	13,200	0.0	2	19	6	0.0%	0.15	1.44	0.45	大木7a古		
S3-12	Ⅲ-1(c)	11,400	3.5	1	36	6	0.0%	0.09	3.16	0.53	大木7a古		
S3-13	Ⅲ-1(c)	10,800	3.5		23	5	0.0%	0.00	2.13	0.46	大木7a古		
S3-14	Ⅲ-1(c)	11,100	3.5	3	36	0	0.0%	0.27	3.24	0.00	大木6		
S3-15	Ⅲ-1(c)	10,050	92.0	2	42	3	0.9%	0.20	4.18	0.30	大木6	160	400
S3-16	Ⅲ-1(c)	10,050	0.0	1	18	7	0.0%	0.10	1.79	0.70	大木6		
S3-17	Ⅲ-1(c)	11,100	52.5	1	28	6	0.5%	0.09	2.52	0.54	大木6		
S3-18	Ⅲ-1(c)	11,100	70.0		16	5	0.6%	0.00	1.44	0.45	大木6		
S3-19	Ⅲ-1(c)	9,000	35.0		12	2	0.4%	0.00	1.33	0.22	大木4~6		
S3-20	Ⅲ-1(c)	8,850	138.0		6	0	1.6%	0.00	0.68	0.00	大木4~6		
S3-21	Ⅲ-1(c)	11,100	35.0		4	0	0.3%	0.00	0.36	0.00	大木4~6		
S3-22	Ⅲ-1(c)	5,250	69.0		0	0	1.3%	0.00	0.00	0.00	大木4~6		
S3一括	Ⅲ-1(c)			3	12	4							
S3-Ⅲ-1(c)計		221,850	512.5	34	372	68	0.2%	0.15	1.68	0.31			
S4-1	Ⅲ-1(b)	4,800	1,120.0		4	3	23.3%	0.00	0.83	0.63	大木7b		
S4-2	Ⅲ-1(b)	10,500	2,630.0	2	9	12	25.0%	0.19	0.86	1.14	大木7b		
S4-3	Ⅲ-1(b)	16,500	3,044.0	3	20	3	18.4%	0.18	1.21	0.18	大木7b		
S4-4	Ⅲ-1(b)	19,900	2,630.0	2	8	8	13.2%	0.10	0.40	0.40	大木7b		
S4-5	Ⅲ-1(b)	10,500	984.0	2	7	3	9.4%	0.19	0.67	0.29	大木7b		
S4-6	Ⅲ-1(b)	15,300	800.0	3	8	17	5.2%	0.20	0.52	1.11	大木7b	290	※200
S4-7	Ⅲ-1(b)	9,450	184.0	1	8	2	1.9%	0.11	0.85	0.21	大木6~7a		
S4-8	Ⅲ-1(b)	10,500	70.0	3	3	5	0.7%	0.29	0.29	0.48	大木6~7a		
S4-9	Ⅲ-1(b)・ V-3	15,750	52.5		3	6	0.3%	0.00	0.19	0.38	大木6~7a		
S4-10	Ⅲ-1(b)・ V-3	14,400	3.5	1	6	1	0.0%	0.07	0.42	0.07	大木6~7a		
S4一括	Ⅲ-1(b)				2								
S4-Ⅲ-1(b)計		127,600	11,518	17	78	60	9.0%	0.13	0.61	0.47			

(註) 分析量の※印は洗浄後サンプル量の上限を設定して資料の選別を行ったものである。

いずれも低い。魚骨・鳥獣骨も全体的に出土し、特に上下での大きな差はない。

c層は土・土主体層であり、計測混貝率はS1で0.2%、S2で3.1%、S3で0.2%といずれも低い数値を示し、同じ土・土主体層である台ノ前南貝層31TのⅢA・B層に近い。S3では最上層にはほとんど貝が含まれず、下層にあたるサンプル15（11層相当）より増加する傾向がある。層厚のないS1・S2のc層は、魚骨もそれぞれ0.28、0.98と低い出現率であるが、層厚のあるS3では1.68と高い数値を示し、31TⅢ層とほぼ同様である。またS3では、上層からはほとんど見られず、サンプル5（4～5層）より増加し始め、サンプル15（11層）あたりをピークとし、上層に向かって減少する状況が見て取れる点も31Tと共通している。

c層の鳥獣骨は0.10～0.15の出現度であり、a・b層と大きな差はない。S3の最上層と、すべての最下層はほとんど見られないが、全体的に出土している。

#### (6) 形成時期

コラムサンプル中の出土土器は少量であり、細別した時期決定は困難な点があるが、上面から出土した土器も踏まえ、形成時期を提示しておく。

c層内の出土土器として、S3の9・10層相当サンプル（サンプル11）より上位に大木7a式古段階が少量含まれ、11層相当サンプル（サンプル15）より下位に大木6式が多い。13層下層相当サンプル（サンプル19～22）には大木6式がなく、1片の大木4式が認められる。また、斜面上位の貝層形成初期段階と考えられるサブトレンチ1からは、大木4式の出土があることから、c層の形成開始は大木4式期の可能性が高い。このことから、S3の10層以上を大木7a式期古段階（サンプル1～13）、11層以下を大木6式期（サンプル14～18）、13層以下（サンプル19～22）を大木4～6式期としておく。

S1・S2のc層では、極めて少量しか出土していないが大木6式のほか、大木8a式などが出土している。斜面上位のc層の上面には、埋設土器の大木8a式が認められることから、c層の下限をこの段階に位置づけることができよう。これらのことから、c層は大木4式期に開始され、大木6式から大木7a式期古段階に堆積がすすみ、大木8a式期には終了しているものと考えられる。

なお、c層のS3の11層下部にあたるサンプル15内から出土した種実の<sup>14</sup>C年代測定を行っており、<sup>14</sup>C年代では4590±40BPの測定結果が得られており、近年の成果にあわせると大木6式の年代に相当し、上記の年代と整合的である（小林2004等）。

a層は、c層の上位にあり、S1・S2からは綱取Ⅱ式の出土がみられ、上下の時期差は認められない。このことから、a層は綱取Ⅱ式の形成と考えられる。S2のサンプル3内から認められた種実の<sup>14</sup>C年代測定を行っており、<sup>14</sup>C年代では3740±40BPの測定結果が得られており、近年の測定結果からしても、整合的である（小林2004等）。

b層は、c層の上位、a層の下位に相当する層位である。調査はS4しか行われておらず、b層全体の年代を知ることは難しい。S4からは、上層のサンプル2では綱取Ⅱ式が1片出土しているものの、そのほか上層相当サンプル（サンプル1～3）からは大木7b式が出土しており、サンプル6までは大木7a式新段階～7b式の出土が見られる。また、下層にあたるサンプル8～9では、大木7a式古段階からの資料が認められる。これらを明確ではない点があるもののサンプルの1～6を大木7a式期新段階～7b式期としておき、下層のサンプル8～9は大木6～7a式期の所産としておく。b層全体の時期は不明な点があるが、a・c層との前後関係と出土土器から大木6～7b式期に位置づけられ、主たる時期としては、大木7a式期新段階～7b式期の可能性が高い。

### 第3項 52T西の調査状況

台地上の52T西端では竪穴住居を壊す攪乱部分から貝層が確認され、竪穴住居は貝層上に構築されていることが明らかとなった。竪穴住居の貼床面を除去して、貝層を確認する調査を行っていないため、詳細は不明であるが、64Tの東側にあたる台地上の調査状況に比較すると、貝がやや多く含まれるが、ほぼ同様な土・土主体層が堆積している。なお、土壌サンプルは採取していない。

貝層上の竪穴住居はSI01・03が相当し、SI01は大木10式期、SI03は大木9式期に位置づけられるため、大木9式期以降の貝層の形成はないものと判断される。SI01の下位に確認される貼床面をSI02としており、大木5～8b式が出土しているが、貝層との前後関係は不明であり、詳細は不明である。

### 第4項 65Tの調査状況

65Tでは、ほぼ全面的にⅢ-5層（遺物包含層）が確認されている。Ⅲ-5層は暗褐色土を基調とし、少量の土器を含む。層厚は約20cmであり、斜面下位側に比較的厚みをもって堆積している。表土中には破碎貝を多く含むが、Ⅲ-5層中にはまったく含まれない。

Ⅲ-5層下は小石・レキが多く認められる黄褐色シルト層が確認され、西向地区斜面下部の縄文時代の遺構確認面となっている。Ⅲ-5層下にSK671を確認し、半裁して調査を行っている。SK671は長軸270cm以上、短軸110cmの長方形の掘りこみを持ち、深さは約30cmを測る。覆土中にレキが多く含まれ、地山であるV-3層からの流れ込みと考えられる。炭化粒・焼土粒・焼獣魚骨片が顕著に認められるほか、綱取Ⅱ式を中心とした多くの土器片が出土した。なお、土壌サンプルも採取していない。

### 第5項 西向貝層の形成過程

これまで記した調査成果から、西向貝層の形成過程は次のように考えられる。

#### 大木4式期

台地上から、土・土主体層（c層）の形成が認められる。貝や獣魚骨の廃棄は不明な点が多い。

#### 大木5式期

土器の出土はあるものの明確な貝層は確認されていない。土・土主体層が形成された可能性がある。

#### 大木6式期

斜面上位を中心に、土・土主体層（c層）の形成が認められる。貝の廃棄は少ないが、鳥獣骨、魚骨の廃棄が本格化していく。斜面下位では混貝土層（b層）が形成され始めた可能性がある。

#### 大木7a式期古段階

斜面上位では前段階に引き続き、土の廃棄が行われるが、貝は少ない。鳥獣骨、魚骨は土とともに比較的多く廃棄されている。斜面下位では、混貝土層（b層）が形成の可能性がある。

#### 大木7a式期新段階～7b式

斜面上位の土・土主体層の形成は明瞭ではなく、縮小または終了していると考えられる。斜面下位ではb層の形成が本格化するが、混貝率、魚骨出現率ともに低く、台ノ前南・北貝層ほど層厚もない。

#### 大木8a式期

斜面上位の土・土主体層（c層）の上層に埋設土器が認められ、土・土主体層の形成は完了しているものと考えられる。斜面下位の混貝土層（b層）の形成は認められない。

#### 大木8b式期

土器の出土があるものの明確な貝層は確認されていない。

### 大木9～10式期

台地上では、貝層上に竪穴住居が作られる。貝層は確認されていない。

### 綱取Ⅰ式期

土器の出土があるものの明確な貝層は確認されていない。

### 綱取Ⅱ式期

斜面下位に、遺構を構築したような掘り込みがあり、そこに限定的と推定される混土貝層（a層）が形成される。特定の貝種が集中して廃棄される傾向があり、土・土主体層を含まず、積極的な貝・魚骨の廃棄が認められる。鳥獣骨の廃棄も一定量ある。この段階より新しい貝層の形成は調査範囲内では認められなかった。貝層の斜面下には、焼鳥獣魚骨を覆土に持つ土坑が1基検出されている。

（川田強）



## 第6節 小迫貝層ならびに小迫北地区東の谷・西の谷の調査状況

### 第1項 概要（図25）

小迫貝層は、東の谷の北東方面に傾斜する斜面に分布する。確認した調査区は72T・1G・3～6Gである。貝が含まれず、鳥獣魚骨を含むⅢ-3a層の分布範囲内に混貝土層であるⅢ-1層が約12×10mにわたって堆積している。このⅢ-1層、Ⅲ-3a層をまとめて、小迫貝層としている。しかし、ほとんど掘り込んで調査を行っていないため、鳥獣魚骨を含むⅢ-3a層と含まないⅢ-3b層の差は漸移的であり、貝層全体の広がりには不明な点が多い。

大きく見ると、東の谷には、整地および遺構等の構築など人為的な影響により堆積したと考えられるⅢ-3b層、それに動物遺体が少量含まれるⅢ-3a層があり、それらの最上層の一部にⅢ-1層とした混貝土層が堆積している状況とすることができる。なお、Ⅲ-3b層上には、柱穴等の遺構が多数確認されている。

小迫貝層全体の上端の標高は72Tで24.3m、下端は6Gで19.9mであり、標高差は4.4mを測る。混貝土層のⅢ-1層の標高差は72Tで確認した範囲では2.1mである。小迫貝層は、面的に掘り込んで調査を行った箇所はなく、コラムサンプル5箇所を設定し調査を実施している。

西の谷は、多量の土器と焼けた鳥獣魚骨が出土している。東の谷に比較するとレンズ状の堆積をしており、整地・遺構の構築等の人為的な掘削が少ないとみられ、土器等の廃棄場と考えている。なお、貝層は確認されておらず、Ⅲ-3層が検出した範囲において、Ⅲ-3層上面での柱穴等の確認は多くはなく、東の谷との様相は異なる。

### 第2項 小迫貝層〔小迫北地区東の谷〕の調査状況（図26）

#### （1）調査方法

Ⅲ-1層分布範囲で4箇所（72TS1・S2、1GS1、3GS1）、Ⅲ-3a層分布範囲で1箇所（1GS2）の50cm角のコラムサンプルを設定し、厚さ5cmごとのサンプルを採取した。掘り込んだ調査面積は、Ⅲ-1層で1.0㎡、Ⅲ-3a層で0.25㎡である。72TS2を除き、貝の混入がない貝層下までのサンプルを採取しており、72TS2は、Ⅲ-1層に相当する1サンプルだけ採取している。その他、貝層の上面確認の際の廃土は、現地で5mmメッシュの乾ふるいにより、微細資料の回収にあたった。

#### （2）サンプル略称

コラムサンプルは、調査区ごとにそれぞれS1・S2と称し、上から順に採取したサンプルに番号をつけた。また、コラムサンプル以外の資料はⅢ層上面として一括した。

#### （3）堆積状況

Ⅲ-1層は北東方向に傾斜する東の谷の傾斜変換点付近を中心に分布している。最大厚25cmであり、層厚はなく、上位が削られた部分も多いと判断される。72TS2などは5cmほどの厚さしかない。この混貝土層分布範囲を詳細に観察すると、ブロック状に細別することができる。また、地山であるⅣ-3層を掘り込むような状況で堆積しているものも認められる。

これらは、南台地区等の貝層のような斜面上から下に地形の傾斜に沿った堆積状況ではなく、斜面における小規模なブロック単位の廃棄が重複して、全体として貝層が形成されている状況であると言える。また、台ノ前南・北貝層のような褐色を呈する土・土主体層は認められない。

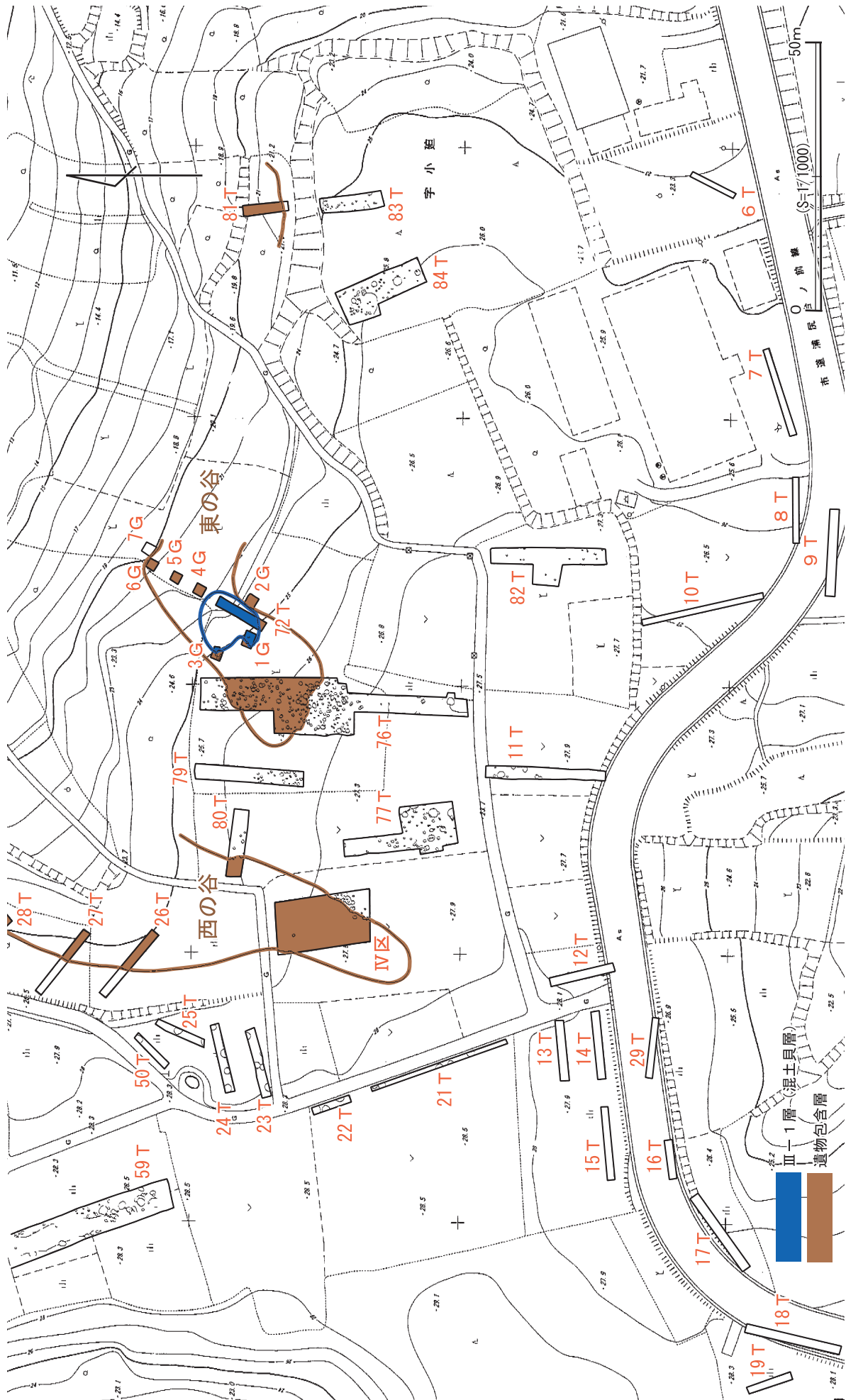


図25 小迫北・南地区調査状況図 (S = 1/1000)

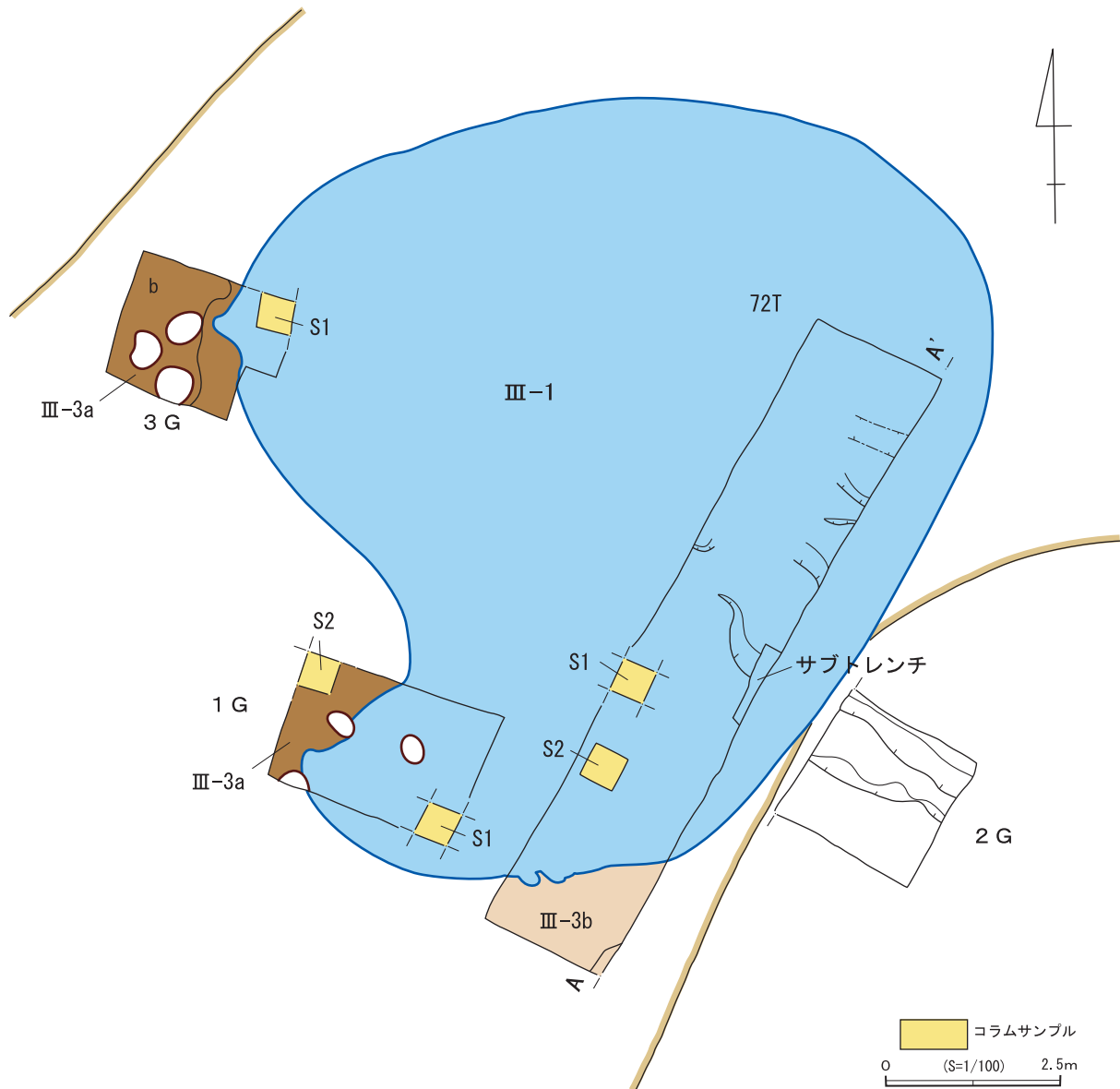


図26 72T、1～3G実測図 (S=1/100)

III-1層下には、褐色を呈すIII-3b層が堆積している。厚さは10～30cmを測る。

III-3a層はIII-1層周辺を中心とし、特にIII-1層の斜面下位に広く分布している。1GS2しか調査していないが、20～30cmの厚で、その下層はIII-1層分布範囲と同じくIII-3b層が堆積している。

76Tの北側でもIII-3b層が確認され、III-3b層上とその周囲は掘立柱建物・柱穴・土坑が構築されている。テストピットを設けて約20cmの深さまで掘削したが、依然III-3b層の堆積が認められた。

#### (4) 土器の出土状況 (表7、図28)

土器はコラムサンプル中からの出土は少ないが、貝層の上面からは多くの土器が出土している。特にIII-1層分布範囲の斜面下位にあたる72T北側、ならびに4Gの上面には大形土器片の出土が目立つ。5～6Gと斜面下位にいくにつれて、減少する傾向が見て取れる。

III-1層にあたる72TS2、3GS1、1GS1は、完形土器または大形破片を含み、土器出現度

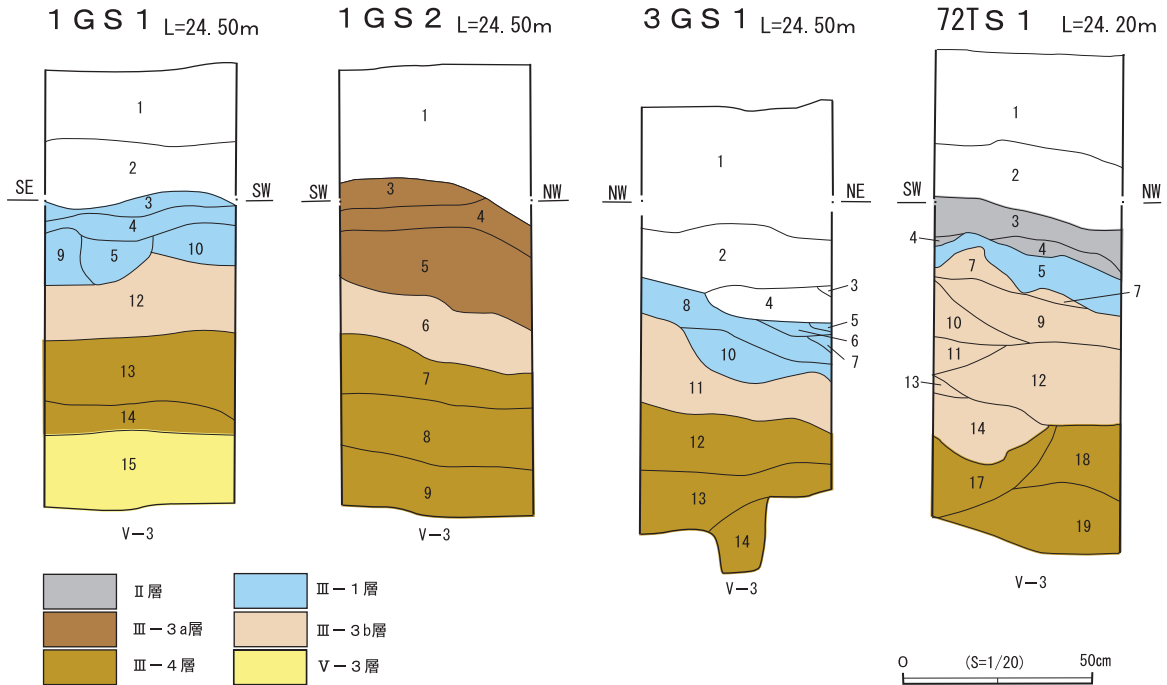


図27 小迫北地区東の谷コラムサンプル断面図 (S=1/20)

は0.23~0.48を測るなど比較的多くの土器を出土している。これらは、台ノ前南・北貝層より低い傾向があり、西向貝層とほぼ同様の数値を示す。72TS1は、小破片のみで0.04%と極めて少ない数値であるが、わずかな厚さであり、サンプル数も少ないことから、十分なデータとは言えない。

III-3a層とした1GS2の土器出現度は0.05であり、72TS1を除くIII-1層のコラムサンプルの土器出現度よりも圧倒的に低いが、1箇所しか調査実施していないので、この数値をもってIII-3a層がIII-1層よりも土器量が少ないとは言いきれない。また、現地調査時の所見として斜面下位の4~6Gは土器が比較的多くみられた。

(5) 動物遺体の出土状況 (表7、図28・29)

III-1層の各コラムサンプルで動物遺体が認められるサンプルで集計すると、計測混貝率は、72TS1 (サンプル2まで) で16.1%、72TS2で14.5%、1GS1 (サンプル7まで) で1.2%、3GS1 (サンプル5まで) で10.0%と1GS1を除き、10%を越えている。西向貝層のa層ほど高くないが、台ノ前南・北貝層の混土貝層とほぼ同様な数値を示すと言える。しかし、層厚がない点は大きく異なっており、南台地区等の貝層のような継続的な貝の廃棄は認められない。1GS1はIII-1層分布範囲の斜面上端に位置していることから、上層部分が削られた可能性が高く、全体の傾向からは除外してよいと判断される。

III-1層の魚骨は、南台地区等の貝層に比すると量は少ない。出現度を検証するには貝層の層厚がなく、対象とする資料数が少ないことから、注意する必要があるが、72TS1 (サンプル2まで) では0.13、72TS2では0.38、1GS1 (サンプル7まで) では0.09と極めて微量である。出現率が最も高いコラムサンプルである3GS1 (サンプル5まで) でも0.44であり、南台地区等の貝層の1/2~1/3という低い数値を示す。またIII-3a層の1GS2も極めて少ない。ただし、小迫貝層は、採取される魚種も大きく変化していることが認められるので、この変化による出土量の減少も考慮しておく必要があるが、5mm水洗資料の魚骨量が多くないことは確認できる。

第6節 小迫貝層ならびに小迫北地区東の谷・西の谷の調査状況

表7 小迫北地区サンプルの詳細

サンプル名	層対応	土量	貝体積	獣骨数	魚骨数	土器数	計測混泥率	獣骨出現度	魚骨出現度	土器出現度	時期	2.5mm 分析量 (ml)	1mm 分析量 (ml)
1GS1-1	Ⅲ-1	20,580	598	3	1	9	2.9%	0.15	0.05	0.44	大洞BC		
1GS1-2	Ⅲ-1	12,000	299	3	3	3	2.5%	0.25	0.25	0.25	大洞BC		
1GS1-3	Ⅲ-1	16,800	230	1	2	3	1.4%	0.06	0.12	0.18	大洞BC	300	350
1GS1-4	Ⅲ-1	23,540	115	6	2	3	0.5%	0.25	0.08	0.13	大洞BC	20	200
1GS1-5	Ⅲ-1	13,500	59.5		1	6	0.4%	0.00	0.07	0.44	大洞BC		
1GS1-6	Ⅲ-1	14,550	23		1	2	0.2%	0.00	0.07	0.14	大洞BC		
1GS1-7	Ⅲ-1	11,900	0	1			0.0%	0.08	0.00	0.00	大洞BC		
1GS1-1~7計		112,870	1324.5	14	10	26	1.2%	0.12	0.09	0.23			
1GS2-S1~8	Ⅲ-3a	108,240	0	2	1	5	0.0%	0.12	0.09	0.05	大洞BC	50	150
3GS1-1	Ⅲ-1	9,450	938	2	14	7	9.9%	0.21	1.48	0.74	大洞BC		
3GS1-2	Ⅲ-1	20,100	4595	4	10	6	22.9%	0.20	0.50	0.30	大洞BC	500	※500
3GS1-3	Ⅲ-1	19,950	3086	11	11	8	15.5%	0.55	0.55	0.40	大洞BC		
3GS1-4	Ⅲ-2	17,550	109.5	4	2	5	0.6%	0.23	0.11	0.28	大洞BC	20	20
3GS1-5	Ⅲ-1	20,250	3.5	1	1		0.0%	0.05	0.05	0.00	大洞BC	40	300
3GS1-1~5計		87,300	8732	22	38	26	10.0%	0.25	0.44	0.30			
72TS1-1	Ⅲ-1	28,350	6950	2	5	1	24.5%	0.07	0.18	0.04	大洞BC~C2	650	520
72TS1-2	Ⅲ-1	16,650	310.5	1	1	1	1.9%	0.06	0.06	0.06	大洞BC~C2	60	270
72TS1-1~2計		45,000	7260.5	3	6	2	16.1%	0.07	0.13	0.04			
72TS2-1	Ⅲ-1	21,000	3040	8	8	10	14.5%	0.38	0.38	0.48	大洞C2	400	500
Ⅳ区CS-ⅢA	Ⅲ-2a	47,600				26				0.55	大洞B~C2	400	※500
Ⅳ区CS-ⅢB	Ⅲ-2a	53340		3		47		0.06		0.88	大洞B~C2	450	620
Ⅳ区CS-ⅢC	Ⅲ-2a	47600		4		34		0.08		0.71	大洞B~C2	450	※500
Ⅳ区CS-ⅢD	Ⅲ-2b	23800				10				0.42	大洞B~C2	25	50
Ⅳ区CS-ⅢE	Ⅲ-2b	19040				4				0.21	大洞B~C2	100	160
Ⅳ区CS-ⅢF	Ⅲ-2b	23800				17				0.71	新地	30	100
Ⅳ区CS-ⅢA~C計	Ⅲ-2a	148,540		7		107		0.05		0.72	大洞B~C2		
Ⅳ区CS-ⅢD~F計	Ⅲ-2b	66,640				31		0.00		0.47	新地~大洞C2		
Ⅳ区CS-ⅢA~E計	Ⅲ-2a・2b	191380		7		121		0.04		0.63	大洞B~C2		
Ⅳ区コラムサンプル計		215,180		7		138		0.03		0.64			

(註) 分析量の※印は洗浄後サンプル量の上限を設定して資料の選別を行ったものである。

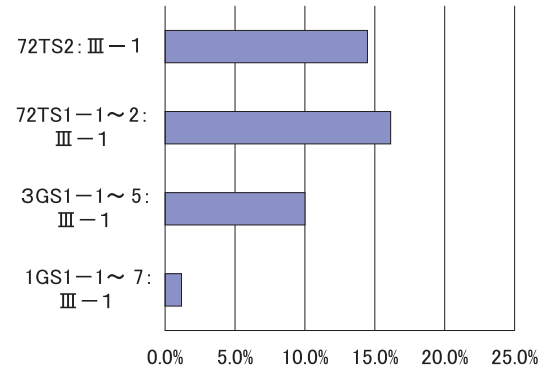
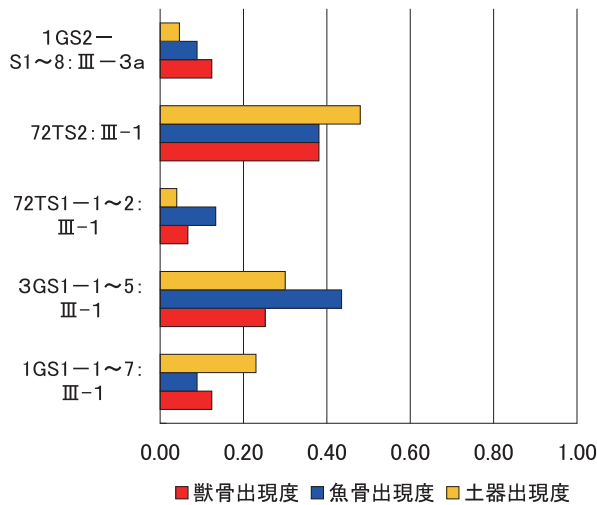


図 28 小迫北地区東の谷 鳥骨・魚骨・土器出現度

図 29 小迫北地区東の谷 計測混貝率

鳥獣骨も同様の調査状況から、出土量を正確に反映した数値とはいえないが、72TS1（サンプル2まで）では0.07、72TS2では0.38、1GS1（サンプル7まで）では0.12、3GS1（サンプル5まで）では0.25であり、南台地区等の貝層と比較すると、ほぼ同等かそれ以上の数値を示す。また、III-1層上面の確認時にも多く確認されており、III-1層の分布範囲が狭小であり、貝層の厚さがないこと、魚骨が多くないなどの傾向に比すると、鳥獣骨の出土は顕著であると指摘できる。これらの動物遺体の出現度は土器の出現度の増減におおむね一致するが、72TS1では貝は多いが、土器・鳥獣骨・魚骨が少なく、これらの廃棄が一致しないパターンも認められる。

III-3a層では、1GS2しか資料がないが、貝はなく、鳥獣魚骨の出土もわずかである。しかし、1GS2は斜面上位に位置し、III-3a層の中でも端部に当たっているため、全体の傾向を示していない可能性がある。上面しか確認しかしていないが、鳥獣骨については、72T北側、ならびに4Gで土器と同じく比較的多く出土している。

(6) 形成時期

72T北側（斜面下位）のIII-1層ならびに4~6GのIII-3a層からは大洞C2式土器の出土が認められることから大洞C2式期に形成されたと考えられる。72T南側（斜面上位）のIII-1層ならびにIII-3a層について詳細な時期は言及できないが、大洞BC~C2式期の土器の出土が確認されることから、大洞BC~C2式期に形成されたと推測される。1GのIII-3a層ならびに3GのIII-1層は大洞BC式土器が出土することから大洞BC式期に、1GのIII-1層は後期後葉~末の土器が出土しているものの、72T・1GのIII-1層の堆積状況から大洞BC式期以降に形成されたと推定される。III-1層・III-3a層下に堆積するIII-3b層から出土する土器は加曾利B式~新地式が中心であるが、III-3b層検出面では大洞B~BC式土器の出土が認められることから、III-3b層の形成時期は加曾利B式~大洞BC式期と捉えておきたい。

### 第3項 小迫北地区西の谷の調査状況 (図31)

#### (1) 調査方法

IV区全体で表土を除去し、遺構確認を行い、西の谷とした埋没谷を確認した。続いて西の谷を横断する幅2.0mのサブトレンチ1を設定し、縄文時代の堆積層より上位のII層まで調査区全面を掘り下げた後、調査区全面のIII層を層位的に掘り下げて調査を行った。III層下の状況を確認するため、サブトレンチ1内の南側に、幅1.0mのさらなるトレンチを設定し、V-3層までの調査を行った。また、サブトレンチ1の北壁に接する形で50cm各のコラムサンプルを設定し、柱状に残した後、分別した層位ごとにサンプルを採取した。この他、IV区の南側でも谷に直行するサブトレンチ2を設定し、II層を掘り下げIII層上面までの確認を行っている。

#### (2) サンプル略称

サンプルは調査時に遺物を回収した層名を基に名称を付した。2～5層をIII A層、6・7層をIII B層、8～14層をIII C層、15層をIII D層、16層をIII E層、17層をIII F層としている。また、コラムサンプル出土の資料については層名の前に「CS」という記号をつけた。

#### (3) 堆積状況

焼けた鳥獣魚骨を含むIII-2層がサブトレンチ1全面に確認される(註4)。最大厚80cmを測り、黒色～黒褐色を呈するIII-2 a層と暗褐色を呈し、粘性が強いIII-2 b層が堆積している。いずれもローム粒のほか、小石・レキ・炭化粒・焼土粒を一定量含んでいる。

III-2 a層 (III A～C層) は最大厚60cmを測り、III-2 b層 (III D～F) はほぼ一定の20～30cmの層厚を持つ。全体的にレンズ状の堆積を呈するが、9・10層、11・12層などIII-2 b層の上面でくぼむ面があり、小石・レキなどを含まず、上下と連続した堆積と考えられないことから、III-2 b層堆積終了段階に、堆積の休止期間があったことを伺わせる。

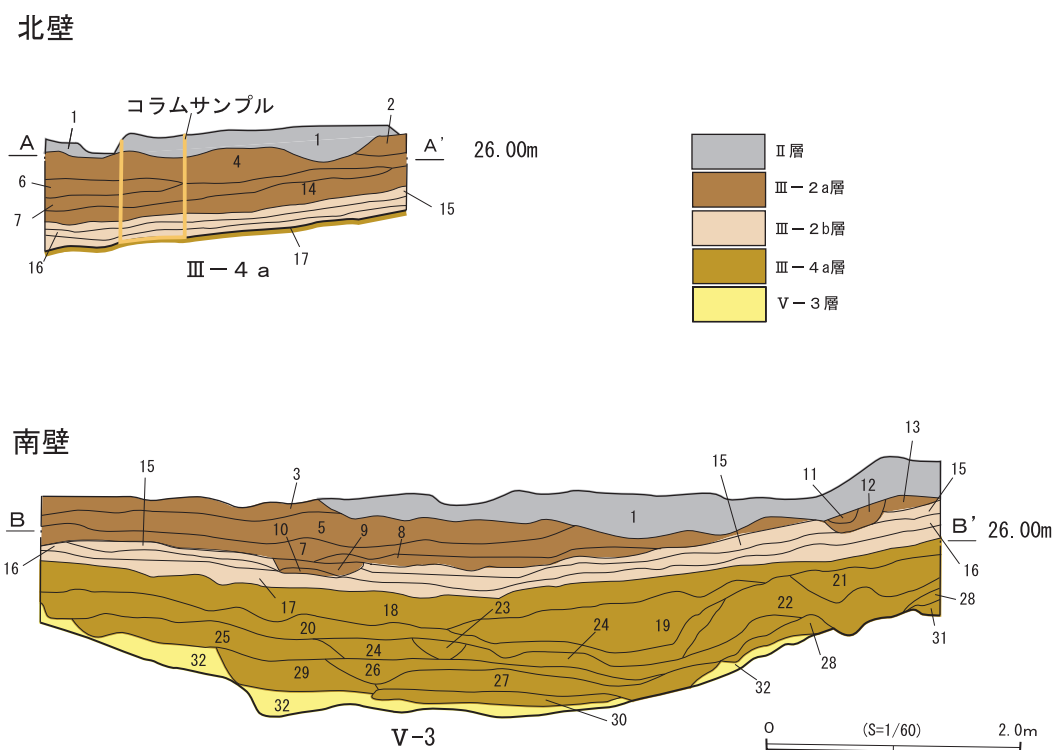


図30 IV区断面図 (S=1/60)

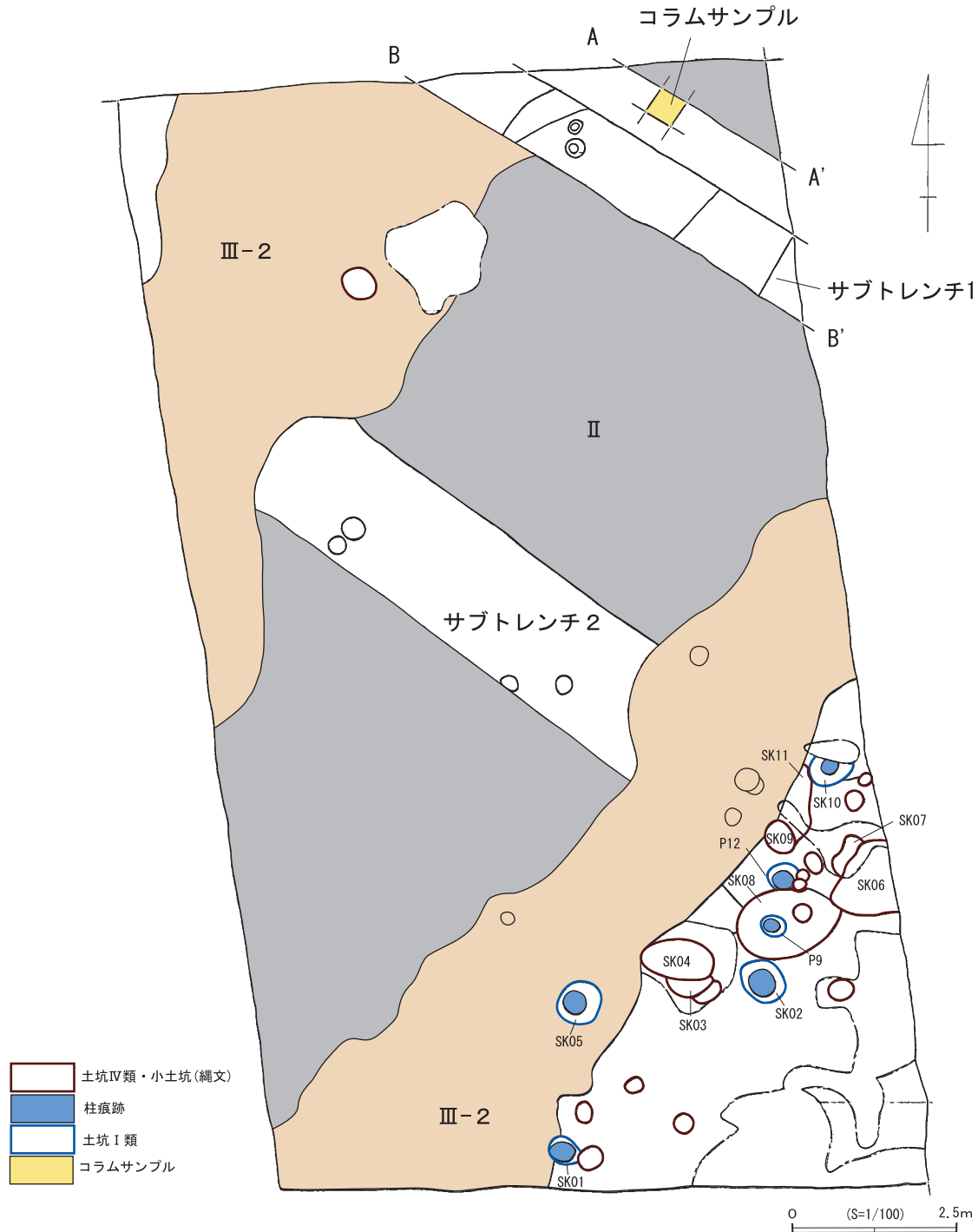


図31 IV区実測図 (S= 1/100)

Ⅲ-2 b層下にはⅢ-4 a層としたシルトが堆積している。各層は不整合な面が多く、湧水も認められたことから、流水の影響を強く受けて堆積したものと推定できる。

(4) 土器の出土状況 (表7、図32)

Ⅳ区サブトレンチ1からは非常に多量の土器が出土している。大別A～E層までは加曾利B式～大洞C2式土器の出土しており、これらは層毎に各時期の土器の出土量の多寡や出土内容の相違が認められる。



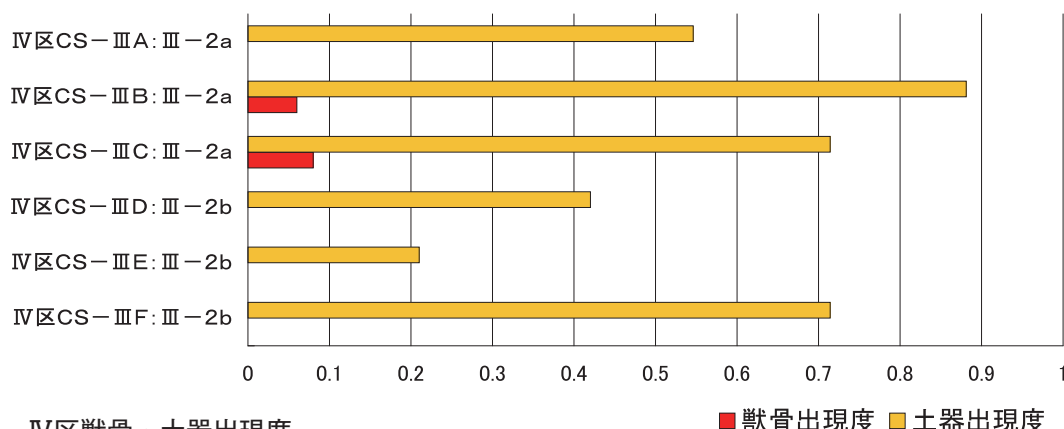


図32 IV区獣骨・土器出現度

III-2 a層にあたるA・B層は相対的に大洞C2式ならびに製塩土器が多く見られ、加曽利B～大洞B式は少量混じる程度である。小破片が多く接合率はあまり高くない。同じくIII-2 a層のC層は相対的に大洞C1式が多くなり、加曽利B～大洞B式の割合が若干高くなる。大形破片が増加して接合率が高くなるとともに完形土器の量が増加する。製塩土器も多量に出土するが、A・B層と比較するとやや出土量は減少する。D・E層は相対的に大洞BC式が多くなり加曽利B式～大洞B式の割合も増加する。接合率が高くなり、完形土器・大形破片も多くなる。特に大洞BC式期の完形土器が目立つようになる。製塩土器の出土量はA～C層と比較すると減少する。また逆に土器出現度は低くなっている。F層は晩期の土器および製塩土器を伴わず加曽利B～新地式が出土している。大形破片は見られるものの完形土器は見られない。土器出現度は再び高くなる。F層下のIII-4 b層からは極少量の土器が出土しているが、小破片のため詳細な時期は不明である。

コラムサンプル中の出現度をみると、III-2 a層はIV区サブトレンチのコラムサンプルでの土器出現度は0.64%であり、台ノ前北・南貝層より低く、西向貝層・小迫貝層よりは高い数値を示している。本サンプルでは大形破片の増加に対し、土器出現度が低くなる傾向があり、他の貝層と比較し、完形土器・大形破片が多いことも影響していると考えられ、全体的な出土量は多いといえる。

(5) 動物遺体の出土状況 (表7、図32)

動物遺体は、調査時の所見では、サブトレンチ内のIII-2 a層～III-4 b層で出土しているが、層位により出土量に多寡が見られる。大別A～C層までは比較的少量の焼けた動物遺体の出土が認められる。D層はA～C層と比較して出土量が減少し、以下E・F層と下位にいくにしたがって出土量は減少する。また、F層下のIII-4 b層からも極微量ながら動物遺体の出土が確認される。

鳥獣骨は、シカ・イノシシ等の歯が比較的多く出土していた。東の谷の堆積土に含まれていたクジラのような大型動物の骨の出土はほとんど認められなかった。鹿角は小さく分割されているものが多く確認された。魚骨は主鰓蓋骨等の出土が認められる。

動物遺体は焼けてはいるものの、貝層ではなく土層からの出土であるため保存状態は悪く、現場での取り上げ作業や洗浄作業に困難を伴うものが非常に多く、同定可能なものも少ない。このため、実際の出土量に比して、出現度は低くコラムサンプル全体で0.03の出現度である。これは他の貝層とは異なり、貝はまったく出土しないことを勘案すると、比較的多いともすることができる。調査時に出土量が多いとしたIII C層以上ではわずかながらも同定可能な鳥獣骨資料が認められているが、5 mm水洗資料の魚骨は同定可能なものはない。

## (6) 形成時期

A～E層は、加曾利B式～大洞C2式までの土器が混在して出土するため各層の時期を明確に示すことはできないが、完形土器・大形破片の出土量、相対的な出土量から推測すると、A～C層は大洞BC式～C2式期に、D・E層は大洞BC式以前に堆積したと考えられる。F層については、晩期の土器ならびに製塩土器を伴わずに加曾利B式～新地式の土器が出土していることから、加曾利B式～新地式期の形成と考えられる。また、Ⅲ-4b層は土器・焼獣魚骨の出土が極少量であり、人為的な堆積ではなく流水等の作用による自然堆積と考えられる。詳細な堆積の時期は不明であるが、加曾利B式～新地式期に形成されたと推測されるF層の下位に堆積していることから、加曾利B式期以前の形成と捉えておきたい。

### 第4項 小迫貝層〔小迫北地区東の谷〕・小迫北地区西の谷の形成過程

#### 加曾利B式～大洞B式期

東の谷では斜面上位に堆積しているⅢ-3b層が形成される。Ⅲ-3b層はレンズ状堆積のような自然堆積を示さず、ブロック状に分かれ、ローム粒・炭化物等の混入多く、人為的な影響が強いことが伺われことから、整地または重複した遺構の構築により形成されたと推測される。

西の谷では、少量ながら土器・焼獣魚骨の廃棄が加曾利B式期に開始され、Ⅲ-2b層が形成される。

新地式期、大洞B式期にも引き続き土器・焼獣魚骨が廃棄されるが、土器の量は減少していく。

#### 大洞BC式期

東の谷では、斜面上位に貝・獣魚骨の廃棄が開始され、Ⅲ-1層、Ⅲ-3a層が形成される。また、引き続きⅢ-3b層が形成された可能性も考えられる。西の谷では、廃棄行為が活発化して多量の土器・焼獣魚骨が廃棄され、Ⅲ-2a層・Ⅲ-2b層が形成される。

#### 大洞C1式期

東の谷では、土器の出土は認められるものの、明確な貝層の形成は確認されていない。西の谷では、引き続き活発に土器・焼獣魚骨が廃棄され、Ⅲ-2a層が形成される。

#### 大洞C2式期

東の谷では、斜面上位ならびに下位に貝・獣魚骨が廃棄され、Ⅲ-1層、Ⅲ-3a層が形成される。西の谷でも引き続き活発に土器・焼獣魚骨が廃棄され、Ⅲ-2a層が形成される。

#### 大洞A式期

東の谷では、斜面上位における遺構の構築が収束し、貝層の形成も確認されていない。西の谷でもⅢ層の形成は確認されない。

これらを次のようにまとめておく。加曾利B式期に東の谷で遺構の構築または整地が行われると同時に、西の谷で土器の廃棄が行われる。大洞BC式期には東の谷で貝の廃棄が開始され、鳥獣骨・魚骨の廃棄も目立つようになる。西の谷でも廃棄行為が活発化し、多量の土器とともに焼けた鳥獣魚骨が出土する。西の谷の廃棄行為は大洞C2式期まで継続するが、大洞A式期までは至らない。

東の谷では、大洞C1式期に貝の廃棄が中断する可能性があるが、大洞C2式期には比較的活発な動物遺体・土器の廃棄行為が認められる。東の谷でも大洞A式期には遺構の構築はほとんど認められず、動物遺体・土器の明確な廃棄も確認されていない。

(川田強・佐川久)

## 第7節 貝層の形成状況

### 第1項 動物遺体を含む貝層・遺物包含層の類型化

先に報告した「浦尻貝塚1」において、台ノ前地区・西向地区の貝層等を、堆積状況、時期、計測混貝率等を基に大別して示した。今回、改めて小迫地区の貝層・遺物包含層を含めて動物遺体を含む層の類型化を行った上で、堆積過程を示し、土器・動物遺体の包含状況を確認することとする。「浦尻貝塚1」で示したものを基準とし、次のように分類した。

**Aタイプ** 混貝土層を中心としたもの。さらに次のように細別される。

**A1**：大木7 a～9式期の所産で、主にBタイプの上位（斜面下位）に、明確な広がり、層厚をもって堆積しているもの。一部土主体層を間に挟むが、土主体層の層厚は薄い。この貝層最下層まで含めた。（38TⅢA～IV a層、54T b層、64T b層）

**A2**：西向貝層において限定的に確認される綱取式期の所産のもの。計測混貝率が20%を超え、貝の混入が多い。（64T a層）

**A3**：小迫貝層において確認される晩期の混貝土層。A1・2タイプに比較し、厚さがなく、分布範囲も狭い。（小迫地区Ⅲ－1層）

**Bタイプ** 台ノ前・西向地区の貝層において、土層・土主体層が中心となるもの。土主体層に挟まれた層厚の薄い混貝土層を含めた。これらの貝層最下層も含めた。浦尻貝塚の貝層の中では最も厚さがあり、検出範囲も広い。（31TⅢ・IV a層、54T c～1層、63T 1～5層、64T c層）

**Cタイプ** ブロック状に確認される小規模な貝層であり、前期の所産のもの。（31T L IV 1・2貝層、53T東Ⅲ－3層）

**Dタイプ** 小迫北地区で確認される貝を含まない土層であり、黒褐色～暗褐色を基調とするもの。次のように細別される。

**D1**：東の谷に堆積する暗褐色基調のもの。整地ならびに遺構の構築による堆積と考えられるもの（Ⅲ－3 b層）。動物遺体の出土は確認されていない。

**D2**：東の谷の小迫貝層A3タイプの周辺に分布し、黒褐色基調のもの。（小迫地区Ⅲ－3 a層）

**D3**：西の谷で確認され、焼獣魚骨を含み、暗褐色・黒褐色を基調とするもの。（小迫地区Ⅲ－2 a・2 b層）

### 第2項 貝層・遺物包含層のタイプ別堆積過程

貝層・遺物包含層のタイプ別の堆積過程は、「浦尻貝塚1」ならびに本章の記載により、表8のようにまとめられる。

台ノ前北貝層、台ノ前南貝層は、いずれも前期後半（大木3～5式期）に小規模な貝層であるCタイプが形成される。西向貝層では土・土主体層中心のBタイプの形成が大木4式期に認められるが、Bタイプは台ノ前北・台ノ前南・西向貝層いずれも、前期末葉（大木6式期）から本格化し、中期初頭（大木7 a式期）にその最盛期を迎え、中期前葉（大木7 b式期）には未確認または縮小していくというほぼ共通した状況を示している。大木6～7 b式期には斜面下位でBタイプの上層に混貝土層のA1タイプが形成されており、中期後葉（大木9式期）には台ノ前南貝層で、小規模ながらA1タイプの貝層が継続して形成されている。

表8 浦尻貝塚変遷表

時期区分	土器型式	南台地区等				小畑地区	
		遺構等の形成		貝層の形成		遺構等の形成	
		台ノ前北貝層	台ノ前南貝層	西向貝層	西の谷	東の谷	
IV	4 大河A				○ 遺構数の減少		
	3 大河C2				◎ 柱穴は前段階同様多い。	◎ (IV区Ⅲ - 2a層) A3タイプ (72 T Ⅲ - 1層) D2タイプ (56 G Ⅲ - 3a層)	
	2 大河C1				◎ 柱穴は前段階同様多い。	◎ (IV区Ⅲ - 2a層) A3タイプ? D2タイプ?	
VI	1 大河BC				◎ 柱穴の増加。	◎ (IV区Ⅲ - 2a・2b層) A3タイプ (36 G Ⅲ - 3a層) D2タイプ	
	3 大河B				○ 柱穴の構築。	○ (IV区Ⅲ - 2b層) D3タイプ	
	2 新地	土器の散布のみ			○ 柱穴の構築。	○ (IV区Ⅲ - 2b層) D3タイプ	
V	1 加善利B	遺構数の急減。 ・ 堅穴住居の消滅。 ・ 掘削範囲内での大型土坑構築。			○ 柱穴の構築。	○ (IV区Ⅲ - 2b層) D3タイプ	
	3 縄取II	・ 堅穴住居の滅? ・ 柱穴の増。 ・ 貯蔵穴の消滅。			○ 柱穴の構築。	○ (IV区Ⅲ - 2b層) D3タイプ	
	2 大木10	・ 堅穴住居、柱穴の増。 ・ 掘削範囲中央で、大型土坑構築終了? ・ 貯蔵穴の滅? ・ 道路状遺構。			○ 柱穴の構築。	○ (IV区Ⅲ - 2b層) D3タイプ	
IV	1 大木9	遺構数の急増。 ・ 堅穴住居の増、柱穴の出現? ・ 道路状遺構?	○ A1タイプ (38 T Ⅲ A・C1層)		△ 柱穴の構築開始?	○ (IV区Ⅲ - 2b層) D3タイプ	
	3 大木8b	遺構数の減?					
	2 大木8a	遺構数の増 ・ 南台地区～小畑北地区での貯蔵穴の構築。 ・ 掘削範囲中央で、大型土坑構築。					
III	1 大木7b	遺構数の減。	◎ (54 T c～j層、63 T Ⅰ～5層) Bタイプ A1タイプ (54 T b層)	△ Bタイプ? (64 T c層?)			
	2 大木7a	遺構数の増。 ・ 堅穴住居の構築。 ・ 貯蔵穴構築。	◎ (54 T c～j層) Bタイプ A1タイプ (54 T b層?)	△ Bタイプ? (64 T c層?)	○ 南台地区台地南部で貯蔵穴の構築		
	1 大木6	遺構数の構築?	◎ (54 T k・l層) Bタイプ A1タイプ (38 T IVa層)	◎ Bタイプ (64 T c層)			
II	2 大木5	・ 堅穴住居、貯蔵穴?の構築開始。	△ Cタイプ (54 T Ⅰ層下)	△ Bタイプ (64 T c層)			
	1 大木4	遺構の構築開始?	△ Cタイプ? (53 T Ⅲ・3層) Cタイプ (31 T IVa層)	△ Bタイプ? (64 T c層)			
	1 大木3		△ Cタイプ (53 T Ⅲ・3層) Cタイプ (31 T IVa層)	○ Bタイプ (64 T c層)			
I	前期初頭	土器散布のみ。	△ 土器散布のみ (54 T 31層)				
	2 ～中葉				△ 遺物包含層の形成 (81 T Ⅲ - 5層)		

◎＝活発な形成時期、○＝形成時期、△＝可能性のある時期

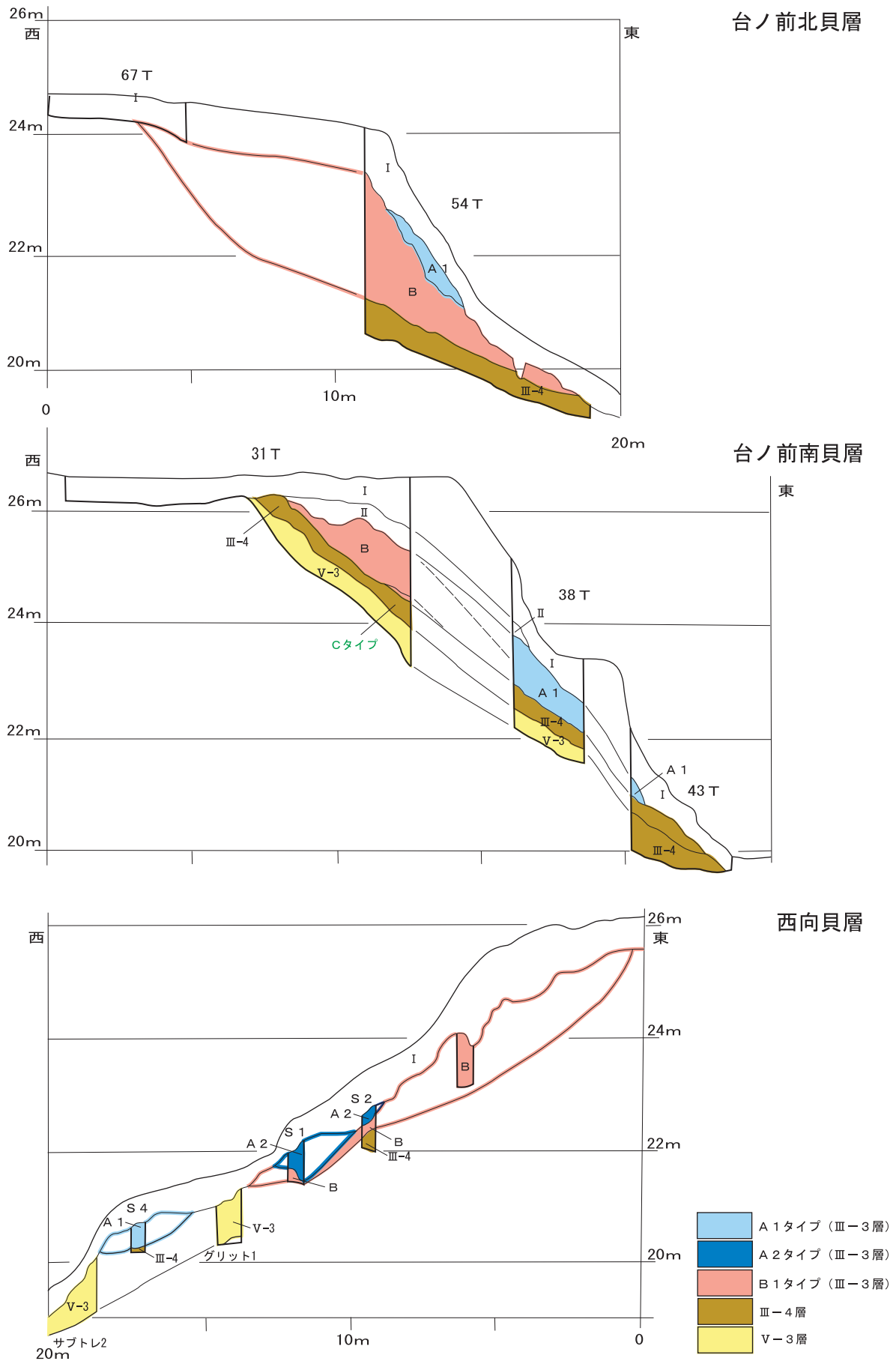


図 33 台ノ前北・台ノ前南・西向貝層断面模式図 (S=1/200・1/100)

中期末葉（大木10式期）以降、貝層の形成は中断していたと考えられるが、後期前葉（綱取Ⅱ式期）になり、西向貝層で、限定的ながら混貝土層のA2タイプが形成される。後期中葉（加曾利B式）以降は南台地区において、貝層の形成はなくなる。

一方、小迫北地区では、西の谷で後期中葉（加曾利B式期）～晩期中葉（大洞C2式期）に貝はなものの多量の土器と焼けた鳥獣魚骨が廃棄されていく（D3タイプ）。

小迫地区東の谷は後期にD1タイプが堆積した後、晩期前葉～中葉（大洞BC～C2式期）になって、貝を含むA3タイプ、貝を含まないD2タイプが混在して確認され、土器と動物遺体の廃棄がなされていた。

これらは「浦尻貝塚1」で詳述したように遺構の分布状況やその変遷と関連した形成が認められる。特にBタイプ・A1タイプに含まれる土・土主体層の形成は、居住地の掘削行為により形成されたものと考えられている。主なその理由として、居住地の堆積状況や遺構の検出状況から、居住地の中央のローム層が深さ70cm以上、64×60mの範囲で縄文時代に掘削されたと考えられること、また、この掘削されたと考えられる時期が、A1・Bタイプの形成時期と整合的であることが挙げられる。

### 第3項 土器・動物遺体のタイプ別出現度の比較

#### (1) Cタイプ

前期にあたるCタイプは小規模な貝層であり、貝の総量が少ないことから、計測混貝率は極めて低く、共伴する土器もほとんど見られない。しかし、鳥獣骨と魚骨の出現度は相対的にみると高く、特に魚骨の出現度は高い。このことから、少量の貝とともに多くの魚骨と一定量の鳥獣骨が一括性をもって廃棄されたと考えられる。このように前期後葉から末葉にかけて、このような廃棄が断続的に行われたと推察される。

#### (2) Bタイプ

前～中期にあたるBタイプは全体的にみると3%前後の計測混貝率であり、混貝土層であるAタイプとの差は著しい。しかし、いずれも鳥獣骨・魚骨・土器の廃棄はAタイプと大きな差はなく、むしろ斜面下位にあたる54Tでは土器・鳥獣骨の出土は多い。混貝土層を含まない64TS3でも、貝以外の動物遺体・土器の出土は、中・下層では多く認められる。

表9 浦尻貝塚の貝層等の計測混貝率、獣骨・魚骨・土器出現度

トレンチ名	タイプ	貝層名 (地区名)	時 期	計測混貝率	獣 骨 出現度	魚 骨 出現度	土 器 出現度
Ⅳ区CS	D3	小迫西の谷	新地～大洞C2		0.03		0.64
72TS2	A3	小迫東の谷	大洞C2	14.5%	0.38	0.38	0.48
72TS1	A3	小迫東の谷	大洞BC～C2	16.1%	0.07	0.13	0.04
3GS1	A3	小迫東の谷	大洞BC	10.0%	0.25	0.44	0.30
1GS1	A3	小迫東の谷	大洞BC	1.2%	0.12	0.09	0.23
64TS2-a	A2	西 向	綱取Ⅱ	36.7%	0.15	1.66	0.22
64TS1-a	A2	西 向	綱取Ⅱ	29.8%	0.11	2.82	0.46
38TA3～18	A1	台ノ前南	大木6～7b or 大木9	12.6%	0.11	1.66	
64TS4	A1	西 向	大木6～7b	9.0%	0.13	0.61	0.47
54Tb	A1	台ノ前北	大木7a新～7b	16.7%	0.14	1.28	0.27
64TS2-c	B	西 向	大木6～8a	3.1%	0.20	0.98	0.24
64TS1-c	B	西 向	大木6～8a	0.2%	0.10	0.28	0.12
54Tc～1	B	台ノ前北	大木6～7b	5.1%	0.29	1.37	1.22
64TS3	B	西 向	大木4～7a古	0.2%	0.15	1.68	0.31
31TⅢ層	B	台ノ前南	大木7a古	2.2%	0.14	1.74	0.24
31TⅣa	C	台ノ前南	大木5～6	0.6%	0.12	2.56	

第7節 貝層の形成状況

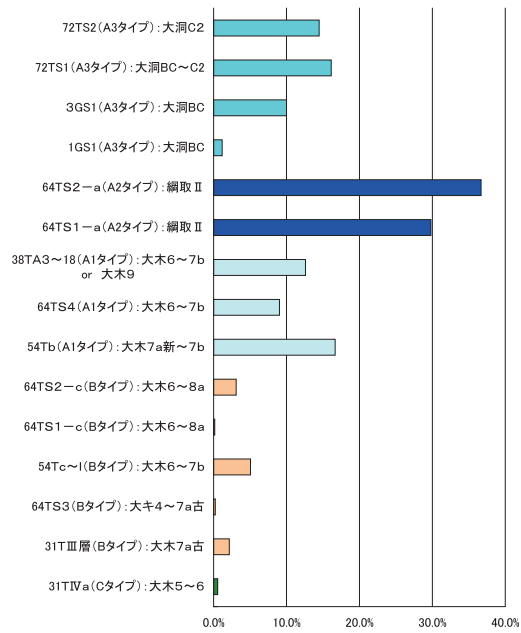


図 34 浦尻貝塚計測混貝率の比較

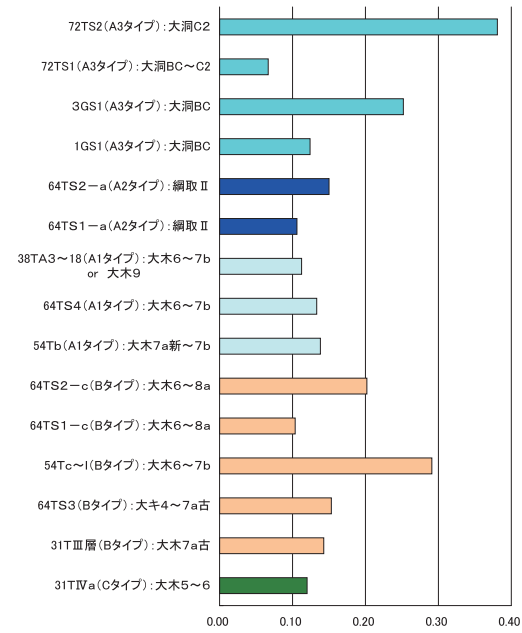


図 35 浦尻貝塚獣骨出現度の比較

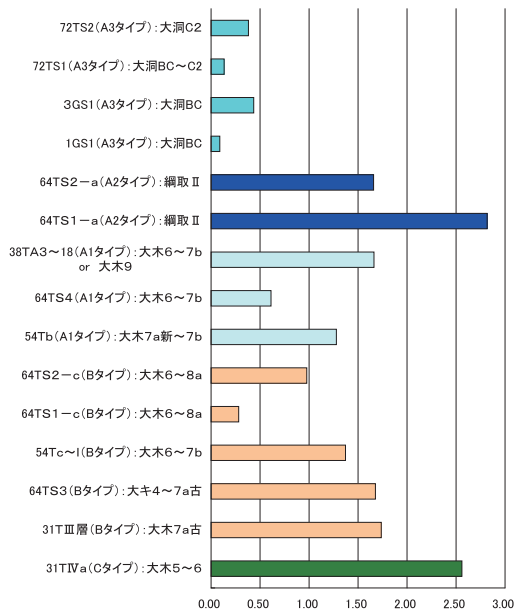


図 36 浦尻貝塚魚骨出現度の比較

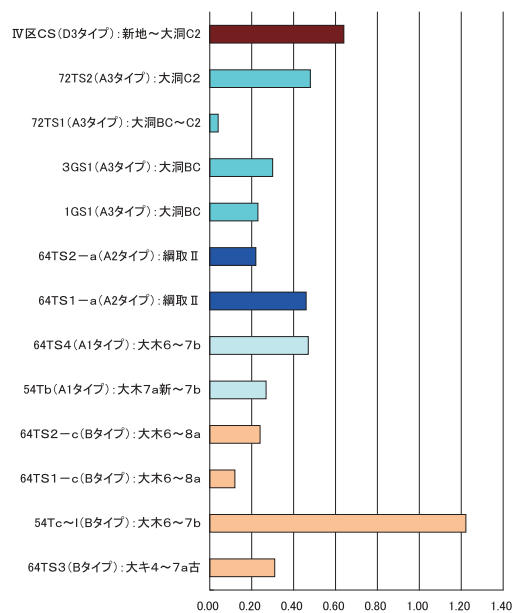


図 37 浦尻貝塚土器出現度の比較

54Tでは、主たる土主体層が堆積している中に混貝土層が貫入しており、中・上層のg層以上では、混貝土層に土主体層より鳥獣骨・魚骨・土器がわずかながら多く含まれることも認められる。しかし、全体的なBタイプの大きな特徴は、土器・動物遺体の出土が下層に多く、上層にいくに従い減少することである。また、Bタイプの斜面上位上層は、台ノ前南(31T)、西向貝層(64TS3)いずれの地点でも大木7a式古段階に相当する層厚がある土層が堆積し、特にその最上層では貝だけではなく、鳥獣骨・魚骨・土器もほぼ認められなくなっている状況が確認されている。

これらのことから、Bタイプは土器・鳥獣骨・魚骨と少量の貝の連続した廃棄とともに、土の多量廃棄が行われたと考えられる。貝以外の動物遺体と土器の廃棄は下層と斜面下位の調査区に多いことから、貝の本格的な廃棄開始前後に貝以外の動物遺体・土器の積極的な廃棄が行われたこと、これらの廃棄場所は貝層の形成に伴い垂直方向ではなく、斜面下位の水平方向にせり出したことを示唆させる。

前期末葉から本格化したBタイプの形成は、斜面上位では大木7 a 式期古段階に終了するが、斜面下位では7 b 式期までは継続している。大木8 a 式期以後は断片的である。大木7 a 式期古段階でこの土の廃棄が積極的となったことは、大木7 a 式期古段階にあたる土・土主体層が斜面上位の広い範囲で、層厚をもって確認されることから想定される。また、その最上層部分において、土器や鳥獣骨・魚骨などの動物遺体が少なくなっていることから、下層や斜面下位とは異なり、土の廃棄が動物遺体や土器を伴わないままなされているとも言え、土器や動物遺体の廃棄サイクル以上の短い期間での土の廃棄を想定することも可能であろう。

### (3) A1タイプ

主に中期にあたるA1タイプの計測混貝率は9～16%であり、A2タイプに比較すると低く、土主体層が含まれることがこれに影響していると考えられる。また、鳥獣骨・魚骨・土器は、浦尻貝塚の中では平均的な出現度であり、全体的に見られる。このことから、貝の廃棄が多く行われたが、土主体層がみられることにより土の廃棄も行っていたことを推察させ、これに鳥獣骨・魚骨・土器の廃棄も伴っていたと考えることができよう。

A1タイプは大木7 a 式新段階～7 b 式期を中心とするが、大木9式までは継続していたと考えられる。よって、大木9式期までは土の廃棄がなされていた可能性も指摘できる。

斜面下位にあたる38Tの出土状況を見ると、貝と魚骨の増減パターンは一致するが、これと鳥獣骨の下層に多く出土する増減パターンは異なっている。土器出現度を数値として示せなかったが、大形破片などの出土もあわせて下層の出土が多く、鳥獣骨の出土傾向に近い状況にある(註5)。

これらのことから、台ノ前南貝層のA1タイプはBタイプと同じく、貝廃棄開始前後で多くの鳥獣骨・土器を廃棄するが、魚骨は下層へと集中せず、貝とともに廃棄することが多い傾向があったといえよう。これは、Bタイプの54Tのg層以上と類似する傾向であるとも指摘できる。

### (4) A2タイプ

後期前半に相当するA2タイプは、30%前後の計測混貝率を示し、浦尻貝塚の貝層タイプでは最も高い数値を示す。また、魚骨出現度も高い。貝と魚骨の増減パターンは一致しており、A1タイプに類似する。鳥獣骨・土器の全体の出現度もA1タイプと変わりはないが、上層に鳥獣骨、下層に土器が多い出土傾向はA1・Bタイプと異なっている(64TS1・S2)。このことから、中期以前と同じく、貝の廃棄開始前後に土器は多く廃棄されるが、鳥獣骨は伴わないことが多く、貝の積極的な廃棄とともに魚骨が多く廃棄され、それに鳥獣骨が伴うという状況を類推できる。

### (5) A3タイプ

晩期にあたる東の谷のA3タイプの計測混貝率は、A1タイプとほぼ同様であるが、層厚がないこと、分布範囲が狭いことなどから、限定的な貝の廃棄であったと考えられる。貝が少ないことによる保存状況も考慮する必要はあるが、魚骨も特に少ない。しかし、鳥獣骨の出現度が高く、このことは計測混貝率や魚骨の出現度に比すると著しい特徴であり、晩期段階の鳥獣骨量の相対的な増が指摘できる。土器はA1・2タイプと大きな差はない。このことから、A3タイプは、後期前半以前に比較し、貝・魚骨よりも鳥獣骨・土器の廃棄が顕著であったと考えられる。



### (6) Dタイプ

Dタイプは貝を含まない層である。調査状況から、土器捨て場と考えられた後期中葉～晩期に相当する西の谷のD3タイプでは、54Tより少ない土器出現度であるが、完形土器や大形破片が多い傾向にあることによる差も考慮する必要があり、浦尻貝塚の中では多量の土器が出土する状況であると言える。また、D3タイプに比較すると同じ段階にあるA3タイプやD2タイプ(1GS2)は土器の出現度は低い。このことから、D3タイプがある小迫西の谷の土器捨て場という評価は、数値的にも裏付けられると考えられる。この土器捨て場には、焼けた鳥獣骨・魚骨も極少量認められるが、貝は廃棄されない。

晩期になり確認される東の谷のD2タイプは、A3タイプとともに堆積し、わずかながらも鳥獣骨・魚骨が出土する。保存条件が異なるため不明な点が多いが、貝以外の廃棄はA3タイプと変わらないものと推察され、東の谷でも晩期段階では鳥獣骨・魚骨の廃棄は連続していた可能性がある。

## 第4項 まとめ

これまでの検討から、浦尻貝塚の動物遺体を含む貝層等の内容は次のようにまとめられる。

南台地区等では、前期後葉～末葉にかけて、小規模な貝・魚骨・鳥獣骨の廃棄(Cタイプ)が行われる。前期末葉からの本格的な土の廃棄に伴い、少量の貝と多量の土器・鳥獣骨・魚骨が廃棄されるが、中期初頭には、広い範囲の斜面上位において土の廃棄が積極的になり、土のみを廃棄する場が設けられる。(Bタイプ)。この段階で、土器・鳥獣骨・魚骨の廃棄の主たる場所は斜面下位に移り、時間を経て土の廃棄が断続的になっていくにつれ、貝の廃棄が多くなる(A1タイプ)。土器・鳥獣骨の廃棄は減少していくが、貝と魚骨はともに廃棄することが多く認められる。中期中葉～後葉にかけて土を含めた廃棄行為が縮小しながらも断続的に行われていく。

中期末葉の中断期間を経て、後期前葉に比較的多量の貝と魚骨の廃棄が限定的に行われる(A2タイプ)。貝の廃棄開始段階は、中期以前と同じく土器の廃棄が目立つが、鳥獣骨は伴わない傾向がある。また前段階と同じく貝と魚骨は伴って廃棄されることが多い。

居住地が小迫北地区に移動する後期中葉～末葉以後、居住地に隣接する西の谷に多量の土器が廃棄される。(D3タイプ)。この谷での廃棄行為は晩期中葉まで継続するが、貝は廃棄されない。晩期段階になるとこの土器捨て場とは別に、少量の貝とともに多くの鳥獣骨と土器が廃棄される場所が設けられるが(A3・D2タイプ)、貝と同じく魚骨の廃棄は中期以前に比較し少量となっている。逆に晩期段階は以前に比して鳥獣骨の廃棄が相対的に多くなっている。(川田強)

## 第1章 註

- 註1 少量出土する大木7b式はサンプリングエラーや上位からの混入と考えている。  
註2 第2章以下の集計では、堆積時期の中心と考えられる大木7a式古段階に含めている。  
註3 「浦尻貝塚1」において、63T実測図(図83-1)の断面図層位の記載に誤りがある。  
「1b」⇒「1d」、「1d」⇒「1e」、「1e」⇒「2」に訂正しておく。  
註4 「浦尻貝塚1」において、IV区サブトレンチ1実測図・北壁(図130)に誤りがある。「IV-1」⇒「III-4a」に訂正しておく。  
註5 ただし、64TS4では特にその傾向はなかった。

## 第1章 引用・参考文献

- 小高町教育委員会(2005)『浦尻貝塚1』小高町文化財調査報告第6集  
南相馬市教育委員会(2006)『浦尻貝塚2』南相馬市埋蔵文化財調査報告第1集 南相馬市教育委員会  
国立歴史民俗博物館・年代測定研究グループ(2006)「浦尻貝塚におけるAMS-<sup>14</sup>C年代測定」『浦尻貝塚2』所収  
小林謙一(2004)『縄文社会研究の新視点-炭素14年代測定の利用-』六一書房  
パリノ・サーヴェイ株式会社「浦尻貝塚出土資料自然科学分析」(2005)『浦尻貝塚1』所収  
森幸彦(1991)「浦尻台ノ前貝塚・浦尻西向貝塚」『福島県の貝塚-県内貝塚詳細分布調査報告-』福島県文化財調査報告書第260集

## 第2章 動物遺体

### 第1節 動物遺体分析の概要

浦尻貝塚は福島県南相馬市小高区浦尻に所在する縄文時代前期から中世までの複合遺跡である。平成12年度から平成15年度に縄文時代前期後葉から晩期中葉にわたる4つの貝層（台ノ前北・南貝層、西向貝層、小迫貝層）が調査された。貝層の形成年代は台ノ前北・南貝層が縄文時代前期後葉～中期後葉、西向貝層が前期末～後期前葉、小迫貝層が晩期前葉～中葉である。本章では、これらの貝層から検出された動物遺体（人骨を除く）の分析結果について記載する。

各種遺体の分析・原稿執筆は、貝類（微小貝類を除く）・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類を樋泉岳二、微小貝類を黒住耐二、鳥類を江田真毅が分担して行った。動物遺体の採取・選別方法の概要については第1章を、各分類群の分析資料・方法の詳細はそれぞれの項目を参照されたい。

なお、各種脊椎動物遺体の最小個体数（MNI）を算出する際の地区・年代の集計単位（MNI算出の基礎データとして地区・年代をどのような単位で括るか）に関しては、以下のように統一を図った。

① 地区に関しては、台ノ前北・台ノ前南・西向・小迫の各貝層を単位として集計する。

② 年代に関しては、複数時期の可能性のある資料（たとえば「大木5～6式期」など）が多く、また貝層各地区の間でのばらつきも大きかった。そこで、より多くの資料を集計結果に反映させるため、遺跡全体の統一はせず、やや年代幅は広がるが、貝層地区ごとに以下のように集計単位を設定した。

台ノ前北：大木7 a 式期古段階以前、大木7 a 式新段階～8 b 式期

台ノ前南：大木5～6 式期、大木7 a 式期古段階、大木7 a 式新段階～9 式期

西向：大木8 b 式期以前、綱取Ⅱ式期

小迫：全資料を大洞BC～C 2 式期として一括

なお上記よりも年代幅が広い（年代精度が低い）資料はMNIの算出データから除外した。ただし西向貝層に関しては、年代の所属が明確でない貝層外出土資料が多数あったため、これらについても別に集計した。

（樋泉岳二）

### 第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

#### 第1項 貝類（微小貝類を除く）

ここでは浦尻貝塚の台ノ前北・南貝層（縄文前期後葉～中期後葉）、西向貝層（同前期末～後期前葉）、小迫貝層（同晩期前葉～中葉）から検出された貝類遺体について記載する。

##### 1. 資料と分析方法

同定対象とした資料は、各地区から採集された貝層サンプルの5 mm水洗資料である。同定・計数部位は、二枚貝では殻頂とし、巻貝では種類ごとに殻口・殻軸など特定部位を適宜設定した。同定に際しては黒住耐二氏（千葉県立中央博物館）のご教示を賜った。

主要種であるアサリ・ハマグリ・ヤマトシジミについては、殻長を1 mm単位で計測した。計測結果の集計に際しては、同一地点・年代の貝層において複数のサンプルが得られている場合、計測試料数の合計が50点以上となるように合算して頻度分布を算出した。

表 10 浦尻貝塚から出土した動物遺体の種名一覧

軟体動物門	Mollusca
腹足綱	Gastropoda
イシダミ	<i>Monodonta labio form confusa</i>
クマノコガイ	<i>Chlorostoma xanthostigma</i>
クボガイ類	<i>Chlorostoma</i> sp.
イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>
サザエ	<i>Turbo (Batillus) cornutus</i>
スガイ	<i>Turbo (Lunella) cornatus coreensis</i>
ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>
ホソウミニナ	<i>Batillaria cumingii</i>
イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i>
クロヘナタリ	<i>Cerithidea largillierti</i>
カワアイ	<i>Cerithidea djadjariensis</i>
ヘナタリ	<i>Cerithideopsis cingulata</i>
タマキビ	<i>Littorina (littorina) brevicula</i>
ツメタガイ	<i>Glossaulax didyma</i>
アダムズタマガイ	<i>Cryptonatica adamsiana</i>
カゴメガイ	<i>Bedevea birileffi</i>
エゾチヂミボラ	<i>Nucella freycineti</i>
アカニシ	<i>Rapana venosa</i>
イボニシ	<i>Thais (Reishia) clavigera</i>
レイシ	<i>Thais (Reishia) bronni</i>
マルテンスマツムシ	<i>Mitrella (Indomitrella) martensi</i>
ムシロガイ	<i>Niotha livescens</i>
アラムシロ	<i>Reticunassa festiva</i>
ヒメエゾボラ	<i>Neputunea (Barbitonia) arthritica</i>
掘足綱	Scaphopoda
ツノガイ	<i>Antalis weinkauffi</i>
二枚貝綱	Bivalvia
カリガネエガイ	<i>Barbatis (Savignarca) virescens</i>
サトウガイ	<i>Scapharca satowi</i>
サルボウ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>
ハイガイ	<i>Tegillarca granosa</i>
エゾタマキガイ	<i>Glycymeris yessoensis</i>
イタボガキ	<i>Ostrea denselamellosa</i>
マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>
シオフキ	<i>Mactra veneriformis</i>
バカガイ	<i>Mactra chinensis</i>
ウバガイ	<i>Pseudocardium sachalinense</i>
ミルクイ	<i>Tresus keenae</i>
ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>
イソシジミ類	<i>Nuttalia</i> sp.
マテガイ	<i>Solen strictus</i>
ウネナシトマヤ	<i>Trapezium (Neotrapezium) liratum</i>
ヤマトシジミ	<i>Cobacula japonica</i>
カガミガイ	<i>Phacosoma japonicum</i>
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
コタマガイ	<i>Gomphina melanegis</i>
ウチムラサキ	<i>Saxidomus purpurata</i>
オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>
ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>
オオノガイ	<i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i>
節足動物門	Arthropoda
甲殻綱	Crustacea
フジツボ類	Balanomorpha
カニ類	Brachyura
棘皮動物門	Echinodermata
海胆綱	Echinoidea
ウニ類	Order indet.
脊椎動物門	Vertebrata
軟骨魚綱 (板鰐類)	Chondrichthyes (Elasmobranchii)
メジロザメ科	Carcharhinidae sp.
ネズミザメ科	Lamnidae sp.
カスザメ属	<i>Squatina</i> sp.
ガンギエイ属	<i>Raja</i> sp.
アカエイ科	Dasyatidae sp.
トビエイ科	Myliobatidae sp.
硬骨魚類 (真骨類)	Osteichthyes (Teleostei)
マイワシ	<i>Sardinops melanostictus</i>
サッパ	<i>Sardinella zunasi</i>
ニシン	<i>Clupea pallasii</i>
コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>
カタクチイワシ	<i>Engraulis japonicus</i>
ウナギ属	<i>Anguilla</i> sp.
アナゴ属	<i>Conger</i> sp.
サケ属	<i>Oncorhynchus</i> sp.
サケ科 (小型種)	Salmonidae sp.
キュウリウオ科	Osmeridae sp.
アユ	<i>Plecoglossus altivelis</i>
フナ	<i>Carrasius auratus</i>
コイ科 (フナ以外)	Cyprinidae sp.
ドジョウ科	Cobitidae sp.

\*を付したものは後世の混入と思われる。

(硬骨魚綱つづき)	Osteichthyes (cont.)
ギギ科	Bagridae sp.
ダツ科	Belontiidae sp.
サヨリ属	<i>Hyporhamphus</i> sp.
ボラ科	Mugilidae sp.
カマス属	<i>Sphyræna</i> sp.
スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>
ブリ属	<i>Seriola</i> sp.
アジ科	Carangidae sp.
ニベ科	Sciaenidae sp.
コシヨウダイ属	<i>Plectorhynchus</i> sp.
クロダイ属	<i>Acanthopagrus</i> sp.
ヘダイ?	<i>Sparus sarba</i> ?
マダイ	<i>Pagrus major</i>
イシダイ属	<i>Oplegnathus</i> sp.
ウミタナゴ科	Embiotocidae sp.
サバ属	<i>Scomber</i> sp.
ソウダカツオ属	<i>Auxis</i> sp.
カツオ	<i>Katsuwonus pelamis</i>
マダロ属	<i>Thunnus</i> sp.
ハゼ科	Gobiidae sp.
ナガツカ類似種	cf. <i>Stichæus grigorjewi</i>
ギンボ類	cf. <i>Enedrias nebulosa</i>
フサカサゴ科	Scorpaenidae sp.
アイナメ属	<i>Hexagrammos</i> sp.
ゴチ	<i>Platycephalus indicus</i>
ヒラメ科	Paralichthyidae sp.
イシガレイ	<i>Kareius bicoloratus</i>
ウシノシタ亜目	Soleoidei
カワハギ科	Monacanthidae sp.
フグ科	Tetraodontidae sp.
両生綱	Amphibia
カエル類	Salientia
爬虫綱	Reptilia
ヘビ類	Ophidia
ウミガメ類	Cheloniidae sp.
鳥綱	Aves
アビ科	Gaviidae sp.
カイツブリ科	Podicipedidae spp.
ミズナギドリ科	Procellariidae spp.
ウ科	Phalacrocoracidae spp.
ガン族	Anserini spp.
ハクチョウ族	Cygnini spp.
マガモ属	<i>Anas</i> spp.
スズガモ属	<i>Aythya</i> spp.
ビロードキンクロ属	<i>Melanitta</i> spp.
ホオジロガモ属	<i>Bucephala</i> sp.
アイサ族	Mergini spp.
カモ亜科	Anatinae spp.
タカ科	Accipitridae sp.
タカ目	Falconiformes
キジ	<i>Phasianus versicolor</i>
キジ科	Phasianidae spp.
ツル科	Gruidae sp.
クイナ科	Rallidae spp.
カモメ科	Laridae sp.
フクロウ科	Strigidae sp.
カラス科	Corvidae spp.
哺乳綱	Mammalia
コウモリ類	Chiroptera
ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>
モモンガまたはリス	<i>Pteromys momonga or Sciurus lis</i>
ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>
ネズミ亜科	Murinae sp.
ハタネズミ亜科	Microtinae sp.
クマ	<i>Ursus thibetanus</i>
キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>
タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>
イヌ	<i>Canis familiaris</i>
オオカミ	<i>Canis lupus</i>
テン	<i>Martes melampus</i>
イタチ	<i>Mustela itatsi</i>
アナグマ?	<i>Meles meles</i> ?
カワウソ	<i>Lutra lutra</i>
ネコ*	<i>Felis catus</i> *
アザラシ科	Phocidae sp.
オットセイ	<i>Collorhinus ursinus</i>
アシカ	<i>Zalophus californianus</i>
イノシシ	<i>Sus scrofa</i>
シカ	<i>Cervus nippon</i>
ヤギ*	<i>Capra hircus</i> *
イルカ・クジラ類	Cetacea

## 2. 結果

腹足綱24種、掘足綱1分類群、二枚貝綱23種が同定された(表10。微小貝類を除く)。同定結果を表11に、組成の変遷を図38に示す。また、貝類以外の無脊椎動物として、フジツボ類・ウニ類の殻破片とカニ類の鋏脚が若干検出されている。

### (1) 組成

**縄文前期後葉～中期後葉(大木5～9式期)**：アサリが圧倒的に優占する点で一貫している(図38)。その他の種類はサンプルごとの変化が大きい。全体としてはイボキサゴ、ハマグリ、マガキ、ツメタガイ、オオノガイ、ヤマトシジミなどがやや多い。年代的な変化を詳細にみると、イボキサゴは大木5～6式期と大木7b式期の可能性のある層準において多産するサンプルがみられる。ヤマトシジミは大木6式～7a式期古段階を中心にやや多い。ハマグリは全体を通じて普通にみられるが、とくに大木7a式期古段階のサンプルでやや多い。そのほか、少数要素の中にも特徴的な層位分布を示すものがあり(図39)、とくにイタボガキは大木7a式期新段階を中心として限定的な出現状況を示す点で特徴的である。大木7a新段階～7b式期にはオキシジミ・ツメタガイ・カリガネエガイ・イボニシなど、少数ではあるが多様な貝類が混在する傾向がある。

**縄文後期前葉(綱取Ⅱ式期)**：イボキサゴが増加し、アサリと並んで優占する(図38)。マテガイも多い。オオノガイ、ハマグリ、ツメタガイ、ヤマトシジミも普通である。オキシジミ・カリガネエガイ・イボニシなどはほぼ消滅し(図39)、種数が減少傾向を示す。

**縄文晩期(大洞式期)**：アサリが激減し、イソシジミ・ヤマトシジミが主体となって組成が一変する(図38)。ハマグリも増加する。少数種ではウバガイが増加する一方で(図39)、多くの種類が減少または消滅し(図38)、組成が特定の種に集中する傾向が明確となる。

### (2) 計測結果：

**アサリ**：大木5～6式期は計測できた資料が少なく、特徴は明確でない。大木7a～7b式期(一部大木9式期の可能性のある資料を含む)では、地点や層準によって若干の相違はみられるものの、殻長25～45mm(本種としてはやや小型～大型)の個体を主体とし、平均値も34～37mmで安定した推移を示しており、明確な年代的变化はみとめられない(図40)。ただし54Tの最上部(2層)は平均値32.7mm、モード27mmと、他のサンプルより明らかに小型の個体が多い。綱取Ⅱ式期(図41)は平均値40～44mmと明らかな大型化傾向がみられる。詳細にみると、殻長36mm以下の個体が減少する一方で44mm以上の個体が増加し、50mmを越えるきわめて大型の個体(最大値は60mm)もみられるようになる。また計測資料数が少なくないにも関わらず、分布形は多峰的となる。晩期には(図41)殻長30～45mmの個体に集中する。

**ハマグリ**：大木5～9式期は計測できた資料が少なく、特徴は明確でない。綱取Ⅱ式期(図42)の64T S 1では殻長22～87mm、平均51.0mm、64T S 2では12～73mm、平均38.5mmで、幼貝からきわめて大型の個体までがみられ、ばらつきが大きい。S 1とS 2の間の差も大きく、明確な傾向性が認められない。大洞B C～C 2式期では殻長35～55mm程度にまとまりがみられ、さらに大型の個体(最大88mm)が若干混じる。平均46.4mm。

**ヤマトシジミ**：各時期の殻長範囲と平均値は、綱取Ⅱ式期で16～30mm、平均22.7mm、大洞B C式期で18～32mm、平均25.6mm、大洞C 2式期で23～33mm、平均28.9mmであった(図42)。計測資料数は多くはないが、晩期における大型化傾向が明らかであるように思われる。

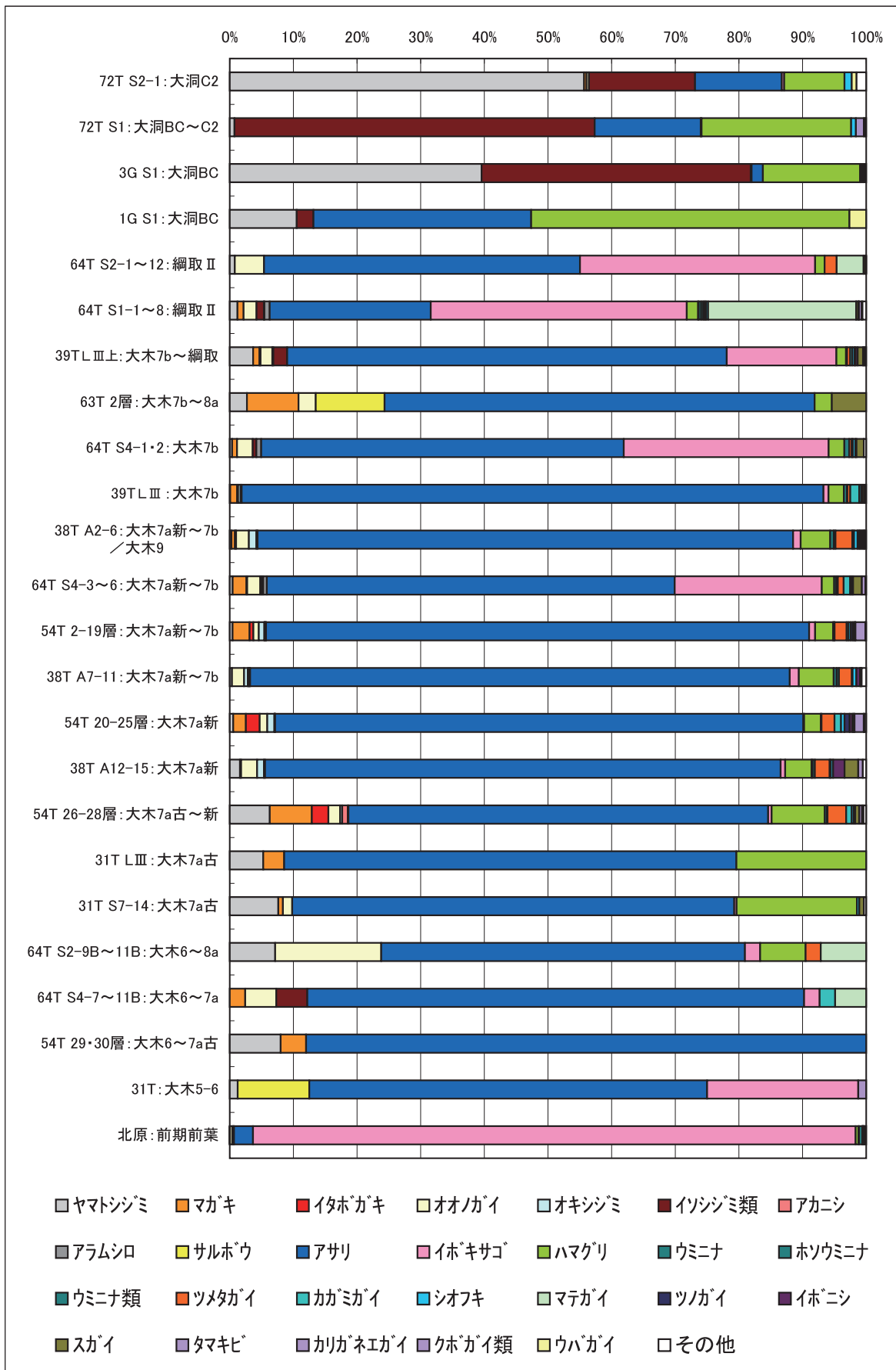


図 38 浦尻貝塚における貝類組成の変遷 \*北原貝塚のデータも合わせて示した

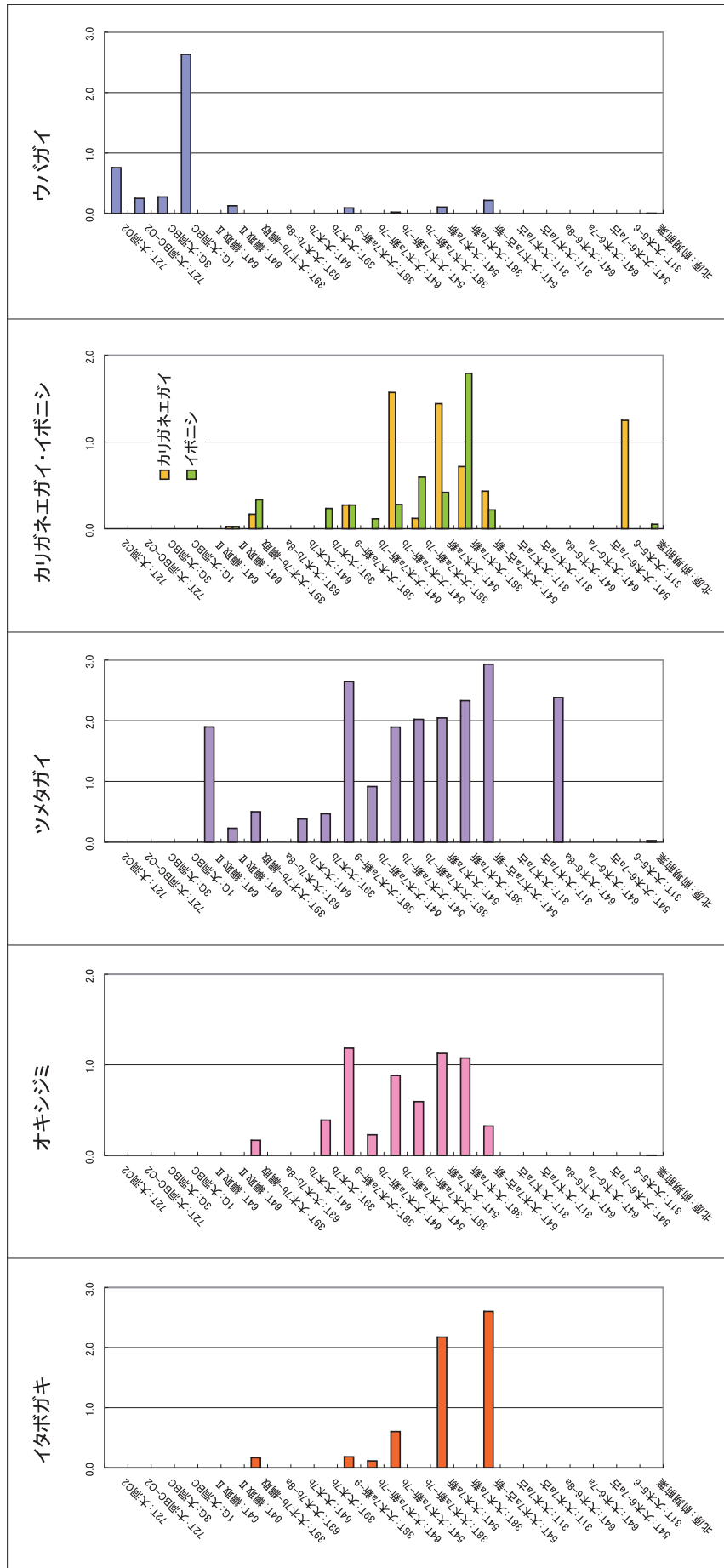


図 39 少数種の中で特徴的な変遷を示す貝類の例 (数値は%) \*北原貝塚のデータも合わせて示した

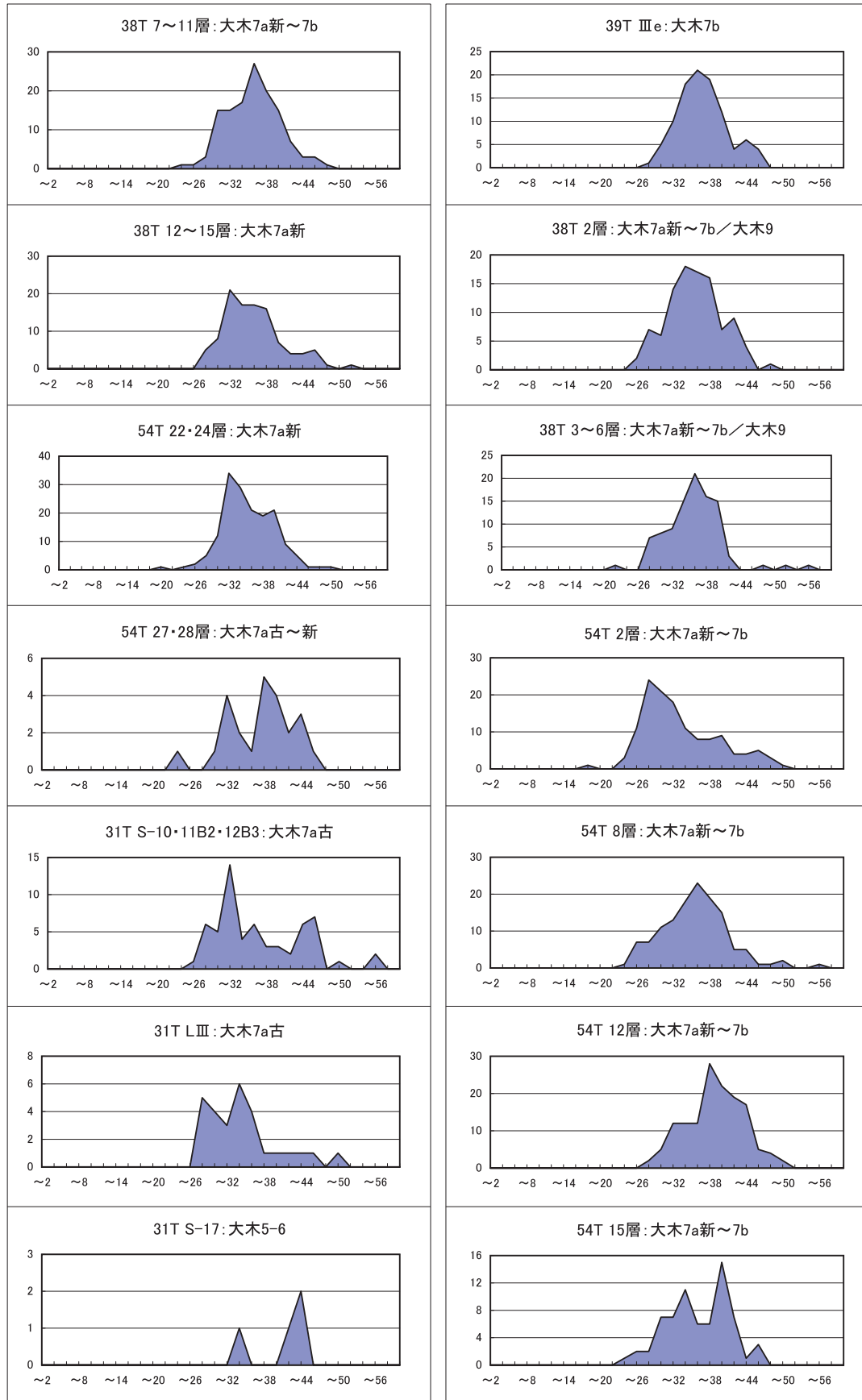


図40 台ノ前北・台ノ前南貝層（大木5～9式期）におけるアサリの殻長分布

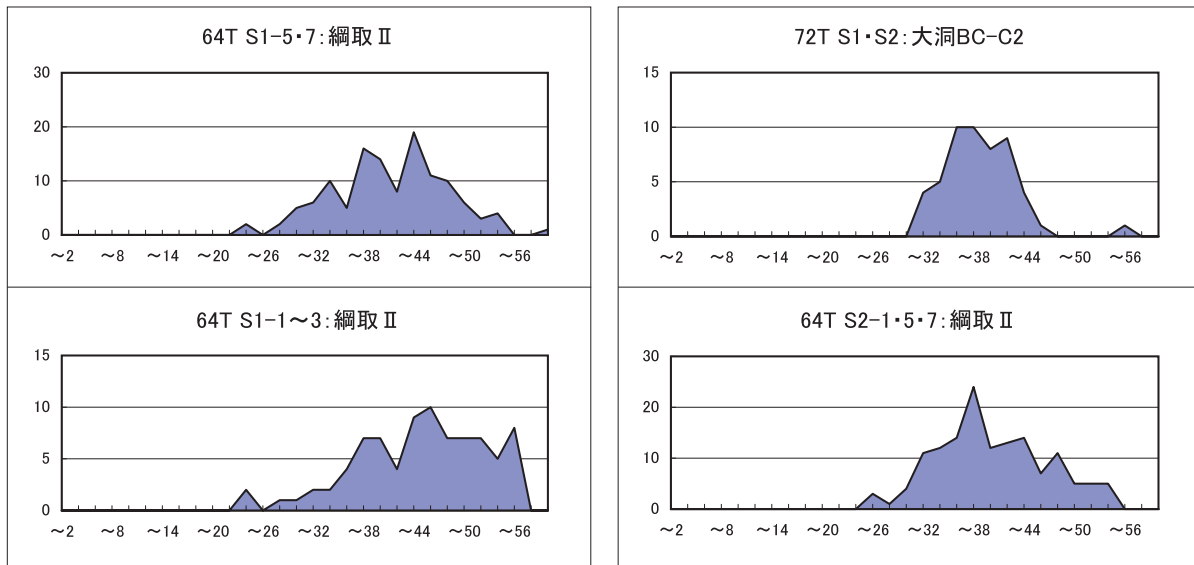


図 41 西向貝層（綱取II式期）・小迫貝層（大洞 BC ～ C2 式期）におけるアサリの殻長分布

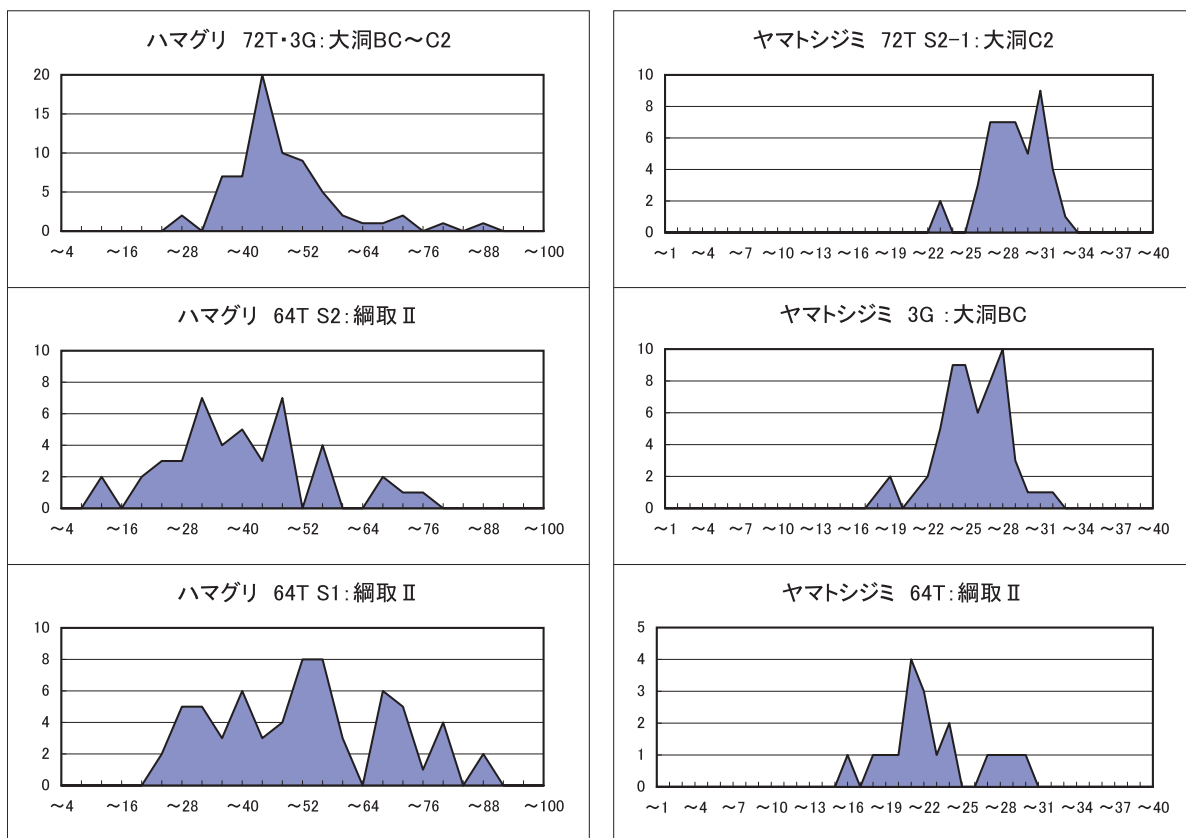


図 42 西向貝層（綱取II式期）・小迫貝層（大洞 BC ～ C2 式期）におけるハマグリ（左）ヤマトシジミ（右）の殻長分布



## 第2項 魚類

ここでは浦尻貝塚の台ノ前北・南貝層（縄文前期後葉～中期後葉）、西向貝層（同前期末～後期前葉）、小迫貝層（同晩期前葉～中葉）から検出された魚類遺体について記載する。

### 1. 資料と分析方法

分析対象とした資料は、① 貝層サンプル2.5mm・1mm水洗資料から検出された魚骨（以下「2.5mm・1mm資料」とする）の一部、および② 現地採集資料・現5資料（発掘現場において5mmメッシュ乾フルイによって回収された資料）・貝層サンプル5mm水洗資料（以下「現地採集資料・5mm資料」とする）から検出された魚骨の全てである。

**2.5mm・1mm資料：**発掘現場では確認困難な微小魚骨である。貝層サンプルの2.5mm・1mm水洗資料に含まれる小型魚骨の数は膨大であったため、すべてのサンプルを分析することは困難であった。そこで、貝層各地区・各年代をカバーするよう留意して12のサンプルを抽出し、分析対象とした。抽出されたサンプルは下記の通りである。

- ・台ノ前南：31T L IV 1（大木5～6式期）、31T S 11（大木7 a式期古段階）、38T A 2（大木7 a式新段階～7 bまたは9式期）、38T L-III d（大木9式期）。
- ・台ノ前北：54T 15層（大木7 a式新段階～7 b式期）、63T 2層（大木7 b～8 a式期）。
- ・西向：64T S 3-15（大木6～7 a式期）、64T S 2-11B a（大木6～8 a式期）、64T S 2-3（綱取II式期）。
- ・小迫：1G S 2-2（大洞B C式期）、3G S 1-2 B（大洞C 2式期）、72T S 1-1（大洞C 2式期）。

なお、上記のサンプルだけでは不十分と思われた地区・層準については、補足資料として31T S 17（大木5～6式期）・S 7（大木7 a式期古段階）、54T 30層（大木6～7 a式期古段階）・2層（大木7 a式新段階～7 b式期）、64T S 2-9（綱取II式期）の5サンプルを追加し、内容を概観して種類と多寡を定性的に記録した。

**現地採集資料・5mm資料：**比較的大型の魚骨である。すべての資料を分析対象とした。今回の調査では、貝層サンプル以外についても、発掘された貝層のほとんどが5mm目のフルイにかけられ骨が回収されていることから、集計に際しては現地採集資料と5mm資料を一括して扱った。したがって、発掘された貝層に含まれていた骨類のうち現地採集法や5mmメッシュで回収される程度の比較的大型の骨類については、ほぼ全てを分析したとみなし得る。

同定対象とした部位は主上顎骨、前上顎骨、歯骨、角骨、方骨、主鰓蓋骨、椎骨を必須とし、他の部位も分類群に応じて同定可能なものは適宜対象に加えた。同定方法は現生標本との比較を基本とした。比較標本には筆者の所蔵標本のほか、国立歴史民俗博物館西本豊弘氏の所蔵標本も参照させていただいた。

現地採集資料・5mm資料の主要種のうち、スズキ属については歯骨高、ブリ属・カツオについては椎骨椎体幅をノギスで計測した。椎骨椎体幅に関しては同一個体でも脊柱上の位置によって若干異なるが、ここでは尾柄部の小型化した椎骨のみ除外し、その他は一括して扱った。

### 2. 結果

同定対象となった資料数は、2.5mm・1mm資料で約9900点、現地採集・5mm資料で約9150点、これらの中である程度の精度（おおむね科以下）で分類群を特定できた資料は2.5mm・1mm資料で約8900点、現地採集・5mm資料で約8860点であった。確認された魚類の分類群数は軟骨魚綱（板鰓類）6分類群、硬骨魚綱（真骨類）44分類群であった（表10）。

## (1) 同定所見の記載

同定結果に関して注釈を要する分類群について簡単に記載する。

**ニシン科**：頭部骨格と第1・第2椎骨で種の判別が可能であり、マイワシ・サッパ・ニシン・コノシロの4種が同定された。

**コイ科**：咽頭骨と主鰓蓋骨によってフナとその他の種が判別された。後者は属・種を特定するに至らなかったが、ウグイ属の可能性のある資料が含まれる。

**サケ科**：椎骨のみが検出されている。比較的大型でサケ属と考えられるものと、小型でイワナ属の可能性のあるものの2タイプがあり、後者は「サケ科(小)」とした。

## (2) 組成

出土魚類の組成については、現地採集資料・5mm資料に含まれる比較的大型の魚類と、2.5mm・1mm資料に含まれる小型魚類とで内容が大きく異なるため、ここでは両者に分けて記載する。

**2.5mm・1mm資料**：同定結果と組成の集計結果を表12～16に、組成の変遷を図43・44に示す。

縄文前期後葉～後期前葉(大木5式～綱取式期)の各サンプルからは小型魚骨がきわめて高密度で検出されており(表14)、こうした小魚類がこの時期に一貫して魚類利用の主体をなしていたことが示唆される。組成をみると、ニシン科・ウナギ属・ハゼ科が多い点はほぼすべてのサンプルで共通している(ただしニシン科は大木5～6式期には少ない)。ニシン科の優占種はサンプルによって大きく異なり、マイワシ・サッパ・コノシロのうち1～2種が卓越するが、地区・年代との相関性は明確でない(表14)。カタクチイワシ・ボラ科(幼魚)・スズキ属(幼魚)・フサカサゴ科も全般的に普通である。ドジョウ科、フナを含むコイ科、ギギ科、キュウリウオ科(おそらくワカサギ)といった淡水性種は、大木5式期の31TLV1・S17や大木6式～7a式期の64TS3-15に多くみられるが、大木7a式期以降は減少し、綱取II式期の64TS2-3で再び淡水性のドジョウ科・アユが増加する。ブリ属は大木7a式～7b式期の31TS11と54T15層でまとまって検出されており、後述する現地採集・5mm資料と連動した傾向を示す。その他にもエイ類・サヨリ属・ウミタナゴ科・ギンポ類・アイナメ属・カレイ科などが、少数ずつではあるが多くのサンプルから検出されており、全体として多様性の強い組成が形成されている。なお、大木7b式期ころを境として、きわめて微小な魚骨(ハゼ科・ニシン科・カタクチイワシなど)が増加する傾向がみられるようである。

縄文晩期(大洞BC～C2式期)のサンプルからも多くの魚骨が検出されているが、後期以前のサンプルと比べると検出数は大幅に減少する(表14)。組成はサンプルごとの相違が大きいが、全体としてニシン科・ウナギ属・ハゼ科が目立つ点は後期までと同様である。サメ類・キュウリウオ科・ボラ科・アイナメ属・カレイ科は増加する。また少数ながらニシンがみられる点はこの時期の特徴といえるかもしれない。

**現地採集資料・5mm資料**：同定結果と組成の集計結果を表17～20・29に、組成の変遷を図45・46に示す。各地区の各層準から多数の魚骨が検出されている。とくに台ノ前南貝層の大木7a式新段階～大木9式期および台ノ前北貝層からの検出数が著しく多いが、これはおもに発掘された貝層体積が大きいことに起因すると思われる。

組成をみると、縄文前期後葉(大木5～6式期)ではカツオ・ウナギ属・スズキ属・クロダイ属が主体をなす。縄文中期初頭(大木7a式古段階)ではカツオ・ウナギ属は減少する一方で、スズキ属が優占し、ブリ属も増加する。クロダイ属も多く、エイまたはサメ類・コイ科・カレイ科・ヒラメ科なども普通である。

縄文中期前葉～後葉(大木7a式新段階～大木9式期)も類似の様相が継続するが、カツオはさらに減少し、代わってカレイ科が増加し、ウナギ属・フグ科も微増する。

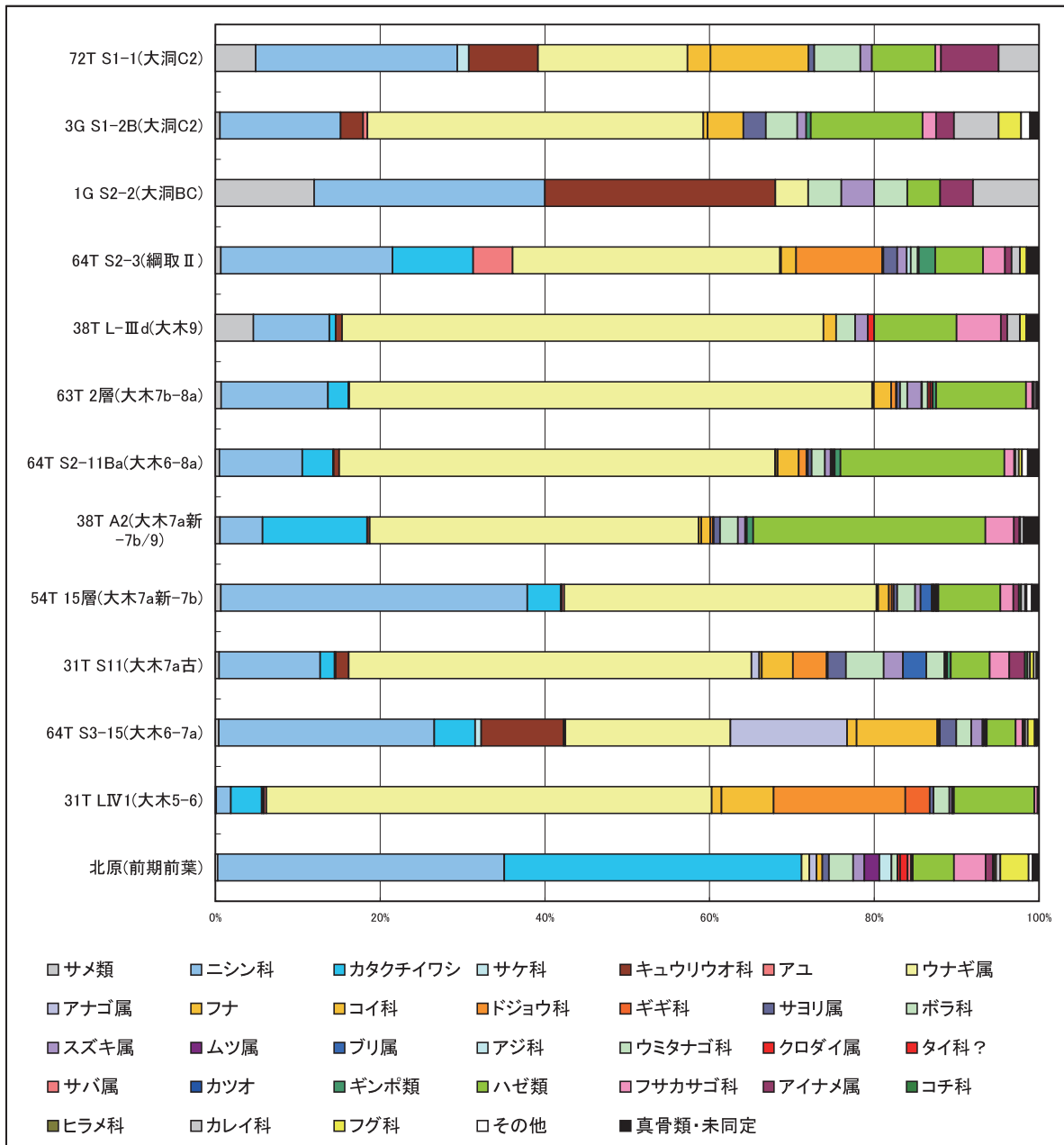


図 43 浦尻貝塚の貝層サンプルから 2.5mm・1mmメッシュで回収された魚類の組成 (NISP)

\*北原貝塚のデータも合わせて示した。

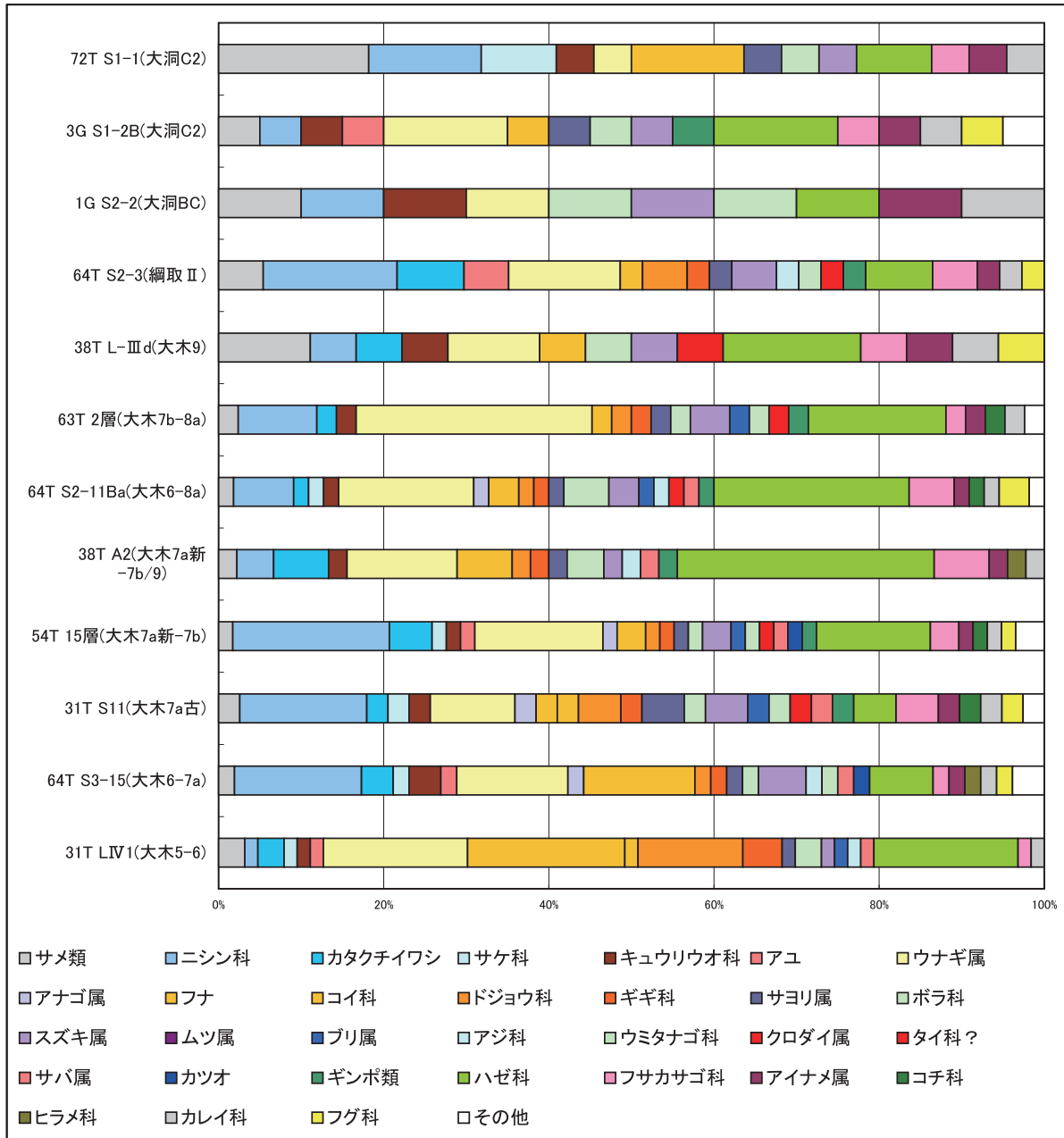


図 44 浦尻貝塚の貝層サンプルから 2.5mm・1mmメッシュで回収された魚類の組成 (MNI)

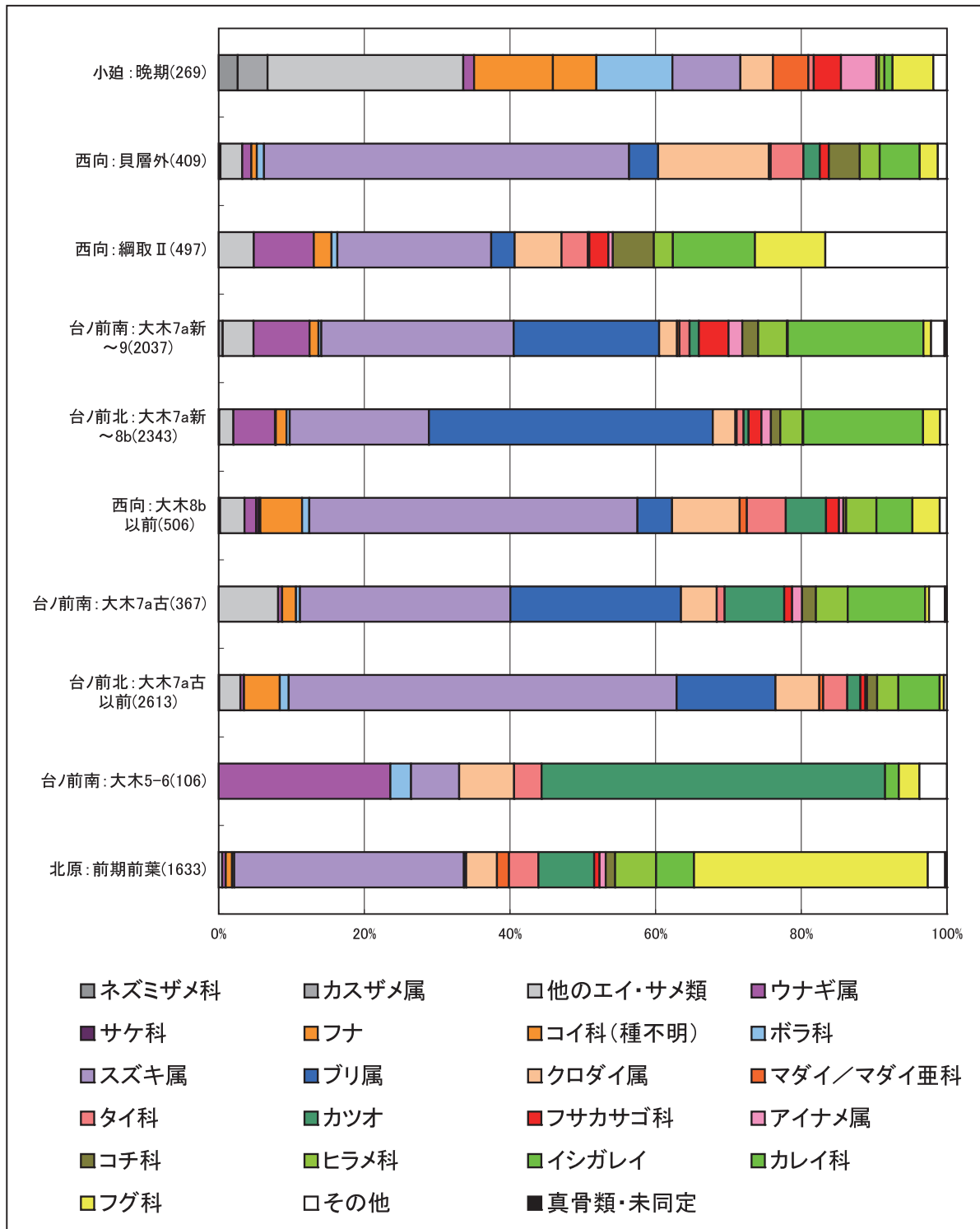


図 45 浦尻貝塚における魚類遺体（現地採集・水洗 5mm資料）の変遷（NISP）

\*北原貝塚のデータも合わせて示した

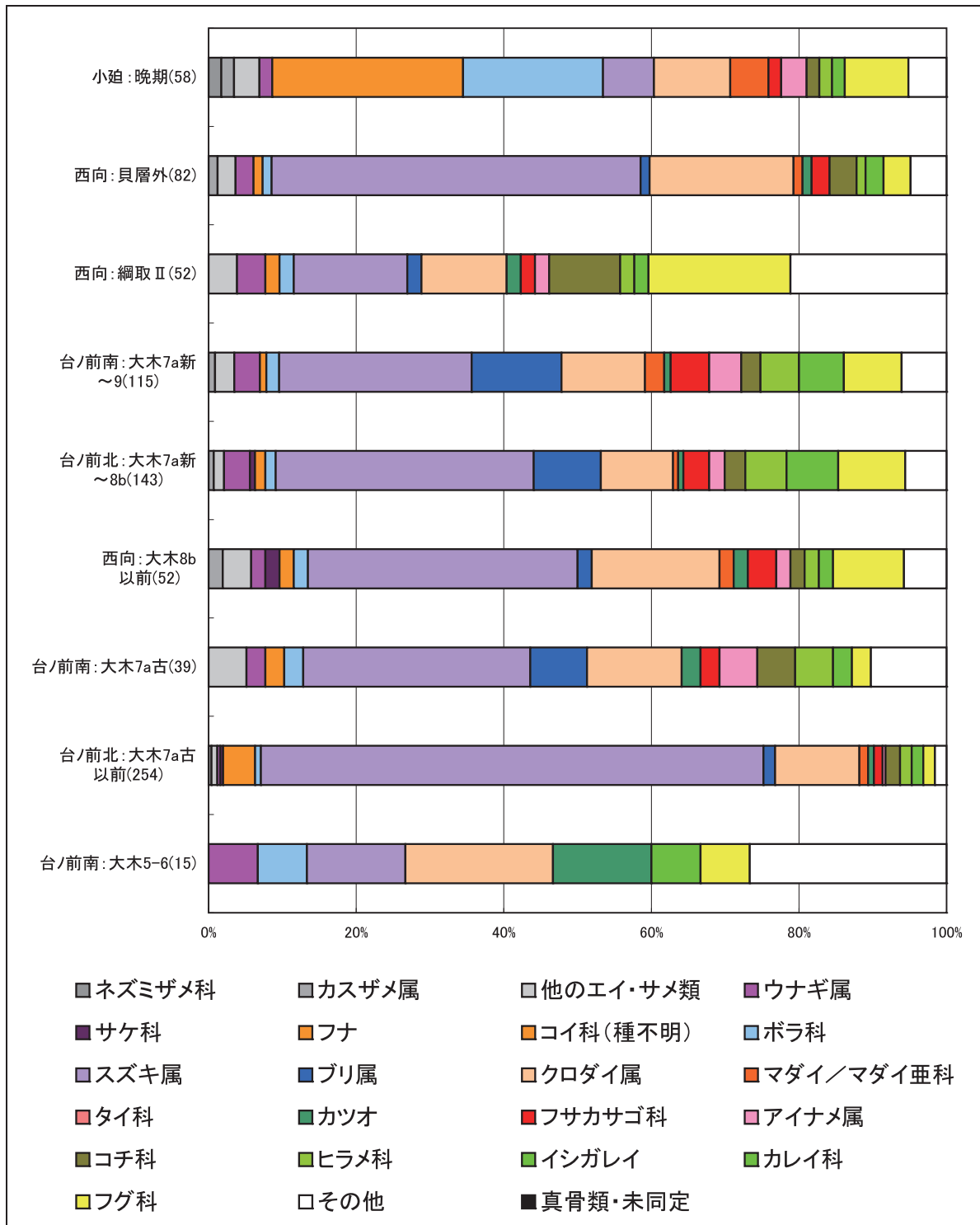


図 46 浦尻貝塚における魚類遺体（現地採集・水洗 5mm資料）の変遷（MNI）

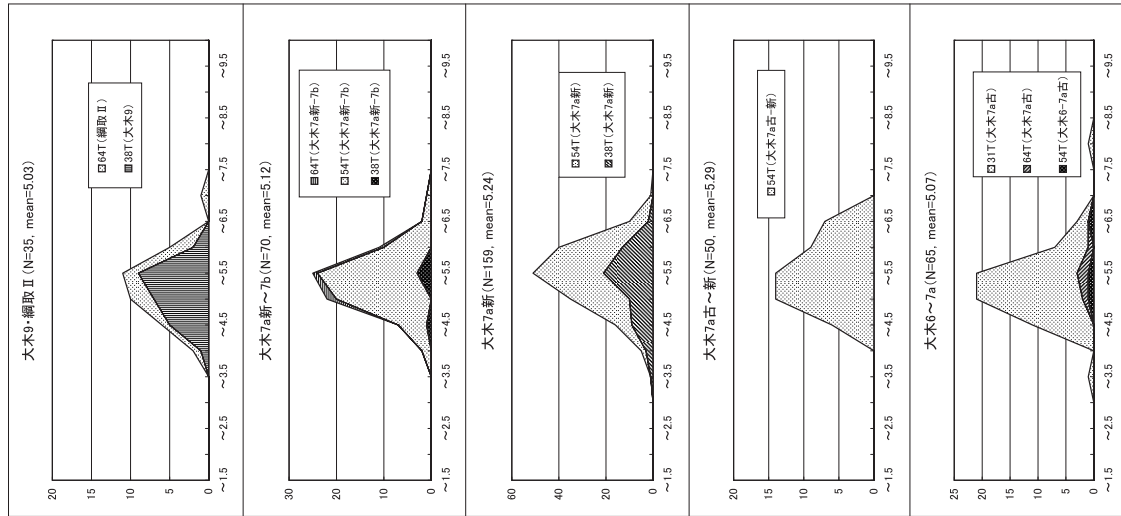


図 48 浦尻貝塚から出土したブリ属の椎骨幅分布

現地採集資料+水洗5mm資料，単位はmm

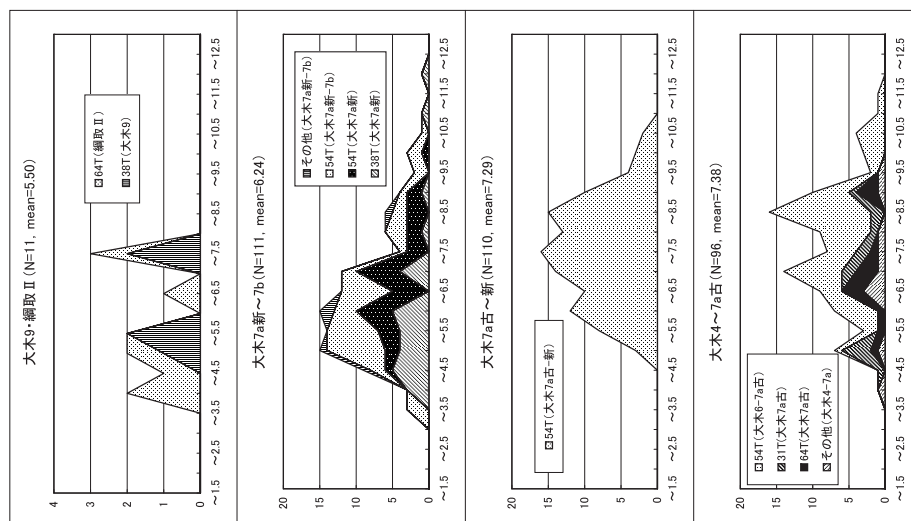


図 47 浦尻貝塚から出土したスズキ属の歯骨

高分布

現地採集資料+水洗5mm資料，単位はmm

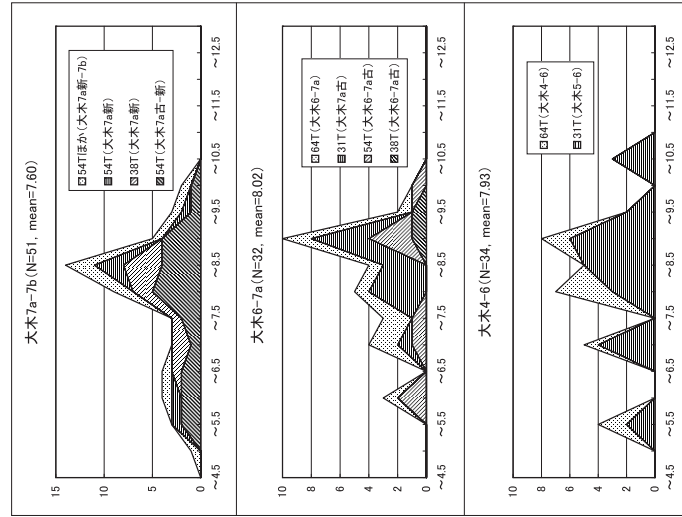


図 49 浦尻貝塚から出土したカツオの椎骨

幅分布

現地採集資料+水洗5mm資料，単位はmm

縄文後期前葉（綱取Ⅱ式期）にはカツオがほぼ消滅し、ブリ属も減少する一方、フグ科・コチ科などが増加して、組成がやや多様化する。

縄文晩期前葉～中葉（大洞BC～C2式期）にはブリ属が消滅し、スズキ属・カレイ科も激減する一方で、大型のネズミザメ科を含むエイ・サメ類、フナを主とするコイ科、ボラ科が増加して、組成が一変する。マダイ亜科・フサカサゴ科・アイナメ属・フグ科なども普通にみられ、組成が著しく多様化する。

### （3）計測結果

スズキ属歯骨高（図47）：大木4式～7a式新段階では範囲5～11mm前後、平均値7.3～7.4mmで、6～8.5mm前後の資料が多い。大木7a新～7b式では範囲3.5～12mmとばらつきが大きい、平均6.2mm、5～7mm前後の資料が多く、やや小型の個体が増加する。大木9式～綱取Ⅱ式では計測資料数が少ないが、3.5～7.5mm、平均5.5mmでさらに小型化傾向がみられる。

ブリ属椎骨椎体幅（図48）：大木6式～綱取Ⅱ式期を通じて範囲4～7mm前後、平均5.0～5.3mmでほぼ一定しているが、大木7a式期には6mm以上の大型資料がやや多い。

カツオ椎骨椎体幅（図49）：大木4式～7b式期を通じて範囲5.5～10mm前後、平均7.6～8.0mm、ピークも8.5～9mm前後にあり、おおむね類似した分布形を示すが、大木7a～7b式期にはピークがやや小型化し、6mm前後の小型資料もやや増える。

## 第3項 両生類・爬虫類・哺乳類

浦尻貝塚の台ノ前北・南貝層（縄文前期後葉～中期後葉）、西向貝層（同前期末～後期前葉）、小庭貝層（同晩期前葉～中葉）から検出された両生類・爬虫類・哺乳類遺体について記載する。

### 1. 資料と分析方法

分析対象とした資料は、① 現地採集資料・5mm資料（全資料）、② 貝層サンプル2.5mm・1mm資料（一部サンプルを抽出して分析）である。詳細は魚類と同様である。同定対象とした資料は部位を判別できた資料だが、長骨の骨幹資料（近遠両骨端を欠くもの）のうち骨幹の全周を残さない破片は原則的に除外した。

同定方法は現生標本との比較を基本とした。比較標本には筆者の所蔵標本のほか、国立歴史民俗博物館西本豊弘氏の所蔵標本も参照させていただいた。

### 2. 結果

#### （1）両生類・爬虫類

両生類ではカエル類、爬虫類ではヘビ類・ウミガメ類が確認された。

カエル類：小型のカエル類（種不明）が2.5mm・1mm資料の31TLV1、31TS11、64TS2-3から検出された（表12・13）。これらのうち31TLV1とS11の資料は、出土数・部位からみて自然の遺骸の可能性が高いが、64TS2-3（綱取Ⅱ式期）からは77点、MNI=18個体の骨が集中して検出されたことから、人為的に廃棄（？）されたものである可能性が高い。

ヘビ類：現地採集資料・5mm資料と2.5mm・1mm資料において椎骨が普通に検出されている。その大半は自然の遺骸と思われるが、2.5mm・1mm資料の64TS2-3からは上記のカエル類とともにヘビ類の椎骨30点がまとめて検出されており（表12・13）、これについても人為の可能性もある。また大洞C2式期の3GS1-2Bと72TS1-1でも、他のサンプルに比べてやや多くの資料が検出されている。

ウミガメ類：台ノ前北貝層54Tの大木7a式新段階層準から甲板破片2点が検されたのみである（表22）。



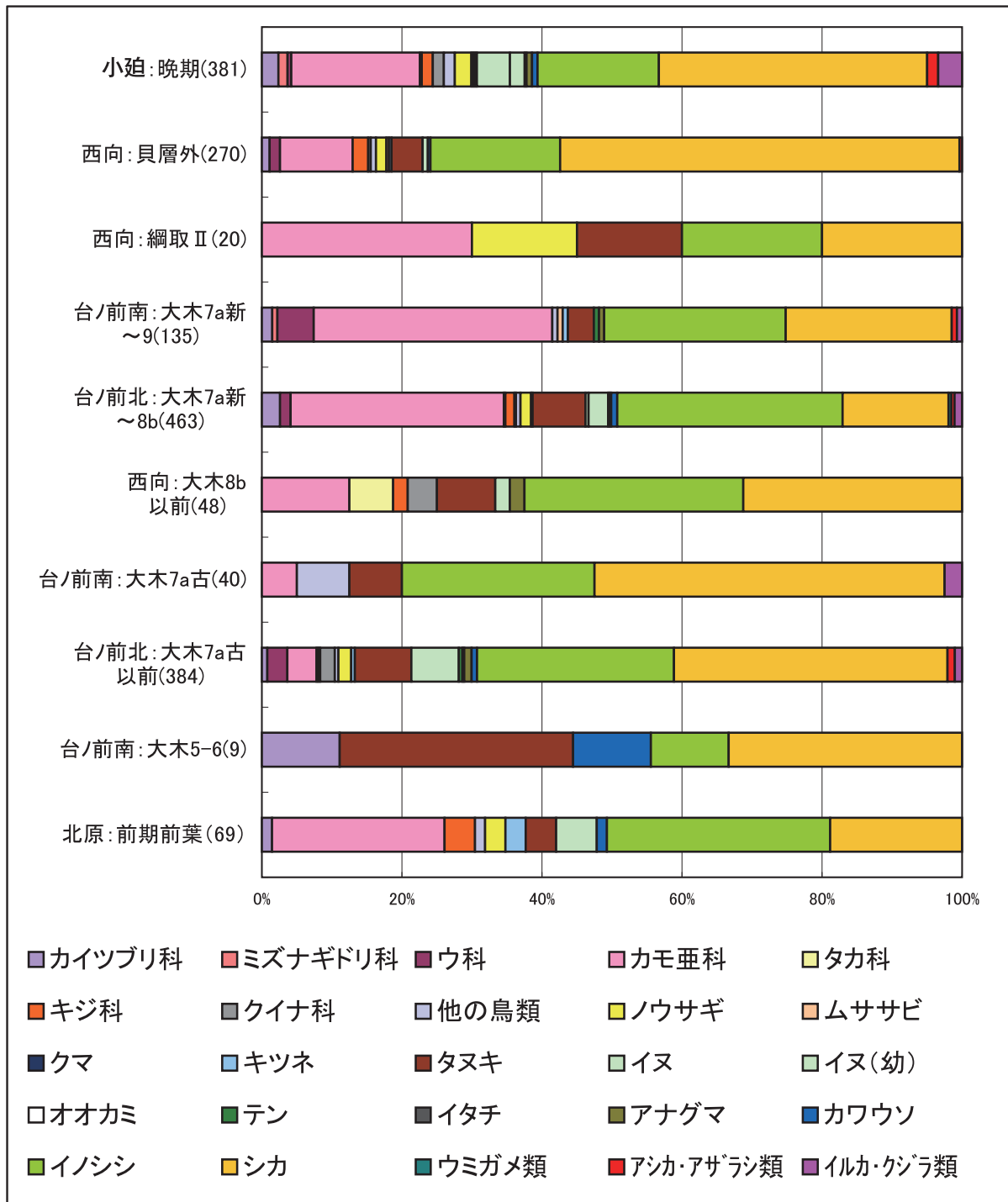


図 50 浦尻貝塚における鳥獣類遺体（現地採集・水洗 5mm資料）の変遷（NISP）  
 \*北原貝塚のデータも合わせて示した

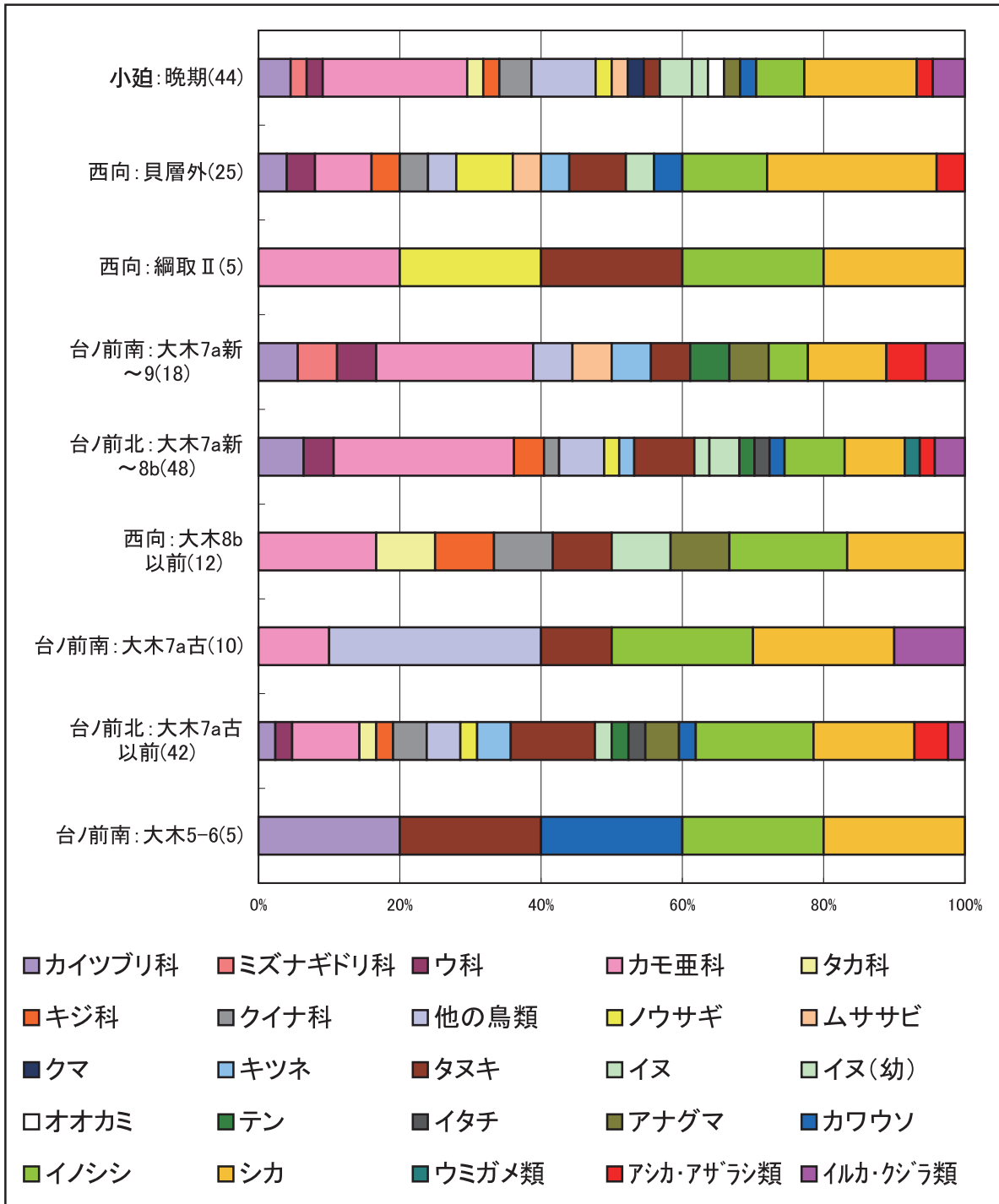


図 51 浦尻貝塚における鳥獣類遺体（現地採集・水洗 5mm資料）の変遷（MNI）

## (2) 哺乳類

同定対象となった資料数は現地採集・5mm資料が約1500点(表30)、2.5mm・1mm資料が26点(表14)で、前者が資料の大半を占める。同定された分類群数は23分類群であった(表10)。以下、組成の特徴について記載する。

**現地採集・5mm資料：**同定結果と組成の集計結果を表21～24・30に、組成の変遷を図50・51に示す。陸生哺乳類では縄文前期後葉～晩期の全期間を通じてシカ・イノシシが主体をなす(図50・51)。両種の比率をMNI比でみると(表30)、前期後葉～後期前葉(大木5～綱取Ⅱ式期)にはおおむね同数だが、晩期(大洞BC～C2式期)にはシカが卓越する。タヌキは前期後葉～後期前葉にはシカ・イノシシに次いで多いが、晩期には激減する。ノウサギは各時期とも普通にみられる。キツネ・アナグマ・カウソウ・テン・イタチも多くの地区・層準で検出されているが、数は少ない。晩期の小迫貝層ではクマ・オオカミが各1点確認されている。

なおオオカミについては、上記の他に54T貝層上から詳細な年代不明ではあるが保存状態の良い下顎骨が出土している(写真図版10-29)。筋突起の一部と吻端をわずかに欠くが、ほぼ完存であり、犬歯と臼歯はすべて残存している。M1(裂肉歯)の近遠心径は22.6mmで、オオカミとしては小型である。

イヌは台ノ前北貝層k層～1層上部(大木7a式期古～新段階)から頭蓋・椎骨・上腕骨・中手骨26点、同f層(大木7a式期新段階～7b式期)から幼獣の下顎・四肢骨11点、小迫貝層4Gから椎骨・前肢・後肢15点と幼獣の頭蓋・環椎・前肢・肋骨7点がまとまって採集されている(表22・24)。これらはそれぞれ同一個体のものである可能性が強く、埋葬犬の可能性もあるが、明確な出土状況は確認されていない。これら以外にも散乱骨が若干出土している。

海生哺乳類は、前期後葉～中期前葉(大木5～7b式期)には少数ながらイルカ・クジラ類、アシカ・オットセイ、アザラシ類がみられるが、中期後葉～後期前葉(大木8式～綱取式期)にはいったん消滅し、晩期(大洞式期)には再びイルカ・クジラ類、アシカ類が見られるようになる。

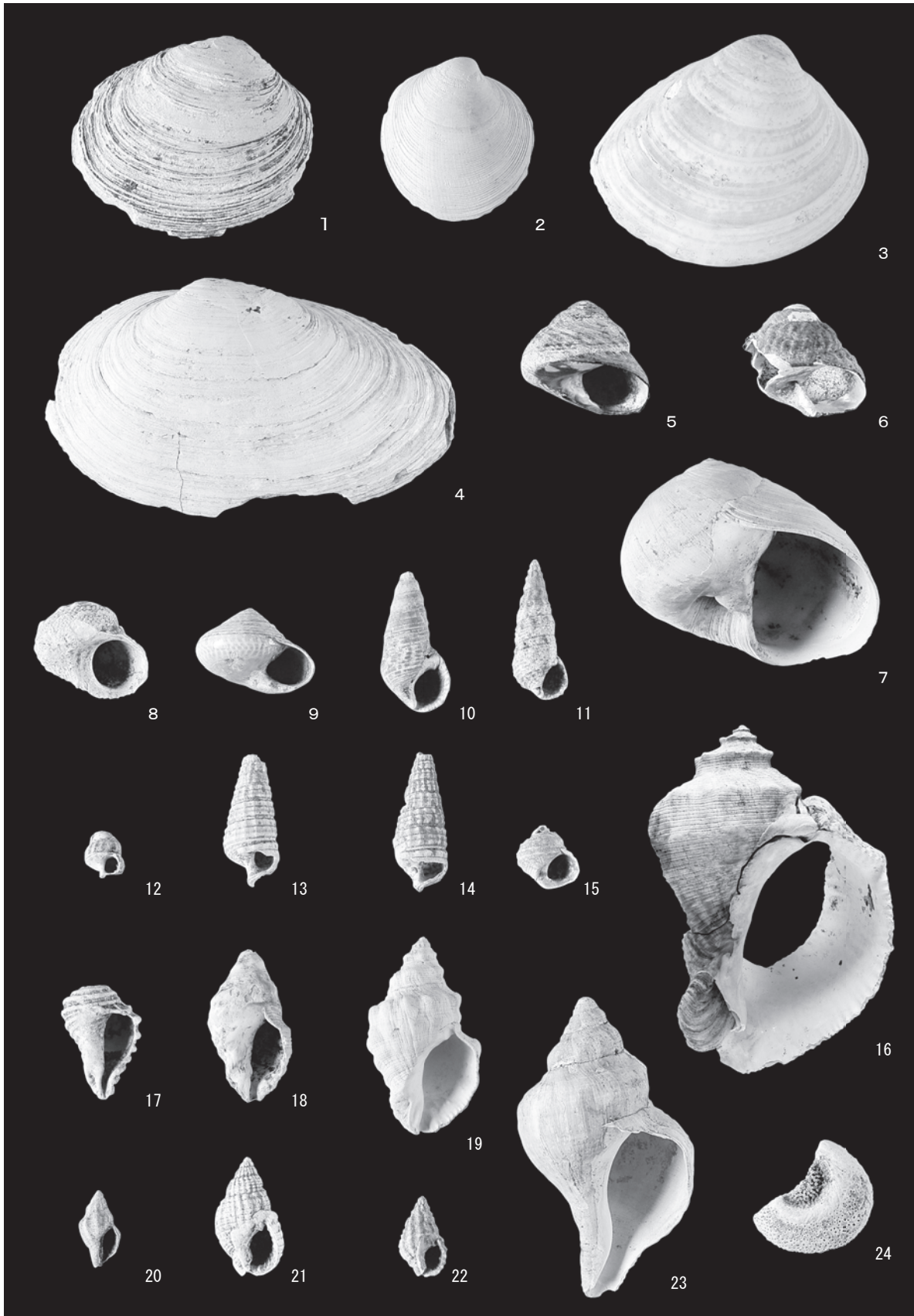
**2.5mm・1mm資料：**ネズミ類が多くのサンプルから検出されているが、大半は少数であり、自然遺骸の可能性が高い。ただし、64TS2-3ではMNI=2個体を含む11点がまとまって検出されている(表12・13)。先述のとおり同サンプルからはカエル類・ヘビ類も集中的に検出されていることから、ネズミ類の遺体も人為の可能性もある。

(樋泉岳二)



写真図版1 浦尻貝塚出土の貝類遺体(1) 6~8:×1/2、16:×1 他:×2/3

1.カリガネエガイ L 2.エゾタマキガイ L 3.サトウガイ L 4.サルボウ R 5.ハイガイ R 6.マガキ L 7.イタボガキ L 8.イタボガキ R 9.ウバガイ L 10.シオフキ R 11.バカガイ L 12.ミルクイ R 13.イソシジミ類 L 14.ヒメシラトリ R 15.マテガイ R 16.ウネナシトマヤガイ R 17.ヤマトシジミ R 18.カガミガイ R 19.アサリ R 20.コタマガイ R



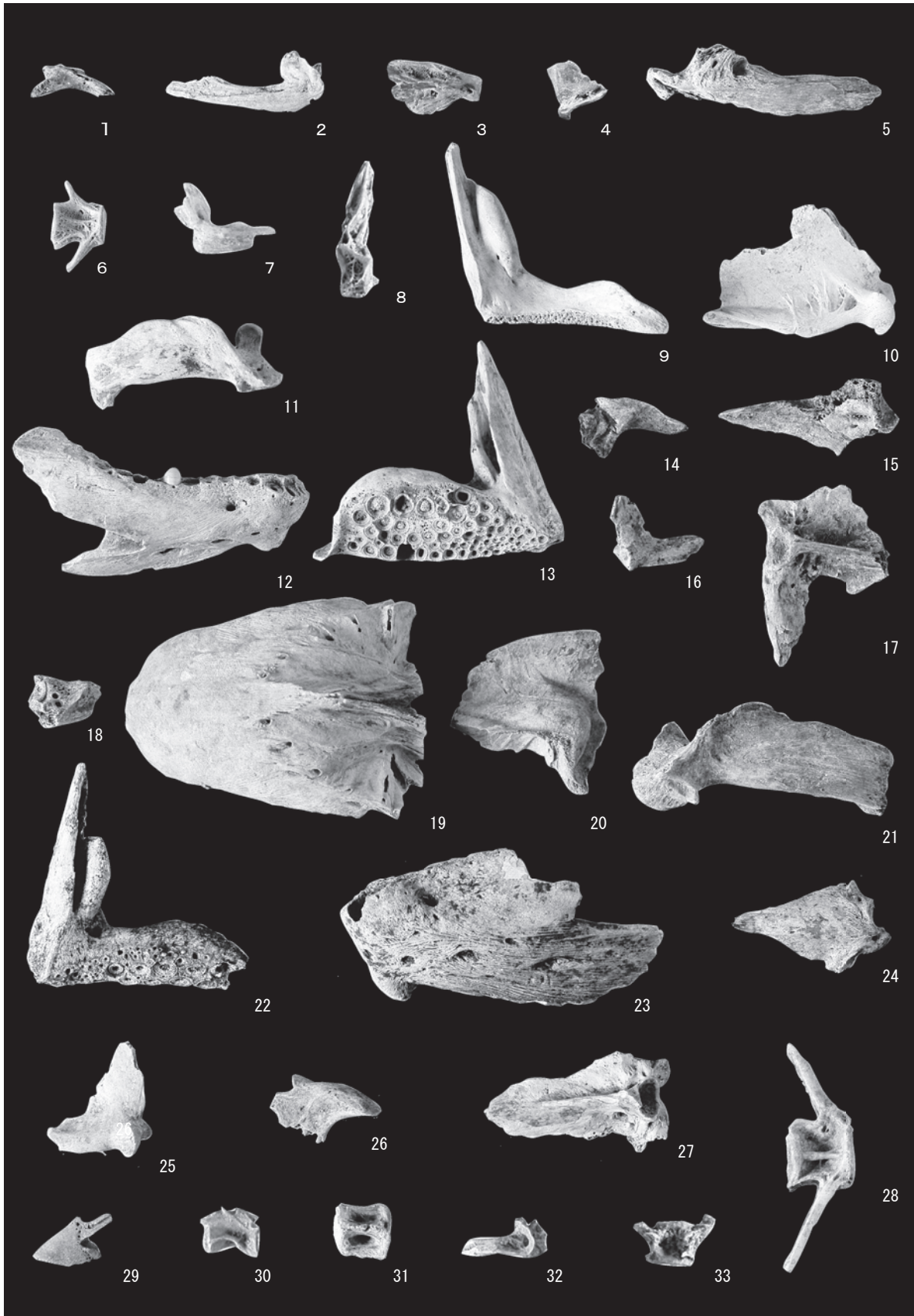
写真図版2 浦尻貝塚出土の貝類遺体(2) 16:×1/2 7・17~19・23・24:×2/3 他:×1

1.ウチムラサキ R 2.オキシジミ R 3.ハマグリ R 4.オオノガイ L 5.クマノコガイ 6.クボガイ類 7.ツメタガイ 8.スガイ 9.イボキサゴ 10.ウミニナ 11.ホソウミニナ 12.クロヘナタリ 13.ヘナタリ 14.カワアイ 15.タマキビ 16.アカニシ 17.エソチヂミボラ 18.イボニシ 19.レイシ 20.カゴメガイ 21.ムシロガイ 22.アラムシロ 23.ヒメエゾボラ 24.サザエ蓋



写真図版3 浦尻貝塚出土の魚類遺体(1) 7~12・18・19・28・32:×2 15・26・27:×3 他:×1

1.ネズミザメ科椎骨 2.カスザメ属椎骨 3.板鰓類椎骨 4.サメ類椎骨 5・6.エイ目(5.尾棘 6.楯鱗) 7.ニシン科尾椎 8~12.ウナギ属(8.歯骨R 9.角骨R 10.舌顎骨R 11.方骨L 12.尾椎) 13.アナゴ属歯骨L 14.サケ属椎骨 15.アユ椎骨 16~22.コイ科(16.歯骨L 17.咽頭骨R 18.角骨R 19.方骨L 20.前鰓顎骨R 21.主鰓顎骨L 22.椎骨) 23・24.フナ(23.咽頭骨R 24.主鰓顎骨R) 25.ダツ科腹椎 26.サヨリ属腹椎 27~32.ボラ科(27.方骨R 28.角骨L 29.涙骨R 30.舌顎骨R 31.腹椎 32.主鰓蓋骨L) 33.カマス属腹椎 スズキ属(34.主上顎骨R 35.前上顎骨R 36.歯骨L 37.角骨R 38.方骨R 39.擬鎖骨L 40.スズキ主鰓蓋骨L 41.前鰓蓋骨R 42.尾椎 43.耳石)



写真図版4 浦尻貝塚出土の魚類遺体(2) 7・30・32・33:×2 他:×1

ブリ属 (1.主上顎骨L 2.前上顎骨R 3.歯骨R 4.方骨R 5.角骨R 6.尾椎) 7.アジ科前上顎骨L 8.ニベ科腹椎 9・10.コショウダイ属 (9.前上顎骨R 10.方骨R) 11~17.クロダイ属 (11.主上顎骨R 12.歯骨R 13.前上顎骨L 14.口蓋骨L 15.角骨R 16.方骨L 17.主鰓蓋骨R) 18.ヘダイ? 歯骨L 19・20.マダイ (19.前頭骨 20.上後頭骨) 21~27.マダイ亜科 (21.主上顎骨L 22.前上顎骨R 23.歯骨L 24.角骨L 25.方骨R 26.口蓋骨R 27.主鰓蓋骨R) 28.タイ科尾椎 29.イシダイ属前上顎骨L 30.サバ属腹椎 31.カツオ尾椎 32・33.ハゼ科 (32.主上顎骨R 33.第1椎骨)



写真図版5 浦尻貝塚出土の魚類遺体 (3) 40・42・43 : ×2 他 : ×1

1~9.フサカサゴ科 (1.主上顎骨L 2.前上顎骨L 3.歯骨L 4.角骨R 5.方骨R 6.前鰓蓋骨R 7.主鰓蓋骨L 8.擬鎖骨R 9.腹椎) 10~17.アイナメ属 (10.主上顎骨L 11.前上顎骨R 12.歯骨L 13.角骨R 14.方骨L 15.主鰓蓋骨R 16.第1椎骨 17.尾椎) 18~24.コチ科 (18.主上顎骨R 19.前上顎骨L 20.歯骨L 21.角骨R 22.方骨L 23.コチ前鰓蓋骨R 24.尾椎) 25~32.ヒラメ科 (25.主上顎骨R 26.前上顎骨L 27.歯骨L 28.角骨R 29.方骨R 30.擬鎖骨R 31.前鰓蓋骨R 32.尾椎) 33~39.カレイ科 (33.主上顎骨L 34.前上顎骨L 35.歯骨R 36.角骨R 37.方骨R 38.第1血管間棘 39.尾椎) 40・41.インガレイ (40.咽頭骨 41.桶鱗) 42.ウシノシタ亜目尾椎 43.カワハギ科背鱗棘 44~50.フグ科 (44.前上顎骨L 45.歯骨L 46.舌顎骨R 47.角骨L 48.主鰓蓋骨R 49.方骨R 50.椎骨)





写真図版6 浦尻貝塚出土のシカ遺体(1) 1:×1/8 他:×1/2

1.前頭骨(角座部)+角 2.下顎骨L 3.後頭骨～頭蓋底 4.環椎 5.軸椎 6.頸椎 7.肩甲骨L



写真図版7 浦尻貝塚出土のシカ遺体(2) 全て:×1/2

1.上腕骨L 2.尺骨L 3・4.中手骨L 5.寛骨L 6.距骨R 7.脛骨R 8.大腿骨R 9.踵骨L 10.踵骨R 11・12.中足骨R 13.基節骨 14.中節骨 15.末節骨  
16.シカまたはイノシシ腰椎



写真図版8 浦尻貝塚出土のイノシシ遺体(1) \*縮尺不同 白線=5cm

1.オス下顎骨(No.1094) 2.オス下顎骨(No.1093) (いずれもa.側面、b.上面)



写真図版9 浦尻貝塚出土のイノシシ遺体(2) \*縮尺不同 白線=5cm

- 1.左上顎骨 (No.969) 2.オスの下顎犬歯 (a.エナメル質部分を切り出したもの (No.972), b.エナメル質部分を剥がした残り (No.971), c.完形 (No.1063))  
 3.右肩甲骨 (No.838) 4.右尺骨 (No.831) 5.環椎 (No.830) 6.胸椎 (No.863) 7.右腓骨遠位端 (No.833) 8.左橈骨近位端 (No.840) 9.左橈骨遠位  
 骨端 (No.878) 10.右脛骨 (No.839) 11.左距骨 (No.832) 12.右踵骨 (No.842) 13.左第5中手骨 (No.844) 14.末節骨 (No.836) 15.中節骨 (No.835)  
 16.基節骨 (No.834)



写真図版10 浦尻貝塚出土の哺乳類遺体 7・10・11・22・24・32~34:×1 他:×2/3

1~6.ノウサギ (1.下顎骨L 2.肩甲骨R 3.上腕骨L 4.大腿骨R 5.大腿骨L 6.踵骨R) 7.モモンガまたはリス大腿骨L 8.ムササビ上腕骨L 9.クマ踵骨L 10~12.キツネ (10.上顎P4L 11.下顎M1R 12.尺骨R) 13~22.タヌキ (13.上顎骨L 14.下顎骨R 15.環椎 16.軸椎 17.上腕骨L 18.橈骨R 19.尺骨L 20.寛骨R 21.脛骨R 22.距骨R) 23~27.イヌ (23.上顎骨R 24.下顎〔幼〕R 25.上腕骨R 26.尺骨L 27.脛骨L) 28・29.オオカミ (28.距骨R 29.下顎骨L) 30・31.テン (30.下顎骨L 31.寛骨R) 32~34.イタチ (32.下顎骨R 33.上腕骨R 34.寛骨L) 35~37.アナグマ (35.下顎骨L 37.尺骨R) 36・38.カワウソ (36.上顎骨R 38.大腿骨R)













第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

表 12 浦尻貝塚の貝層サンプル 2.5mmメッシュで回収された脊椎動物遺体の同定結果

\*左右のある部位は左/右で示した。

種 類	部 位	31T	64T	64T	31T	54T	38T	63T	38T	64T	1G	3G	72T
		L IV 1	S3-⑤	S2-11Ba	S11	15層	A2	2層	L- III d	S2-3	S2-2	S1-2B	S1-1
		大木 5-6	大木 6-7a	大木 6-8a	大木 7a 古	大木 7a 新 -7b	大木 7a 新 -7b/9	大木 7b-8a	大木 9	網取 II	大洞 BC	大洞 C2	大洞 C2
サメ類	椎 骨								1				1
トビエイ科	歯												1
エイ目	椎 骨								2				1
板鰓類	椎 骨		1	4	2	4	2	3	1		1		1
板鰓類 A	椎 骨					1							
板鰓類 C	椎 骨											1	
マイワシ	角 骨					/ 1							
マイワシ	舌顎骨		1 /										
マイワシ	主鰓蓋骨						1 /						
マイワシ?	尾部棒状骨					1							
ニシン	歯 骨								/ 1				
ニシン	角 骨												/ 1
ニシン	第1椎骨								1				1
ニシン	第2椎骨												
コノシロ	方 骨									1 /			
コノシロ	主鰓蓋骨		1 /										
コノシロ	基後頭骨												
コノシロ	第1椎骨				1			1					
コノシロ	第2椎骨		1	1				2					1
ニシン科	腹 椎	2	16	2	1	4	2	14	1	6		1	2
ニシン科	尾 椎	1	68	11	20	10	6	51	3	29		2	3
サケ属?	椎骨破片	1	5	1		1							
ア ヌ	椎 骨					1							
ウナギ属	前鋤骨板		1	1	2	1	3	3					
ウナギ属	主上顎骨	1 /	1 /		1 /	1 /	1 /	1 /					
ウナギ属	歯	/ 1	2 / 2		1 / 3		1 /	1 /					
ウナギ属	角 骨		1 /	/ 1	1 / 4	/ 1	1 / 1	1 /		2 /		1 /	
ウナギ属	方 骨		1 /	/ 2			1 /	1 /					
ウナギ属	舌顎骨		1 /	1 / 1			2 / 3	1 /	1 /				
ウナギ属	主鰓蓋骨				1 / 2								
ウナギ属	基後頭骨					2	1			2			1
ウナギ属	椎 骨	127	102	160		142	130	129	29	40		21	7
ウナギ属	角 骨				5	1							
アナゴ属	腹 椎			1	1	1							
アナゴ属	尾 椎		134										
フ ナ	咽頭骨	1 /	1 / 1		/ 1							/ 1	
フ ナ	主鰓蓋骨												1 /
フナ/コイ	背/腎鱗棘											1	
コイ科 (フナ以外)	咽頭骨	/ 1			1 /		2	3				1	
コイ科 (フナ以外)	咽頭歯			1								1	
コイ科	歯 骨						/ 1					/ 1	
コイ科	主鰓蓋骨	1 /		1 /									
コイ科	基後頭骨		1									1	1
コイ科	第1椎骨											2	2
コイ科	腹 椎		2		2			5		1		2	1
コイ科	尾 椎		6	2				3				2	2
ドジョウ科	歯 骨				1 /								
ドジョウ科	舌顎骨				1 /								
ドジョウ科	腹 椎	16			13								
ドジョウ科	尾 椎	4		1	2								
ギギ科	角 骨	2 / 1											
ギギ科	方 骨	/ 1											
ギギ科	擬鎖骨			/ 1									
ギギ科	腹 椎	4											
ギギ科	尾 椎	7			1								
ギギ科	胸鱗棘	1 / 1										1	
ダツ科	腹 椎				1								
ダツ科	尾 椎				1								
サヨリ属	方 骨				1 /								
サヨリ属	第1椎骨				2			1					
サヨリ属	腹 椎	3	2	1	5			1		5		2	1
サヨリ属	尾 椎		1	1	1	1							
ボラ科	涙 骨	1 /							/ 1				
ボラ科	角 骨		1 /										
ボラ科	第1椎骨		1										
ボラ科	腹 椎	3	4		3		3		2			1	
ボラ科	尾 椎	2	2		12		3		2			3	2
ボラ科	椎 骨			1		3							
スズキ	主鰓蓋骨		1 /										
スズキ属	耳 石				1		1						
スズキ属	主上顎骨		/ 3	/ 1	1 / 1	1 /	/ 1	/ 1		1 /		1 /	
スズキ属	前上顎骨			1 / 1	1 /	/ 1		1 /		1 /			
スズキ属	歯 骨		1 /	2 /	2 / 1	/ 2		1 /		1 /			
スズキ属	角 骨		1 /					1 /					
スズキ属	方 骨	1 /	1 / 1		/ 2	1 /				/ 1			
スズキ属	擬鎖骨		/ 1					2 /		2 /			
スズキ属	第1椎骨					1	1	2		1			
スズキ属	腹 椎	2	1	1	4	2	2	5		1			
スズキ属	尾 椎	1	3	1	1	2	2	3	2	1	1	1	1
ブリ属	方 骨	/ 1		/ 1		1 /							
ブリ属	第1椎骨					1							
ブリ属	腹 椎				9	8		1					
ブリ属	尾 椎				9	8							
アジ科	方 骨			1			1 /						
アジ科	腹 椎												
アジ科	尾 椎		1										
アジ科	稜鱗		1										
ウミタナゴ科	咽頭骨					1							
ウミタナゴ科	歯 骨				3	1				1 /			
ウミタナゴ科	腹 椎				6			3		1			
ウミタナゴ科	尾 椎		1					3		2			
クロダイ属	前上顎骨								/ 1				
クロダイ属	歯 骨							/ 1					
クロダイ属	犬歯					1							

(表12つづき)

種 類	部 位	31T	64T	64T	31T	54T	38T	63T	38T	64T	1G	3G	72T
		L IV 1	S3-⑤	S2-11Ba	S11	15層	A2	2層	L-III d	S2-3	S2-2	S1-2B	S1-1
		大木 5-6	大木 6-7a	大木 6-8a	大木 7a 古	大木 7a 新 -7b	大木 7a 新 -7b/9	大木 7b-8a	大木 9	網取II	大洞 BC	大洞 C2	大洞 C2
クロダイ属 クロダイ属 クロダイ属	角 骨 口蓋骨 第1髯鱗棘				/ 1	1 /		1					
タイ科? タイ科? タイ科?	白 歯 腹 椎 尾 椎	1		2		3		1 2		1			
サハ属 カツオ カツオ?	尾 椎 椎 骨 鱗 棘	1			1								
カツオ / マグロ類	尾椎 (尾柄部)		1		fr <5>								
ギンボ類	尾 椎						5						
ハゼ科 ハゼ科 ハゼ科 ハゼ科 ハゼ科 ハゼ科 ハゼ科 ハゼ科	主上顎骨 前上顎骨 歯 骨 角 骨 方 骨 主鰓蓋骨 第1椎骨 腹 椎 尾 椎	1 / 1 /			1 / 1 / 1 /		/ 1 / 1	1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 /					
ハゼ科類似種	第1椎骨	5			2		4	3	1	1		6	
メバル近似種	前上顎骨	1			2		5					4	
フサカサゴ科 フサカサゴ科 フサカサゴ科 フサカサゴ科 フサカサゴ科 フサカサゴ科 フサカサゴ科	涙 骨 前上顎骨 歯 骨 角 骨 方 骨 主鰓蓋骨 第1椎骨 腹 椎 尾 椎		/ 1 / 1	1 / 1	/ 1 / 1	2 / / 1	/ 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1		/ 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1				
アイナメ属 アイナメ属 アイナメ属 アイナメ属 アイナメ属 アイナメ属	主上顎骨 前上顎骨 歯 骨 方 骨 主鰓蓋骨 第1椎骨 腹 椎 尾 椎	1 1 1 1 1 1	2		3 4	3 6	3 8	2 1	2 1	1 3		3	
コチ コチ科 コチ科 コチ科 コチ科	前鰓蓋骨 主上顎骨 前上顎骨 歯 骨 腹 椎			1	1 / 1 /	1 / 1 /	1 / 1 /	1 / 1 /					
ヒラメ科 ヒラメ科	前上顎骨 尾 椎	1 / 1				1	1 /						
イシガレイ	楯 鱗					3							
マガレイ近似種	歯 骨						/ 1						
カレイ科 カレイ科 カレイ科 カレイ科 カレイ科 カレイ科	主上顎骨 前上顎骨 方 骨 主鰓蓋骨 腹 椎 尾 椎		1		1 / 1 /	/ 1 / 1		1 /	1 /			1 1	
ウシノシタ亜目	尾 椎		1			1					1	1	
フグ科 フグ科 フグ科 フグ科 フグ科 フグ科 フグ科	前上顎骨 歯 骨 前上顎骨 / 歯骨 角 骨 方 骨 舌顎骨 主鰓蓋骨 椎 骨			/ 1 1	/ 1 1 /	/ 1 / 1				1 / 1 /			
真骨類・未同定 真骨類・未同定 真骨類・未同定	歯 骨 顎 骨 椎 骨			1	2	1	1 / 3	1		2			
真骨類・保留 真骨類・保留 真骨類・保留 真骨類・保留	耳 石 歯 骨 第1椎骨 椎 骨		5		1		1 5	2		8			
真骨類・同定不可 真骨類・同定不可 真骨類・同定不可 真骨類・同定不可	前上顎骨 歯 骨 角 骨 椎 骨	4	11	1 8	17	1 47	1 28	1 31	1 9	1 7	1	4	
カエル類 カエル類 カエル類 カエル類 カエル類	上腕骨 橈尺骨 寛骨 椎 骨 椎骨 (尾椎直前)	3			6					2 / 1 / 2 9 / 1			
ヘビ類 カモ類 カモ類	椎 骨 腕 骨 脛 骨				1		/ 1			4 6		3	
鳥類・同定不可 鳥類・同定不可 鳥類・同定不可	脛 骨 指 骨 椎 骨					1 2						1 / / 1	
ネズミ亜科 ネズミ科 ネズミ科 ネズミ科	下顎骨 上顎切歯 下顎切歯 大腿骨		1 / 1 /							1 / 1 /			
食肉目・保留 食肉目・保留	切 歯 白 歯		1 1										
食肉目・同定不可 食肉目・同定不可	犬歯? 末節骨		1			2				1			
合 計		206	318	172	359	305	250	302	61	163	6	70	44

第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

表 13 浦尻貝塚の貝層サンプル 1mmメッシュで回収された脊椎動物遺体の同定結果

\*左右のある部位は左/右で示した。カニ類・ウニ類もあわせて示した。

種 類	部 位	31T	64T	64T	31T	54T	38T	63T	38T	64T	1G	3G	72T
		L IV 1	S3-⑤	S2-11Ba	S11	15層	A2	2層	L-III d	S2-3	S2-2	S1-2B	S1-1
		大木 5-6	大木 6-7a	大木 6-8a	大木 7a 古	大木 7a 新 -7b	大木 7a 新 -7b/9	大木 7b-8a	大木 9	網取 II	大洞 BC	大洞 C2	大洞 C2
メジロザメ科	下顎歯										1		1
サメ類 A	歯			1									
サメ類	歯	1											1
ガンギエイ属	歯									1			1
アカエイ科	歯	1	2				1	3	1	1			
板鰓類 B	椎骨					1							
板鰓類 C	椎骨					1							
板鰓類	椎骨		1	1	1	2	2	1	1	2	1		
マイワシ	主上顎骨	1 /	1 /	1 /		3 / 7				1 / 1			
マイワシ	歯骨					1 /							
マイワシ	角骨			/ 1		5 / 4							
マイワシ	方骨					5 / 5	/ 1			1 /			
マイワシ?	主鰓蓋骨					2 / 5							
マイワシ	基後頭骨			1		11			1				
マイワシ	第1椎骨	1		1	1	15		1		1			
マイワシ	第2椎骨		3		2	11				1			
サッパ	主上顎骨		2 / 2		/ 1						/ 1		
サッパ	歯骨		2 /		1 /					2 /			
サッパ	角骨		/ 1		/ 1								
サッパ	方骨		/ 1										
サッパ	基後頭骨		2		1								
サッパ	第1椎骨		1										
サッパ	第2椎骨		1		2							1	
サッパ/ニシン	主上顎骨			1 /									
ニシン	方骨						1 /						
コノシロ	歯骨		/ 1	1 /									
コノシロ	角骨		/ 1										
コノシロ	方骨		/ 2	/ 1				1 /					
コノシロ	基後頭骨				1					2			
コノシロ	第1椎骨		3	1						1			1
コノシロ	第2椎骨		1	1						1			
ニシン科	基後頭骨	1											
ニシン科	第2椎骨		1	1			1						
ニシン科	腹椎	10	53	32	13	175	17	26	5	26	2	5	2
ニシン科	尾椎	15	81	35	27	251	17	31	2	49	4	4	20
ニシン科	尾部棒状骨		2	1			1	1		2			
ニシン科 (極小)	腹椎			11	4							8	3
ニシン科 (極小)	尾椎			24	2			1				6	1
カタクチイワシ	主上顎骨									1 /			
カタクチイワシ	角骨	2 /				/ 3				1 /			
カタクチイワシ	方骨			/ 1		2 /	/ 2			/ 1			
カタクチイワシ	基後頭骨		2	1		3	3	1		1			
カタクチイワシ	第1椎骨	1	1	1	1	2	2		1	3			
カタクチイワシ	腹椎	16	31	23	3	24	52	13		34			
カタクチイワシ	尾椎	46	13	20	7	24	58	11		17			
カタクチイワシ	尾部棒状骨			1						1			
サケ科 (小)	腹椎												1
サケ科 (小)	尾椎				1								
サケ属?	椎骨破片	2	2										1
キュウリウオ科	腹椎	1	38	3	7		1	1	1		5	4	7
キュウリウオ科	尾椎	1	57	5	3	1	2			2	1	1	5
アユ	第1椎骨												
アユ	腹椎	2	2			2				15		1	
アユ	尾椎	3				1				12			
ウナギ属	前鋤骨板	4	1	3		3	1	7				1	
ウナギ属	主上顎骨	3 / 3		3 / 2	1	4 / 1	3 / 2	1 / 7	1	1 / 1			
ウナギ属	歯骨	5 / 9	2 /	2 / 3	1	7 / 3	5 /	2 / 3		/ 2		1 / 2	
ウナギ属	角骨	9 / 6	2 / 2	3 / 2	1	4 / 3	/ 2	2 / 4		3 / 3		/ 1	
ウナギ属	方骨	11 / 11	4 / 3	7 / 4	1	5 / 3	3 / 3	1 / 3	1	3 /		2 / 1	/ 1
ウナギ属	舌顎骨	4 / 5	1 / 1	1 / 8		2 / 4	/ 1	4 / 2		2 / 2		1 /	
ウナギ属	主鰓蓋骨	5 / 5	1 / 1	4 / 6	2	2 / 2		2 / 7					
ウナギ属	基後頭骨	11	2	6	1	7	1		1				
ウナギ属	第1椎骨		7	6	2			3		1			
ウナギ属	椎骨	723	154	498	127	327	205	444	42	133	1	44	17
アナゴ属	尾椎					1							
フナ	咽頭骨 (中央部)	8 / 12	3 / 6	2 / 1	1 /		/ 3	1 / 1		1 /			1 / 2
フナ	咽頭歯 (遊離歯)	6	2	1	1	1	3	1				3	2
フナ/コイ	鱭棘 (基部)		2										1
フナ/コイ	鱭棘 (先端)		4										
フナ/コイ	鱭棘 (破片)	2				1						1	5
コイ科 (フナ以外)	咽頭骨 (中央部)	1 /				/ 1							
コイ科 (フナ以外)	咽頭歯 (遊離歯)		3		2	2		2				3	2
コイ科	咽頭骨 (中央部)			1 /						/ 1			
コイ科	咽頭歯 (遊離歯)			4	1		1	2			1		
コイ科	主上顎骨		/ 1										
コイ科	前上顎骨		/ 1										
コイ科	歯骨	1 / 5	1 / 1		1 /								/ 1
コイ科	角骨	1 / 6	/ 3					/ 1		1 /			1 /
コイ科	方骨	3 /	1 /			/ 2							

(表13つづき)

種類	部位	31T	64T	64T	31T	54T	38T	63T	38T	64T	1G	3G	72T
		L IV 1	S3-⑤	S2-11Ba	S11	15層	A2	2層	L-III d	S2-3	S2-2	S1-2B	S1-1
		大木 5-6	大木 6-7a	大木 6-8a	大木 7a 古	大木 7a 新 -7b	大木 7a 新 -7b/9	大木 7b-8a	大木 9	網取II	大洞 BC	大洞 C2	大洞 C2
コイ科	舌顎骨	/ 2											
コイ科	主鰓蓋骨	/ 1	/ 3		2			1		1			2
コイ科	第1椎骨	6	3	1	2	2				1			
コイ科	第2椎骨	1											
コイ科	第3椎骨	4				1							
コイ科	第4椎骨	3											
コイ科	腹椎	41	45	10	14	5	7	6	1	4			6
コイ科?	尾椎	32	24	17	4	7	2	5	1	3		1	2
ドジョウ科	咽頭骨(中央部)	8 / 6											
ドジョウ科	歯骨	3 / 3			1 /					1 / 1			
ドジョウ科	角骨	1 / 2											
ドジョウ科	方骨	1 / 4											
ドジョウ科	舌顎骨	/ 4								/ 1			
ドジョウ科	主鰓蓋骨	4 / 2								/ 2			
ドジョウ科	基後頭骨	5											
ドジョウ科	腹椎	147	2	7	7	4	3	4		43			
ドジョウ科	尾椎	69		4	1	1		2		14			
ギギ科	歯骨	/ 1											
ギギ科	角骨	1 /											
ギギ科	方骨	1 /											
ギギ科	主鰓蓋骨	1 /											
ギギ科	腹椎	3	1										
ギギ科	尾椎	27				2				1			
ギギ科	胸鰭棘	1 /		1		1	1	1					
グツ科	歯骨破片		1										
グツ科	腹椎											1	
サヨリ属	第1椎骨			1		1						1	
サヨリ属	腹椎	3	10	2	3	3	7	2		3		1	
サヨリ属	尾椎	2	6	1	2	1				2		1	
ボラ科	主上顎骨	/ 1	/ 1										
ボラ科	角骨	/ 1			/ 1	/ 1							
ボラ科	方骨	2 /	/ 1	/ 3	1 /	1 /	2 /	1 /				/ 1	
ボラ科	腹椎	9	3	8	8	8	5	4			1	2	1
ボラ科	尾椎	14	4	8	4	17	7	2					5
スズキ属	主上顎骨	/ 1		/ 1						/ 1			
スズキ属	方骨			/ 1									
スズキ属	腹椎	1			1	1							1
スズキ属?	尾椎	1											
ブリ属	方骨					/ 1							
アジ科	主上顎骨									1 /			
アジ科	角骨									/ 1			
アジ科	腹椎	1		1						1			
アジ科	稜鱗		3			1	1	1					
ウミタナゴ科	前上顎骨				/ 1								
ウミタナゴ科	腹椎		1		1			1			1		
ウミタナゴ科	尾椎				3			2		1			
クロダイ属	犬歯			2						1		1	1
クロダイ属	方骨					/ 1		1 /					
タイ科?	臼歯	10		18		5	9			17	8	3	18
タイ科?	尾椎									1			
サバ属	前上顎骨	/ 1											
サバ属	腹椎		1			1	1						
サバ属	尾椎			1									
ナガツカ類似種	歯骨					/ 1							
ナガツカ類似種	主鰓蓋骨					/ 1							
ナガツカ類似種	腹椎			5									
ナガツカ類似種	尾椎			4		5							
ギンボ類	主上顎骨			1 /									
ギンボ類	腹椎					1				2			
ギンボ類	尾椎			8	3	1	2	4		10		1	
ハゼ科	主上顎骨	1 / 4	/ 1	1 / 2	1 /	2 / 3	2 / 3	1 / 1	1 / 1	1 / 1			1 /
ハゼ科	前上顎骨	4 / 10		6 / 8		3 / 4	6 / 13	3 / 2		/ 1			
ハゼ科	歯骨	3 / 9	1 /	6 / 12		2 / 2	7 / 7	2 / 4	1 /	1 /		2 /	
ハゼ科	角骨	2 / 1	1 /	8 / 5		5 / 2	6 / 6			2 / 2			
ハゼ科	方骨	4 / 7		6 / 6		3 / 2	8 / 5	5 / 1				1 /	
ハゼ科	主鰓蓋骨	1 / 4		2 / 1		/ 1	3 / 3	/ 3		1 /			
ハゼ科	第1椎骨	10	3	11	1	7	13	6				2	
ハゼ科	腹椎	49	9	66	10	33	85	44	4	10		2	2
ハゼ科	尾椎	50	10	94	7	29	78	30	3	9	1	4	1
ハゼ科類似種	主上顎骨					/ 1							
ハゼ科類似種	前上顎骨	/ 1										1 /	
ハゼ科類似種	角骨			1 /									
ハゼ科近似種	方骨	1 / 1										1 /	
ハゼ科類似種	第1椎骨				1					1			
ハゼ科類似種	腹椎		5	10	2	4	4			4		2	4
メバル近似種	前上顎骨						/ 2			1 /			
フサカサゴ科	主上顎骨									1 /			
フサカサゴ科	前上顎骨		/ 1		/ 1								
フサカサゴ科	歯骨			/ 2			1 /						

第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

(表13つづき)

種 類	部 位	31T	64T	64T	31T	54T	38T	63T	38T	64T	1G	3G	72T
		L IV 1	S3-⑤	S2-11Ba	S11	15層	A2	2層	L-III d	S2-3	S2-2	S1-2B	S1-1
		大木 5-6	大木 6-7a	大木 6-8a	大木 7a 古	大木 7a 新 -7b	大木 7a 新 -7b/9	大木 7b-8a	大木 9	網取 II	大洞 BC	大洞 C2	大洞 C2
フサカサゴ科?	角 骨			2 / 2		1 /	/ 1	/ 1	/ 1				
フサカサゴ科	方 骨	1		1 /			1 /						
フサカサゴ科	主鰓蓋骨									/ 1			
フサカサゴ科	第1椎骨					1							
フサカサゴ科	腹 椎	1		2	1	1	7	2		5			
フサカサゴ科?	尾 椎	3	1	2	4	4	6	1	1	2			
アイナメ属	主上顎骨					1 /							
アイナメ属	方 骨		1 /	/ 1									
アイナメ属	腹 椎												
アイナメ属	尾 椎				1							2	
イシガレイ	楯 鱗			1		2	1	1					
カレイ科	主上顎骨											1 /	
カレイ科	前上顎骨									1 /			
カレイ科	角 骨											/ 1	
カレイ科	主鰓蓋骨											/ 1	
カレイ科	腹 椎	1		1								2	
カレイ科	尾 椎			3		1	2	2	1	3	1	3	
カレイ科	第1血管間棘												
ササウシノシタ亜目	尾 椎					1		1					
フグ科	歯 骨			/ 1						1 /			
フグ科	方 骨											1 /	
フグ科	舌顎骨			1 /									
フグ科	椎 骨		1						1			4	
フグ科?	鱗棘?								1				
真骨類・未同定	涙骨?	1											
真骨類・未同定	主上顎骨			2 /		/ 2	/ 1			/ 1			
真骨類・未同定	歯 骨			2 / 1			/ 1					/ 1	
真骨類・未同定	角 骨		1	1 / 1		1 /						/ 1	
真骨類・未同定	方 骨						2 /			1 / 1		/ 1	
真骨類・未同定	主鰓蓋骨			1 /			/ 1						
真骨類・未同定	椎 骨	1	2	8		8	8	1	2	4			
真骨類・保留	前上顎骨?											/ 1	
真骨類・保留	方 骨							1 /					
真骨類・保留	椎 骨		15	20	6			7		5		2	
真骨類・同定不可	主上顎骨	1 /											
真骨類・同定不可	主鰓蓋骨	1 / 1											
真骨類・同定不可	椎 骨	193	61	59	57	50	77	51	11	43	5	12	
カエル類	顎骨破片									2			
カエル類	椎 骨	2			1								
カエル類	椎骨(尾椎直前)									9			
カエル類	尾 椎									3			
カエル類	上腕骨	2								2 /			
カエル類	橈尺骨	2								14 / 8			
カエル類	寛 骨									9 / 11			
ヘビ類	椎 骨						1	1		24		1	
鳥類・保留	中手骨							1					
鳥類・同定不可	中手骨									1			
ネズミ亜科	白 歯		1					1		1			
ハタネズミ亜科	白 歯										1		
ネズミ科	上顎切歯									1 / 1			
ネズミ科	上腕骨									1 / 2			
ネズミ科	尺 骨									1			
ネズミ科	脛 骨									2 /			
コウモリ類	上顎 M1/M2									/ 1			
食肉目・保留	切 歯							1					
食肉目・保留	末節骨		1										
ヒト?保留	切 歯							1					
カニ類	鉗 脚			3						4			
ウニ類	棘						多						
合計		1766	742	1204	371	1200	813	814	90	647	36	151	165

表 14 浦尻貝塚の貝層サンプルから 2.5mm・1mmメッシュで回収された脊椎動物遺体の組成(1): 同定標本数 (NISP)

種 類	31T L IV 1	64T S3-⑤	64T S2-11Ba	31T S11	54T 15層	38T A2	63T 2層	38T L-III d	64T S2-3	1G S2-2	3G S1-2B	72T S1-1
	大木 5-6	大木 6-7a	大木 6-8a	大木 7a 古	大木 7a 新-7b	大木 7a 新 -7b/9	大木 7b-8a	大木 9	網取 II	大洞 BC	大洞 C2	大洞 C2
メジロザメ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
サメ類 A	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サメ類	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
トビエイ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ガンギエイ属	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
アカエイ科	1	2	0	0	0	1	3	1	1	0	0	0
エイ目	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1
板鰐類	0	2	5	3	9	4	4	2	2	2	1	1
マイワシ	2	5	4	3	75	3	2	1	5	0	0	0
サッパ	0	12	0	6	0	0	0	0	2	1	1	0
サッパ/ニシン	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ニシン	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	2
コノシロ	0	10	5	2	0	0	5	0	5	0	0	2
ニシン科	29	221	117	67	440	44	124	11	112	6	26	31
カタクチイワシ	65	47	47	11	56	117	25	1	59	0	0	0
サケ科 (小)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
サケ属?	3	7	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
キュウリウオ科	2	95	8	10	1	3	1	1	0	7	5	12
アユ	5	2	0	0	4	0	0	0	29	0	1	0
ウナギ属	943	190	666	311	524	368	640	76	196	1	75	26
アナゴ属	0	134	1	6	3	0	0	0	0	0	0	0
フナ	21	11	3	2	0	3	2	0	1	0	1	4
フナ/コイ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
コイ科 (フナ以外)	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
コイ科	108	91	32	23	17	10	21	2	11	0	7	16
ドジョウ科	279	2	12	26	5	3	6	0	63	0	0	0
ギギ科	52	1	2	1	3	1	1	0	1	0	0	0
ダツ科	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0
サヨリ属	8	19	6	14	6	7	4	0	10	0	5	1
ボラ科	33	17	20	29	30	20	9	3	0	1	7	8
スズキ属	6	13	9	15	9	8	17	2	7	1	2	2
ブリ属	1	0	1	18	19	0	1	0	0	0	0	0
アジ科	1	1	2	0	0	1	0	0	3	0	0	0
ウミタナゴ科	0	2	0	14	2	0	7	0	5	1	0	0
クロダイ属	0	0	0	1	2	0	3	1	0	0	0	0
タイ科?	0	0	2	0	3	0	3	0	1	0	0	0
サハ属	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
カツオ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カツオ/マグロ類	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ナガツカ類似種	0	0	9	0	7	0	0	0	0	0	0	0
ギンボ類	0	0	9	3	2	7	4	0	12	0	1	0
ハゼ科	167	28	239	26	99	256	110	13	30	1	21	7
ハゼ科類似種	3	5	11	4	5	4	0	0	5	0	4	4
メバル近似種	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0
フサカサゴ科	7	8	15	15	22	29	8	7	15	0	3	1
アイナメ属	0	1	1	12	9	6	1	1	5	1	4	10
コチ科	0	0	1	2	4	0	1	0	0	0	0	0
ヒラメ科	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
マガレイ近似種	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
カレイ科	1	3	5	2	7	3	3	2	6	2	10	7
ササウシノシタ亜目	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0
フグ科	0	8	5	3	2	0	0	1	5	0	5	0
真骨類・未同定	2	3	17	2	12	17	2	2	9	0	2	0
真骨類・同定不可	200	92	88	81	99	123	93	20	64	6	19	34
カエル類	9	0	0	7	0	0	0	0	77	0	0	0
ヘビ類	0	0	0	1	0	1	1	0	30	0	4	3
カモ類	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
鳥類・同定不可	0	0	0	0	3	0	1	0	1	0	1	0
ネズミ亜科	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
ハタネズミ亜科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
ネズミ科	0	1	0	1	0	0	0	0	10	0	0	0
コウモリ類	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
食肉目・同定不可	0	4	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0
ヒト?保留	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
カニ類	0	0	3	0	0	0	0	0	4	0	0	0
ウニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1953	1047	1349	726	1488	1046	1106	150	793	32	209	180



第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

表 15 浦尻貝塚の貝層サンプルから2.5mm・1mmメッシュで回収された脊椎動物遺体の組成(2)：最小個体数(MNI)

種 類	31T L IV 1	64T S3-⑤	64T S2-11Ba	31T S11	54T 15層	38T A2	63T 2層	38T L-Ⅲ d	64T S2-3	1G S2-2	3G S1-2B	72T S1-1
	大木 5-6	大木 6-7a	大木 6-8a	大木 7a 古	大木 7a 新-7b	大木 7a 新 -7b/9	大木 7b-8a	大木 9	網取Ⅱ	大洞 BC	大洞 C2	大洞 C2
メジロザメ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
サメ類 A	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サメ類	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
トビエイ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ガンギエイ属	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
アカエイ科	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0
板鰓類	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-
マイワシ	1	3	1	2	11	1	1	1	1	0	0	0
サッパ	0	2	0	2	0	0	0	0	2	1	1	0
ニシン	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
コノシロ	0	3	2	1	0	0	2	0	2	0	0	1
ニシン科(極小)	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	-	1
カタクチイワシ	2	2	1	1	3	3	1	1	3	0	0	0
サケ科(小)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
サケ属?	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
キュウリウオ科	1	2	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1
アユ	1	1	0	0	1	0	0	0	2		1	0
ウナギ属	11	7	9	4	9	6	12	2	5	1	3	1
アナゴ属		1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
フナ	12	7	2	1	0	3	1	0	1	0	1	<2>
コイ科(フナ以外)	1	0	0	1	<1>	0	0	0	0	0	0	0
コイ科	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	3
ドジョウ科	8	1	1	2	1	1	1	0	2	0	0	0
ギギ科	3	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0
ダツ科	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
サヨリ属	1	1	1	2	1	1	1	0	1	0	1	1
ボラ科	2	1	3	1	1	2	1	1	0	1	1	1
スズキ属	1	3	2	2	2	1	2	1	2	1	1	1
ブリ属	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0
アジ科	1	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0
ウミタナゴ科	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0
クロダイ属	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0
タイ科?	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
サハ属	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
カツオ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カツオ/マグロ類	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ナガツカ類似種	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ギンボ類	0	0	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0
ハゼ科	10	3	12	1	7	13	7	3	2	1	2	1
ハゼ科類似種	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	1	1
メバル近似種	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0
フサカサゴ科	1	1	3	2	2	-	1	1	1	0	1	1
アイナメ属	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
コチ科	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0
ヒラメ科	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
マガレイ近似種	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
カレイ科	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1	1	1
ササウシノシタ亜目	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
フグ科	0	1	2	1	1	0	0	1	1	0	1	0
カエル類	1	0	0	1	0	0	0	0	18	0	0	0
ヘビ類	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1
カモ類	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
鳥類・保留	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
ネズミ亜科	0	1	0	0	0	0	1	0	<1>	0	0	0
ハタネズミ亜科	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
ネズミ科	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
コウモリ類	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
合 計	64	53	55	42	59	46	45	18	60	11	22	23

表 16 浦尻貝塚貝層サンプル 2.5mm・1mmメッシュで回収された魚類遺体（詳細な同定を行った以外の資料）の概要観察結果

\*数値を示したもののうち、「2+13」のように示したものは「頭骨部位数+椎骨数」、他の数値は椎骨数を示す。

\*略号で示したものは、+:まれ, R:少ない, C:普通, A:多い, VA:非常に多い, C/R, C/AはそれぞれCとR, CとAの中間を示す。

種 類	31T S17		54T 30層		31T S7		54T 2層		64T S2-9	
	大木 5-6		大木 6-7a 古		大木 7a 古		大木 7a 新 -7b		網取Ⅱ	
	2.5mm	1mm	2.5mm	1mm	2.5mm	1mm	2.5mm	1mm	2.5mm	1mm
メジロザメ科				+						
カスザメ属			+	+						
サメ類			+		1		1			
トビエイ科			+						+	
ガンギエイ属?								1?		
アカエイ科		+		+		1				
板鰐類		+	C			3	2		3	2
マイワシ								2		1
サッパ		+		+		1				1
コノシロ			+	C?		2				1
ニシン科	+	C	A	A	11	29	1	32	C	A
カタクチイワシ		C		C		1		22		C
サケ科			+			1?				
キュウリウオ科				+		1		2		1
アユ								1?		1
ウナギ属	C	VA	A	VA	25	3+A	3+A	8+A	A	A
アナゴ属			+		1+1		1+1?	1?	1	
フナ		+	+	C		1	1?	2		
コイ科 (フナ以外)			?	+						+(ウグイ?)
コイ科		C	C	C		3	1	2+13	3	3
ドジョウ科		C/A		+		1		15		2
ギギ科		+								
ダツ科			+						1	1
サヨリ属		+	C	C		2		1	7	4
ボラ科		+	C/R	C	2	2	10	19		2
スズキ属			A		1+6	1	2+2		2+1	2
ブリ属			C/R		9	1	2		1?	
アジ科				+						
ウミナタゴ科		+	+	+	5	4	2		1	2
クロダイ属			+	+			1	1+		
ベラ科					1+					
サハ属			C/R	+						
カツオ					1?+fr1			2		
マグロ属			+ 若							
ナガスカ類似種		+						4		
ニシキギンボ科		+		+		1		3	3	C/R
ハゼ科	+	C	C/R	C/A		13	1	7+97	12	C
ハゼ科類似種				+		5				3
メバル近似種				+				1		
フサカサゴ科			+	+		3	1+8	7	1+1	4
オコゼ類?										
アイナメ属		+	C/R		1		1+2			
コチ科			+						+	
ヒラメ科			+						1	
カレイ科			+		1?		6		6	3
フグ科			+				1+0		+	
微小椎骨の量		C		C		+		A		A
微小椎骨の内容		ハゼ科 ニシン科 カタクチイワシ コイ科		ハゼ科 ニシン科 カタクチイワシ キュウリウオ科		ハゼ科 ハゼ科類似種		ハゼ科 A カタクチイワシ ニシン科 キュウリウオ科 コイ科 ハゼ科類似種 フサカサゴ科		ニシン科 A カタクチイワシ コイ科 ハゼ科 ハゼ科類似種 ギンボ類 キュウリウオ科 カレイ科











表 19 浦尻貝塚西向貝層における現地採集および水洗 5mmメッシュで回収された魚類遺体の同定結果

\*左右のある部位は左/右で示した。

種類	部位	64T												
		Ⅲ-3層 上面	Ⅲ-3層 (a)-S1	Ⅲ-3層 (a)-S2	Ⅲ-3層 (c)-S1	Ⅲ-3層 (c)-S2	S2一括	S3一括	S3-1~13	S3-14~ 18	S3-19~ 21	Ⅲ-3層 (b)-S4	Ⅲ-3層 (c)-S4	S4一括
		大6- 網取Ⅱ	網取Ⅱ	網取Ⅱ	大6-8a	大6-8a	大6- 網取Ⅱ	大4-7a	大7a古	大6	大46	大7a新 -7b	大6-7a	大6-7b
カスザメ属	椎骨	1								1				
サメ類	椎骨	3	8		1								1	
トビエイ科	歯	4	4	2										
エイ目	椎骨		2							1				
エイ目	尾棘			1										
板鰓類	椎骨	5	3	4		2		3			2		6	
コノシロ	第2椎骨			1										
ニシン科	腹椎		8	1					1					
ニシン科	尾椎	1	20	21								1		
カタクチイワシ	尾椎			1										
ウナギ属	主上顎骨											1 /		
ウナギ属	歯骨	1 / 2		1 /										
ウナギ属	方骨									1 /				
ウナギ属	舌顎骨		2 /	/ 1										
ウナギ属	腹椎		6	7					2	1				
ウナギ属	尾椎	2	17	7								3		
アナゴ科	歯骨	1 / 1												
アナゴ科	腹椎			1										
アナゴ科	尾椎			1										
サケ属	椎骨								1					
サケ属?	椎骨破片								1					
フナ	主鰓蓋骨								/ 1					
コイ科	角骨		/ 1										/ 1	
コイ科	腹椎		4	2				1	7		1			
コイ科	尾椎	3	3	2	2			2	8	4	1	2		
サヨリ属	腹椎		1	3								1		
サヨリ属	尾椎			1										
ダツ科	腹椎	1	6	2					1					
ダツ科	尾椎		1						1					
ボラ科	方骨		1 /											
ボラ科	舌顎骨	/ 1												
ボラ科	主鰓蓋骨	1 /							/ 1					
ボラ科	腹椎	2		1					2	1				
ボラ科	尾椎			2								1		
カマス属	腹椎			1										
スズキ	主鰓蓋骨	30 / 41	4 / 3	2 / 3		1 /	1 /	1 /	6 / 6	8 / 8		3 /	/ 2	
スズキ属	主上顎骨	10 / 8	4 / 4	4 / 2	/ 2				3 / 3	4 / 4	1 / 1	/ 1		
スズキ属	前上顎骨	11 / 8	2 / 3	5 / 3		2 /		1 /	8 / 10	4 / 6		1 / 1	/ 1	
スズキ属	歯骨	17 / 11	3 / 2	1 / 1	2 / 1	2 / 1		1 /	6 / 8	1 / 2	1 / 1	/ 1		
スズキ属	角骨	5 / 9	3 / 4	3 /				1 / 1	/ 3	3 / 3	1 /			
スズキ属	方骨	5 / 7	3 / 2	2 / 1	1 / 2			/ 2	4 / 5	3 / 2				
スズキ属	前鰓蓋骨	5 / 4	/ 1	/ 3					4 / 1	2 / 1				
スズキ属	擬鎖骨	8 / 4	2 / 1	1 / 1			1		2 / 3	2 / 1				
スズキ属	第1椎骨		1	1						3				
スズキ属	腹椎	5	4	2		2		1	8	4		1		
スズキ属	尾椎	11	12	12	2			5	18	11		11		
アジ科	主上顎骨		/ 1											
ブリ属	歯骨	/ 1												
ブリ属	第1椎骨	1	1									1		
ブリ属	腹椎	6	1	5		3			3			3	1	
ブリ属	尾椎	7	2	7		3	1		4			6		
ニベ科	腹椎			2										
ニベ科	尾椎	1												
クロダイ属	主上顎骨	4 / 5	/ 1	/ 2					1 / 2	1 / 2				
クロダイ属	前上顎骨	9 / 16	3 / 4	1 / 1				/ 1	2 / 2	2 / 4	/ 1	1 /		
クロダイ属	歯骨	9 / 4	4 / 2	2 / 1	1 /			1 /	4 / 5	3 / 3				
クロダイ属	角骨	2 / 2	1 / 2					1 /	1 / 1	1 /				
クロダイ属	方骨	1 / 2	2 / 1	1 /						1 / 1	1 / 1			
クロダイ属	口蓋骨	2 / 4	1 /					1 /	1 /	2 /				
クロダイ属	主鰓蓋骨	1 /	3 /							/ 1				
マダイ	前頭骨								1					
マダイ	上後頭骨	1							1					
マダイ亜科	前上顎骨								/ 1					
マダイ亜科	方骨											1 /		
マダイ亜科	口蓋骨								1 /					
タイ科	前鰓蓋骨	2	1	1				1	1					
タイ科	第1椎骨			1					1	2				
タイ科	腹椎	3	4						3	6	2	1		
タイ科	尾椎	12	7	5					2	7			1	
サバ属	腹椎		1											
カツオ	腹椎			1		2			3	4		2	1	
カツオ	尾椎	9								11	3	2		
ハゼ科	主上顎骨			/ 1										
ハゼ科	前上顎骨		1 /											
ハゼ科	歯骨		/ 1											
ハゼ科	角骨			/ 1										
ハゼ科	第1椎骨			1										
ハゼ科	腹椎		1											
ハゼ科	尾椎		1											



第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

(表19つづき)

種類	部位	64T												
		Ⅲ-3層 上面	Ⅲ-3層 (a)-S1	Ⅲ-3層 (a)-S2	Ⅲ-3層 (c)-S1	Ⅲ-3層 (c)-S2	S2一括	S3一括	S3-1～13	S3-14～ 18	S3-19～ 21	Ⅲ-3層 (b)-S4	Ⅲ-3層 (c)-S4	S4一括
		大6- 網取Ⅱ	網取Ⅱ	網取Ⅱ	大6-8a	大6-8a	大6- 網取Ⅱ	大4-7a	大7a古	大6	大4-6	大7a新 -7b	大6-7a	大6-7b
フサカサゴ科	主上顎骨	/ 1	1 /											
フサカサゴ科	角骨	/ 1	/ 1					/ 1	/ 1					
フサカサゴ科	方骨		1 / 1			/ 1						/ 1		
フサカサゴ科	主鰓蓋骨			/ 1										
フサカサゴ科	擬鎖骨	/ 2												
フサカサゴ科	第1椎骨			1						1		1		
フサカサゴ科	腹椎	1	1	4		1								
フサカサゴ科	尾椎			2		1			1					
アイナメ属	主上顎骨		1 /											
アイナメ属	第1椎骨					1								
アイナメ属	腹椎							1						
アイナメ属	尾椎		1	1							1			
コチ	前鰓蓋骨	/ 3	1 /	/ 1										
コチ科	主上顎骨	/ 2												
コチ科	前上顎骨	1 / 3	1 /											
コチ科	歯骨	1 / 1	1 / 5											
コチ科	角骨	1 / 1	1 / 1			1 /								
コチ科	方骨		3 / 1											
コチ科	腹椎	1	2						1					
コチ科	尾椎	3	9	2										
ヒラメ科	歯骨										/ 1			
ヒラメ科	角骨	1 /												
ヒラメ科	方骨	1 /												
ヒラメ科	擬鎖骨		1 /	/ 1		/ 1								
ヒラメ科	第1椎骨	1		1										
ヒラメ科	腹椎					1			2					
ヒラメ科	尾椎	8	6	4		1			5	8		2		
カレイ科	主上顎骨	1 /	1 /											
カレイ科	前上顎骨	/ 1		/ 1										
カレイ科	角骨	1 / 1	/ 1											
カレイ科	方骨	1 / 1		1 /										
カレイ科	前鰓蓋骨	2 / 1												
カレイ科	第1椎骨										1			
カレイ科	腹椎		1	2						2	1			
カレイ科	尾椎	12	24	25	1	1	1	1	3	7	1	4	3	
ウシノシタ亜目	歯骨		1 /											
ウシノシタ亜目	尾椎		2											
フグ科	前上顎骨	3 /	5 / 7	/ 3					1 / 1	1 /				
フグ科	歯骨	2 / 2	5 / 3	2 / 3					3 / 1	/ 1		/ 2	/ 1	
フグ科	角骨	1 /		1 / 1					1 / 1			/ 1	/ 1	
フグ科	方骨			1 /		/ 1			1 /					
フグ科	舌顎骨			/ 1										
フグ科	主鰓蓋骨	/ 1	1 / 2	/ 3							1 /			
フグ科	椎骨	1	6	4		1				1				
魚類・同定不可	椎骨	8												
合計		405	289	208	15	29	4	28	196	139	22	55	20	2

表 20 浦尻貝塚小迫貝層における現地採集および水洗 5mmメッシュで回収された魚類遺体の同定結果

\*左右のある部位は左/右で示した。

種 名	部 位	72T			1G			2G	3G		4G	IV区
		Ⅲ層上面	S1	S2	Ⅲ層上面	S1	S2	-	Ⅲ層上面	S1	-	サブトレ1
		大洞 BC-C2	大洞 BC-C2	大洞 C2	大洞 BC-C2	大洞 BC	大洞 BC	大洞 BC-C2	大洞 BC-C2	大洞 BC	大洞 BC-C2	大洞 B-C2
ネズミザメ科	椎 骨	1									4	
ネズミザメ科	椎骨破片	1									1	
カスザメ属	椎 骨	10							1			
サメ類	椎 骨	4			2				3		1	
トビエイ科	歯	7	2						3			
エイ目	尾 棘					1						
板鰐類	椎 骨	14	18	3	2	3			4	5		
ニシン科	尾 椎											1
ウナギ属	歯 骨								1 /			
ウナギ属	舌顎骨								1			
ウナギ属	腹 椎	1										
ウナギ属	尾 椎	1										
フナ	咽頭骨				/ 1							
フナ	主鰓蓋骨	2 / 5		3 /	1 / 1				5 / 3	4 / 4		
コイ科	咽頭骨									1		
コイ科	歯 骨									1 /		
コイ科	前鰓蓋骨				2 / 1				/ 1			
コイ科	主鰓蓋骨	1 /										
コイ科	腹 椎	4								2		
コイ科	尾 椎	1							1	1		
ダツ科	腹 椎	2										
ダツ科	尾 椎	1										
ボラ科	主鰓蓋骨	3 / 4							4 /	3 / 3		1 /
ボラ科	腹 椎								1	2		1
ボラ科	尾 椎	2		1		1			1	1		
スズキ	主鰓蓋骨	/ 2				1 /						
スズキ属	主上顎骨	1 / 2				/ 1			1 /			
スズキ属	前上顎骨	/ 1		1 /								
スズキ属	歯 骨	/ 2	1 /			/ 1				/ 1		
スズキ属	角 骨	1 /			/ 1							
スズキ属	方 骨	/ 1								1 /		
スズキ属	前鰓蓋骨								1 /			
スズキ属	擬鎖骨									1 /		
スズキ属	第1椎骨									1		
スズキ属	腹 椎				1				1			
スズキ属	尾 椎	1										
クロダイ属	前上顎骨	3 /		1 /		2 / 1		/ 1				
クロダイ属	歯 骨	/ 1				1 /						
クロダイ属	角 骨	2 /										
クロダイ属	第2腎臓棘				1							
マダイ亜科	主上顎骨	1 / 1										
マダイ亜科	前上顎骨	1 / 1									2 / 1	
マダイ亜科	歯 骨	/ 1			1 /						1 /	
マダイ亜科	角 骨	1 /									/ 1	
マダイ亜科	主鰓蓋骨	1 /										
タイ科	顎骨破片						1					
タイ科?	歯											18
タイ科	前鰓蓋骨	1										
タイ科	尾 椎					1						
ハゼ科	腹 椎									1		
フサカサゴ科	歯 骨				1 /					/ 1		
フサカサゴ科	前鰓蓋骨											
フサカサゴ科	主鰓蓋骨	1 /								/ 1		
フサカサゴ科	第1椎骨									1		
フサカサゴ科	腹 椎					1				3		
フサカサゴ科	尾 椎	1										
アイナメ属	主上顎骨			/ 1						1 /		
アイナメ属	角 骨									/ 2		
アイナメ属	第1椎骨								1			
アイナメ属	腹 椎				1					6		
アイナメ属	尾 椎	1										
コチ科	腹 椎									1		
ヒラメ科	前鰓蓋骨	1 /										
ヒラメ科	尾 椎					1						
カレイ科	尾 椎	2		1								
フグ科	前上顎骨	2 / 3				2 /					1 /	
フグ科	歯 骨	/ 1				/ 1					1 /	
フグ科	方 骨					/ 1						
フグ科	舌顎骨	1 /										
フグ科	主鰓蓋骨	/ 2										
魚類・同定不可	椎 骨					1						
合 計		104	21	11	18	18	1	1	27	54	13	21

第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

表21 浦尻貝塚台ノ前南貝層における現地採集および水洗5mmメッシュで回収された爬虫類・哺乳類遺体の同定結果

\* 残存位置の凡例：w 完存, p 近位端, m 骨幹, d 遠位端, fr 破片。(p)・(d)は未癒合の骨端のみ、(p)・(d)は骨端未癒合脱落、<p>・<d>は骨端のみ欠損、左右のある部位は左/右で示した。

種 類	部 位	残存位置	31T							38T		
			L III 大7a 古	L III C 大7a 古	L IV 大5-6	L IV 2 大5-6	S4~8 大7a 古	S9~14 大7a 古	S17~18 大5-6	*ツル 大5-7a 古	L III d~f 大9	L III g 大7a新-7b
ヘビ亜目	椎 骨					3						
ムササビ	下顎 I										1 /	
キツネ	下顎 M1											
タヌキ	切歯骨	表27参照										
タヌキ	上顎骨	表27参照					/ 1	1 /				
タヌキ	上顎遊離歯	表27参照			1							
タヌキ	下顎骨	表27参照			1 /				/ 1		1	
タヌキ	下顎遊離歯	表27参照										
タヌキ	軸 椎											
タヌキ	大腿骨	<d>					1 /					
タヌキ	脛 骨	d										/ 1
テ ン	下顎骨	表28参照										
アナグマ?	肩甲骨	関節部									/ 1	
カワウソ?	下顎骨	表28参照			/ 1							
イノシシ	側頭骨	岩椽部									/ 1	
イノシシ	上顎骨	表25参照										/ 1
イノシシ	上顎遊離歯	表25参照					2					
イノシシ	下顎骨	表25参照	1 / 2	1 / 2								
イノシシ	下顎遊離歯	表25参照									2	1
イノシシ	環 椎	椎体 fr										
イノシシ	軸 椎	椎体 fr										
イノシシ	肩甲骨	p-m										
イノシシ	橈 骨	<p>										
イノシシ	橈 骨	(d)										
イノシシ	尺 骨	滑車切痕										
イノシシ	第3中手骨	p-d										
イノシシ	第5中手骨	p-d										
イノシシ	脛 骨	d						1 /				
イノシシ	中手・中足骨	(d)	1									
イノシシ	基節骨		1									
イノシシ	中節骨				1						1	
イノシシ	末節骨										1	
シカ	前頭骨	角座部	1 /									
シカ	前頭骨	角座部+角				1						
シカ	角	角座(落角)										
シカ	角	fr					2	2	2		1	2
シカ	側頭骨	岩椽部	1 / 1									
シカ	後頭骨	後頭顆	1									
シカ	頭蓋底		2									
シカ	頰 骨											
シカ	上顎骨	表26参照										
シカ	上顎遊離歯	表26参照	1		1					1	1	
シカ	下顎骨	表26参照						2 /				
シカ	下顎遊離歯	表26参照						1				
シカ	環 椎	椎体 fr	1									
シカ	頸 椎	椎体 fr	1									
シカ	肩甲骨	関節部									/ 1	
シカ	肩甲骨	肩甲棘										
シカ	上腕骨	p	1 /									
シカ	橈 骨	(d)									/ 1	
シカ	中手骨	p						2 /				
シカ	中手骨	d										
シカ	寛 骨	寛骨臼~恥骨	1 /									
シカ	大腿骨	<d>										
シカ	脛 骨	<d>										
シカ	距 骨	-										
シカ	踵 骨											
シカ	中央第4足根骨	p-d										
シカ	中足骨	p	/ 1									
シカ	中手・中足骨	<d>									1	
シカ	基節骨										1	
シカ	中節骨											
シカ	末節骨		1		1		1					
シカ/イノシシ	胸 椎	棘突起	1									
シカ/イノシシ	腰 椎	椎 体						1				
シカ/イノシシ	腰 椎	椎体 fr										
シカ/イノシシ	腰 椎	棘突起									1	
シカ/イノシシ	尾 椎	椎 体										
シカ/イノシシ	椎 骨	椎体 fr	1				1					
シカ/イノシシ	肋 骨	p							1		2	
イルカ類	歯											
クジラ類	椎 骨	椎体 fr										
オットセイ♀	上腕骨	d										
小型獣(同定不可)	側頭骨	岩椽部										
小型獣(同定不可)	下顎骨	fr										
小型獣(同定不可)	指 骨	?										
小型獣(同定不可)	頸 椎	fr										
小型獣(同定不可)	腰 椎											
小型獣(同定不可)	肋 骨	p										
哺乳類(同定不可)	尾 椎											
哺乳類(同定不可)	椎 骨											
合 計			20	3	6	4	8	11	3	1	17	5

第2章 動物遺体

38T											39T			43T
LⅢh	LⅢ上	LⅢ下	LⅢ下1	A1~6	A7~11	A12~15	A16~21	LⅢ	LⅣ	-	LⅢ上	LⅢ	Ⅲ-3層上	-
大7a新	大7a新-7b/9	大7a新	大7a新	大7a新-7b/9	大7a新-7b	大7a新	大6-7a古	大7a新-7b/9	大6-7a古	大5-9	大7b-網取	大7b	大6-9	大5-9
				1										
			/ 1											
		1 /									1 /			
		2 /							1					
			1 /											
1		1 /		1					1 /					1
	1	2	4			1			1					
	1 /		1 / 1						1					1 /
	1 /		1 /							/ 1				
		1	3	1		1		1						
	1	2	1						2					
1		1 1							1 /					
									1					
1	/ 1		1 /		/ 1									
	1	1	1 / 1					1	2				1	
			/ 1						1 / 1				1 /	
			2 /						2					
		1 /	/ 1						1					
	1								2 / 2				/ 1	
									/ 1					
	1	1		1			1	1	1			2		
	1		1						1		1	1		
								1	3					
		2							1					
		1	1						1					
							1							
		1				/ 1								
		2					1	1						
		1				2							1	
			1					1						
4	9	22	23	4	1	5	3	7	30	1	1	3	4	2

表 22 浦尻貝塚台ノ前北貝層における現地採集および水洗 5mmメッシュで回収された爬虫類・哺乳類遺体の同定結果 \* 左右のある部位は左/右で示した。

種類	部位	存在位置	54T										63T															
			46T	52T	53T	53T	a層	b層	c層	d層	e層	f層	g層	h層	i層	j層	k層	l層上	l層下	III-4層上	III-4層下	III-4層前	III-4層半	56T	58T	62T	63T	
ハニロ目	椎骨		大68b	後期中葉以前	後期中葉以前	大34	大68b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大7a新-7b	大68b	大7b8a	大68b	大68b	大68b
ウミガメ類	甲板	丘																										
ノウサギ	切歯骨	臼																										
ノウサギ	上顎臼歯	臼歯																										
ノウサギ	下顎臼歯	表28参照																										
ノウサギ	肩甲骨	関節部																										
ノウサギ	肋骨	p																										
ノウサギ	腰骨	(d)																										
ノウサギ	第2中足骨	p																										
ノウサギ	第2中足骨	p																										
ノウサギ	上顎P4	腰椎																										
キツネ	上顎P4	腰椎																										
キツネ	尺骨	滑車切痕																										
キツネ	尺骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										
タヌキ	前頭骨	滑車切痕																										









第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

表 23 浦尻貝塚西向貝層における現地採集および水洗 5mmメッシュで回収された爬虫類・哺乳類遺体の同定結果

\*左右のある部位は左/右で示した。

種類	部位	残存位置	64T										65T	69T		
			Ⅲ-3層 上面	Ⅲ-3層 (a)-S1	Ⅲ-3層 (a)-S2	Ⅲ-3層 (c)-S1	Ⅲ-3層 (c)-S2	S3一括	S3-1~13	S3-14~ 18	Ⅲ-3層 (b)-S4	Ⅲ-3層 (c)-S4	-	-		
			大6- 網取Ⅱ	網取Ⅱ	網取Ⅱ	大6-8a	大6-8a	大4-7a	大7a古	大6	大7a新 -7b	大6-7a	大6- 網取Ⅱ	大6- 網取Ⅱ		
ヘビ亜目	椎骨				8	4										
ノウサギ	肩甲骨	関節部		/ 1												
ノウサギ	上腕骨	d	2 / 1													
ノウサギ	大腿骨	p	1 /													
ノウサギ	脛骨	p		/ 1												
ノウサギ	脛骨	d		/ 1												
ムササビ	上腕骨	d	1 /													
キツネ?	上顎C		1													
タヌキ	頬骨		1 /													
タヌキ	上顎骨	表 27 参照	2 / 2													
タヌキ	上顎遊離歯	表 27 参照			1											
タヌキ	下顎骨	表 27 参照	2 / 2		/ 1											
タヌキ	下顎遊離歯	表 27 参照	1													
タヌキ	環椎		1													
タヌキ	軸椎															
タヌキ	上腕骨	d	1 /						1							
タヌキ	距骨	p-d		1 /						/ 1					/ 1	
イヌ	上顎遊離歯									1						
イヌ	尺骨	滑車切痕	1 /													
イヌ?	大腿骨	m	1 /													
アナグマ	上顎M1					1 /										
カワウソ	環椎		1													
イノシシ	側頭骨	関節結節	1 /													
イノシシ	側頭骨	岩様部	1 /						/ 1	/ 1						
イノシシ	側頭骨	fr	1 /													
イノシシ	頭頂骨	fr	1													
イノシシ	後頭骨	頭頂部	1													
イノシシ	後頭骨	後頭顆	1 /													
イノシシ	頭蓋底		1	1												
イノシシ	頬骨		1 /													
イノシシ	上顎骨	表 25 参照	3 /	/ 1												
イノシシ	上顎遊離歯	表 25 参照	1							1						
イノシシ	下顎骨	表 25 参照	2 / 4													
イノシシ	下顎遊離歯	表 25 参照	11							2	1					
イノシシ	頸椎		1													
イノシシ	肩甲骨	関節部	2 / 3		1 /											
イノシシ	上腕骨	(d-)	1 /													
イノシシ	第3中手骨	p	/ 1													
イノシシ	第5中手骨	p-d					1 /									
イノシシ	第5中手骨	p-(d-)	/ 1													
イノシシ	寛骨	寛骨臼	2 /													
イノシシ	脛骨	d	1 /													
イノシシ	腓骨	d								/ 1						
イノシシ	距骨															/ 1
イノシシ	踵骨											/ 1				
イノシシ	第2中足骨	p-d	1 /													
イノシシ	第5中足骨	p	1 /													
イノシシ	中手/中足骨	(d)	1	1												
イノシシ	中手/中足骨	(d-)								1						
イノシシ	基節骨		4							1						
イノシシ	中節骨									1						
イノシシ	末節骨		1							2	1					
イノシシ	頸椎															
シカ	前頭骨	角座部	/ 1													
シカ	前頭骨	角座部+角	1													
シカ	角	角座	4													
シカ	角	第1~3尖	1 /													
シカ	角	fr	16								1					
シカ	側頭骨	関節結節	1 /													
シカ	側頭骨	岩様部	/ 2											/ 1		
シカ	側頭骨	fr	1 /													
シカ	後頭骨	後頭顆	1 / 1													
シカ	頭蓋底		1													
シカ	頬骨		2 /							/ 1						
シカ	切歯骨				1 /											
シカ	上顎骨	表 26 参照	3 / 1											1 / 2		
シカ	上顎遊離歯	表 26 参照	12	1		1								1		
シカ	下顎骨	表 26 参照	10 / 6													
シカ	下顎遊離歯	表 26 参照	13	1				1				1				
シカ	環椎		6								1					
シカ	軸椎															
シカ	頸椎		10													
シカ	肩甲骨	関節部	3 / 6													
シカ	上腕骨	d	1 / 1													
シカ	上腕骨	<d>	1 /													
シカ	橈骨	p	1 / 1													
シカ	橈骨	d	/ 1													
シカ	尺骨	滑車切痕	3 / 1													
シカ	中手骨	p-d	1 /													

(表 23 つづき)

種類	部位	残存位置	64T										65T	69T		
			Ⅲ-3層 上面	Ⅲ-3層 (a)-S1	Ⅲ-3層 (a)-S2	Ⅲ-3層 (c)-S1	Ⅲ-3層 (c)-S2	S3一括	S3-1～13	S3-14～ 18	Ⅲ-3層 (b)-S4	Ⅲ-3層 (c)-S4	-	-		
			大6- 網取Ⅱ	網取Ⅱ	網取Ⅱ	大6-8a	大6-8a	大4-7a	大7a古	大6	大7a新 -7b	大6-7a	大6- 網取Ⅱ	大6- 網取Ⅱ		
シカ	中手骨	p	1 / 1													
シカ	中手骨	d														
シカ	寛骨	寛骨白	3 / 1													
シカ	大腿骨	<p>	1 /													
シカ	大腿骨	(d-)	/ 1													
シカ	膝蓋骨		/ 1													
シカ	脛骨	d	3 / 1													
シカ	脛骨	<d>	1 / 1													
シカ	距骨		2 / 3								/ 1					
シカ	踵骨		2 / 2											1 /		
シカ	中央第4足根骨		1 /													
シカ	中足骨	p	2 /	/ 1												
シカ	中足骨	d	1 1 1								1 /					
シカ	中足骨	m	1 /													
シカ	中手/中足骨	d	1													
シカ	中手/中足骨	<d>	1													
シカ	基節骨		8													
シカ	中節骨		7								1					1
シカ	末節骨		6							1						
シカ/イノシシ	大腿骨	<p>	1													
シカ/イノシシ	脛骨	(p)								1						
シカ/イノシシ	胸椎		3							1						
シカ/イノシシ	腰椎		6							1						
シカ/イノシシ	椎骨		2							1						
シカ/イノシシ	肋骨	p	8				1	1		1						
アシカ科	指骨		1													
小型獣	遊離切歯										1					
小型獣	中手/中足骨	d	1													
小型獣	頸椎		3													
小型獣	椎骨	?								1						
小型獣	肋骨	p														
哺乳類(同定不可)	椎骨															
哺乳類(同定不可)	肋骨	p	1													
イノシシ/ブタ	上顎遊離歯		1													
イノシシ/ブタ	下顎遊離歯		2													
合計			266	10	12	6	3	2	20	6	7	7	2	1		

第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

表 24 浦尻貝塚小迫貝層における現地採集および水洗 5mmメッシュで回収された爬虫類・哺乳類遺体の同定結果  
\*左右のある部位は左/右で示した。

種類	部位	残存位置	72T			76T	1G			2G	3G		4G	5G	IV区サブトレ1			IV区
			III層上面	S1	S2	-	III層上面	S1	S2	-	III層上面	S1	-	-	III A-E	III F	CS III	-
			大洞 BC-C2	大洞 BC-C2	大洞 C2	加曽利 B-大洞 C2	大洞 BC-C2	大洞 BC	大洞 BC	大洞 BC-C2	大洞 BC-C2	大洞 BC	大洞 BC-C2	大洞 BC-C2	大洞 B-C2	大洞 B-C2	加曽利 B-新地	大洞 B-C2
ヘビ亜目	椎骨		3								1	6						
ノウサギ	上顎 P1		/ 1															
ノウサギ	下顎骨	表 28 参照									1 /		/ 2					
ノウサギ	肩甲骨	関節部											/ 1					
ノウサギ	上腕骨	d	/ 1									1 /						
ノウサギ	大腿骨	m	/ 1															
ノウサギ	踵骨						1 /											
ムササビ	下顎 I										/ 1							
モモンガ/リス	大腿骨	d	1 /															
クマ	踵骨						1 /											
タヌキ	上顎骨	表 27 参照					/ 1											
イヌ	上顎遊離歯							1										/ 1
イヌ	下顎骨	表 27 参照											/ 1					
イヌ	肩甲骨	関節部																
イヌ	尺骨	滑車切痕	1 /										1 /					
イヌ	寛骨	寛骨白											1 / 1					
イヌ	大腿骨	p											1 / 1					
イヌ	軸椎																	
イヌ	頸椎																	
イヌ	腰椎												7					
イヌ	仙骨												1					
イヌ	尾椎												1					
イヌ (幼)	頭蓋骨												1					
イヌ (幼)	上顎遊離歯											1						
イヌ (幼)	環椎												1					
イヌ (幼)	上腕骨	p-d											1 /					
イヌ (幼)	橈骨	d											/ 1					
イヌ (幼)	橈骨	m											1 /					
イヌ (幼)	肋骨	d											2					
オオカミ	距骨		/ 1															
アナグマ	下顎骨	表 28 参照	1 / 1															
アナグマ	尺骨	滑車切痕	/ 1															
カワウソ	上顎骨	表 28 参照	1 /															
カワウソ	下顎骨	表 28 参照											1 /					
カワウソ	大腿骨	p	/ 1															
イノシシ	前頭骨	眼窩部	/ 3															
イノシシ	側頭骨	関節結節					1 /											
イノシシ	側頭骨	岩様部	/ 1															
イノシシ	側頭骨	fr	/ 1															
イノシシ	頭蓋底		1															
イノシシ	上顎骨	表 25 参照	1 /													1 /		
イノシシ	上顎遊離歯	表 25 参照	1				1					1	1			1		
イノシシ	下顎骨	表 25 参照	5 / 1						/ 1							1 / 3		
イノシシ	下顎遊離歯	表 25 参照	5	1					1			2				4		
イノシシ	臼歯									1						1		
イノシシ	上腕骨	d	/ 1						/ 1									
イノシシ	上腕骨	<d>	/ 1															
イノシシ	上腕骨	m	1 / 1															
イノシシ	橈骨	p	1 /															
イノシシ	尺骨	滑車切痕					/ 1											
イノシシ	尺腕手根骨		/ 1															
イノシシ	第 5 中手骨	p							/ 1									
イノシシ	寛骨	寛骨白	1 / 1						/ 1							1 /		
イノシシ	脛骨	(d)					/ 1											
イノシシ	脛骨	<d>					1 /											
イノシシ	踵骨		1 /															
イノシシ	中手 / 中足骨	d	1				1					1						
イノシシ	基節骨												1					
イノシシ	中節骨		2															
イノシシ	末節骨						1											
シカ	前頭骨	角座部	1									1 /						
シカ	前頭骨	角座	4															
シカ	角	fr	37				2	4	1		2	5	1					
シカ	側頭骨	関節結節						1 /										
シカ	側頭骨	岩様部							1 /									
シカ	側頭骨	fr	1 /															
シカ	後頭骨	後頭顆	1 / 2															
シカ	頭蓋底		1									1						
シカ	頬骨		1 /															
シカ	切歯骨		1 / 1										/ 1					
シカ	上顎骨	表 26 参照											/ 1					
シカ	上顎遊離歯	表 26 参照	2											1		1		
シカ	下顎骨	表 26 参照	1 / 3		/ 1									1 /		/ 2		
シカ	下顎遊離歯	表 26 参照	4					2						1		2		
シカ	臼歯	fr													1			

(表 24 つづき)

種類	部位	残存位置	72T			76T	1G			2G	3G		4G	5G	IV区サブトレ1			IV区
			Ⅲ層上面	S1	S2	-	Ⅲ層上面	S1	S2	-	Ⅲ層上面	S1	-	-	Ⅲ A-E	Ⅲ F	CS Ⅲ	-
			大洞 BC-C2	大洞 BC-C2	大洞 C2	加曾利 B-大洞 C2	大洞 BC-C2	大洞 BC	大洞 BC	大洞 BC-C2	大洞 BC-C2	大洞 BC	大洞 BC-C2	大洞 BC-C2	大洞 B-C2	新地	大洞 B-C2	加曾利 B-大洞 C2
シカ	環椎		1															
シカ	軸椎		1			1												
シカ	頸椎		2		1	2												
シカ	肩甲骨	関節部	2 / 1															
シカ	上腕骨	p-d	1 /															
シカ	上腕骨	(p)	1 /															
シカ	上腕骨	<p>	/ 1															
シカ	上腕骨	d	/ 1							1 /								
シカ?	上腕骨	<d>	/ 1															
シカ	橈骨	p	3 /			/ 2				1 /								
シカ	橈骨	d	1 /											1 /				
シカ	橈骨	(d)	1 /															
シカ	中間手根骨		1 /															
シカ	中手骨	p	1 /			2 /						/ 1						
シカ	中手骨	d	1															
シカ	中手骨	m	2															
シカ	寛骨	寛骨臼	2 /				1 /											
シカ	大腿骨	d	/									/ 1						
シカ	大腿骨	m	1 /															
シカ	脛骨	p-d	/ 1															
シカ	脛骨	d	/						/ 1					1 / 1				
シカ	脛骨	<d>	1 / 1			2 /												
シカ	距骨		1 / 2															
シカ	踵骨		1 / 2					1 /		1 /						1 /		
シカ	中央第4足根骨		2 /				/ 1				/ 1		1 / 2					
シカ	中足骨	p					/ 1											
シカ	中足骨	d					/ 1											
シカ	中足骨	m	3				3					1 /						
シカ	中手/中足骨	d	1 /						2									
シカ	中手/中足骨	(d)								1		1						
シカ	中手/中足骨	<d>	1					1										
シカ	基節骨		6						1					2		1		
シカ	中節骨		3					4	1		1							
シカ	末節骨		7											1				
シカ/イノシシ	臼歯	fr																
シカ/イノシシ	上腕骨	(d)	/ 1												1			
シカ/イノシシ	胸椎		8															
シカ/イノシシ	腰椎		2	1														
シカ/イノシシ	仙椎		1															
シカ/イノシシ	尾椎											1						
シカ/イノシシ	椎骨	椎体	5											1				
シカ/イノシシ	肋骨	p	2				2					1	1					
イルカ類	頭蓋骨	後部	1															
クジラ類	椎骨		1															
クジラ類	椎骨	椎頭板					1											
クジラ類	椎骨	fr	7				1											
クジラ類	不明	fr					1										1	
アシカ♂	下顎骨	吻・下顎枝欠	/ 1															
アシカ♀	下顎骨	下顎枝欠	1 /															
アシカ♀	上腕骨	(p)-(d)	/ 1															
アシカ♀	脛骨	m	/ 1															
アシカ科	指骨	d	1															
アシカ科?	犬歯	fr	1															
海獣	不明	fr															1	
小型獣	指骨				1				1									
小型獣	胸椎	1	1									1						
哺乳類 (同定不可)	頭蓋骨	fr																
合計			197	2	2	5	37	11	3	7	19	15	39	3	25	1	2	3

表 25 浦尻貝塚から出土したイノシシ顎骨・歯の詳細

\* [ ] : 顎骨残存範囲 (表記のないものは遊離歯), ( ) : 萌出中の歯, < > : 未萌出歯, × : 脱落, 連 : 連合部, 角 : 下顎角, 関 : 関節突起, 筋 : 筋突起

上下	トレンチ	層	準	年代	LR	連合部	I1 il	I2 i2	I3 i3	C c	P1	P2 m1	P3 m2	P4 m3	M1	M2	M3	下顎角	関節突起	備考
上顎	31		S7	大木 7a 古	L		I1													
上顎	31		S5	大木 7a 古	L															
上顎	38		L III g	大木 7a 新~7b	R				[ x ]											
上顎	38		L III h	大木 7a 新	L						m1									
上顎	38		L III f	大木 7a 新	R							P2								
上顎	38		L III d	大木 7a 新	R															
上顎	38		A2	大木 7a 新~7b/9	R									P3						
上顎	46		II 層①	大木 6~8b	L										[ M1	M2 ]				
上顎	46		-	大木 6~8b	R		I1													
上顎	54		11	大木 7a 新~7b	L			I2												
上顎	54		15	大木 7a 新~7b	L							P2								
上顎	54		22	大木 7a 新	R												[ M2	M3 ]		
上顎	54		23	大木 7a 新	R										P3					
上顎	54		24	大木 7a 新	L				C											♂
上顎	54		24	大木 7a 新	L															<M3>
上顎	54		25	大木 7a 新	L		I1													
上顎	54		25	大木 7a 新	L		<I1>													
上顎	54		25	大木 7a 新	R		[ x	x	x ]											
上顎	54		26	大木 7a 古~新	L			I2												
上顎	54		26-30	大木 6~7a 新	L															[ M3 ]
上顎	54		26-30	大木 6~7a 新	R															[ x ]
上顎	54		27	大木 7a 古~新	R		<I1>													
上顎	54		28	大木 7a 古~新	R				C											♀
上顎	54		30	大木 6~7a 古	L					[ C	x	P2	P3	P4	M1	M2 ]				♂
上顎	54		30	大木 6~7a 古	L											[ M2 ]				
上顎	54		30	大木 6~7a 古	L		I1													
上顎	54		30	大木 6~7a 古	L			I2												
上顎	54		30	大木 6~7a 古	L								m3							
上顎	54		30	大木 6~7a 古	L															M3
上顎	54		31	大木 6 以前	L			[ I2	x ]											
上顎	58		L II a	大木 6~8b	L				[ (I3)											
上顎	58		L II a	大木 6~8b	L								[ P3	P4 ]						
上顎	58		L II a	大木 6~8b	L								P2							
上顎	58		L II a	大木 6~8b	L															<M3>
上顎	58		L II a	大木 6~8b	R				[ x	P1	P2 ]									
上顎	58		L II a	大木 6~8b	R		[ x	x	x ]											
上顎	58		L II a	大木 6~8b	R							[ P3	P4	M1	M2 ]					
上顎	58		L II a	大木 6~8b	R			I2												
上顎	64		1 - I	大木 6~綱取II	L											[ M2	M3 ]			
上顎	64		1 - I	大木 6~綱取II	L						[ x	x ]								
上顎	64		D - 13	大木 6~綱取II	L						[ P2	P3	P4	M1	M2	<M3>				
上顎	64		1 - III 層上面	大木 6~綱取II	L			I2												
上顎	64		S1 - 4	綱取II	R		[ il	<I1>												
上顎	64		S3 - 10	大木 6~7a	L							m1								
上顎	72		I	大洞 BC ~ C2	L				[ C	x	P2	P3 ]								
上顎	72		I	大洞 BC ~ C2	R				C											♂
上顎	1 G		III - 1 - A	大洞 BC ~ C2	R									m3						
上顎	3 G		S1-3B	大洞 BC	R			I2												
上顎	4 G		II	大洞 BC ~ C2	R		I1													
上顎	IV-ST1		III E	大洞 BC	L		[ I1	<I2>												
上顎	IV-ST1		III C-D	大洞 BC ~ C1	L															M2
上顎	IV-ST1		III F	加曾利 B ~ 新地	L															M1
上顎	-		表探	?	L								[ <P3>	<P4>	M1 ]					
上顎	-		一括	?	L		[ I1	<I2>	x ]											
下顎	31		L III	大木 7a 古	L															[ 角 ]
下顎	31		L III	大木 7a 古	R								[ x	P4	M1	x	<M3>			[ 角 ]
下顎	31		L III	大木 7a 古	R															
下顎	31		L III C	大木 7a 古	L	連	I1	I2	x	C	P1	x	P3	P4	M1	M2	M3 ]			左右連結
下顎	31		L III C	大木 7a 古	R	連	I1	I2	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3 ]			破片
下顎	38		L III d	大木 9	L		il													
下顎	38		L III d	大木 9	L			I2												
下顎	38		L III g	大木 7a 新~7b	R				I3											
下顎	38		L III f 1	大木 7a 新	R					C										♂, 舌側破片
下顎	38		L III f 1	大木 7a 新	R			I2												
下顎	38		L III f 1	大木 7a 新	R				I3											
下顎	38		L III f 1	大木 7a 新	R						P2									
下顎	38		A15	大木 7a 新	R		I1													
下顎	38		L IV a	大木 6~7a 古	L															[ 関 ]
下顎	38		L IV a	大木 6~7a 古	R			I2												
下顎	43		-	大木 5~9	R															
下顎	46		2	大木 6~8b	-	[ 連 ]														
下顎	46		2	大木 6~8b	L															破片
下顎	46		一括	大木 6~8b	L	連	<I1>													左右連結
下顎	46		-	大木 6~8b	R	連	<I1>													
下顎	46		一括	大木 6~8b	R					C										[ 角 ]
下顎	52		1	後期中葉以前	R															♂, 舌側破片
下顎	54		3	大木 6~8b	L												[ M2	(M3)		
下顎	54		8 上	大木 7a 新~7b	L			I2												
下顎	54		8	大木 7a 新~7b	L			I2												
下顎	54		8	大木 7a 新~7b	R				I3											
下顎	54		10	大木 7a 新~7b	L						[ x	(P2)								燒
下顎	54		10	大木 7a 新~7b	L		il													
下顎	54		10	大木 7a 新~7b	L				I3											
下顎	54		10	大木 7a 新~7b	L							m1								
下顎	54		10	大木 7a 新~7b	R															<M3>
下顎	54		10	大木 7a 新~7b	R		il													

(表 25 つづき)

上下	トレンチ	層準	年代	LR	連合部	I1 i1	I2 i2	I3 i3	C c	P1	P2 m1	P3 m2	P4 m3	M1	M2	M3	下顎角	関節突起	備考
下顎	54	11	大木 7a 新~7b	L				I3											
下顎	54	11	大木 7a 新~7b	R				I3											
下顎	54	12	大木 7a 新~7b	L												M3			
下顎	54	15	大木 7a 新~7b	R						P1									
下顎	54	17	大木 7a 新~7b	R		II													
下顎	54	17	大木 7a 新~7b	R								m3							
下顎	54	17	大木 7a 新~7b	R						P1									♂, 頰側破片. 加工品?
下顎	54	18	大木 7a 新~7b	L					C										
下顎	54	19	大木 7a 新~7b	R			I2												
下顎	54	21	大木 7a 新	L		II													
下顎	54	22	大木 7a 新	R				I3											
下顎	54	24	大木 7a 新	L		II													
下顎	54	25	大木 7a 新	L												[ x ]			
下顎	54	25	大木 7a 新	L													[ 角 ]		
下顎	54	25	大木 7a 新	R						[ x	x	]							
下顎	54	25	大木 7a 新	R		II													
下顎	54	26	大木 7a 古~新	R		i1													
下顎	54	26	大木 7a 古~新	R						[ x	x	]							
下顎	54	27	大木 7a 古~新	L						[ x	P2	P3	P4	M1	]				
下顎	54	27	大木 7a 古~新	L													[ 角 ]		
下顎	54	27	大木 7a 古~新	L													[ 関 ]		
下顎	54	27	大木 7a 古~新	L		II													
下顎	54	27	大木 7a 古~新	R												[ M3 ]			
下顎	54	27	大木 7a 古~新	R		[ x	x	]											
下顎	54	27	大木 7a 古~新	R													[ 関 ]		
下顎	54	28	大木 7a 古~新	L												[ (M3) ]			
下顎	54	28	大木 7a 古~新	L							[ P3	P4 ]							
下顎	54	28	大木 7a 古~新	L													[ 角 ]		
下顎	54	28	大木 7a 古~新	L													[ 関 ]		
下顎	54	28	大木 7a 古~新	L												<M3>			
下顎	54	28	大木 7a 古~新	L					C										♂
下顎	54	28	大木 7a 古~新	R	連	II	I2	x	C	P1	P2	P3	P4	M1	M2	M3	角 ]		左右連結
下顎	54	28	大木 7a 古~新	R	連	II	I2	x	C	P1	P2	P3	P4	M1	M2	M3	]		
下顎	54	28	大木 7a 古~新	R		II													
下顎	54	28	大木 7a 古~新	R				I3											
下顎	54	28	大木 7a 古~新	R										M1					
下顎	54	28	大木 7a 古~新	R										M1					
下顎	54	30	大木 6~7a 古	L												[ <M3> ]			
下顎	54	30	大木 6~7a 古	L												[ 角 ]			
下顎	54	30	大木 6~7a 古	L												<M3>			
下顎	54	30	大木 6~7a 古	L								m3							
下顎	54	30	大木 6~7a 古	L							P2								
下顎	54	30	大木 6~7a 古	L								P3							
下顎	54	30	大木 6~7a 古	R						[ x	P3	P4	M1	]					
下顎	54	30	大木 6~7a 古	R					C										♀
下顎	54	3L III	大木 6~8b	R												[ M2	(M3) ]		
下顎	54	3L I	大木 6~8b	R		[ x	x	x ]											
下顎	54	一括	大木 6~8b	L		II													
下顎	56	貝層-1	大木 6~8b	L							[ x	x ]							♂, 舌側破片
下顎	56	貝層-1	大木 6~8b	R					C										
下顎	56	貝層-1	大木 6~8b	R							P2								
下顎	58	L II a	大木 6~8b	L							[ P2	P3	P4	M1 ]					
下顎	58	L II a	大木 6~8b	L							[ x	P3	P4 ]						
下顎	58	L II a	大木 6~8b	L					C										♂, 破片
下顎	58	L II a	大木 6~8b	L		II													
下顎	58	L II a	大木 6~8b	R										[ x	M2	<M3> ]			
下顎	58	L II a	大木 6~8b	R							[ x	x ]							
下顎	58	L II a	大木 6~8b	R					C							[ x	x ]		
下顎	58	L II a	大木 6~8b	R								P3							
下顎	58	一括	大木 6~8b	L												[ M2 ]			
下顎	63	2	大木 7b~8a	R												<M3>			
下顎	63	L I	大木 6~8b	L	連	II ]													左右連結
下顎	63	L I	大木 6~8b	R	連	II ]													
下顎	63	S3-9	大木 6~7a	R	[ 連	x	x	x	<C>		m1	m2	m3	M1	M2 ]				
下顎	64	S3-7	大木 6~7a	R			I2									M2			
下顎	64	S3-15	大木 6~7a	R												<M3>			
下顎	64	1	大木 6~網取II	L												M3			
下顎	64	1-I	大木 6~網取II	L							[ x	P3	x ]						
下顎	64	1-I	大木 6~網取II	L					C										♂
下顎	64	1-I	大木 6~網取II	L										M1					フタの可能性あり
下顎	64	1-I	大木 6~網取II	R									[ m3	M1 ]					
下顎	64	1-I	大木 6~網取II	R												<P4>			
下顎	64	1-I	大木 6~網取II	R		i1										<M2>			フタの可能性あり
下顎	64	1-I	大木 6~網取II	R					C										♂, 破片
下顎	64	1-II層上面	大木 6~網取II	R		II													
下顎	64	1-II層上面	大木 6~網取II	L+R	[ 連 ]														
下顎	64	1-III層上面	大木 6~網取II	L												M3			
下顎	64	1-III層上面	大木 6~網取II	R			I2												
下顎	64	2-I	大木 6~網取II	L					C										♀
下顎	64	2-I	大木 6~網取II	L			I2												
下顎	64	2-I	大木 6~網取II	L															フタの可能性あり
下顎	64	2-I	大木 6~網取II	R							[ x	x	P4 ]	M1					
下顎	64	2-I	大木 6~網取II	R					C										♂, 舌側破片
下顎	64	2-I	大木 6~網取II	R		II													
下顎	64	2-II層上面	大木 6~網取II	R													[ 角 ]		

第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

(表 25 つづき)

上下	トレンチ	層 準	年 代	LR	連合部	I1 i1	I2 i2	I3 i3	C c	P1	P2 m1	P3 m2	P4 m3	M1	M2	M3	下顎角	関節突起	備 考
下顎	72	①I	大洞 BC ~ C2	L													[ 関 ]		
下顎	72	I	大洞 BC ~ C2	L											[ x	<M3>	角 ]		
下顎	72	I	大洞 BC ~ C2	L						[ x	x ]								
下顎	72	I	大洞 BC ~ C2	L					C										♂
下顎	72	I	大洞 BC ~ C2	L			i2												
下顎	72	I	大洞 BC ~ C2	R						[ x	P3	P4	M1 ]						
下顎	72	Ⅲ - 2 - B	大洞 BC ~ C2	L			i2												
下顎	72	Ⅲ - 2 - B	大洞 BC ~ C2	R			i2												
下顎	72	Ⅲ層直上	大洞 BC ~ C2	L							[ m2	m3	M1	<M2>	]				
下顎	72	Ⅲ層直上	大洞 BC ~ C2	L															[ 角 ]
下顎	72	Ⅲ層直上	大洞 BC ~ C2	L		II													
下顎	72	S1-1	大洞 BC ~ C2	R			(I2)												
下顎	1 G	S2 - 4	大洞 BC	R									m3						
下顎	1 G	S2一括	大洞 BC	R	[ 連	x	x	x	x	-	x ]								
下顎	2 G	②B	大洞 BC ~ C2	L															M2
下顎	3 G	S1-1A	大洞 BC	L										M1					
下顎	4 G	II	大洞 BC ~ C2	R		ii													
下顎	4 G	II	大洞 BC ~ C2	R										M1					
下顎	IV-ST1	Ⅲ C	大洞 C1	R															[ 関 ] 焼
下顎	IV-ST1	Ⅲ D	大洞 BC	R															M3
下顎	IV-ST1	Ⅲ E	大洞 BC	L															<M3>
下顎	IV-ST1	Ⅲ E	大洞 BC	L		[ II	I2 ]												
下顎	IV-ST1	Ⅲ E	大洞 BC	L											M2				M3
下顎	IV-ST1	Ⅲ E	大洞 BC	R															
下顎	IV-ST1	Ⅲ E	大洞 BC	R							[ <P3><P4>	]							
下顎	IV-ST1	Ⅲ E	大洞 BC	R		[ II	(I2) ]												
下顎	一括	-	?	L															M3

\* IV-ST1 : IV区サブトレ1

表 26 浦尻貝塚から出土したシカ顎骨・歯の詳細 \*凡例は表 25 を参照

上下	トレンチ	層 準	年 代	LR	I1	I2	I3	C	P2	P3	P4	M1	M2	M3	関節 突起	備 考
					i1	i2	i3	c	m1	m2	m3					
上顎	31	L III	大木 7a 古	R	-	-	-	-					M2			
上顎	31	L IV	大木 5 ~ 6	R	-	-	-	-				M1				
上顎	31	上	大木 5 ~ 7a 古	R	-	-	-	-					M2			
上顎	38	L III d	大木 9	L	-	-	-	-						M3		
上顎	38	L III h	大木 7a 新	L	-	-	-	-		P3						
上顎	38	L III 上	大木 7a 新 ~ 7b	R	-	-	-	-					[ M3 ]			
上顎	38	L III 下	大木 7a 新	L	-	-	-	-					M2			
上顎	38	L III 下 1	大木 7a 新	L	-	-	-	-				M1				
上顎	38	A9	大木 7a 新 ~ 7b	R	-	-	-	-		[ P3	P4	M1	M2 ]			
上顎	38	L IV a	大木 6 ~ 7a 古	L	-	-	-	-					M2			
上顎	38	L IV a	大木 6 ~ 7a 古	R	-	-	-	-		P2						
上顎	39	?	大木 6 ~ 9	L	-	-	-	-						M3		
上顎	46	一括	大木 6 ~ 8b	L	-	-	-	-						M3		
上顎	46	一括	大木 6 ~ 8b	R	-	-	-	-	x ]							
上顎	46	一括	大木 6 ~ 8b	R	-	-	-	-					M2			
上顎	53	P311	後期中葉以前	R	-	-	-	-			[ P4	M1	M2 ]			
上顎	54	5	大木 6 ~ 8b	L	-	-	-	-		m2						
上顎	54	11	大木 7a 新 ~ 7b	R	-	-	-	-	m1	m2	m3	M1	M2 ]			
上顎	54	11	大木 7a 新 ~ 7b	R	-	-	-	-					<M2/M3>			
上顎	54	23	大木 7a 新	L	-	-	-	-			[ P4	M1	M2	M3 ]		
上顎	54	23	大木 7a 新	L	-	-	-	-		m2						
上顎	54	23	大木 7a 新	L	-	-	-	-		P3						
上顎	54	23	大木 7a 新	R	-	-	-	-			P4					
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	L	-	-	-	-		[ P3	P4	M1	M2	M3 ]		
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	L	-	-	-	-	P2							
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	L	-	-	-	-	P2							
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	L	-	-	-	-				M1				
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	L	-	-	-	-					M2			
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-				[ M2	M3 ]			
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-			[ m3	M1 ]				
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-		m2						
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-	P2							
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-		P3						
上顎	54	27	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-					<M2>			
上顎	54	28	大木 7a 古 ~ 新	L	-	-	-	-					[ M3 ]			
上顎	54	28	大木 7a 古 ~ 新	L	-	-	-	-			P4					
上顎	54	28	大木 7a 古 ~ 新	L	-	-	-	-				M1				
上顎	54	28	大木 7a 古 ~ 新	L	-	-	-	-					M2			
上顎	54	28	大木 7a 古 ~ 新	L	-	-	-	-					M2			
上顎	54	28	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-			[ P4	M1	M2	M3 ]		
上顎	54	28	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-		P3						
上顎	54	28	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-		P3						
上顎	54	28	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-			P4					
上顎	54	28	大木 7a 古 ~ 新	R	-	-	-	-				M1				
上顎	54	30	大木 6 ~ 7a 古	L	-	-	-	-	m1 ]							
上顎	54	30	大木 6 ~ 7a 古	L	-	-	-	-	P2							
上顎	54	30	大木 6 ~ 7a 古	L	-	-	-	-			P4					
上顎	54	30	大木 6 ~ 7a 古	L	-	-	-	-				M1				
上顎	54	30	大木 6 ~ 7a 古	R	-	-	-	-								破片
上顎	54	30	大木 6 ~ 7a 古	R	-	-	-	-				M1				
上顎	54	30	大木 6 ~ 7a 古	R	-	-	-	-				M1				
上顎	54	31 下	前期前葉以前	L	-	-	-	-	P2							
上顎	54	31 下 2	前期前葉以前	R	-	-	-	-				M1				
上顎	54	31 下	前期前葉以前	R	-	-	-	-					<M2>			
上顎	54	3L I	大木 6 ~ 8b	R	-	-	-	-				M1				
上顎	54	一括	大木 6 ~ 8b	L	-	-	-	-					M2			
上顎	56	貝層-1	大木 6 ~ 8b	R	-	-	-	-				M1				
上顎	58	L II a	大木 6 ~ 8b	L	-	-	-	-				[ M1	M2 ]			
上顎	58	L II a	大木 6 ~ 8b	L	-	-	-	-				P4				
上顎	64	1	大木 6 ~ 網取 II	L	-	-	-	-				[ M1	M2 ]			
上顎	64	1	大木 6 ~ 網取 II	L	-	-	-	-	P2							
上顎	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	L	-	-	-	-	x	P3	P4	M1 ]				
上顎	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	L	-	-	-	-						M3		
上顎	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	R	-	-	-	-						M2/M3		
上顎	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	R	-	-	-	-								
上顎	64	1 - II 層上面	大木 6 ~ 網取 II	R	-	-	-	-				M1				
上顎	64	1 - II 層上面	大木 6 ~ 網取 II	R	-	-	-	-					M2			
上顎	64	1 - III 層上面	大木 6 ~ 網取 II	L	-	-	-	-					[ M2	M3 ]		
上顎	64	1 - III 層上面	大木 6 ~ 網取 II	L	-	-	-	-				M1				
上顎	64	1 - III 層上面	大木 6 ~ 網取 II	R	-	-	-	-			[ P4	M1	M2	<M3> ]		
上顎	64	2 - I	大木 6 ~ 網取 II	L	-	-	-	-								M 破片
上顎	64	2 - I	大木 6 ~ 網取 II	R	-	-	-	-	P2							
上顎	64	2 - I	大木 6 ~ 網取 II	R	-	-	-	-		P3						
上顎	64	2 - I	大木 6 ~ 網取 II	R	-	-	-	-						M2/M3		
上顎	64	2 - II 層上面	大木 6 ~ 網取 II	L	-	-	-	-				M1				
上顎	64	S1 - 2	網取 II	L	-	-	-	-		m2						
上顎	64	S1 - 7B	大木 6 ~ 8 a	L	-	-	-	-				M1				
上顎	64	S4 - 7	大木 7b	R	-	-	-	-			[ P4	M1 ]				
上顎	64	S4 - 7	大木 7b	R	-	-	-	-					M2			
上顎	64	S4 - 9	大木 7b	L	-	-	-	-			[ P4	M1	M2	M3 ]		
上顎	64	S4 - 9	大木 7b	R	-	-	-	-	P2	P3	P4	M1	M2	M3 ]		
上顎	72	I	大洞 BC ~ C2	R	-	-	-	-				M1				
上顎	72	I	大洞 BC ~ C2	R	-	-	-	-					M2			
上顎	3G	S1.5A	大洞 BC	R	-	-	-	-	P2 ]							
上顎	4G	III 層	大洞 BC ~ C2	R	-	-	-	-					M2			
上顎	5G	III	大洞 BC ~ C2	L	-	-	-	-						M3		
下顎	31	S11	大木 7a 古	L	-	-	-	-						[ 関 ]		
下顎	31	S12	大木 7a 古	L	-	-	-	-	[ m1x	m2x	m3	M1	(M2) ]			
下顎	31	S12	大木 7a 古	L	-	-	-	-	<P2>	<P3>	<P4>					
下顎	38	L III 上	大木 7a 新 ~ 7b	R	-	-	-	-				m3				
下顎	38	L III 下 1	大木 7a 新	R	-	-	-	-			[ P4	M1 ]				
下顎	38	L III	大木 7a 新 ~ 7b/9	L	-	-	-	-				M1				
下顎	38	L IV a	大木 6 ~ 7a 古	L	-	-	-	-		[ P3	P4	M1	M2 ]			
下顎	38	L IV a	大木 6 ~ 7a 古	L	-	-	-	-						M3		
下顎	38	L IV a	大木 6 ~ 7a 古	R	[ x	x	x	x ]								



第2節 貝類・魚類・両生類・爬虫類・哺乳類

(表 26 つづき)

上下	トレンチ	層準	年代	LR	I1 il	I2 i2	I3 i3	C c	P2 m1	P3 m2	P4 m3	M1	M2	M3	関節 突起	備考
下類	38	L IV a	大木 6 ~ 7a 古	R	I1											
下類	46	SX01	大木 6 ~ 8b	L										M3		
下類	46	一括	大木 6 ~ 8b	L											[ 関 ]	
下類	46	一括	大木 6 ~ 8b	L	[ x	x	x	x	P2	P3	P4	M1				
下類	46	一括	大木 6 ~ 8b	R											[ 関 ]	
下類	53	1	後期中葉以前	L											[ 関 ]	
下類	53	L III - 2	大木 3 ~ 4	R	[ x	x	x	x	m1	m2						
下類	53	東 2	大木 3 ~ 4	R	<I1>											
下類	54	2	大木 7a 新 ~ 7b	R	I1											
下類	54	8上	大木 7 a 新 ~ 7b	R								[ x		M3	[ 関 ]	
下類	54	8下	大木 7 a 新 ~ 7b	L											[ 関 ]	
下類	54	8	大木 7a 新 ~ 7b	R									M2			
下類	54	8	大木 7a 新 ~ 7b	R	[ x	x	x	x	P2	P3	P4	M1				
下類	54	10	大木 7a 新 ~ 7b	R	[ x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	(M3)		
下類	54	10e	大木 7a 新 ~ 7b	R											[ 関 ]	
下類	54	11	大木 7a 新 ~ 7b	R										<M2>		
下類	54	15	大木 7a 新 ~ 7b	R										M3		
下類	54	25	大木 7a 新	L									M2			
下類	54	25	大木 7a 新	R											[ 関 ]	
下類	54	25	大木 7a 新	R	I1											
下類	54	25	大木 7a 新	R										M3		
下類	54	27	大木 7a 古 ~ 新	L								[ M2		(M3)	[ 関 ]	
下類	54	27	大木 7a 古 ~ 新	L	[ x	x	x	x	m1x	m2	m3	M1				カットマーク (骨角器№127)
下類	54	27	大木 7a 古 ~ 新	L											[ 関 ]	
下類	54	27	大木 7a 古 ~ 新	L	I1											
下類	54	27	大木 7a 古 ~ 新	L					m1							
下類	54	27	大木 7a 古 ~ 新	R							m3					
下類	54	27	大木 7a 古 ~ 新	R									M2			
下類	54	28	大木 7a 古 ~ 新	R	[ x	x	x	x	P2	P3						
下類	54	30	大木 6 ~ 7a 古	R										M3		
下類	56	S - 40	大木 6 ~ 8b	R										<M2>		
下類	56	2L I	大木 6 ~ 8b	R							P4					
下類	58	L II a	大木 6 ~ 8b	L								[ M2		M3		
下類	58	L II a	大木 6 ~ 8b	L					[ P2	P3						
下類	58	L II a	大木 6 ~ 8b	L					[ P2	P3	P4					
下類	58	L II a	大木 6 ~ 8b	L	[ x	x	x	x	P2	P3	P4					
下類	58	L II a	大木 6 ~ 8b	L	[ x	x	x	x								
下類	58	L II a	大木 6 ~ 8b	L								M1				
下類	58	L II a	大木 6 ~ 8b	L										M3		
下類	58	L II a	大木 6 ~ 8b	R					[ P2	P3						
下類	58	L II a	大木 6 ~ 8b	R					[ P2x	P3x						
下類	58	L II a	大木 6 ~ 8b	R												
下類	63	D - 7	大木 6 ~ 8b	L	[ x	x	x	x	P2	P3	P4	M1	M2	M3		
下類	63	L I	大木 6 ~ 8b	L	[ x	x	x	x	P2	P3	P4					
下類	64	1	大木 6 ~ 網取 II	L							m3					
下類	64	1	大木 6 ~ 網取 II	L										M3		
下類	64	1	大木 6 ~ 網取 II	R											[ 関 ]	
下類	64	1	大木 6 ~ 網取 II	R	[ x	x	x	x								
下類	64	1	大木 6 ~ 網取 II	R									M2			
下類	64	1	大木 6 ~ 網取 II	R									(M2)			
下類	64	1	大木 6 ~ 網取 II	R										M3		
下類	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	L					[ x	m2	m3	M1	M2			
下類	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	L								[ M1	M2			
下類	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	L											[ 関 ]	
下類	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	L											[ 関 ]	
下類	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	L								M1				
下類	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	L										M3		
下類	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	L										<M3>		
下類	64	1 - I	大木 6 ~ 網取 II	R	[ x	x	x	x								
下類	64	1 - II層上面	大木 6 ~ 網取 II	R								M1				
下類	64	1 - III層上面	大木 6 ~ 網取 II	L								[ M1	M2			
下類	64	1 - III層上面	大木 6 ~ 網取 II	L							[ m3					
下類	64	1 - III層上面	大木 6 ~ 網取 II	L							[ <P4>				[ 関 ]	
下類	64	1 - III層上面	大木 6 ~ 網取 II	R							[ M1	M2	M3			
下類	64	1 - III層上面	大木 6 ~ 網取 II	R							M1					
下類	64	2 - I	大木 6 ~ 網取 II	L											[ 関 ]	
下類	64	2 - I	大木 6 ~ 網取 II	L											[ 関 ]	
下類	64	2 - I	大木 6 ~ 網取 II	L										M2/M3fr		
下類	64	2 - I	大木 6 ~ 網取 II	R	[ x	x	x	x								
下類	64	2 - II層上面	大木 6 ~ 網取 II	L							m3					
下類	64	2 - II層上面	大木 6 ~ 網取 II	L									M2			
下類	64	2 - II層上面	大木 6 ~ 網取 II	R	[ x	x	x	x	x	P3	P4	M1	M2	M3		
下類	64	S1 - 3	網取 II	L										M3		
下類	64	S2 - 10B	大木 6 ~ 8 a	L									M2			
下類	64	S4 - 6	大木 7b	R								M1				
下類	72	① I	大洞 BC ~ C2	R								M1				
下類	72	① I 下層	大洞 BC ~ C2	R					[ P2	x	P4					
下類	72	① I 下層	大洞 BC ~ C2	R	[ x	x	x	x								
下類	72	I	大洞 BC ~ C2	L											[ 関 ]	
下類	72	III層直上	大洞 BC ~ C2	L									M2			
下類	72	III層直上	大洞 BC ~ C2	R	[ x	x	x	x	m1	m2	m3	M1	(M2)			
下類	72	III層直上	大洞 BC ~ C2	R							P4					
下類	72	III層直上	大洞 BC ~ C2	R										M3		
下類	72	S2-1	大洞 C2	R											[ 関 ]	
下類	1G	②	大洞 BC ~ C2	R							m3					
下類	1G	北壁	大洞 BC ~ C2	R									M2			
下類	5G	III	大洞 BC ~ C2	L								[ M2		M3		
下類	5G	III	大洞 BC ~ C2	R										M3		
下類	IV-ST1	III C-D	大洞 BC ~ C1	L									M2			
下類	IV-ST1	III E	大洞 BC	R					(P2)	(P3)	(P4)	M1	M2	(M3)		
下類	IV-ST1	III E	大洞 BC	R						[ x	P4					
下類	IV-ST1	III E	大洞 BC	R							m3					
下類	-	-	?	L					[ P2x							
下類	G-1/5	表採	?	R										M3		
下類	-	L V		R								[ M2				

表 27 浦尻貝塚から出土したイヌ科 (タヌキ・キツネ・イヌ・オオカミ) 顎骨・歯の詳細 \*凡例は表 25 を参照

種名	トレンチ	層準	年代	上下	LR	I1 i1	I2 i2	I3 i3	C c	P1	P2 m1	P3 m2	P4 m3	M1	M2	M3	下顎 角	関節/筋 突起	備考
タヌキ	31	L IV	大木 5-6	上顎	R									M1					
タヌキ	31	L IV	大木 5-6	下顎	L											[ x	x ]		
タヌキ	31	S4	大木 7a 古	上顎	R										M2				
タヌキ?	31	S12	大木 7a 古	上顎	L							[ P3 ]							
タヌキ	31	S17	大木 5-6	下顎	R					[ x	x	x	x	M1	x	x			
タヌキ	38	L III d	大木 9	下顎	L?									M1?					
タヌキ	38	L III 下	大木 7a 新	上顎	L	[ x	x	x ]											
タヌキ	38	L III 下	大木 7a 新	下顎	L	[ x	x	x ]											
タヌキ	38	L III 下	大木 7a 新	下顎	L					[ x	x	x	x	x	x				
タヌキ	39	L III 上	大木 6-9	上顎	L								P4	M1					
タヌキ	46	-	大木 6-8b	下顎	L										[ M2	x ]			
タヌキ	53	L III - 2	大木 3-4	上顎	L					[ x	P2	x	P4	M1	x				
タヌキ	53	L III - 2	大木 3-4	下顎	R										[ x	-	角 ]		M3 欠歯
タヌキ	54	10e	大木 7a 新-7b	上顎	L			[ x	x	x	x	P4 ]							
タヌキ?	54	10	大木 7a 新-7b	上顎	L									M1					
タヌキ	54	11	大木 7a 新-7b	下顎	L					[ x	x	x	x ]						
タヌキ	54	15	大木 7a 新-7b	下顎	R				C										
タヌキ	54	16	大木 7a 新-7b	下顎	R	[ x	x	x	x	x	x	P3	x	M1	x	x			
タヌキ	54	18	大木 7a 新-7b	下顎	R								[ x	x ]					焼
タヌキ	54	19	大木 7a 新-7b	上顎	R								P4						
タヌキ	54	22	大木 7a 新	下顎	L					[ x	P2	P3	P4	M1	M2	x			
タヌキ	54	22	大木 7a 新	下顎	L					[ x	x	x ]							焼
タヌキ	54	24	大木 7a 新	下顎	L													[ 関 ]	
タヌキ	54	25	大木 7a 新	上顎	L									M1					
タヌキ	54	25	大木 7a 新	下顎	R	[ x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	角		焼
タヌキ	54	25	大木 7a 新	下顎	R									[ M1	M2	x			関・筋 ]
タヌキ	54	25	大木 7a 新	下顎	R					[ x	x	x ]							
タヌキ	54	26	大木 7a 古-新	上顎	L					[ x	x	x	x ]						
タヌキ	54	27	大木 7a 古-新	上顎	R									M1					
タヌキ	54	27	大木 7a 古-新	下顎	R					[ x	x	x	x ]						
タヌキ	54	28	大木 7a 古-新	上顎	L	[ x	x	x	x	x	x								
タヌキ	54	28	大木 7a 古-新	上顎	L								[ P4	M1	M2 ]				
タヌキ?	54	28	大木 7a 古-新	上顎	L				C										
タヌキ	54	28	大木 7a 古-新	下顎	R										[ x	x	角 ]		
タヌキ	54	28	大木 7a 古-新	下顎	R									[ x	P4	M1 ]			
タヌキ	54	29	大木 6-7a 古	下顎	R					[ x	x	x	x	x	x	x			
タヌキ	54	30	大木 6-7a 古	下顎	L													[ 関 ]	
タヌキ	54	30	大木 6-7a 古	下顎	R	[ x	x	x	x	P1	P2	P3	P4	x	M2	x	角 ]		
タヌキ	54	30	大木 6-7a 古	下顎	R						[ x	x	x	M1	x	x	角 ]		
タヌキ	58	L II a	大木 6-8b	下顎	L					[ x	x	P2	P3	P4	M1 ]				
タヌキ	58	L II a	大木 6-8b	下顎	L					[ x	x	x	x	P4	M1	x	x ]		
タヌキ	58	L II a	大木 6-8b	下顎	L						[ x	x	x	P4	M1 ]				
タヌキ	58	L II a	大木 6-8b	下顎	R													[ 角 ]	
タヌキ	63	1 - d	大木 6-8b	下顎	L					[ x	P2	P3	P4	M1	x	x	角 ]		
タヌキ	63	L I	大木 6-8b	上顎	R				C										
タヌキ	64	1 - I	大木 6-網取 II	上顎	L							[ x	x	M1	M2 ]				
タヌキ	64	1 - I	大木 6-網取 II	上顎	R								[ x	M1	x ]				
タヌキ	64	1 - I	大木 6-網取 II	下顎	R						[ x	P3	P4	M1	M2	x ]			
タヌキ	64	1 - II 層上面	大木 6-網取 II	下顎	L				[ C	P1	P2	P3 ]							
タヌキ	64	1 - III 層上面	大木 6-網取 II	下顎	R										[ x	x ]			
タヌキ	64	2 - I	大木 6-網取 II	下顎	L									M1					
タヌキ	64	2 - I	大木 6-網取 II	下顎	L													[ 角 ]	
タヌキ	64	2 - II 層上面	大木 6-網取 II	上顎	R									[ M1	M2 ]				
タヌキ	64	III - 2 - A - a	大木 6-網取 II	上顎	L							[ x	P4	M1	M2 ]				
タヌキ	64	S2 - 4	網取 II	上顎	L										M2				
タヌキ	64	S2 - 5	網取 II	下顎	R													[ 関 ]	
タヌキ	64	S4 - 11B	大木 6 以前	上顎	R									P4					
タヌキ	1G	III 層直上	大洞 BC-C2	上顎	R							[ x	P4	M1	M2 ]				
キツネ	38	L III 下 1	大木 7a 新	下顎	R									M1					
キツネ	54	27	大木 7a 古-新	上顎	L									P4					
キツネ?	54	27	大木 7a 古-新	上顎	L									P4					
キツネ?	64	2 - II 層上面	大木 6-網取 II	上顎	?				C										
イヌ?	54	2	大木 7a 新-7b	?	?				C										
イヌ?	54	8	大木 7a 新-7b	上顎	R									P4					
イヌ (幼)	54	10	大木 7a 新-7b	上顎	R								m2						
イヌ	54	12	大木 7a 新-7b	下顎	L				[ C	P1	P2 ]								歯根未閉鎖, 若獣
イヌ*	54	27/10	大木 7a 古-7b	上顎	L					[ P2	P3	P4 ]							*印は同一個体
イヌ*	54	27	大木 7a 古-新	上顎	L			I3						M1	M2				*印は同一個体
イヌ*	54	27	大木 7a 古-新	上顎	R				C	[ P2	x	P4	M1	M2 ]					*印は同一個体
イヌ	54	27	大木 7a 古-新	上顎	L				[ C ]										
イヌ	54	27	大木 7a 古-新	下顎	R									M1					
イヌ*	54	28	大木 7a 古-新	上顎	R			I3											*印は同一個体
イヌ	54	28	大木 7a 古-新	上顎	L							P2/P3							歯根未閉鎖, 若獣
イヌ	64	S3 - 14	大木 6-7a	上顎	L									M1					
イヌ	1G	S1 - 4A	大洞 BC	上顎	L									M1					
イヌ	3G	S1-2B	大洞 BC	上顎	L														乳歯
イヌ	IV区	カクラン	加曽利 B-大洞 C2	下顎	R											[ x ]			
オオカミ	54	3L III	大木 6-8b	下顎	L	[ x	x	x	C	P1	P2	P3	x	M1	M2	M3	角	関 ]	M1 長 22.6mm

表 28 浦尻貝塚から出土したその他の哺乳類の顎骨・歯の詳細 \*凡例は表 25 を参照

種名	トレンチ	層名	時期	上下	LR	詳細	数	備考
ノウサギ	54	25	大木 7a 新	上顎	?	臼歯	2	
ノウサギ	54	25	大木 7a 新	下顎	L	[P3x P4 M1x M2 M3x]	1	
ノウサギ	54	28	大木 7a 古-新	上顎	?	臼歯	1	
ノウサギ	72	Ⅲ層上面	大洞 BC-C2	上顎	R	P3	1	
ノウサギ	3G	一括	大洞 BC-C2	下顎	L	[IP3x P4 M1 M2x]	1	
ノウサギ	4G	Ⅱ	大洞 BC-C2	下顎	R	[IP3 P4 M1 M2 M3x]	1	
ノウサギ	4G	Ⅱ	大洞 BC-C2	下顎	R	下顎角	1	
ノウサギ	?	?	?	下顎	L	[Ix P3 P4 M1 M2 M3x]	1	
ムササビ	38	L Ⅲ d	大木 9	下顎	L	I	1	
ムササビ	3G	Ⅲ層上面	大洞 BC-C2	下顎	R	I	1	
テン	38	L Ⅲ下 1	大木 7a 新	下顎	L	[Cx P1 P2 P3 M1 M2x]	1	
テン	54	10	大木 7a 新-7b	下顎	L	[Cx P1x P2 P3 P4 M1]	1	
イタチ	54	28	大木 7a 古-新	下顎	R	[P1x P2x P3x M1x M2x]	1	
アナグマ	54	28	大木 7a 古-新	上顎	L	[P1 P2]	1	
アナグマ	58	L Ⅱ a	大木 6-8b	下顎	L	[P3x M1x M2x]	1	焼
アナグマ	64	S1 - 11B	大木 6-8a	上顎	L	M1	1	
アナグマ	72	I	大洞 BC-C2	下顎	L	[Cx P1x P2 P3 P4 M1 M2x 角]	1	
アナグマ	72	Ⅲ - 2 - A	大洞 BC-C2	下顎	R	[Cx P1x P2x P3x P4 M1 M2x 関]	1	
カワウソ?	31	L Ⅳ	大木 5-6	下顎	R	[Cx P1x P2x]	1	
カワウソ	53	サブトレ①	大木 3-4	上顎	L	[Cx P1x P2x P3 P4 M1]	1	
カワウソ	54	15	大木 7a 新-7b	上顎	L	P3	1	
カワウソ	54	22	大木 7a 新	上顎	R	[I1 I2 I3 Cx P1x P2 P3 P4 M1]	1	
カワウソ	54	30	大木 6-7a 古	上顎	L	M1	1	
カワウソ	72	I	大洞 BC-C2	上顎	L	[P4 M1]	1	
カワウソ	4G	Ⅱ	大洞 BC-C2	下顎	L	[Cx P1 P2 P3 M1 M2x]	1	





### 第3節 鳥類

#### 第1項 はじめに

浦尻貝塚は福島県南相馬市小高区浦尻に所在する縄文時代前期から中世までの複合遺跡である。平成12年度から平成15年度に縄文時代前期後葉から晩期中葉にわたる4つの貝層（台ノ前南・北貝層、西向貝層、小畑貝層）が調査された。貝層はすべて5mm目のフルイを用いて水洗され、多数の動物遺体が採集された。貝層の形成年代は台ノ前南・北貝層が縄文時代前期後葉～中期後葉、西向貝層が前期末～後期前葉、小畑貝層が晩期前葉～中葉である。本節ではこれらの貝層から検出された鳥類遺体について報告する。

#### 第2項 資料と方法

現地採集資料あるいは水洗5mm資料として645点の鳥類遺体が検出された。このうち椎骨（第一・第二頸椎、連合仙椎以外）と趾骨（タカ科の末節骨以外）を除いた566点を同定対象とした。資料は江田（EP）と川上和人氏（森林総合研究所）所蔵の現生標本（KP）との肉眼比較で同定した。骨の部位の名称はBaumel et al. (1993) および日本獣医解剖学会（1998）に、分類群名は基本的に日本鳥類目録編集委員会（2000）に従い、同書で言及されていないカモ科の亜科と族の分類はAmerican Ornithologists' Union (1983) に従った。資料の残存状態は、近位や遠位の関節が半分以上あるものはそれぞれ近位端、遠位端、両方が半分以上あるものは完存とした。また、主要四肢骨で骨幹のほぼ中央にある栄養孔が残存している骨は中間部として記載し、以上の条件に合わない資料は中間部破片とした。資料を観察し、骨表面の粗さと骨端の癒合状態に基づく成長段階、骨髓骨様組織の有無を記載した。最小個体数（以下、MNI）は基本的に科を単位に算出したが、カモ科についてはガン族、ハクチョウ族、カモ亜科の3つに分けてそれぞれで算出した。MNIの算出には骨の大きさや成長段階、出土地点は考慮しなかった。

#### 第3項 結果

資料の保存状態は良好で、約90%（508点）で目以下を単位に同定できた。確認された分類群はアビ科、カイツブリ科、ミズナギドリ科、ウ科、ガン族、ハクチョウ族、マガモ属、スズガモ属、ピロードキンクロ属、ホオジロガモ属、アイサ族、カモ亜科、タカ科、タカ目、キジ、キジ科、ツル科、クイナ科、カモメ科、フクロウ科、カラス科で11目12科であった（表10）。もっとも多く出土したのはマガモ属、スズガモ属、ピロードキンクロ属、ホオジロガモ属、アイサ族を含むカモ亜科で、全同定資料の約72%を占めた。ウ科とカイツブリ科がこれについて約7%ずつ、キジを含むキジ科とクイナ科が約4%ずつ出土し、他の分類群の出土量は約1%以下であった。骨端の形成が不完全な資料や骨幹の粗い資料はカイツブリ科、カモ亜科、タカ科、カモメ科、カラス科で計17点認められた。また髓腔が観察できた475点中、髓腔を埋めるように発達した骨髓骨様の組織はカイツブリ科の骨でのみ認められた。以下、各地区における出土量と各分類群の様相を記載する。

##### 1. 出土量の記載

台ノ前南貝層：97点が出土し、約69%（67点）を同定できた（表31）。時期別にみると、前期後葉（大木5式～6式期）ではカイツブリ科が1点、前期末～中期前葉（大木7a式期古段階）ではカモ

亜科が2点、ガン族、カモメ科、カラス科が各1点、中期前葉～中期末（大木7 a式新段階～大木9式期）ではスズガモ属とアイサ族を含むカモ亜科が44点、ウ科が7点、カイツブリ科が2点、ミズナギドリ科とガン族が各1点出土した。MNIは中期前葉～中期末のカモ亜科が4個体、他は1個体であった（表30）。

**台ノ前北貝層：**349点が出土し、約79%（274点）を同定できた（表32）。検出された分類群はカイツブリ科、ウ科、カモ亜科、タカ科、キジ科、ツル科、クイナ科、カモメ科、フクロウ科、カラス科である。同定標本数（以下、NISP）の内訳は、前期末～中期前葉（大木7a式期古段階以前）が42点、中期前葉～中葉（大木7 a式新段階～大木8 b式期）が171点、時期不詳（前期末～中期中葉）が62点である。いずれの時期もカモ亜科が卓越し、前期末～中期前葉では約38%、中期前葉～中葉では約78%を占める。カモ亜科に加えて、前期末～中期前葉ではウ科がやや多く（約26%）、クイナ科（約19%）がこれに続いた。また中期前葉～中葉ではカイツブリ科が約7%、ウ科とキジ科が約4%であった。MNIでも両時期でカモ亜科が優先し、上記の各科が続く傾向はほぼ同じであった（表30）。中期前葉～中葉に比定されたカモ亜科には、マガモ属、ピロードキンクロ属、ホオジロガモ属が各1点、スズガモ属とアイサ族が各2点（MNI=1）含まれた。

**西向貝層：**69点が出土し、約90%（62点）を同定できた（表33）。時期別では前期末～中期中葉（大木8 b式期以前）でカモ亜科が6点、タカ科が3点、クイナ科が2点、キジ科が1点、後期（綱取II式期）でアイサ族1点を含むカモ亜科が6点であった。また貝層外資料（中期～後期）としてマガモ属とスズガモ属を各1点含むカモ亜科が28点、キジ科が6点、ウ科が4点、カイツブリ科が3点、ハクチョウ族が2点、クイナ科が1点検出された。MNIは前期末～中期中葉および貝層外資料のカモ亜科が2個体、他は1個体であった（表30）。

**小迫貝層：**131点が出土し、約80%（105点）を同定できた（表34）。資料はすべて晩期（大洞式期）に比定され、アビ科、カイツブリ科、ミズナギドリ科、ウ科、ハクチョウ族、スズガモ属、アイサ族、カモ亜科、タカ科、タカ目、キジ科、クイナ科、カラス科が検出された。主体はスズガモ属とアイサ族を含むカモ亜科で、NISPの約67%（70点）を占めた。カイツブリ科が9点（約9%）、キジ科とクイナ科が6点（約6%）、ミズナギドリ科が5点（約5%）でこれに続き、他の分類群は1点もしくは2点の出土であった。MNIはカモ亜科が9個体、カイツブリ科とクイナ科が2個体で、他は1個体であった（表30）。

## 2. 各分類群の記載

**カモ科：**カモ亜科が364点、ガン亜科のガン族が3点、ハクチョウ族が6点検出され、鳥類遺体の主体を占める。カモ亜科の上腕骨を江田（2005）に従って同定した結果、マガモ属2点、スズガモ属11点、ピロードキンクロ属2点、ホオジロガモ属3点が確認された（写真図版11 16-19）。さらに、江田（2005）が記載した上腕骨頭の形態からアイサ族5点をカモ亜科の遺体から識別した。属単位の同定が上腕骨に限られたため各属の出現頻度の時期差は詳らかでないが、前期末～中期前葉に比定される上腕骨以外の資料にはスズガモ属やマガモ属に形態が類似するものが多く、ピロードキンクロ属やホオジロガモ属などアイサ族に形態が類似する大腿骨や烏口骨（写真図版11 1・2、写真図版12 13・15）は中期前葉以降で主に出土していた。これらの資料の詳細な同定は今後の課題としたい。カモ亜科の遺体中にはコガモ（EP-5）程度からカルガモ（EP-84）程度まで様々な大きさの資料が含まれ、複数種からなることが伺えた。特にホシハジロ（EP-8）やキンクロハジロ（EP-5）程度の大きさの資料が最も多かった。遠位端の腱上橋の形成が不完全な脛足根骨が3点、近位端より骨幹が粗い足

根中足骨が2点検出されたが、これらが日本で繁殖した個体に由来するかの特定には今後の現生標本の調査が必要である。ガン族ではカリガネ (KP80-1) とほぼ同じ大きさの資料、マガン (EP-25) とほぼ同じ大きさの資料、マガン (EP-25) より大きい資料の3点が、ハクチョウ族ではコハクチョウ (EP-200) とほぼ同じ大きさの資料とそれより大きい資料が認められ、各族内に複数種が含まれると考えられた。

**カイツブリ科**：34点が検出され、各期でNISPの7%程度を占める。ハジロカイツブリ (KP006-1) 程度からアカエリカイツブリ (EP-01) 程度の大きさの資料が認められ、複数種を含むと考えられる。台ノ前北貝層出土の足根中足骨には骨髓骨様組織 (写真図版12 22b) が観察されたが、その同定には組織学的分析が必要である。また台ノ前北貝層の2層から骨幹がやや粗い足根中足骨が検出されている。

**ウ科**：34点が検出された。大きさではウミウ (EP-88) 程度が75%、ヒメウ (EP-92) 程度が約25%認められ、少なくとも2種を含むと考えられる。台ノ前北貝層2層から骨幹の粗い若鳥の大腿骨が検出されている。

**キジ科**：ヤマドリ♀ (EP-144) 程度の大きさの資料とキジ♂ (EP-143) 程度の大きさの資料が約半数ずつ、計23点が検出された。このうち、台ノ前北貝層から出土した2点の大腿骨の大転子直下には窩が認められ、キジと同定できた。

**クイナ科**：19点が検出された。前期末～中期前葉にあたる貝層と晩期の貝層で出土量が多く、中期中葉～後期の貝層ではほとんど検出されなかった。バン (EP-12) とほぼ同大の資料からオオバン (KP181-1) より大きい資料まで認められ、複数種が含まれると考えられる。オオバン程度の大きさの資料がもっとも多かった。

**ミズナギドリ科**：オオミズナギドリ (EP-92) とハイイロミズナギドリ (EP-132) 程度の資料が計6点検出された。出土量は中期前葉～中葉の貝層で1点、晩期の貝層で5点であった。

**カラス科**：6点が検出され、ハシブトガラス (EP-13) 程度とハシボソガラス (EP-32) 程度の大きさの資料が確認された。台ノ前北貝層56トレンチからは骨端の外れた幼鳥の、小迫貝層からは骨幹の粗い若鳥の尺骨が検出されている。

**タカ科・タカ目**：タカ科が5点、タカ目が1点検出されている。タカ科はトビ (EP-3) とほぼ同じ大きさとそれよりかなり大きな資料が含まれた。台ノ前北貝層の鳥口骨および西向貝層の肩甲骨と鳥口骨は骨端の形成が不完全な若鳥のものであった。タカ目とした手根中手骨は、破損しておりタカ科とハヤブサ科の同定に窮した資料で、ハヤブサ (KP151-1) とほぼ同じ大きさの資料である。

**その他の分類群**：アビ科ではアビ (EP-82) とほぼ同じ大きさの鳥口骨と、アビとシロエリオオハム (EP-9) の中間程度の大きさの橈骨が小迫貝層で確認された。カモメ科はセグロカモメ (EP-89) とほぼ同大の資料が2点検出されている。それぞれ1点が検出された分類群のうち、ツル科はタンチョウ (EP-135) とほぼ同大の脛足根骨、フクロウ科はフクロウ (EP-36) よりかなり大きな手根中手骨であった。台ノ前北貝層出土の左大腿骨 (写真図版12 14) と小迫貝層出土の鎖骨 (写真図版12 10) は種不明鳥類として記載した。それぞれクイナ科とカモ科に形態は近いものの同定には至らなかった。

#### 第4項 考察

今回調査したすべての貝層とすべての時期で鳥類遺体の主体はカモ亜科であった。これは1970年に調査された西向貝層 (金子1971)、周辺の宮田貝塚 (田中1975) や北原貝塚遺跡群 (植月・樋泉2004) と共通の傾向で、各期で鳥類資源として最も利用されたのがカモ亜科であることが示唆された。カモ亜科では内陸の湖沼や河口に飛来するスズガモ属が最も多く、主に内湾に飛来するホオジロ



ガモ属、主に外洋に生息するビロードキンクロ属、内陸の湖沼など淡水域に多いマガモ属が含まれた。またマガモ属の一部の種以外は冬季にのみ日本を訪れることから、各貝層に冬季の活動の残渣が含まれることが示唆された。スズガモ属と同様に内陸の湖沼や河口に飛来する冬鳥であるカイツブリ科が各期を通じて鳥類遺体の7%程度を占めたことから、淡水域から汽水域での冬季の狩猟は各期を通じておこなわれたと考えられる。一方でキジ科やタカ科、カラス科の出土は各期で非常に少なく、草原や森林など陸域での狩猟は一貫して低調であったことがうかがえる。以下、各時期の鳥類遺体の構成と鳥獣類遺体に占める出現率（図50、51）から各時期の鳥類資源利用の特徴について述べる。

**前期末～中期前葉（大木7 a 式期古段階以前）**：前期前葉の北原貝塚遺跡群や以降後期までと比べ鳥獣類のNISPやMNIに占める鳥類の割合は少なく、鳥類の利用は低調である。カモ亜科が約40%を占めるが、ビロードキンクロ属やホオジロガモ属など海棲のカモ類に比べ、スズガモ属やマガモ属など主に淡水域から内湾に生息するカモ類が多いと思われる。水辺の草原やヨシ原に生息するクイナ科が比較的多く出土し、また湿地などの淡水域に冬季に渡来したと推定されるツル科やガン族も確認された。鳥類に関しては淡水域から内湾で主に狩猟がおこなわれたと推定される。

**中期前葉～中期中葉（大木7 a 式期新段階～大木9 式期）**：鳥獣類のNISP・MNIに占める鳥類の割合は約40%に達し、前の時期から顕著な増加が認められる。特にカモ亜科が増加し、NISPで鳥類遺体の70%以上、鳥獣類遺体の30%以上を占める。ビロードキンクロ属やホオジロガモ属などアイサ族の出土が目立つようになり、淡水域から内湾であった狩猟域のより外洋への進出がうかがえる。クイナ科の出現率が減少し、ツル科やガン族が確認されないことも淡水域での狩猟の低調を支持すると言える。

**後期前葉（綱取II 式期）**：鳥獣類全体として資料は少なく、鳥類ではアイサ族を含むカモ亜科のみが出土している。鳥獣類全体においてカモ亜科が主要な資源である点では中期前葉～中葉と同様の傾向が示された。

**晚期前葉～中葉（大洞式期）**：鳥類遺体に占めるカモ亜科の割合は約65%で依然として高いものの、鳥獣類遺体に占めるその割合はNISPで約18%に減少する。スズガモ属とアイサ族が確認されており、大木7 a 式期新段階とカモ亜科の構成要素に大きな変化は認められない。一方で、大木7 a 式期新段階～綱取II 式期ではほとんど皆無であったクイナ科が増加し、またキジ科の出現率もやや増加する。さらに、以前の時期では出土していないアビ科や、非常に少なかったミズナギドリ科が確認されている。これらの傾向は、淡水域や陸域での狩猟の増加とともに、アビ科が主に生息する内湾環境や、ミズナギドリ科が生息するより外洋の環境を利用したことを示唆し、この時期の生業が非常に多様化したことを示すといえるであろう。

（江田真毅）

#### 謝辞

資料分析の機会をいただいた南相馬市教育委員会、分析上多大なるご協力をいただいた川田強氏（南相馬市教育委員会）と樋泉岳二氏（早稲田大学）、現生標本を閲覧させていただいた川上和人氏、標本作成にご協力いただいた中坪啓人氏（東京大学総合研究博物館）と東京大学総合研究博物館に厚く御礼申し上げます。

第2章 第3節 引用文献

- 植月 学・樋泉岳二 (2004) 「北原西貝塚の動物遺体」『北原貝塚遺跡群』小高町教育委員会
- 江田真毅 (2005) 「生活復原資料としての鳥類遺体の研究－カモ亜科遺体の同定とその考古学的意義－」『海と考古学』六一書房、pp.387-406
- 金子浩昌 (1971) 「遺物Ⅱ－浦尻貝塚出土の動物遺存体概報－」『浦尻貝塚』福島大学考古学研究会
- 田中正昭 (1975) 「哺乳類および鳥類遺体の分析」『宮田貝塚』小高町教育委員会
- 日本獣医解剖学会 (1998) 『家禽解剖学用語』日本中央競馬会
- 日本鳥類目録編集委員会 (2000) 『日本鳥類目録 改訂第6版』日本鳥学会
- American Ornithologists' Union (1983) The A.O.U. Check List of North American Birds. 7th edition. American Ornithologists' Union, Washington, D.C.
- Baumel, J.J., King, A.S., Breazile, J.E., Evans, H.E., & Berge, J.C.V., (1993) Handbook of Avian Anatomy: Nomina Anatomica Avium. Nuttall Ornithological Club.

第3節 鳥類

表 31 浦尻貝塚台ノ前南貝層から現地採集および水洗5mmメッシュで回収された鳥類遺体の同定結果 \*凡例は表33を参照

トレンチ	層	採集	種名	部位	左右	残存部	点数	
31	L III	5	種不明鳥類	椎骨			2	
				尺骨	R	p-m	1	
	L IV	5	カイツブリ科	尺骨		mfr	1	
	S4~8	5	同定不能鳥類	寛骨			1	
	S9~14	現	ガン族	尺骨	L	mfr	1	
				腕骨	L	d	1	
				手根中手骨	R	d	1	
	サンプル	5	種不明鳥類	椎骨			1	
	38	A1~6	5	カラス科	上腕骨	L	d	1
					上腕骨	R	p	1
脛足根骨					L	d	1	
A7~11		現	カモ亜科	椎骨			1	
				脛足根骨	L	p-m	1	
				尺骨	R	p	1	
A12~15		5	ウ科	尺骨	R	p	1	
				腕骨	R	p	1	
				肩甲骨	R	p	1	
L III		5	カモ亜科	上腕骨	R	p	1	
				頭骨			1	
				手根中手骨	R	d	1	
				尺骨	L	p	1	
				足根中足骨	R	w	1	
L III d~f		現	ウ科	大腕骨	R	d	1	
				椎骨			4	
				カイツブリ科	尺骨	L	p	1
				カモ亜科	手根中手骨	L	d	1
				上腕骨	L	d	1	
				大腿骨	L	d	1	
				腕骨	R	p	1	
				尺骨	L	d	1	
				種不明鳥類	椎骨			1
				L III g	5	ウ科	脛足根骨	L
L III h		5	種不明鳥類	椎骨			1	
L III 下		現	ウ科	上腕骨	L	d	1	
				カモ亜科	鳥口骨	L	m-d	1
				尺骨	R	w	1	
				尺骨	L	d	1	
				尺骨	R	w	1	
		5	カイツブリ科	上腕骨	R	d	1	
				ミズナギドリ科	脛足根骨	R	d	1
				ウ科	大指基節骨	R	d	1
				脛足根骨	R	p	1	
				アイサ族	上腕骨	L	p	1
				カモ亜科	鳥口骨	R	w	1
				鳥口骨	R	d	1	
				胸骨			1	
				肩甲骨	L	p	1	
				尺骨	L	d	1	
手根中手骨		R	p-m	1				
大腿骨		R	m-d	1				
腕骨		L	d	1				
腕骨		R	p	1				
腕骨		L	d	1				
腕骨	R	p-m	1					
脛足根骨	R	d	1					
種不明鳥類	椎骨			15				
同定不能鳥類	寛骨		mfr	1				
L III 下 1	5	ガン族	手根中手骨	L	p	1		
L III 上	現	カモ亜科	鳥口骨	R	m-d	1		
			カモ亜科	上腕骨	R	d	1	
L IV	現	カモメ科	種不明鳥類	椎骨		3		
			カラス科	脛足根骨	L	d	1	
39	III-3層上	5	カモ亜科	尺骨	R	d	1	
				カモ亜科	尺骨	R	p	1
				キジ科	頭骨			1
計							97	

表 32 浦尻貝塚台ノ前北貝層から現地採集および水洗5mmメッシュで回収された鳥類遺体の同定結果 \*凡例は表33を参照

トレンチ	層	採集	種名	部位	左右	残存部	点数			
46	46T一括	現	ハクチョウ族	上腕骨	R	m	1			
				尺骨	R	d	1			
53	53T一括	現	カモ亜科	尺骨	R	p	1			
				同定不能鳥類	尺骨	R	p-m	1		
				同定不能鳥類	上腕骨	L	m	1		
54	53T東III-3層	現	ウ科	鳥口骨	L	d	1			
				カモ亜科	鳥口骨	L	p	1		
	54T III-3層上面	5	カモ亜科	鳥口骨	L	p	1			
				尺骨	R	d	1			
				a層	現	ウ科	尺骨	L	d	1
				b層	現	カモ亜科	鳥口骨	L	w	1
							尺骨	L	m-d	1
							大腿骨	R	p-m	1
							脛足根骨	R	m-d	1
							同定不能鳥類	上腕骨	R	mfr
カイツブリ科							上腕骨	L	d	1
カモ亜科							鳥口骨	L	d	2
尺骨	R	p	1							
尺骨	R	p-m	1							
尺骨	L	m-d	1							
手根中手骨	R	p	1							
手根中手骨	L	w	1							
手根中手骨	L	p	1							
大腿骨	R	w	1							
大腿骨	L	w	1							
腕骨	L	m-d	1							
キジ科	手根中手骨	L	w	1						
手根中手骨	L	w	1							
種不明鳥類	椎骨			10						
同定不能鳥類	脛足根骨	R	d	1						
同定不能鳥類	第二頸椎			1						
c層	5	ウ科	手根中手骨	L	d	1				
d層	5	カモ亜科	大腿骨	R	d	1				
			鳥口骨	R	d	2				
			尺骨	L	p	1				
			尺骨	L	d	1				
			尺骨	L	m	1				
			尺骨	L	d	1				
			手根中手骨	L	p-m	1				
			上腕骨	R	d	1				
			上腕骨	L	d	1				
			足根中足骨	L	d	1				
大腿骨	R	p	1							
脛足根骨	R	p-m	1							
種不明鳥類	椎骨			3						
同定不能鳥類	大腿骨	R	p	1						
カモ亜科	尺骨	R	m-d	1						
e層	現	ピロードキンクロ属	カモ亜科	上腕骨	L	w	1			
			鳥口骨	L	w	1				
			上腕骨	R	m	2				
			脛足根骨	R	m-d	1				
			カイツブリ科	上腕骨	R	d	1			
			足根中足骨	R	w	1*				
			大腿骨	L	d	1				
			脛足根骨	L	d	1				
			腕骨	R	p	1				
			腕骨	L	d	2				
アイサ族	上腕骨	L	p	1						
カモ亜科	鳥口骨	R	m	1						
鳥口骨	R	d	1							
尺骨	R	d	1							
尺骨	L	p-m	1							
手根中手骨	L	d	1							
上腕骨	R	d	1							
大腿骨	L	d	1							
大腿骨	L	d	1							
第二頸椎				1						
腕骨	R	p-m	1							
腕骨	L	d	1							
脛足根骨	R	m-d	1							
尺骨	L	d	2							
尺骨	L	p	1							
キジ科	足根中足骨	L	p	1						
種不明鳥類	椎骨			7						
同定不能鳥類	足根中足骨	L	dfr	1						
同定不能鳥類	脛足根骨	L	d	1						
f層	現	カモ亜科	手根中手骨	R	w	1				
			上腕骨	L	m-d	1				
			腕骨	L	d	1				
			腕骨	R	p-m	1				
			上腕骨	R	p	1				
			アイサ族	上腕骨	R	p	1			
			カモ亜科	鳥口骨	R	m	1			
			鳥口骨	R	d	1				
			尺骨	R	d	1				
			尺骨	L	p	1				
5	アイサ族	カモ亜科	上腕骨	R	p	1				
			寛骨			1				
			肩甲骨	L	p-m	1				
			尺骨	R	d	1				
			尺骨	L	d	1				
			腕骨	R	d	1				
			腕骨	R	d	1				
			脛足根骨	R	d	1				
			種不明鳥類	椎骨			3			

(表 32 つづき)

トレンチ	層	採集	種名	部位	左右	残存部	点数			
54	g層	現	カモ亜科	鳥口骨	L	m-d	1			
				尺骨	L	m-d	1			
				脛足根骨	L	p-m	1			
			5	カイツブリ科	足根中足骨	R	p-m	1		
					スズガモ属	上腕骨	R	p	1	
			カモ亜科	鳥口骨	R	d	2			
				尺骨	L	w	1			
				肩甲骨	L	d	1			
				尺骨	R	w	1			
				手根中手骨	L	p	1			
						p-m	1			
				上腕骨	R	d	2			
				足根中足骨	R	d	1			
				大腿骨	L	p	1			
							1			
				第二頸椎			1			
				脛足根骨	R	d	1			
						p	1			
				種不明鳥類	椎骨		1			
				同定不能鳥類	足根中足骨	R	dfr	1		
				大腿骨	不明	pfr	1			
				脛足根骨	L	d	1			
			h層	現	ウ科	尺骨	L	m	1	
						スズガモ属	上腕骨	L	p	1
						カモ亜科	頭骨		1	
	5	ウ科			尺骨	L	w	1		
					脛足根骨	L	m-d	1		
					手根中手骨	L	d	1		
					鳥口骨	R	d	3		
					尺骨	R	d	1		
	カモ亜科	手根中手骨			L	p	1			
		上腕骨			R	d	1			
					L	d	1			
		橈骨			L	p	2			
		寛骨			L	2				
	種不明鳥類	椎骨				2				
	同定不能鳥類	寛骨				mfr	2			
		四肢骨		mfr	1					
	i層	現	カモ亜科	頭骨		1				
				橈骨	L	m	1			
				脛足根骨	R	m	1			
			5	カモ亜科	鳥口骨	R	m-d	1		
					上腕骨	L	d	1		
					大腿骨	R	d	1		
						L	d	1		
						m-d	1			
			第二頸椎			1				
			橈骨	L	d	1				
			カラス科	大腿骨	L	d	1			
			種不明鳥類	足根中足骨	R	m	1			
				椎骨		2				
			同定不能鳥類	寛骨		mfr	2			
			j層	現	カモ亜科	尺骨	L	m-d	1	
	上腕骨	R				d	1			
		L				d	1			
	橈骨	L				d	1			
		p-m				1				
	5	キジ科			大腿骨	R	p-m	1		
					カイツブリ科	尺骨	L	d	1	
					ウ科	足根中足骨	R	p	1	
					カモ亜科	鳥口骨	R	d	1	
						L	p	1		
	カモ亜科	大腿骨			L	m	1			
		クイナ科			鳥口骨	R	w	1		
		カモメ科			手根中手骨	L	d	1		
		フクロウ科			手根中手骨	L	d	1		
		種不明鳥類			趾骨		1			
		椎骨		1						
	k層	現	ウ科	肩甲骨	L	1				
				上腕骨	R	m	1			
				カモ亜科	尺骨	R	m-d	1		
					w	1				
					L	m-d	1			
			5	キジ科	上腕骨	R	m-d	1		
					カイツブリ科	脛足根骨	L	m-d	1	
					ウ科	尺骨	R	p-m	1	
					カモ亜科	手根中手骨	L	d	1	
						p	1			
			カモ亜科	上顎骨		1				
				肩甲骨	R	1				
					L	d	1			
				尺骨	R	d	1			
					p-m	1				
	クイナ科	手根中手骨	L	d	1					
		足根中足骨	L	d	1					
		脛足根骨	L	d	1					
		種不明鳥類	椎骨		2					
		同定不能鳥類	足根中足骨	R	d	1				
	1層上	現	ウ科	寛骨		1				
				カモ亜科	上腕骨	R	m	1		
					L	m-d	1			
				ツル科	脛足根骨	L	d	1		
				同定不能鳥類	寛骨		mfr	1		
			5	カイツブリ科	脛足根骨	L	d	1		
					カモ亜科	肩甲骨	R	p	1	
							1			
					頭骨		1			
					上腕骨	L	m-d	1		
			クイナ科	足根中足骨	R	p	1			
				脛足根骨	R	d	1			
種不明鳥類				椎骨		6				
同定不能鳥類				寛骨		mfr	1			
				足根中足骨	L	dfr	1			
		mfr	1							
	脛足根骨	L	d	1						

(表 32 つづき)

トレンチ	層	採集	種名	部位	左右	残存部	点数					
54	1層下	現	カモ亜科	上腕骨	L	m-d	1					
				カイツブリ科	上腕骨	L	d	1				
				ウ科	胸骨		1					
			カモ亜科	肩甲骨	R	1						
				大腿骨	R	d	1					
				橈骨	L	p	1					
				尺骨	R	p-m	1					
				脛足根骨	R	p	1					
				タカ科	鳥口骨	R	p	1				
				クイナ科	肩甲骨	R	1					
					足根中足骨	L	p-m	1				
					脛足根骨	R	d	1				
				カラス科	尺骨	R	p	1				
					種不明鳥類	大腿骨	L	p-m	1			
					同定不能鳥類	椎骨		2				
					胸骨		mfr	1				
					足根中足骨	L	dfr	1				
				g1層	5	ウ科	肩甲骨	L	1			
			カイツブリ科				脛足根骨	L	d	1		
			カモ亜科				鳥口骨	L	d	1		
							肩甲骨	R	1			
							尺骨	L	p	1		
			56	56T一括	5	カモ亜科	上腕骨	R	m	1		
								L	d	1		
							橈骨	R	d	1		
	脛足根骨	L					p	1				
	カラス科	尺骨					L	d	1			
	種不明鳥類	椎骨					1					
		ハクチョウ族				鳥口骨	R	d	1			
		カモ亜科				足根中足骨	L	p-m	1			
		キジ科				上腕骨	R	m	2			
		カイツブリ科				上腕骨	R	w	1			
	63	1層				現	マガモ属	上腕骨	R	w	1	
								ホオジロガモ属	上腕骨	L	w	1
								カモ亜科	鳥口骨	L	w	1
									尺骨	L	w	1
									大腿骨	R	w	1
			キジ科	大腿骨	R		p-m	1				
				カモ亜科	鳥口骨		L	w	1			
					尺骨		L	p-m	1			
					L		m-d	1				
				キジ科	上腕骨		R	m	1			
			2層	現	5		カイツブリ科	尺骨	R	d	1	
								足根中足骨	R	w	1	
								大腿骨	L	p	1	
								ウ科	上腕骨	R	d	1
								カモ亜科	鳥口骨	R	w	1
		p			1							
		尺骨			R	d	1					
		手根中手骨			R	w	1					
		p			1							
		足根中足骨			R	d	1					
		m-d			2							
		大指基節骨			R	w	1					
		第一頸椎				1						
		第二頸椎				1						
		橈骨			R	d	1					
	種不明鳥類	椎骨		5								
	同定不能鳥類	歯骨		mfr	1							
		頭骨		mfr	2							
		寛骨		1								
	III-3層上面	現	5	カイツブリ科	尺骨	L	w	1				
					上腕骨	L	d	1				
					脛足根骨	L	d	1				
					ウ科	上腕骨	L	m	1			
					ガン族	鳥口骨	R	w	1			
				スズガモ属	上腕骨	R	w	2				
						p	1					
						L	w	1				
						p	1					
						p-m	1					
				ピロードキンクロ属	上腕骨	R	p-m	1				
					ホオジロガモ属	上腕骨	L	w	2			
					カモ亜科	鳥口骨	R	p-m	1			
						肩甲骨	L	p	1			
						p-m	1					
	カモ亜科	尺骨	R	d	1							
		手根中手骨	R	w	1							
			L	w	1							
			p-m	1								
		上腕骨	R	m-d	1							
	クイナ科	上腕骨	L	m	1							
		足根中足骨	R	m-d	1							
			L	w	1							
		大腿骨	R	w	1							
		脛足根骨	R	d	2							
	5	クイナ科	尺骨	L	w	1						
			カイツブリ科	橈骨	R	p-m	1					
			カモ亜科	鳥口骨	R	d	1					
				尺骨	L	w	1					
				m	1							
		橈骨	L	d	1							
	計							348				

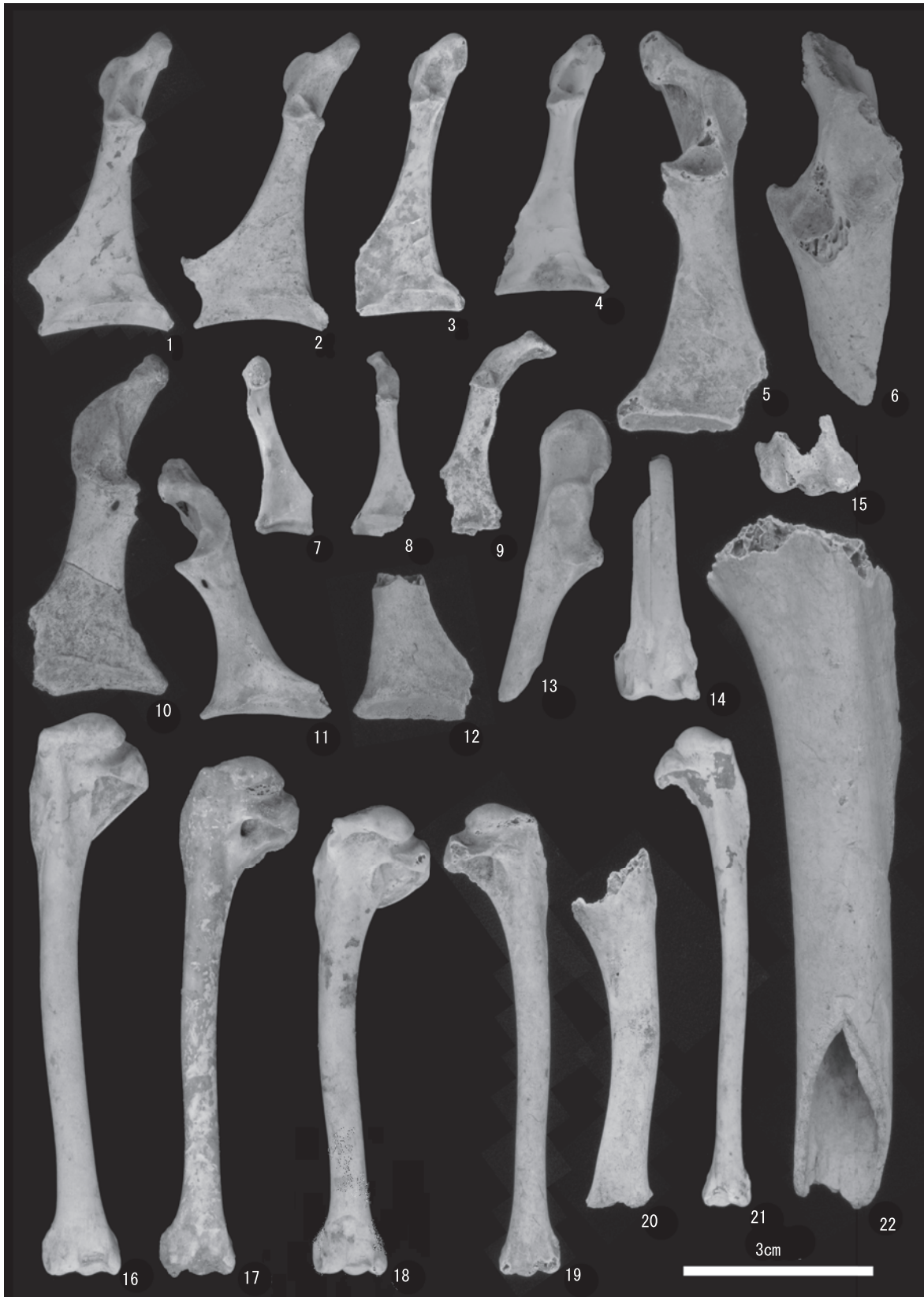
表 33 浦尻貝塚西向貝層から現地採集および水洗5mmメッシュで回収された鳥類遺体の同定結果

トレンチ	層	採集	種名	部位	左右	残存部	点数												
64	Ⅲ-3層 (a)-S1	5	カモ亜科	腕骨	L	m	1												
								Ⅲ-3層 (a)-S2	現	アイサ族	上腕骨	R	p	1					
															カモ亜科	尺骨	R	d	1
	L	m	1																
	5	カモ亜科	鳥口骨	L	d	1													
				手根中手骨	R	p	1												
	Ⅲ-3層 (b)	5	カモ亜科	足根中足骨	L	p	1												
					キジ科	手根中手骨	R	p	1										
	Ⅲ-3層 (c)-S1	5	タカ科	肩甲骨	L		1												
					Ⅲ-3層 (c)-S2	現	カモ亜科	大腿骨	R	m	1								
	カモ亜科	鳥口骨	R	d					1										
	Ⅲ-3層 (c)	現	タカ科	末節骨			1												
					5	カモ亜科	鳥口骨	R	m	1									
	Ⅲ-3層上面	現	カイツブリ科	鳥口骨				R	w	1									
					脛足根骨	R	p	1											
				ウ科	下顎骨	L	m-d	1											
						R		1											
				手根中手骨	R	w	1												
					足根中足骨	R	d	1											
			方形骨	R		1													
				ハクチョウ族	鳥口骨	L	mfr	1											
			脛足根骨	R	m	1													
			マガモ属	上腕骨	L	w	1												
			スズガモ属	上腕骨	L	p	1												
			カモ亜科	R	d	鳥口骨	L	m-d	1										
	L	p-m								d	1								
												m-d	1						
														胸骨		1			
																	頭骨		2
				L	m-d	1													
	L	d		1															
	手根中手骨	R		w	1														
L		p		1															
上腕骨	R	d		1															
	L	d		1															
足根中足骨	L	d	1																
	w	1																	
大腿骨	R	p	1																
	L	p-m	1																
腕骨	L	w	2																
	R	p	1																
尺骨	L	d	1																
	L	p	1																
脛足根骨	L	d	1																
	L	d	1																
キジ科	手根中手骨	R	w	1															
		L	w	1															
	大腿骨	R	m	1															
		腕骨	R	d	1														
脛足根骨	R	m	1																
クイナ科	鳥口骨	R	d	1															
		種不明鳥類	椎骨		1														
同定不能鳥科	寛骨		mfr	4															
S3-1~13	現	タカ科	鳥口骨	R	p	1													
				クイナ科	肩甲骨	R	1												
S3一括	現	カモ亜科	足根中足骨	L	w	1													
				L	w	1													
計							69												

w:完存、p:近位端、m:中間部、fr:破片を示す。  
鳥口骨では胸端をp、肩端をdとして示した。胸骨では鳥口骨との関節部、寛骨では連合仙椎の数を数え、他は破片として記載した。また、\*は骨髄骨様組織を含む骨を示す。

表 34 浦尻貝塚小迫北地区から現地採集および水洗5mmメッシュで回収された鳥類遺体の同定結果 \*凡例は表33参照

トレンチ	層	採集	種名	部位	左右	残存部	点数				
72	Ⅲ層上	現	ハクチョウ族	鎖骨	R	m	1				
					L	m	1				
				スズガモ属	上腕骨	L	p	1			
						R	m-d	1			
				カモ亜科	鳥口骨	L	w	1			
						R	m	1			
				頭骨	L	w	1				
					尺骨	L	m-d	1			
				手根中手骨	L	p	1				
					R	w	1				
				上腕骨	L	p-m	1				
					R	m	2				
				腕骨	L	p-m	2				
					脛足根骨	R	m-d	1			
				カラス科	尺骨	L	d	1			
						R	d	1			
				同定不能鳥科	寛骨	R	mfr	1			
						L	mfr	1			
				上腕骨	R	m	2				
					L	mfr	1				
				四肢骨	R	mfr	1				
					L	d	1				
				5	アビ科	鳥口骨	L	w	1		
							R	d	1		
				カイツブリ科	尺骨	L	p	1			
						R	d	1			
				ウ科	大腿骨	L	d	1			
						R	d	1			
				アイサ族	上腕骨	R	p-m	1			
						L	w	3			
				カモ亜科	胸骨		腕骨	R	w	1	
								L	d	1	
								R	p-m	1	
								L	d	1	
								R	m-d	2	
								L	d	1	
					手根中手骨	R	d	1			
						L	m	1			
					上腕骨	R	d	1			
						L	d	1			
					脛足根骨	R	d	1			
						L	d	1			
				キジ科	肩甲骨	L	d	1			
						R	p	1			
				手根中手骨	R	p	1				
					タカ科	鳥口骨	R	p	1		
				クイナ科	脛足根骨	R	d	2			
				種不明鳥類	頭骨		椎骨		1		
										2	
				5	ウ科	カモ亜科	上腕骨	R	p	1	
								L	p	1	
				S1	5	カモ亜科	上腕骨	R	p	1	
								L	d	1	
				S2	5	カモ亜科	手根中手骨	R	d	1	
								L	d	1	
							脛足根骨	R	d	1	
								L	m-d	1	
				1G	Ⅲ層上	現	ミズナギドリ科	上腕骨	R	m	1
									L	m-d	1
				カモ亜科	上腕骨	L	m	1			
						脛足根骨	L	m	1		
				同定不能鳥科	上腕骨	L	m	1			
						カイツブリ科	寛骨	L	m	1	
				ミズナギドリ科	鳥口骨	L	w	1			
						足根中足骨	R	p	1		
				カモ亜科	尺骨	R	w	1			
						L	d	1			
				脛足根骨	L	d	1				
					5	S1	現	ミズナギドリ科	腕骨	R	p
				L						p	1
				クイナ科	手根中手骨	R	p	1			
						L	d	1			
				タカ目	手根中手骨	L	d	1			
						R	d	1			
				2G	2G一括	現	カモ亜科	尺骨	L	w	1
									R	m	1
				3G	Ⅲ層上	現	カモ亜科	上腕骨	L	m	1
									L	d	1
				カイツブリ科	尺骨	L	d	1			
						手根中手骨	L	w	1		
				カモ亜科	上腕骨	L	d	1			
						R	d	1			
				5	S1	現	キジ科	肩甲骨	R	1	
									L	1	
				カモ亜科	鳥口骨	R	m-d	1			
						L	m	1			
				キジ科	尺骨	L	m-d	1			
						R	d	1			
				アビ科	腕骨	R	d	1			
						L	d	1			
				カモ亜科	鳥口骨	R	d	1			
						L	d	1			
				肩甲骨	R	p	1				
					頭骨		1				
				上腕骨	L	d	2				
					脛足根骨	L	m	1			
				キジ科	尺骨	L	p	1			
						R	p	1			
				同定不能鳥科	脛足根骨	L	mfr	1			
						R	mfr	1			
4G	4G一括	現	カモ亜科	鳥口骨	L	m-d	1				
					胸骨		1				
5			カイツブリ科	上腕骨	R	d	1				
					L	p	1				
ミズナギドリ科	大腿骨	R	p	1							
		L	w	1							
カモ亜科	大腿骨	R	d	1							
		L	d	1							
Ⅳ区サブトレ1	Ⅲ A-E	現	5	カイツブリ科	上腕骨	R	d	1			
						L	d	1			
カモ亜科	足根中足骨	R	d	1							
		L	d	1							
鳥口骨	R	d	2								
	L	m-d	1								
尺骨	R	p	1								
	L	p	1								
L	p	3									
			L	p	1						
L	m	1									
			R	p	1						
クイナ科	大腿骨	L	p	1							
		同定不能鳥科	四肢骨	mfr	14						
CSⅢ	5	現	カイツブリ科	脛足根骨	R	d	1				
					L	d	1				
カモ亜科	大腿骨	R	p	1							
		L	d	1							
カモ亜科	鳥口骨	R	d	1							
		L	d	1							
クイナ科	上腕骨	R	d	1							
		L	p	1							
カモ亜科	尺骨	L	p	1							
		R	p	1							
計							131				



写真図版11 浦尻貝塚出土の鳥類遺体（1）

1～4.カモ亜科 5.ガン族 6・22.ハクチョウ族 7.クイナ科、8・21.カイツブリ科 9.ミズナギドリ科 10.アビ科 11-12.タカ科 13-14.ウ科 15.カラス科 16.ピロードキンクロ属 17.マガモ属 18.ホオジロガモ属 19.スズガモ属 20.キジ科。1-13.鳥口骨 14-22.上腕骨。1～4・9～10・13～18は左、他は右の資料。



写真図版12 浦尻貝塚出土の鳥類遺体（2）

1・7.ウ科 2・8・14~15・19.カモ亜科 3・20クイナ科 4・9・18.キジ科 5.タカ目 6.フクロウ科 11.キジ 12.ミズナギドリ科 16.カモメ科 7・22.カイツブリ科 10・13.鳥綱以下分類群不明。1~6.手根中手骨 7~9.大指基節骨 10.鎖骨 11~15.大腿骨 16~21.脛足根骨 22.足根中足骨。1~2・7・8・11~12・14・20は左、3~6・9・13・15~19・21は右の資料。22bでは骨髓骨様組織が認められた。

## 第4節 微小貝類

### 第1項 はじめに

浦尻貝塚は、福島県南相馬市（旧小高町）の標高約25mの海岸段丘上に位置する縄文時代から中世までの複合遺跡として知られている。特に縄文時代の貝塚として、縄文時代前期から晩期までの複数の貝層を含み、それらを包括して浦尻貝塚とされている（川田・佐川、2005）。

今回、本貝塚の樋泉・植月（2005）により報告された2000年度から2004年度調査の動物遺体のうち、縄文時代の各時期の土壌サンプル（ブロックサンプル）の2.5mmと1mmメッシュ上から抽出された微小貝類遺体を検討する機会を与えて頂いた。ここにその結果を報告する。

### 第2項 サンプルの採取と処理および解析サンプルの内容と方法

今回解析を行ったサンプルは、本報告書第1章や樋泉・植月（2005）に示されている4つの貝層の合計28個の土壌（ブロック）から得られたものである。各土壌は、5mm・2.5mm・1mmのメッシュで水洗され、残ったものの中から抽出された微小貝類を報告者が受け取り、検討を行った。小迫地区の貝層（72T・3G）のみ水洗時に浮き上がった個体を回収したが、今回の分析対象には含めていない。

各サンプルは、実体顕微鏡下で、種の同定と成長段階（幼貝と成貝の区別）・出土部位・焼けているかや磨滅した死殻であるかどうかの確認等を行った。幼貝は、成貝サイズの1/2以上のものを大形幼貝（ljと表記）、成貝サイズの1/4-1/2のものを中形幼貝（mj）および同じく1/4未満のものを小形幼貝（sj）に区別した。

### 第3項 結果および考察

#### 1. 得られた貝類の分類学的位置・生息場所類型・現在との比較および出土傾向

今回の調査で、少なくとも、陸産貝類9科21種、淡水産腹足類（巻貝）1科1種、海産腹足類14科25種、海産二枚貝類3科3種と多くの種が確認された。これらの分類学情の位置と生息場所類型（黒住、1994；黒住・岡本、1994；樋泉ら、2000；加納、2001も参照）を表35に示した。

これらの種のうち陸産貝類の種組成は、これまで知られている東北地方南部（福島県いわき市相子島貝塚〔黒住・山崎、1997〕）や関東地方南部（例えば茨城県上高津貝塚〔黒住、1994〕・千葉県西広貝塚〔黒住、2007a〕）の縄文貝塚と類似したものであり、東北地方北部（青森県東道ノ上3遺跡〔黒住・黒澤、2006〕）のものとは異なっていた。もちろん、組成は時代やサンプリング位置の相違で変化することも考えられるが、陸産貝類からみた浦尻貝塚の巨視的な植生帯のような自然環境は関東南部と同様だったことは指摘できよう。その中で、今回これまで縄文貝塚からほとんど記録のなかったチョウセンスナガイが本貝塚から得られた。本種は、近年になって本州・九州での分布が再認識されるようになった現生種で、類似のスナガイとは下位壁唇板を持たないことでスナガイと識別される（湊・神田、1993）。本貝塚から得られた成貝は唯一個体であったが、下位壁唇板を欠いていることからチョウセンスナガイに同定した。この記録は、現在内陸の石灰岩地を中心に生息する本種の海岸部からの記録として貴重である。また、今回得られた種のうち、幼貝であったり、個体数が少なかったりしたために同定は不確実ではあるが、ヒメカサキビとヒメハリマキビは、近年の自然環境研究センター（2002）の現生陸産貝類の分布記録では、福島県から極めて僅かの記録しかなく、また両種のほぼ北端の分布域となっている。この点でも、両種が過去に本地域に分布していた可能性が指摘できたことは大きな意味を持つと考えられる。



表 35 浦尻貝塚出土の微小貝類

陸・淡水産貝類		海産貝類	
腹足綱 Class Gastropoda		腹足綱 Class Gastropoda	
原始紐舌目 Order Architaenioglossa		古腹足目 Order Vetigastropoda	
ヤマタニシ科 Family Cyclophoridae		ニシキウズ科 Family Trochidae	
ミジンヤマタニシ <i>Nakadaella micron</i>	林内	イボキサゴ <i>Umbonium moniliferum</i>	砂泥質干潟/潮間帯
ゴマガイ科 Family Diplommatinidae		クボガイ類 <i>Tegula sp.</i>	岩礁/潮間帯
ヒダリマキゴマガイ " <i>Palaina" pusilla</i>	林縁	チグサガイ <i>Cantharidus japonicus</i>	岩礁/潮間帯・潮下帯
有肺目 Order Pulmonata		アワジチグサ <i>Conotalopia mistelina</i>	岩礁/潮間帯
オカミミガイ科 Family Ellobiidae		吸腔目 Order Sorbeoconcha	
スジケンガイ <i>Carychium noduliferum</i>	林内	スズメハマツボ科 Family Dialiidae	
ニホンケンガイ <i>Carychium nipponense</i>	林縁	マキミゾスズメハマツボ <i>Diala stricta</i>	砂泥底/潮間帯・潮下帯
ヒラマキガイ科 Family Planorbidae		ウキツボ科 Family Litiopidae	
ハブタエヒラマキ <i>Gyraulus illibatus</i>	止水域	シマハマツボ <i>Alba picta</i>	砂泥質干潟/潮間帯
サナギガイ科 Family Pupillidae		ウネハマツボ <i>Alba hungerfordi</i>	砂泥底/潮間帯・潮下帯
チョウセンサナガイ <i>Gastrocopta (Sinalbinula) coreana</i>	開放地	ウミニナ科 Family Batillariidae	
キセルガイ科 Family Clausiliidae		ホソウミニナ <i>Batillaria cumingii</i>	砂泥質干潟/潮間帯
ヒカリギセル <i>Zptychopsis buschi</i>	林縁	イボウミニナ? <i>Batillaria zonalis?</i>	泥質干潟/潮間帯
ヒメギセル <i>Mundiphaedusa micropeas</i>	林内	モツボ科 Family Scaliolidae	
オオタキコギセル <i>Euphaedusa digonoptyx</i>	林縁	シマモツボ <i>Fenella purpureoapicata</i>	砂泥底/潮間帯・潮下帯
オカクチキレガイ科 Family Subulinidae		タマキビ科 Family Littorinidae	
オカチウジガイ <i>Allopeas kyotoense</i>	林縁	タマキビ <i>Littorina brevicula</i>	岩礁/潮間帯
ホソオカチウジガイ <i>Allopeas pyrgula</i>	開放地	モロハタマキビ <i>Lacuna (L.) carinifera</i>	岩礁/潮間帯・潮下帯
ナタネガイ科 Family Punctidae		ヘソカドタマキビ <i>Lacuna (L.) smithi</i>	岩礁/潮間帯・潮下帯
ナタネガイ? <i>Punctum amblygonum?</i>	林内	チャイロタマキビ <i>Lacuna (Epheria) turrita</i>	岩礁/潮間帯・潮下帯
ベッコウマイマイ科 Family Helicariionidae		チャツボ科 Family Barleeidae	
カサキビ <i>Trochochlamys crenulata</i>	林縁	チャツボ類 " <i>Barleeia" spp.</i>	岩礁/潮間帯・潮下帯
ヒメカサキビ? <i>Trochochlamys subcrenulata?</i>	林内	ホソスジチョウガイ科 Family Rissoidae	
ハリマキビ <i>Parakaliella harimensis</i>	開放地	タマツボ <i>Alvania concinna</i>	岩礁/潮間帯・潮下帯
ヒメハリマキビ? <i>Parakaliella pagoduloides?</i>	林内	ワカウラツボ科 Family Irvadiidae	
キビガイ <i>Gastrodontella stenogyra</i>	林内	カワグチツボ <i>Irvadia elegantula</i>	砂泥底/潮間帯・潮下帯
ヒメベッコウ類似属の一種 <i>Discoconulus? sp.</i>	林縁	カワザンシヨウガイ科 Family Assimineidae	
ウラジロベッコウマイマイ <i>Urazirochlamys doenitzii</i>	開放地	カワザンシヨウガイ <i>Assimineja japonica</i>	アシ原/潮間帯
コハクガイ科 Family Zonitidae		ヨシダカワザンシヨウ類似種 <i>A. sp. cf. yoshidayukioi</i>	アシ原/潮間帯・潮上帯
ヒメコハクガイ類似種 <i>Hawaiiia sp. cf. minuscula</i>	開放地	フトコロガイ科 Family Columbelliidae	
オナジマイマイ科 Family Bradybaenidae		ムギガイ <i>Mitrella (M) bicincta</i>	岩礁/潮間帯・潮下帯
エンスイマイマイ? <i>Trishoplita langfordi?</i>	林縁	マルテンスマツムシ <i>M. (Indomitrella) martensi</i>	砂泥底/潮間帯・潮下帯
ヒタチマイマイ? <i>Euhadra b. brandtii?</i>	林縁	オリイレヨフバイ科 Family Nassariidae	
ヒダリマキマイマイ <i>Euhadra quaesita</i>	林縁	アラムシロ <i>Reticunassa festiva</i>	砂泥質干潟/潮間帯
		クロスジムシロ <i>Reticunassa fraterculata</i>	岩礁/潮間帯・潮下帯
		異旋目 Order Hererostropha	
陸産貝類の卵 (オカチウジガイ類?) Land snail egg		トウガタガイ科 Family Pyramidellidae	
		スジイリクリムシクチキレ <i>Styloptygma taeniata</i>	砂泥底/潮下帯
		クチキレモドキ類似種 <i>Odostomia sp. cf. deshimana</i>	砂泥質干潟/潮間帯
		クサズリクチキレガイ? <i>Babella caelator</i>	岩礁/潮間帯
		後鰓目 Order Opisthobranchia	
		スイフガイ科 Family Scaphandriidae	
		マツシマコメツブ <i>Decorifer matsusima</i>	砂泥質干潟/潮間帯
		二枚貝綱 Class Bivalvia	
		マルスダレガイ目 Order Veneroida	
		ツキガイ科 Family Lucinidae	
		ウメノハナガイ <i>Pillucina pisidium</i>	砂泥質干潟/潮間帯
		ブンブクヤドリガイ科 Family Monacutidae	
		スジホシムシヤドリガイ? <i>Nipponomysella subtruncata?</i>	砂泥質干潟/潮間帯
		マルスダレガイ科 Family Veneridae	
		マツカゼ <i>Irus mitis</i>	岩礁/潮間帯

海産貝類に関して奥谷 (2000) を参照して、本遺跡から得られた種と現在の分布を比較してみると、マキミゾスズメハマツボ (スズメハマツボと同種とされる) ・シマハマツボ・シマモツボ・カワグチツボ・スジイリクリムシクチキレの4種が房総半島以南に分布するとされている。ただ、これらのうち、シマハマツボはOyama (1973) で太平洋側の北緯38度まで、カワグチツボは山本 (1954) によって下北半島の湖沼に分布していることが報告されている。報告者の見落としの文献も当然あり、残りの種も仙台湾等の現生記録があるかもしれないが、現生記録の中には完新世の化石を記録している場合もあり、今回の時代の明確な情報は貴重であろう。福島県いわき市の縄文時代後/晩期の相子島貝塚からも、マキミゾスズメハマツボ・オガサワラリソツボ類・トウキョウリソツボ類等の房総半島以南に分布するとされる種が確認されている (黒住・山崎、1997)。これら現在の房総半島を越えてより北にまで分布していることの確認された種が存在したことは、松島 (1984) に詳細に検討され

た完新世における温暖種の北への分布を微小種でも示していると言えよう。後述するが、上記の種は縄文時代中／後期に確認されており、少なくともこの時代まで南から分散してきた温暖種は生存していたこともわかる。

今回解析できたサンプルごとの出土個体数・出土部位・その他の観察結果の詳細は表38に示した。この付表から、サンプルごとの最少個体数 (MNI) を求めた。

最少個体数の出土傾向を、陸産種と海産種について示したのが、図52である。図52では、古い時期の多い台ノ前南貝層から新しい時期の小迫貝層を、貝層ごとに示し、時期的に古いサンプルを下部に配置した。陸産貝類では、サンプル当たりの個体数が0から435個体と大きく変化し、時代ごとの変化は認められなかった。同様に、海産貝類でも、時代ごとの出土個体数変化は明瞭ではなかった。ただ、海産種の出土個体数自体は比較的少なく、当然陸産貝類よりもサンプル間の差は小さかった。また、陸産と海産の両者の間に相関は認められなかった。これは、両者が異なったプロセスで貝塚に堆積したものであることから当然といえよう。

## 2. 陸・淡水産貝類の詳細

図52で、サンプル間の個体数が大きく異なることを示したが、これは、川田 (2005) で検討されているように中期には土層・土主体層とされたものが多い台ノ前南貝層の31T・台ノ前北貝層の54T・西向貝層の64T (S 2-11やS 3-15) 等では陸産・海産の区別なく出土個体数はかなり少ない。これらと同じブロックやコラムでも混貝土層とされたものでは (例えば54T 15層・2層; 64T, S 4-5等)、個体数が多くなる傾向にある。31Tでは、同一コラムの上部に向かい、土層となり、個体数は減少している。このように、本遺跡では、土の廃棄に伴う微小貝類の減少が生じているようである。これは、土が短期間に廃棄されると陸産貝類が一時的に絶滅することから生じる現象と考えられよう。環状盛土遺構を有することで知られる千葉県佐倉市の井野長割遺跡では、盛土部で隣接した2地点での貝層中の陸産貝類種組成が異なっており、盛土部形成の比較的早い時期に開けたところを好む種が、遅い時期には林が形成され、森林内を好む種が分散してきた可能性も示唆されている (黒住、2004b)。両者では動かされる土の絶対量が異なるであろうが、人間による土の移動の問題を、出土する陸産貝類が示している可能性もあろう。

一方、黒住 (1994) 等でも示したが、貝塚の隣接した地点でも、地点ごとに陸産貝類の生息に関係する貝塚堆積時の環境等が微細に異なっていたため、隣接した地点でも異なる組成を示す場合もある。また、微小陸産貝類の堆積層内での分布に関し、土田・中村 (1981) は、層の境界でゴマガイが増加し、堆積時間にギャップの存在した可能性を示唆した。一方、黒住・金城 (1988) は最下部から上部にかけて、個体数減少の認められる例を報告し、その要因を人間の開発による周辺森林の伐採等ではないかとした。今回、異なった地点ながら、同一貝塚内で増減の両パターンが認められたわけであり、やはり地点ごとの詳細な層序等との対応が必要であることが明瞭になった (黒住、2003も参照)。ただ、これまでに指摘されているように、人間による攪乱による減少と、人間活動の低下による増加という想定を検証するという方向性は必要であろう。それは、絶対的な堆積時間を推測することは不可能であっても、連続しているかどうかや、微小種のサイズから季節を推定することも条件が良ければ可能な場合も存在するものと思われる (黒住、2007aも参照)。

第4節 微小貝類

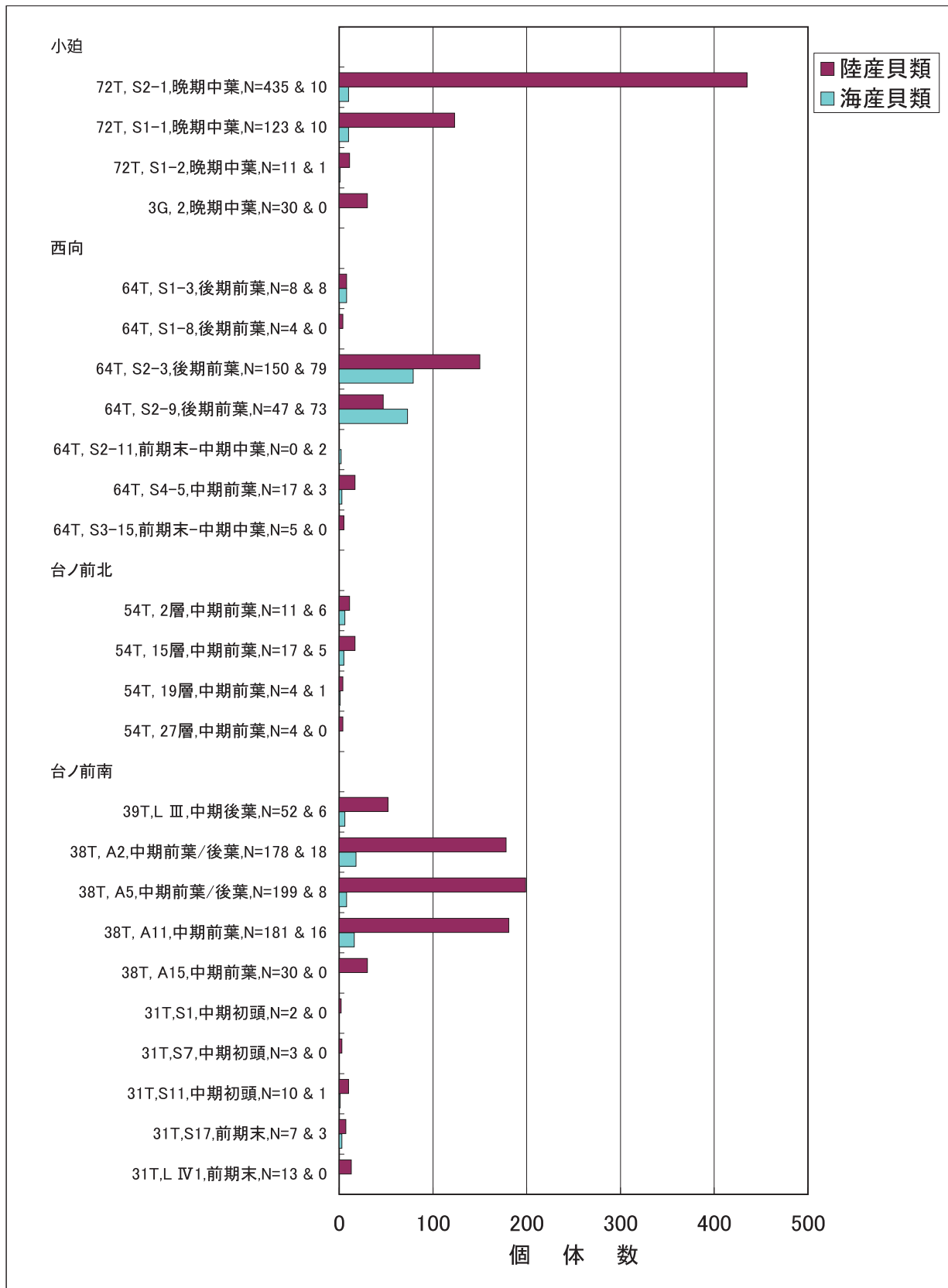


図 52 浦尻貝塚における微小貝類のサンプル別個体数

増減を検討する場合でも、どのような種（つまり開けた環境を好むかどうか等）が得られているのかが示されていなければならない。表36には、各サンプルの種ごと最少個体数を示した。表では、サンプルを古いものから新しいもの、貝類を開けたところを好む種（開放地生息種）から林内生息種と配置している。その結果、古い時代では、出土個体数が少なく、ホソオカチョウジ・ヒメコハクガイ類似種・ヒメベッコウ類似属の一種（表では類似属と表記）の3種の開放地生息種が多く、ミジンヤマタニシ等の林内生息種が極めて少ない。晩期のサンプルでは、割合として高くはないものの、全体として林内生息種の多くの種が得られている。林縁生息種では、キセルガイ類（オオタキコギセル?）・ヒダリマキゴマガイが時に多く、ヒメベッコウ・オカチョウジの出現頻度も高い。

各種を表35の生息場所ごとに集計して、表36の時代ごとに示したものが図53である。その結果、多くの時期で開放地生息種と林縁生息種の割合が高く、基本的には堆積時（やその直後）には貝層の周辺は開けていたことが示された。いわゆる斜面貝層である本遺跡の陸産貝類組成では、他の関東地方南部の結果（例えば黒住、1994、2007a、b）と比較すると、開放地生息種の割合が高かった。つまり、後述する縄文晩期に林内生息種が増加することを除くと、浦尻貝塚では前期から後期まで、かなり遺跡周辺の森林に人為的な改変を加えていたことが示唆された。

また先に同一コラムサンプル間の個体数変化について述べた。詳細に示さなかったが、図53では同一コラムサンプル間での生息場所類型組成には上下のサンプル間に大きな変化は認められなかった。つまり、本遺跡での個体数変化は種組成に起因するものではなく、陸産貝類全体の生息環境の変化によるものであることも示された訳である。これは最初に述べた、土の廃棄とも整合的な減少であり、今後、各サンプルの土壌量あたりの陸産貝類個体数や微小な骨類の出土パターンの比較によって、再度この問題を検討してみたいと考えている。

このように各時期とも開けた遺跡周辺の環境は、縄文晩期には、図53で林内生息種が増加し、開放地生息種が減少していることから、森林的なものになった可能性も想定される。もちろん、晩期の小廻貝層周辺が他の地点と比べて開けていなかった可能性も残る。ただ、近年の報告者の関東地方南部の縄文時代晩期貝層における陸産貝類の調査では、今回と同様に晩期に林内生息種の増加する例が確認され、晩期には遺跡数減少に示されるように、人間活動の低下による遺跡周辺での森林の回復の結果ではないかと考えている（黒住、2007a、b）。浦尻貝塚でも、晩期における林内生息種の増加は、森林の回復が東北地方南部でも、同様に生じていた可能性を示すものと考えられる。

陸産貝類が多数出土したにもかかわらず、淡水産貝類は中期前葉のサンプルから、止水域に生息するハブタエヒラマキが唯一得られただけである。本貝塚の動物遺体では、魚類遺体から前期後葉－中期前葉と晩期に淡水魚の増加から淡水域での漁撈が想定され、前期後葉－中期前葉では汽水性のヤマトシジミを含め淡水産の貝類は極めて少なく、晩期にはヤマトシジミが高い割合となっていることがわかっている（樋泉・植月、2005）。つまり、ヤマトシジミを除き、本貝塚では淡水域での貝類採集はほとんど行われていなかったと考えられよう。このことは、千葉県印旛沼周辺の縄文時代後／晩期の井野長割遺跡では、ヤマトシジミがほとんどを占める貝層から、僅かではあるが複数種の淡水産貝類が得られている（黒住、2004a、b）ことから、浦尻貝塚では淡水域での貝類採集のほとんどなかったことが示される。

表36 浦尻貝塚出土微小陸産貝類の時代別変遷

地点	UM1	UM1	UM1	UK3	UM1	UM1	UM1	UM1	UK2	UM1	UK2	UK2	UK2	UK2	UK2	UK3	UK3	UM1	UM1	UM1	UK3	UK3	UK3	UK3	UK3	UK3	UK4	UK4	UK4	UK4	UK4				
ホソオカチヨウジ	4	4	3	5	2	9	2	5	2	4	1	2	47	101	82	6	1	2	2	7	24	7	24	7	24	7	1	14	123						
ヒメコハクガイ類似種	2	4	2	1	1	6	4	6	4	42	51	2	2	52	51	2	2	2	12	64	3	1	64	3	1	20	9								
ヒメベッコウ属類似種	1	1	2	2	1	1	2	1	2	4	10	9	4	10	9	8	1	2	2	26	5	1	26	5	1	11	3								
ハリマキビ										4	1	2	4	1	2																				
スナガイ																																			
キセルガイ類(小)	1	1				6	3	1	1	24	2	8	24	2	8											3	7	154							
オオタキコギセル										15			15	6	7	2										7	1	8	5						
オカチヨウジ	1	2	1	1	1	2	1	3	2	15	6	7	15	7	7	21										2	8	4	6	14	106				
ヒダリマキゴマガイ					2	3	1	1	3	15	7	7	7	7	7	10										2	20	16	3	1	10	1			
ヒメベッコウ				1		2	1	2	1	7	15	6	10	7	15	6	10									2	20	16	3	1	10	1			
ナタネガイ?																																			
エンスイマイマイ?																																			
カサキビ																																			
ヒタチマイマイ?																																			
ヒダリマキマイマイ																																			
キセルガイ類(大)																																			
ウラジロベッコウ																																			
キセルガイ類(中)																																			
ニホンケンシガイ																																			
スジケンシガイ																																			
ミジンケンシガイ																																			
ヒメハリマキビ?																																			
キビガイ																																			
ヒメキセル																																			
ヒメガサキビ?																																			
総個体数/卵等含む	7	13	5	10	3	2	4	30	4	17	11	17	17	181	199	178	52	4	8	47	150	30	11	123	485										
オカチヨウジ(卵)							1																												
ベッコウマイマイ類?																																			

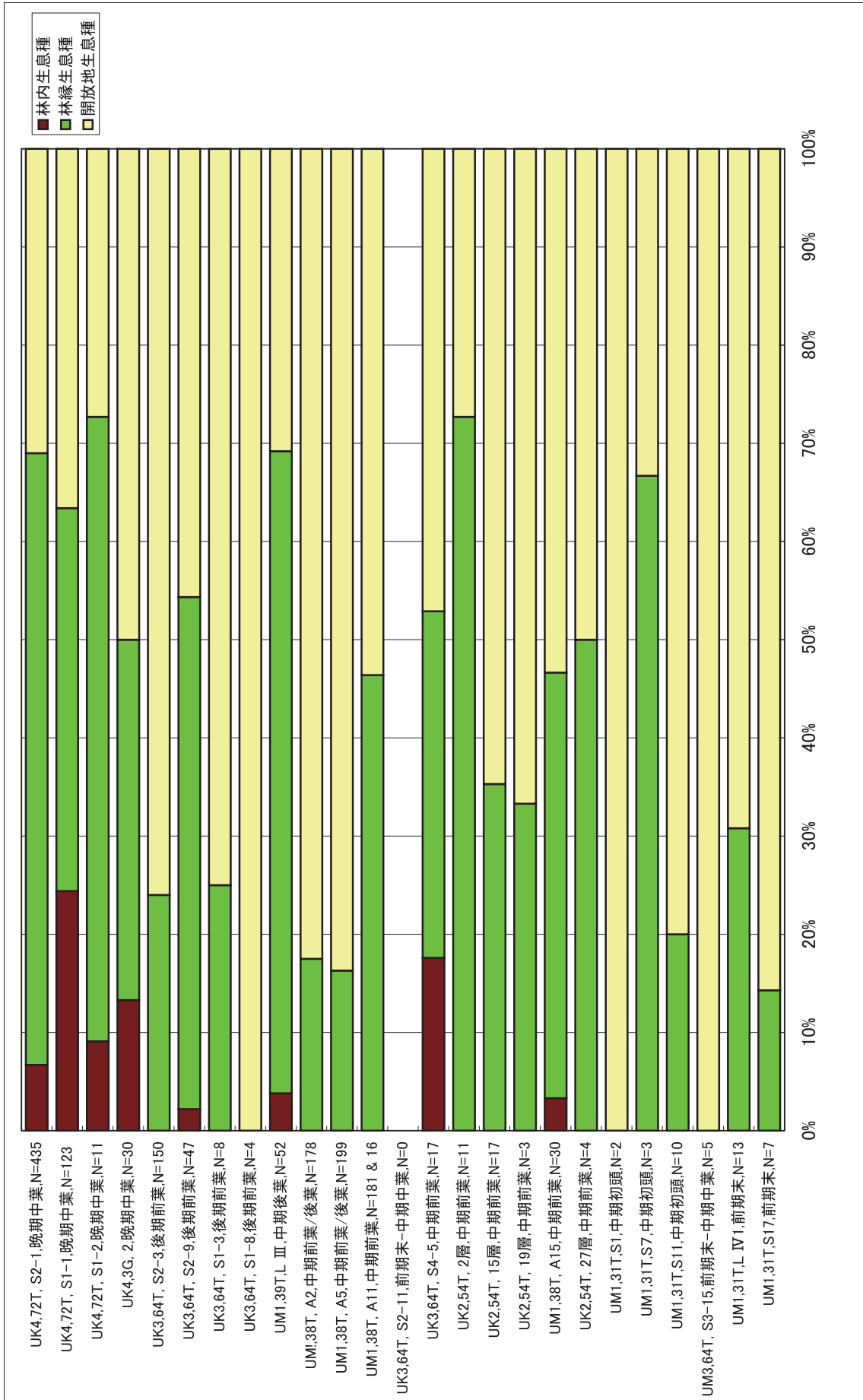


図 53 浦尻貝塚における微小陸産貝類の生息場所類型組成の時代別変化

### 3. 海産貝類の詳細

本貝塚からは、一部食用種の殻頂部を含め、28種と比較的多くの海産貝類が得られている。確認された種の大部分は、このサイズで成貝であり、樋泉・植月（2005）に示された食用種の幼貝はほとんど見られなかった。これらの種の生息場所を内湾と外海に2大別し、時代順に配列し、最少個体数と焼けおよび磨滅の状況を付記して表37に示した。この表では、内湾でも樋泉ら（2000）や加納（2001）も参照にしながらグルーピングを行っている。

陸産貝類と同じく、海産貝類でも古い時代を中心に出土個体数が少なかったものの、今回の結果は時代ごとの結果を反映していると想定すると、興味深い結果が得られたと考えている。以下に、グループの区分とその内容を示す。

1) カワグチツボ・カワザンショウガイ類は、アシ原やその前面の泥干潟に生息している群で、焼けているものも多い。2) クチキレモドキ類からマキミゾスズメハマツボまでの種で、内湾の砂泥底に生息する群で、磨滅しているものが多い。3) マキミゾスズメハマツボからマルテンスマツムシまでの種で、内湾の海藻／海草上に生息する葉上性貝類である。4) ウミニナ類からイボキサゴ／クボガイ類で、食用になる種で、その幼貝も含み、焼けている個体も多い。5) タマキビとマツカゼで、内湾でも外海でも見られる岩礁性種である。6) モロハタマキビからチグサガイまでの内湾／外海の葉上性種。7) チャツボ類からムギガイまでの外海の葉上性種。8) スジイリクリムシクチキレからクサズリクチキレ?の外海の新葉上性種。

これらのうち、2)・4)・5)・8)は、食用貝類中の混入種（アラムシロ等）や二枚貝類の死殻中の堆積物として、遺跡に持ち込まれたものと考えられる。2)のグループで、磨滅した死殻が多いことも、この過程を裏付けていよう。そして、ウミニナ類で明瞭であるが、焼けている個体も多い。これは、黒住（2006）で想定したように、焼けていることから火の回りにあり、通常の食用貝類の処理時（食事を含む）に焼け、周囲を“清掃”した時にまとめて、貝層部分に廃棄されたものと考えられる。2)から8)のような混入／堆積物中の微小貝類は、これまでも良く知られており、特に2)の内湾性のものは、樋泉・植月（2005）が食用貝類で示したように、アサリが優占種であること合致する。

ただ、5)の岩礁性のものと、8)の外海のもの焼けていないので、火の回りで処理されずに、捨てられた可能性も十分にある。5)のタマキビとマツカゼは内湾にも外海にも生息しているので群を別にしたが、表3に示したように、8)の外海の新葉上性種とほぼ同様な時期的な出土様式を持っているので、8)と同じ内容であると考えられる。

1)のカワグチツボ等は、黒住（1994、2004a,b）でも指摘してきたように、枯死したアシと共に遺跡に持ち込まれ、焼かれたものと考えている。前期末にヨシダカワザンショウ?の焼けた殻が得られたことから、この枯死したアシの利用はこの地域では前期末には始まり、晩期まで継続していたことが今回明らかとなった。

葉上性群の3)・6)・7)は、前期末のサンプルには認められず、中期以降に確認され、特に後期前葉のサンプルに多かった（図52も参照）。その中でも、3)の内湾性の群は中期と晩期には得られておらず、後期に限られていた。この群のマキミゾスズメハマツボは、中期のサンプルからも得られているが、中期では後期のように集中することはなく、磨滅した個体も認められていることから、中期の本種は2)の堆積物中の死殻と考えた。そして、後期には焼けている個体も目立つようになっている。





このような葉上性微小巻貝類の出土から海藻／海草類の先史時代の利用が想定されており（金子ら、1981；黒住、1994等）、加納（2001）はそれまでの研究をまとめると共に、ア）アマモ等の海草利用、イ）藻塩焼きを意味する“灰塩”の製造を検討している。今回の葉上性群では、焼けた個体が目立つので、一部には“灰塩”的な利用も存在していた可能性も想定されるかもしれない。一方で、今回のサンプルからは、加納（2001）が示したような植物体上に多数付着するウズマキゴカイ類は全く得られなかった（表38）。そして、焼けている葉上性貝類の割合は決して高いものではなかった。つまり、加納（2001）の例は確実な“灰塩”を検証できているが、このような例の報告は比較的稀であり、本遺跡の事例を含め多くの遺跡で確認できるように、藻塩焼き的な利用は、ある意味、「割りと普遍的に行われていた」ことを示しているのかもしれない。

そして、この葉上性の焼けた微小貝産貝類の出土時期を検討すると、7）の外海の群が中期前葉から晩期まで連続して得られている。先の5）のタマキビ等と同じく、6）の内湾から外海に生息する葉上性種も、7）に含めて考えても良いと思われる。一方、3）の内湾葉上性群は後期前葉のサンプルにのみ集中していることがわかる。つまり、本遺跡では、葉上性貝類の時期別出土例から、外海の高藻／海草利用が先に始まり、内湾での利用が後であったと想定される。

このように外海の葉上性貝類から推測して海藻／海草利用が本遺跡では少なくとも縄文中期から開始されたと考えたが、樋泉・植月（2005：図155）に示された外海岩礁にも生息するイボニシ・スガイ・タマキビ・カリガネエガイ・クボガイ類は、どの時期でもかなり少なく、本遺跡では外海での貝類採集に力を注いでいたとは考えにくい。ただ、中期前葉には前後の時期よりはイボニシの割合が増加しているため、葉上性貝類の出土と合わないことはない。むしろ、外海の葉上性貝類が比較的多くの出土しておりながら、同じ場所に生息する食用貝類が少ないということは、外海では食用貝類よりも海藻／海草採集に大きな意図が存在していた可能性も想定されるのではないだろうか。このことは、同じ東北地方南部の相子島貝塚でも、葉上性のベニバイやヘソカドタマキビ・チャツボが微小貝類中から普通に得られており、海産植物利用が想定されている（黒住・山崎、1997）ことも、同様な海藻／海草利用が存在していたことを示すものと考えられる。

このように、今回のデータから、外海での主体的な海藻／海草採集が存在したと考え、葉上性種のみならず、5）および8）の海藻等に付随して持ち込まれた種が焼けていないことから、海藻／海草は採集場所の海岸で混入物を除くために水洗いされたであろうが、その処理は完全ではなく、海草等を集落に持ち込んでからの処理も存在したことも示されたと考えられる。

#### 第4項 まとめ

1. 福島県南相馬市の浦尻貝塚において4ヶ所の縄文時代貝層から抽出された微小貝類遺体を検討した。その結果、陸産貝類21種、淡水産貝類1種、海産貝類28種が確認できた。この中には、現在は内陸の石灰岩地に分断して分布する陸産のチョウセンスナガイも含まれていた。
2. 陸産貝類では、灌木林や草地に生息するホソオカチョウジガイやヒメコハクガイ類似種が多く、これらの開放地生息種の割合は、いずれのサンプルでも半数程度を占め、遺跡周辺ではかなり人為的な改変が行われ、開けていたと推測された。
3. 縄文晩期になると、林内生息種（森林内に生息する種）のスジケシガイやミジンヤマタニシの割合が増加し、関東地方南部では人間活動の低下により遺跡周辺の森林が回復したのではないかと考えられており、今回同様な傾向が認められたので、東北地方南部でも同じ現象が生じたいたと考えられた。

4. 主に縄文中期貝層中の土層・土主体層では、陸産貝類の出土個体数が少ない傾向があり、土の廃棄が短期間に行われ、陸産貝類が一時的に絶滅したためと考えられる。今後、この現象の普遍性を検討する必要があるだろう。
5. 海産貝類のうち、内湾奥部のアシ原とその前面に生息するカワグチツボ・カワザンショウガイ類、内湾干潟に生息し食用貝類と共に混獲されたと考えられるウミニナ類・アラムシロ、内湾の海藻／海草上にすむ葉上性種のマキミゾスズメハマツボ・ウネハマツボ等、外海の葉上性種のヘソカドタマキジ類・チャツボ類等で、焼けた個体が認められた。
6. 葉上性種は、海藻／海草の直接的な、あるいは“灰塩”（藻塩焼き）的な利用の結果を示していると考えられる。内湾の種は後期前葉のサンプルからのみ得られたのに対し、外海のものも中期前葉から晩期中葉まで連続して出土した。外海の食用貝類が少ないことから、外海では海藻／海草採集が比較的大きな意味を持っていたと考えられた。
7. 南関東の貝塚でも確認されており、枯死したアシと共に遺跡に持ち込まれ、焼かれたと考えられているアシ原等のカワグチツボ等は、前期末から晩期中葉まで連続して得られ、初めて前期末から利用されていたことがわかった。
8. 食用貝類採集時の混獲種であるウミニナ等は、他遺跡の例と同じく、食用貝類が火の周辺で処理された時に焼け、周辺の“清掃時”にまとめて貝層に廃棄されたものと考えた。
9. 海産種の中には、現在房総半島以南でしか確認されていない種も存在し、縄文海進期に分布域を拡大した種も存在したことを指摘した。

(黒住耐二)

## 謝辞

南相馬市教育委員会の川田強氏には、貴重なサンプルを検討させていただく機会を与えていただき、貝塚の情報に関して種々御教示頂いた。早稲田大学の樋泉岳二氏にもサンプル検討で御配慮を頂いた。御二人に感謝の意を表したい。本報告の一部は、文部省学術フロンティア推進事業「環境変遷史と人類活動に関する学際的研究」（研究代表者：杉原重夫）の成果である。

## 第2章 第4節 引用文献

- (財)自然環境研究センター(編). 2002. 生物多様性調査.動物分布調査(陸産及び淡水産貝類)報告書. 1342 pp. 環境省自然環境局生物多様性センター, 山梨.
- 加納哲哉. 2001. 微小動物遺存体の研究. 國學院大學大学院研究叢書.文学研究7. 227 pp. 國學院大學大学院, 東京.
- 金子浩昌・中村若江・牛沢百合子. 1981. 伊皿子遺跡における貝類発掘調査の総括—貝塚にみる縄文時代後期初頭期の生計諸活動一. In 伊皿子貝塚遺跡, pp. 440-469. 日本電信電話公社・港区伊皿子貝塚遺跡調査会, 東京.
- 川田強. 2005. 南台・台ノ前・西向地区の調査について. In 川田強・佐川久(編), 浦尻貝塚1, 小高町文化財調査報告書, (6):275-297. 小高町教育委員会, 福島.
- 川田強・佐川久(編). 2005. 浦尻貝塚1. 小高町文化財調査報告書, (6):1-326. 小高町教育委員会, 福島.
- 川田強・佐川久・樋泉岳二(編). 2008. 浦尻貝塚3. 南相馬市文化財調査報告書, (11)6. 南相馬市教育委員会, 福島.
- 黒住耐二. 1994. 柱状サンプルから得られた微小貝類遺存体. In 佐藤孝雄・大内千年(編), 上高津貝塚A地点, 慶應義塾大学文学部民族学・考古学研究室小報, (9):291-317, 3 pls.
- 黒住耐二. 2003. 貝塚における陸産貝類堆積過程を中心に—2002年度ナガラ東原貝塚発掘調査—. In 檀佳克(編), ナガラ東原貝塚5, 考古学研究室報告, (38):38-43. 熊本大学文学部考古学研究室.
- 黒住耐二. 2004a. 千葉県井野長割遺跡の斜面貝層から出土した微小貝類. In 戸谷敦司(編), 井野長割遺跡(第4次調査), (財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書, (205):164-168. (財)印旛郡市文化財センター, 千葉.
- 黒住耐二. 2004b. 千葉県井野長割遺跡の盛土部貝塚から出土した微小貝類. In 小倉和重(編), 井野長割遺跡(第5次調査), pp. 5-8, pl. 37. 佐倉市教育委員会, 千葉.

#### 第4節 微小貝類

- 黒住耐二. 2006. 貝類遺体からみた遺跡の立地環境と生活. In 木下尚子 (編), 先史琉球の生業と交易2—奄美・沖縄の発掘調査から一, pp. 115-134. 熊本大学文学部.
- 黒住耐二. 2007a. 千葉県西広貝塚の土壌サンプルから得られた微小貝類遺体. In 鶴岡英一・忍澤成視 (編), 市原市西広貝塚Ⅲ, 市原市埋蔵文化財センター調査報告書, (2):1314-1332. 市原市教育委員会、千葉.
- 黒住耐二. 2007b. 微小貝が解き明かす先史地表面の環境. 考古学ジャーナル, (563):14-18.
- 黒住耐二・金城亀信. 1988. 豊見城村の長嶺、保栄茂および平良グスク試掘調査により出土した貝類. In 金城亀信 (編), 豊見城村の遺跡. 豊見城村文化財調査報告書, (3):137-155. 豊見城村教育委員会、沖縄.
- 黒住耐二・黒澤一男. 2006. 青森県東道ノ上(3) 遺跡から得られた微小陸産貝類遺体. In 東道ノ上遺跡(3), 青森県文化財調査報告書, (424), 第二分冊, pp. 12-17. 青森県教育委員会.
- 黒住耐二・岡本正豊. 1994. 千葉縣市原市の貝類. In 市原市自然環境実態調査報告書, pp. 7-34. 千葉縣市原市環境部、千葉.
- 黒住耐二・山崎京美. 1997. 相子島貝塚出土の微小貝類遺存体 (予報). In 木幡成雄 (編), 相子島貝塚, いわき市埋蔵文化財調査報告, (47) :93-100. いわき市教育委員会、福島.
- 松島義章. 1984. 日本列島における後氷期の浅海性貝類群集—特に環境変遷に伴うその時間・空間的変遷—. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (15): 37-109.
- 湊宏・神田正人. 1993. チョウセンテナガイ大分県に産す. ちりぼたん, 23 (3):65-67.
- 奥谷喬司 (編). 2000. 日本近海産貝類図鑑. xlviii + 1173 pp. 東海大学出版会、東京.
- Oyama, K. 1973. Revision of Matajiro Yokoyama's type Mollusca from the Tertiary and Quaternary of the Kanto area. Palae. Soc. Japan, Spec. Pap., (17):1-148, 57 pls.
- 土田比佐子・中村若江. 1981. 微小巻貝の出土状況と貝層の堆積. In 伊皿子貝塚遺跡, pp. 310-440. 日本電信電話公社・港区伊皿子貝塚遺跡調査会.
- 樋泉岳二・黒住耐二・山谷文人・切通雅子. 2000. 貝類遺体. In 保阪太一 (編), 中里貝塚, pp. 99-171, pls. 26-30. 北区教育委員会、東京.
- 樋泉岳二・植月学. 2005. 浦尻貝塚における動物遺体群の概要. In 川田強・佐川久 (編), 浦尻貝塚1, 小高町文化財調査報告書, (6):259-274. 小高町教育委員会、福島.
- 山本護太郎. 1954. 汽水性水域の底棲生物群集の研究Ⅲ. 尾鮫沼、鷹架沼の底棲生物. 特に群集の系列について. 日本生態学会誌, 4(2):60-63.



第4節 微小貝類

(表 38 つづき)

地点	台ノ前南貝層						台ノ北貝層					
	UMI. 31T	S17	L.W 1	A2	A5	A11	UMI. 38T	A11	UMI. 39T	2層	15層	UK2.54T
サンプリング位置	S1	S17	L.W 1	A2	A5	A11	UMI. 38T	A11	UMI. 39T	2層	15層	UK2.54T
メッシュサイズ	1mm	1mm	1mm	1mm	2.5mm	1mm	1mm	1mm	1mm	1mm	2.5mm	1mm
土器形式	大木7a古	大木56	大木56	大木7a新-7b または大木9	大木7a新-7b または大木9	大木7a新-7b または大木9	大木7a新-7b	大木7a新-7b	大木7b	大木7a新-7b	大木7a新-7b	大木7a新-7b
時代	中期初頭	前期末	前期末	中期前葉 / 後葉	中期前葉 / 後葉	中期前葉 / 後葉	中期前葉	中期前葉	中期前葉	中期前葉	中期前葉	中期前葉
ウミナナ類					1sj		1uB					
ホソウミニナ												
イボウミニナ?												
タマキビ					1j	?!sj						
モロハタマキビ												
ヘソカドタマキビ												
チャイロタマキビ												
チャツボ類												
タマツボ				1,1b 1b		3(1B)1b		4 1b,1u	3	1		
カワグチツボ												
カワザンシヨウガイ		1mj										
ヨシダカワザンシヨウ?		1B		2						?!e		
ムキガイ												
マルテンスマツムシ												
アラムシロ												
クロスジムシロ												
スジイリクリムシクチキレ												
シマハマツボ / クチキレモドキ類												
クチキレモドキ類似種												
クサズリクチキレ?		1bd										
マツシマコメツブ												
海産巻貝 (同定不可)				1			1sj					
海産二枚貝類 Marine bivalves												
ウメノハナガイ				0/1								
スジホシムシヤドリガイ?				0/1								
マツカサ				0/1j								
海産二枚貝類 (同定不可)												1sj

(表 88 つづき)

地点	西向貝層 UK3. 64T				小畑貝層 UK4. 72T				UK4			
	SI-3	SI-8	SI-23	S29	S2-11Ba	S3-15	S4-5	S1-1		S1b	S1-2a	S1-2b
サンプリング位置	2.5mm	1mm	25mm	2.5mm	1mm	1mm	25mm	2.5mm	1mm	1mm	1mm	2.5mm
メッシュサイズ	網取 II	網取 II	網取 II	網取 II	大木 6-8a	大木 6-7a	大木 7a 新-7b	大河 C2	大河 C2	大河 C2	大河 C2	大河 C2
土器形式	後期前葉	後期前葉	後期前葉	後期前葉	前期末-中期中葉	前期末-中期中葉	中期前葉	大河 C2	大河 C2	大河 C2	大河 C2	大河 C2
時代	後期前葉	後期前葉	後期前葉	後期前葉	中期中葉	中期中葉	中期前葉	晩期前葉	晩期前葉	晩期前葉	晩期前葉	晩期前葉
陸産貝類 Terrestrial snails												
ミジンヤマトアニシ			8a	1a, 1lj		1a		3a, 8lj, 1mj	1mj	2a		2a, 15lj
ヒダリマキゴマガイ			1a					5a, 2ab, 6u	3a	3a, 1lj		8abab, 10ab
スジケシガイ								8a, 1u		1ab		4a, 2ab
ニホンケンシガイ												
スナガイ												
ヒメキセル			1sj, 2u								1a, 1lj, 1u, 1w	
オオタキコギセル												
キセルガイ類 (小)								6sj, 1u				4mj, 7sj, 7u, 3w
キセルガイ類 (中)			1mj, 3sj, 3u	1u				lu	lu			1sj
キセルガイ類 (大)			3abab, 6lj, 6b	2lj, 1lj, 1b	2lj, 1u	1lj, 1u		1mj, 5sj, 2u				1mj, 3sj, 1u
オカチヨウジ	1a	1ab, 1u	3mj, 2ab, 1u, 1w	2lj, 1lj, 1b, 1mj, 4u				6mj, 1mj, 6sj, 6u		lu		3mj, 3sj, 1mj
ホソオカチヨウジ												1mj, 1b, 1u
オカチヨウジ類? (附)												
ナタネガイ?												
カサキビ												
ヒメカサキビ?												
ハリマキビ												
ヒメハリマキビ?												
キビガイ												
ヒメベッコウ	1lj, 1mb											
ヒメベッコウ属類他種			4a, 8lj, 2lj, 6b, 1mj, 1mj, 6b	5a, 15lj								
ウラジロベッコウ	2lj	1lj						4lj, 1lj, 6b				
ベッコウマイマイ類?								2ab, 1lj, 2u				
ヒメコハクガイ								3a, 5lj, 1u	1a	1a		
エンスイマイマイ?												
ヒタチマイマイ?												
ヒダリマキマイマイ												
淡水産貝類 Freshwater snail												
ハブタエヒラマキ												
海産腹足類 Marine snails												
イボキサゴ												
イボキサゴ/クボガイ類	2u											
チグサガイ												
アワジチクサ												
マキミノズズメ												
ハマツボ												
シマハマツボ												
ウネハマツボ												
シマモツボ												



## 第5節 動物遺体群の変遷とその背景

### 第1項 はじめに

浦尻貝塚は福島県南相馬市小高区浦尻に所在する縄文時代前期から中世までの複合遺跡である。本貝塚の動物遺体に関しては、これまでに昭和26年・同46年の福島大学考古学研究会による西向貝層の発掘資料に関する金子浩昌の報告（金子1971）、台ノ前貝層の貝類に関する石川隆司の報告（石川1983）がある。これらの先行研究によって、本貝塚の動物遺体群の特徴に関する重要かつ先見的な指摘が多くなされたが、調査地区や分析対象が限定的であったことや、資料採集方法の限界などのため、長期間かつ多岐に渡る本貝塚の貝層形成過程と動物遺体群の全容を解明するには至らなかった。

いっぽう平成12～15年度に実施された今回の一連の発掘調査では、遺跡全体にわたって広域的かつ体系的な発掘が行われ、台ノ前北貝層、台ノ前南貝層、西向貝層、小迫貝層の4ヶ所の貝層が良好な保存状態で確認され、それぞれの層序と年代が詳細に解明された。この結果、本貝塚には縄文前期後葉から晩期中葉に至る各期の貝層が存在することが明らかとなった。さらに今回の調査では、各貝層において体系的な動物遺体資料の採集が行われ、各貝層から貝類・魚類・鳥獣類を主体とする多数の動物遺体を得ることができた。このように、今回の調査で得られた動物遺体資料は、精密なサンプリングと詳細な年代決定に裏付けられており、量的にも質的にも充実している。

浦尻貝塚を構成する貝層各地区の形成年代は、台ノ前北・南貝層が縄文時代前期後葉～中期後葉、西向貝層が中期前葉～後期前葉、小迫貝層が晩期前葉～中葉であり、後期中葉～後葉に貝層形成の断絶期間を挟むものの、全体としては縄文前期後葉から晩期中葉にわたる。単一の貝塚において、これほど長期間にわたって貝層形成が継続することは、縄文遺跡としては希有の事例といえる。さらに隣接する北原貝塚遺跡群（西貝塚）では前期前葉の貝層が確認されており、動物遺体群の詳細が報告されている（植月・樋泉2004）。したがって、浦尻・北原貝塚のデータを合わせることで、ほぼ同一の立地条件を持つ一連の貝塚群を通して、縄文前期前葉から晩期中葉にいたる長期的な動物遺体群の変遷を「定点観測」することが可能となった。

今回の調査で得られた動物遺体群については、すでに樋泉・植月（2005）によって概要が報告されているが、その後、貝層サンプル（2.5mm・1mm資料）の小型魚骨の同定や、鳥類のより詳細な同定などの分析を追加したことにより、その全容をほぼ把握することができた。各種動物遺体の分析結果については、本章の第2～4節に詳細を記載してある。ここではその成果に北原貝塚のデータを加え、前期前葉～晩期中葉の動物遺体群の変遷を包括的に記述する。次いで、それらから推定される周辺の高環境および本貝塚における動物資源利用の変遷について考察する。

### 第2項 動物遺体群の変遷

浦尻貝塚の貝層各地区および北原貝塚における貝類・魚類・鳥類・哺乳類の各時期の特徴を表39に要約した。魚類については、現地採集資料と5mm資料によって示される比較的大型の魚類と、2.5mm・1mm資料によって示される小型魚類に区分した。以下ではこれに基づいて、縄文前期前葉から晩期中葉に至る動物遺体群全体の変遷を総括する。

#### (1) 貝類・魚類

貝類・魚類遺体群の変遷には、比較的明確な時代変化が認められる。

前期前葉（北原貝塚）：貝類ではイボキサゴ、魚類ではフグ科・カタクチイワシの多産によって明



確に特徴付けられる。魚類ではスズキ属・ニシン科も多く、カツオも普通である。

**前期後葉（大木5～6式期）**：貝類ではイボキサゴの減少とアサリの急増、魚類ではフグ科の激減とウナギ属・カツオの増加がみられ、様相が大きく変化する。小型魚類（2.5mm・1mm資料）では、ウナギ属のほかドジョウ科、コイ科、ギギ科といった淡水魚が多産する点で、他の時期とは様相が明確に異なる。

**中期前葉（大木7a～7b式期）**：貝類では、アサリが圧倒的に優占する点は前期後葉と同様だが、イボキサゴが希となり、ヤマトシジミ・ハマグリが増加する。ヤマトシジミはとくに大木6～7a式期古段階の可能性をもつサンプルで多い傾向がある。また、少数種ではあるがイタボガキの産出層準はほぼこの年代に限られ、とくに大木7a式期に目立つ点で特徴的である。大型魚類（現地採集資料・5mm資料）ではカツオが減少し、スズキ属・ブリ属が増加する。小型魚類（2.5mm・1mm資料）ではウナギ属は引き続き優占するが、他の淡水魚（ドジョウ科、コイ科、ギギ科など）は減少する。

**中期中葉～後葉（大木8b～9式期）**：確実にこの時期に年代付けられる貝層が限られているため特徴はやや不明確だが、基本的には中期前葉の様相が継続するものと思われる。ただし、貝類ではヤマトシジミ・ハマグリは減少しイボキサゴの復活、大型魚類（現地採集資料・5mm資料）ではカツオのさらなる減少とフグ科・ウナギ属の微増など、若干の変化が認められる。

**後期前葉（綱取Ⅱ式期）**：貝類ではイボキサゴが増加し、アサリとともに優占する。マテガイもこの時期に特徴的にみられる。大型魚類（現地採集資料・5mm資料）ではカツオが消滅し、ブリ属も急減するいっぽうで、フグ科などが増加する。小型魚類（2.5mm・1mm資料）では淡水性のドジョウ科やアユがやや増加する。中期後葉と魚類組成に著しい変化はないが、大型魚類・小型魚類ともに、上位種の占める比率が低下し、組成の多様性が強まる傾向が認められる。

**晩期前葉～中葉（大洞BC～C2式期）**：貝類・魚類ともに様相が大きく変化する。貝類ではアサリに代わってヤマトシジミ・イソシジミ類が優占種となり、ハマグリも増加する。ウバガイも少数ながらこの時期に特徴的な産出を示す。いっぽう後期以前にみられた少数種の多くが消滅するか希となり、組成が少数の種類に集中するようになる。大型魚類（現地採集資料・5mm資料）では大型のネズミザメ科などを含むエイ・サメ類、フナ、ボラ科が増加して組成の過半を占める。マダイも少数ながらこの時期を特徴付ける要素である。小型魚類（2.5mm・1mm資料）では変化は比較的小さいが、サメ類・キュウリウオ科・コイ科などが増加して、独特の様相を呈するようになる。

## （2）鳥類・哺乳類

全時期を通じて鳥類ではカモ亜科、哺乳類ではシカ・イノシシが優占しており、魚貝類に比べて様相の時期的変化は明確ではない。ただし、詳細にみると下記のような変化が認められる。

**前期前葉（北原貝塚）**：鳥獣類中に占める鳥類の比率が高い（NISP比で約30%）。鳥類ではキジ類、陸獣類ではタヌキ・ノウサギが普通である。海獣類はみられない。

**前期後葉～中期初頭（大木5～7a式期古段階）**：鳥類は一時的に減少する。陸獣類ではタヌキが普通である。少数ながら多様な海獣類（クジラ類・アシカ科・アザラシ科）・ウミガメ類の出土が認められる。

**中期前葉～後葉（大木7a式期新段階～9式期）**：鳥類が増加し、MNI比で40%以上に達する。特にカモ亜科の増加が顕著で、ピロードキンクロ属やホオジロガモ属などアイサ族の出土が目立つようになる。陸獣類の様相には変化はみられない。海獣類・ウミガメ類は中期中葉以降に消滅する。

**後期前葉（綱取Ⅱ式期）**：資料数が少なく様相は明確でないが、おおむね中期後葉の様相が継続す

表 39 浦尻・北原貝塚における動物遺体群の変遷。 太字：主体種，細字：他の主要種，（ ）：少数種だが特徴的にみられるもの

年代		遺跡	水域				陸域	
			貝類	魚類 (現地採集・5mm)	魚類 (2.5mm・1mm)	海獣類	鳥類	陸獣類
晩期	中葉	イソシジミ・ヤマトシジミ ハマグリ・アサリ (ウバガイ)	多様性が強い： サメ/エイ類・フナ・ボラ科 スズキ属・クロダイ属・フグ科など (マダイ)	多様性が強い： ウナギ属・ニシン科 ハゼ科・コイ科・サメ類・ ヒメワカサギ科・カレイ科・アサリ属 など	少ない： クジラ類，アシカ科	カモ亜科 カウブドリ科・ギョウ科・ クハドリ科・ミズギドリ科 (クマ)	シカ>イノシシ ノウサギ (クマ)	
	前葉		多様性が強い： スズキ属・フグ科 カレイ科・コイ科・カレイ科 ・ウナギ属など	多様性が強い： ウナギ属・ニシン科 カウブドリ科・ハゼ科・トビ科 ・アユ・フナ科科など	なし	カモ亜科 ウ科	シカ・イノシシ タヌキ・ノウサギ	
後期	後葉	アサリ イボキサゴ * 確実にこの時期と判定される 貝層が少ないため特徴は不明確	スズキ属・プリ属 ・クロダイ属 カレイ科・フグ科・ウナギ属など	ウナギ属・ハゼ科 ニシン科・カウブドリ科	なし	カモ亜科 ウ科	シカ・イノシシ タヌキ	
	中葉		スズキ属・プリ属 ・クロダイ属 カレイ科・カイツボ科など	ウナギ属・ニシン科 ハゼ科・カウブドリ科 (プリ属)	少ない： クジラ類，アシカ科・ アザラシ科，ウミガメ類	少ない： カモ亜科 クイナ科	シカ・イノシシ タヌキ	
前期	前葉	アサリ ハマグリ (イボガキ・ヤマトシジミ)	カツオ・クロダイ属 ・スズキ属 ウナギ属	ウナギ属・フナ/コイ科 ドジョウ科・ハゼ科・ニシン科 (ギギ科)	なし	カモ亜科 キジ科	シカ・イノシシ タヌキ・ノウサギ	
	後葉	アサリ イボキサゴ	カツオ・クロダイ属 ・スズキ属 ウナギ属	ウナギ属・フナ/コイ科 ドジョウ科・ハゼ科・ニシン科 (ギギ科)	なし	カモ亜科 キジ科	シカ・イノシシ タヌキ・ノウサギ	
前期	中葉							
前期	前葉							

るようである。陸獣類ではノウサギが普通となる。

晩期前葉～中葉（大洞BC～C2式期）：鳥類は減少傾向を示すが、クイナ科・キジ科はやや増加する。また以前の時期では希であったアビ科やミズナギドリ科がみられるようになる。陸獣類ではシカの比率が増加し、ノウサギもやや増加する。海獣類は、クジラ類・アシカ科が少数ながら再びみられるようになる。

### （3）小結

浦尻・北原貝塚の動物遺体群の変遷を総覧すると、縄文前期前葉と後葉の間、および後期前葉と晩期前葉の間に明確な画期が認められる。このことから、これらの時期に資源環境あるいは動物資源利用の様相に大きな変化が生じたことが示唆される（上記の通り前期後葉～後期前葉の間にもある程度の変化が認められるが、それらはさほど顕著なものではなく、またその変化は連続的である）。

これらの画期は、北原貝塚遺跡群→浦尻貝塚台ノ前・西向貝層→浦尻貝塚小迫貝層という貝層形成の場の移動に対応している。さらに、それぞれの画期に相当する前期中葉と後期中葉～後葉には、北原貝塚でも浦尻貝塚でも貝層形成が確認されていない。こうした状況からみて、動物資源利用の様相と遺跡形成過程の間に何らかの関連性があった可能性も考えられる。

## 第3項 動物遺体群の変遷の背景

上記のような動物遺体群の変遷の背景として、自然要因（環境変化）と人為的要因（動物資源利用の変化）が考えられる。本章のまとめとして、これらふたつの要因について考察する。

### （1）古環境変遷

ここでは、浦尻・北原貝塚から出土した貝類・魚類・鳥類の生息環境をもとに、両貝塚周辺の水域環境の変遷を推定する。

縄文前期～後期前葉には、貝類ではアサリ・イボキサゴ・ハマグリなどの内湾の砂質干潟の生息種が大半を占める。魚類でも内湾性のスズキ・クロダイ属や沿岸性の表層回遊魚で内湾にも多く来遊するマイワシ・カタクチイワシなどが多い。これらの特徴から、すでに石川（1983）が指摘しているとおり、この時期の宮田川谷は砂質干潟を伴う内湾（以下「古宮田湾」と仮称）であったと推定される。なお縄文海進期の貝塚では、溺れ谷の発達を背景として、一般にマガキなどの泥質干潟の生息種が多産する傾向があるが、本貝塚においてはそうした傾向は明確でない。

魚類では、前期後葉以降に淡水～汽水性のウナギ属の急増がみられることから、古宮田湾の奥部や縁辺部では、この頃には淡水化が進行し始めていたと推測される。鳥類でも淡水域やその周辺の湿地・アシ原などに生息するマガモ属・ガン族・クイナ科・ツル科、淡水～内湾域に飛来するスズガモ属・カイツブリ科が比較的多く、魚貝類から推定されるイメージと調和的である。

縄文晩期にはヤマトシジミやフナなどの淡水～汽水性種が急増することから、古宮田湾口部における砂州の発達によって湾の閉鎖と潟湖化が急速に進み、井田川浦の原形が形成された可能性が考えられる。ただし、晩期においてもイソシジミ類・ハマグリ・アサリといった内湾性種が多数検出されていることから、内湾水域も引き続き広く存在していたものと推定される。

なお前期後葉（大木5～6式期）には、小型魚類相（2.5mm・1mm資料）においてドジョウ科、フナを含むコイ科、ギギ科といった淡水魚の一時的増加が認められ、現地採集資料・5mm資料でもウナギ属の増加があり、前後の時期に比べて淡水魚が卓越する傾向を示す。ヤマトシジミが前期末～中期初頭（大木6式～7a式古段階）に微増するのも、これと連動した現象と思われる。これらの変化は上

記のような内湾から潟湖への一方的な変化という図式とは整合していないことから、この時期に短期的な海面低下または湾口部における一時的な砂州の形成による淡水域の拡大が生じた可能性も考えられる。

また、上記のようなローカルな環境変遷とは別に、海流系・古水温変動との関連で注目されるのはイタボガキ、カツオ、ブリ属の動向である。石川（1983）が暖流系種として注目したイタボガキは、今回の調査によって中期前葉の層準に限定的に産出することが明確となった。カツオ・ブリ属も典型的な暖流系種で、本貝塚では前者は前期前葉～中期前葉、後者は中期前葉～後葉に多くみられ、ともに後期～晩期には減少・消滅している。これに対し、寒流系種であるウバガイ（現在の分布南限は鹿島灘）は、上記の暖流系種とは逆に晩期に微増する。少数ではあるが寒流系種のニシンが後期前葉～晩期にみられるようになるのも、これと連動したものかもしれない。これらの特徴から、本貝塚周辺海域における暖流の影響は前期～中期に強く、後期～晩期に衰退した可能性が考えられる。この点については、現生種の分布・生態の検討、他遺跡のデータや古環境資料との比較などを行ったうえで、改めて考察したい。

## （2）動物資源利用の変遷

ここでは各種遺体の組成および貝層中における混貝率、魚骨・鳥獣骨の「出現度」（包含密度）をもとに、各時期の動物資源利用の特徴について総括する。

**縄文前期前葉～中期後葉：**貝類採集に関しては、古宮田湾の干潟での内湾性貝類の採取が中心である。また、前期前葉にはイボキサゴ、前期後葉以降はアサリが圧倒的多数を占めており、特定種に利用が集中している点が特徴である。ただし前期後葉～中期の貝層は、貝殻の包含密度（混貝率）が低く（図34）、貝類利用は比較的低調である。

これに対し、大型魚類（現地採集・5mm資料）の「出現度」（＝包含密度、図36）は比較的高い水準にあり、貝層サンプルからの小型魚類（2.5mm・1mm資料）の検出数もきわめて多いことから、漁撈（魚類利用）は活発であったと推定される（ただし大型魚類の「出現度」は中期中葉～後葉にはやや低下する）。漁撈活動の構成は、古宮田湾を中心としたスズキやイワシ類などの漁が主力であり、前期後葉以降は湾周辺の淡水域の拡大に伴ってウナギ漁も盛んとなる（前期後葉にはウナギのほか、フナ・ドジョウなどの淡水魚の利用も一時的に活発化する）。また、外洋性回遊魚として前期後葉にカツオ、中期にブリ属が多くみられることから、外海域での漁も行われていたと推定される。

狩猟に関しては、シカ・イノシシ猟とカモを主とする水鳥猟が中心であり、タヌキ猟も盛んである。鳥猟は前期後葉～中期初頭に一時的に衰退するが、以後はきわめて活発となる。淡水～汽水域に生息するスズガモ属・マガモ属やカイツブリ科、水辺の草原やヨシ原に生息するクイナ科などが比較的多いことから、鳥類の狩猟域はおもに古宮田湾内とその周辺域であったと推定される。ただし、中期前葉以降にはクイナ科が減少し、海域に生息するアイサ族が目立つようになることから、狩猟域がより海側へと進出したことが示唆される。前期後葉から中期前葉にはアシカ類・イルカなどの海獣猟も行われていた可能性がある。

**縄文後期前葉：**基本的には中期までの様相が継続するが、詳細には以下の変化を指摘できる。

貝類では、貝層の混貝率（図34）が急増することから、この時期には利用がやや活発化した可能性がある。またアサリに加えてイボキサゴが多く利用されるようになる。

魚類では、大型魚類（現地採集・5mm資料）の「出現度」（包含密度）の増加（図36）がみられることから、利用が活発化した可能性がある。また大型魚類・小型魚類ともに漁獲対象が多様化する傾

## 第5節 動物遺体群の変遷とその背景

向が認められる。いっぽうでカツオ・ブリ属などの外洋性回遊魚類は減少し、活動域が古宮田湾内に収束する傾向が読みとれる。この点は中期後半以降に海獣類・ウミガメ類の利用が消滅することとも関連する可能性がある。

**晩期前葉～中葉：**貝層の混貝率（図34）および大型魚類（現地採集・5mm資料）の「出現度」（図36）は低下し、貝層サンプルからの小型魚類（2.5mm・1mm資料）の検出数も明確に減少するのに対し、鳥獣骨の「出現度」（図35）は増加傾向を示す。このことから、魚貝類の利用は低調となったと思われる、とくに魚類利用の衰退が著しいのに対し、狩猟は活発化したと推定される。

魚貝類の内容は後期以前とは明らかな変化を示し、古宮田湾の潟湖化と淡水化の進行に伴って、ヤマトシジミ・フナ・キュウリウオ科などの淡水～汽水性魚貝類の利用が増大する。その反面で、大型のサメ類（ネズミザメ科・カスザメ属など）やマダイの漁が盛んとなり、アシカ類などの海獣類も復活して、外洋域での活動が活発化する。刺突具（鈎・ヤス）の増加は、明らかにこうした大型の魚類・海獣類の増加と関連したものである。ウバガイなどの外洋性貝類や、外洋に生息するミズナギドリ科が増加するのも、上記と連動した現象と思われる。こうした変化は仙台湾～三陸方面またはいわき方面からの強い文化・社会的な影響下に生じたものと推測される。いっぽうで、貝類ではイソシジミ類・アサリ・ハマグリなど、魚類ではニシン科・ボラ科・スズキ属・クロダイ属といった内湾の生息種も多数を占めていることから、古宮田湾内にそうした内湾水域が引き続き存在していたこと、またそこでの魚貝類利用が依然として大きなウェイトを占めていたことが推定される。このように、晩期の魚貝類・鳥類利用の活動域は、内湾を中心としつつも、淡水～汽水域（潟湖）と外海域の双方に広がり示すようになり、それに応じて活動内容も多様化したと推定される。

陸獣類に関しては、シカ類が活発化する点、小型獣狩猟の主対象がタヌキからノウサギに変化する点で、後期以前とは異なった傾向を示す。

### (3) まとめ

浦尻・北原両貝塚の動物遺体群の長期的な変遷を通観し、縄文前期から晩期にわたる周辺環境と動物資源利用の様相について考察した。古環境変遷に関しては、今後宮田川低地の地質学的調査が行われれば、自然環境と人間活動との関係史をより具体的に検証できるであろう。動物資源利用については、現生資源の生態学的情報や近代化以前の民俗資料などと対照することで、活動域・技術・季節性など、より詳細な復元が可能になるとと思われる。さらに、今後は三陸～仙台湾地域・いわき地域の様相と比較することにより、本貝塚の特性や各地域間の関係性を明らかにしていく必要がある。

(樋泉岳二)

## 謝辞

末筆ながら、調査分析に際して多大なる援助とご教示を賜った川田強氏・佐川久氏（南相馬市教育委員会）、西本豊弘氏（国立歴史民俗博物館）、江田真毅氏（鳥取大学）、黒住耐二氏（千葉県立中央博物館）、植月 学氏（山梨県立博物館）に厚く御礼申し上げる。

## 第2章 第1・2・5節 参考文献

- 石川隆司（1983）「福島県浦尻台の前貝塚における貝類採集活動の復原」法政考古学8  
植月 学・樋泉岳二（2004）「北原西貝塚の動物遺体」『北原貝塚遺跡群』小高町教育委員会  
金子浩昌（1971）「遺物Ⅱ—浦尻貝塚出土の動物遺存体概報—」『浦尻貝塚』福島大学考古学研究会  
樋泉岳二・植月 学（2005）「浦尻貝塚における動物遺体群の概要」『浦尻貝塚1』小高町教育委員会

## 第3章 出土人骨

今回、鑑定依頼を受けた人骨資料は、平成12～15年度の小高町教育委員会（現南相馬市教育委員会）による発掘調査時に出土したものである。資料の多くはヒト以外の動物骨に混在した状態で出土している。また、遺存状態等が不良であるため、埋葬姿勢等など埋葬に関わる所見を得ることはできていない。

人骨資料は、破片状態の頭蓋骨片や歯牙を中心としたものであり、橈骨など長骨片が含まれている。またこれらの多くは貝層中から出土しており、こうしたものに関しては緻密質の遺存状態が比較的良好である。

人骨資料の色調は大きく分けて2つ（マンセル方式による標準土色帖によるところの赤褐色（5YR）と黄褐色（2.5Y）ある。

出土した歯牙は計18点（永久歯が11点、乳歯が7点）である（表40）。

いずれの歯牙においても歯石・虫歯等の所見はみられない。また、永久歯の咬耗は、BrocaのI及びIIであり、全体として咬耗は上顎で舌側、下顎で頬側において進行している。しかし、これらの磨り減りの度合いは、たとえば千葉県姥山貝塚出土人骨の中に見られるような歯冠が喪失するような著しいものではない。

性別に関する正確な所見は得られていないが、左下顎骨の形態的特徴から男性と推測されるものと、側頭骨の乳様突起の形態的特徴から女性と推測されるものが含まれている。

また年齢についても詳細は不明であるが、本資料には、永久歯と乳歯が混在しているので、少なくとも成人1体と未成人1体が埋葬されていたことは確かである。また歯牙の咬耗や萌出状態から見ると、成人に相当する個体は壮年に相当するもの（Broca I）と熟年に相当するもの（Broca II）が含まれていると考えられる。また未成人骨は、左犬歯が完全に萌出していないことから小児（10歳～12歳前後）に相当すると考えられる。

以上の所見から本資料には成人骨2体と未成人骨1体が含まれていると考えられる。

（谷畑美帆）

### 謝辞

本資料の中でも今回、歯牙の鑑定に関しては、鹿児島女子短期大学助教授・竹中正巳氏のご教示を受けた。記して感謝の意を表することとする。

表 40 浦尻貝塚出土人骨

No.	調査次	トレンチ	貝層	出土状況	層名	土器型式	部位	数	左右	詳細
2387	1	38	台ノ前南	貝層中	L III d	大木 9	側頭骨	1	右	
2429	1	41	台ノ前南	貝層外	黒色土	大木 6 ~ 9	頭頂骨片	1		
2390	2	54	台ノ前北	貝層上	一括	大木 6 ~ 8b	頭蓋骨	1		
2427	3	70	西 向	貝層外	I 層	大木 6 ~ 纏 II	頭頂骨片	1		
2386	1	38	台ノ前南	貝層中	L IV a	大木 6 ~ 7a 古	下顎骨	1	左	犬歯のみ遺存しているが完全に萌出してない。
1095	3	54	台ノ前北	貝層中	28 - 30	大木 6 ~ 7a 新	下顎骨	1	左	第 2 犬臼歯・第 3 犬臼歯 (いずれも Broca II) のみ遺存している。
2396	1	38	台ノ前南	貝層中	A 8	大木 7a 新 ~ 7b	下顎右犬歯 (乳歯)	1		
2395	1	38	台ノ前南	貝層中	A 5	大木 7a 新 ~ 7b または 大木 9	上顎右犬歯 (乳歯)	1		
2402	2	54	台ノ前北	表土	I 層	大木 6 ~ 8b	下顎左第 2 犬臼歯 (永久歯)	1		Broca II
2397	2	54	台ノ前北	貝層中	28 層	大木 7a 古 ~ 新	上顎犬臼歯 (乳歯)	1		
2405	2	54	台ノ前北	貝層中	28 層	大木 7a 古 ~ 新	上顎右第 3 犬臼歯 (永久歯)	1		
2398	2	54	台ノ前北	貝層中	22 層	大木 7a 新	左側切歯 (永久歯)	1		Broca II
2399	2	54	台ノ前北	貝層中	15 層	大木 7a 新 ~ 7b	上顎右第 2 犬臼歯、(永久歯 Broca II) 下顎右第 1 犬臼歯 (乳歯)	2		上顎右第 2 犬臼歯の咬耗は Broca II
2400	2	54	台ノ前北	貝層中	24 層	大木 7a 新	上顎右第 2 犬臼歯 (乳歯)	1		
2401	2	54	台ノ前北	貝層中	21 層	大木 7a 新	下顎左第 1 犬臼歯 (永久歯)	1		
2403	2	54	台ノ前北	貝層中	23 層	大木 7a 新	下顎左第 2 犬臼歯 (乳歯)	1		
2404	2	54	台ノ前北	貝層中	8 層	大木 7a 新 ~ 7b	下顎右第 1 犬臼歯 (乳歯)	1		
2406	2	54	台ノ前北	貝層中	10 層	大木 7a 新 ~ 7b	下顎左第 1 犬臼歯 (永久歯)	1		
2407	3	64	西 向	貝層上	II 層上面	大木 6 ~ 纏取 II	上顎左第 2 犬臼歯 (永久歯)	1		Broca II
2408	3	64	西 向	貝層中	S2-4	纏取 II	下顎左第 1 犬臼歯 (乳歯)	1		
2409	4	3G	小 廻	貝層中	SI-3B	大海 BC	下顎右中切歯 (永久歯)	1		Broca II
2393	2	54	台ノ前北	貝層中	2 層	大木 7a 新 ~ 7b	橈骨 (遠位端のみ欠損)	1	左	
2392	2	63	台ノ前北	表土	L I	大木 6 ~ 8b	橈骨 (骨幹部のみ)	1	右	
2394	3	64	西 向	表土	I 層	大木 6 ~ 纏取 II	脛骨 (骨幹部のみ)	1	右	
2431	1	31	台ノ前南	貝層中	SI3	大木 6 ~ 9	中手骨 (第 4 中手骨?) の骨幹	1		
2389	1	38	台ノ前南	貝層中	L III h	大木 7a 新	足の基節骨 (成人)	1		
2391	2	54	台ノ前北	貝層中	9 層	大木 7a 新 ~ 7b	足の中節骨 (成人)	1		
2430	2	54	台ノ前北	貝層中	19 層	大木 7a 新 ~ 7b	第 5 中足骨	1	右	
2388	1	38	台ノ前南	貝層中	L III 下	大木 7a 新	下肢骨片 (脛骨?)	1		
2511	1	31	台ノ前南	貝層中	L III	大木 7a 古	尺骨片	1		
2428	1	46	台ノ前北	貝層外	-	大木 6 ~ 8b	下肢骨片 (大腿骨?)	1		
2426	3	70	西 向	貝層外	I 層	大木 6 ~ 纏取 II	大腿骨片 (骨幹の一部)	1		

## 第4章 炭化種実

### 第1項 はじめに

浦尻貝塚は、南相馬市（旧小高町）の海岸線から約700m内陸の標高25～28mの段丘上とその斜面に広がっている。本貝塚では前期から晩期にわたり貝層が形成され、周辺には北原貝塚など縄文時代前期前半以降の貝塚が多数点在している。担当者が貝層堆積物の水洗を行ったところ、貝や魚骨などに混じって炭化物が確認されたため、当時の植物利用状況を調査する目的で炭化種実の分析を行った。分析試料採取地点を図54に示す。台ノ前南貝層の31T（大木5～7a古）および38T（大木7a新～7b）、台ノ前北貝層の54T（大木6～7a新）および63T（大木7b～8a）、西向貝層の64T（大木4～綱取Ⅱ）、小迫北地区小迫貝層の1Gと3G（大洞BC）、Ⅳ区サブトレンチ1（大洞B～C2）の貝層、小迫北地区76TのSK107（新地～大洞C2）の柱穴内堆積物、計9地点である。

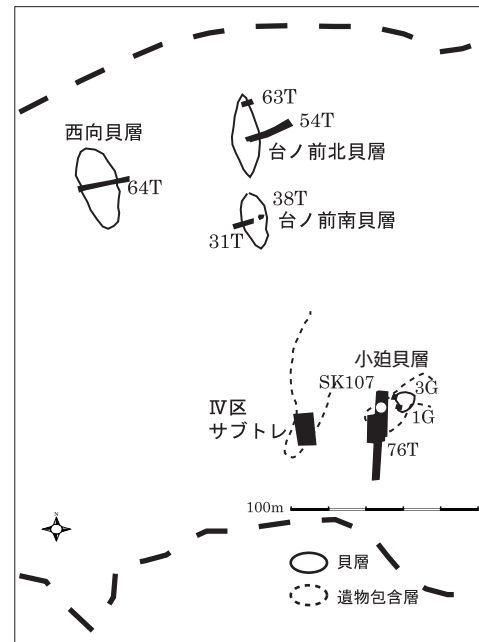


図54 浦尻貝塚炭化種実  
分析試料採取地点

### 第2項 同定結果

同定は実体顕微鏡を用いて行い、分類群、部位毎に選別し、小破片については乾重を計量し、完形と半分については計数および計量をおこなった。

大木5～大木7bの前期末葉から中期中葉にあたる台ノ前南貝層の31Tと38Tから得られた炭化種実を表41に示す。38Tでは18試料からオニグルミの破片を出土した。また、コナラ属の子葉を10試料で出土し、大木7a新～7bにあたるA2および大木7a新にあたるLⅢ下、LⅢGでは個数、量ともに多く出土し、この3試料からはクヌギ節近似種の子葉が確認された。LⅢ下試料からはわずかであるがトチノキも出土した。31Tでは大木5～6にあたるS18試料からはオニグルミのみ出土した。大木7a古にあたる11試料からはオニグルミを出土し、3試料からコナラ属、3試料からクリを出土したが、いずれもわずかであった。

大木6～8aの前期末葉から中期中葉にあたる台ノ前北貝層の54Tと63Tから出土した炭化種実を表42に示す。54Tの大木6～7aにあたる試料28～30ではオニグルミ、コナラ属、クリを出土した。大木7a古～7bでは30試料からオニグルミを出土し、コナラ属も23試料で出土した。クリは12試料から、トチノキは2試料から出土している。63Tは大木7b～8aにあたる1試料であるが、オニグルミ、コナラ属、クリを出土している。

大木4～綱取Ⅱの前期末葉から後期前葉にあたる西向貝層はS1～S4の4カ所で分析をおこない、結果を表43にまとめた。S1では大木6～8aと綱取Ⅱの両方でオニグルミ、コナラ属、クリ、トチノキを出土した。S2では大木6～8aではクリのみ、綱取Ⅱではオニグルミの出土試料が少なく、1試料からトチノキを出土した。S3では大木4～6にあたる19～21ではオニグルミとコナラ属を出土し、大木6の14～18ではコナラ属、オニグルミとクリ、トチノキをわずかに出土した。大木7a古にあたる3～13ではオニグルミ、コナラ属、クリを出土した。S4では、大木6～7bにあたる



表 41 台ノ前南貝層 (31T、38T) 出土炭化種実

分類群	土器編年 大別層 部位\番号	大木 7a 新~7b										大木 7a 新					一括		
		Ⅲ A					Ⅲ A・D・E					Ⅲ D・E			Ⅲ E~G			Ⅲ E~G	
		A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10	A11	LⅢ下	A12	A13	A14	A15	LⅢ G	LⅢ
オニグルミ	内果皮破片	0.19	0.13	0.09	0.18	0.18	0.35	0.16	0.12	0.02	0.17	0.32	4.99	0.34	0.05	0.05	0.05	3.63	0.81
クスギ筋近似種	子葉半分	-	(13)4.58	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)0.52	-	-	-	-	(2)0.71	-
	子葉破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9	-
コナラ属	子葉半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(2)1.27	-	-	-	-	(4)2.18	-
	子葉破片	0.31	11.62	-	0.16	-	-	-	0.09	0.46	0.19	0.1	6.6	0.27	-	-	-	6.9	-
トチノキ	種皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-	-	-
不明堅果	子葉破片	-	1.47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( ) 内は子葉半分の個数

表 42 台ノ前北貝層 (54T、63T) 出土炭化種実

分類群	土器編年 層名 部位\番号	大木 7a 新~7b																	
		表土			b層			c層			d層			e層			f層		
		1	2	2g	7	8	8b	8f	8g8i	8下	9	10	10c	10d	10e	11	13	12	15
オニグルミ	内果皮破片	-	5.32	0.06	0.18	2.58	0.23	0.6	0.2	0.53	0.81	2.28	0.07	0.21	0.29	1.53	0.39	0.62	0.63
コナラ属	子葉半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	子葉破片	0.06	0.33	-	0.33	1.82	0.01	-	0.19	0.9	0.32	2.66	-	-	-	0.27	0.23	0.39	0.11
ク リ	子葉破片	-	0.15	-	-	-	-	0.04	-	0.15	-	0.11	-	-	-	0.29	-	-	-
トチノキ	子葉破片	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

分類群	土器編年 層名 部位\番号	大木 7a 新~7b					大木 7a 新					大木 7a 古~新		大木 6~7a 古			
		g層					h層		i層		j層			k層		l層	
		14	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
オニグルミ	内果皮破片	0.23	0.53	0.35	5.7	0.65	2.52	1.47	0.97	0.24	2.44	5.09	0.85	1.7	1.52	-	0.45
コナラ属	子葉半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(2)1.01	(1)0.62	-	-
	子葉破片	0.04	-	0.09	0.46	0.16	0.38	0.82	0.28	-	0.57	0.91	0.08	1.44	0.93	0.34	0.32
ク リ	子葉破片	-	-	-	0.13	-	0.09	0.22	0.09	-	0.17	0.13	-	0.52	0.2	-	1.04
トチノキ	子葉破片	-	-	-	-	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

分類群	土器編年 部位\層	大木 7b~8a	
		2	1.56
オニグルミ	内果皮破片	1.56	
コナラ属	子葉破片	0.05	
ク リ	子葉破片	0.25	

( ) 内は子葉半分の個数

表 43 西向貝層 (64T) 出土炭化種実

分類群	土器編年 大別層 部位\番号	網取Ⅱ					大木 6~8a	
		Ⅲ-3層(a)					Ⅲ-3層(c)	
		1	2	3	4	6	7	
オニグルミ	内果皮破片	0.04	-	-	0.15	0.18	0.18	
コナラ属	子葉破片	0.59	0.18	0.08	0.07	0.18	-	
ク リ	子葉破片	0.13	-	0.1	-	0.32	-	
トチノキ	子葉破片	0.04	-	0.03	0.09	0.15	-	
不明堅果	子葉破片	-	-	0.17	-	-	-	

分類群	土器編年 大別層 部位\番号	網取Ⅱ						大木 6~8a		
		Ⅲ-3層(a)						Ⅲ-3層(c)		
		2	4	5	6	7	8	11	10B	11Ba
オニグルミ	内果皮破片	0.1	-	-	-	0.1	-	0.06	-	-
ク リ	子葉破片	-	0.09	0.21	0.1	-	0.14	-	0.16	0.17
トチノキ	子葉破片	-	-	-	-	-	0.04	-	-	-
不明堅果	子葉破片	-	-	-	-	-	-	-	-	0.09

分類群	土器編年 大別層 部位\番号	大木 7a 古						大木 6		大木 4~6					
		3	8	9	10	11	12	13	14	15	17	18	19	20	21
オニグルミ	内果皮破片	0.11	0.1	-	0.02	0.14	0.09	-	0.28	0.37	-	-	-	-	0.06
コナラ属	子葉破片	-	0.06	0.06	-	-	0.23	-	0.36	0.22	0.24	0.38	0.26	0.18	-
ク リ	子葉破片	-	0.06	-	0.23	-	-	0.1	0.24	-	-	-	-	-	
トチノキ	子葉破片	-	-	-	-	-	-	-	-	0.06	-	-	-	-	

分類群	土器編年 大別層 部位\番号	大木 7b		大木 7a 新~7b				大木 6~7a		
		Ⅲ-3層(b)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
オニグルミ	内果皮破片	0.37	-	0.31	0.21	0.31	0.15	0.14	0.17	0.07
コナラ属	子葉破片	0.14	0.14	-	0.27	0.17	0.04	-	-	0.06
ク リ	子葉破片	-	0.15	-	-	-	-	-	-	-

表 44 小北北地区出土炭化種実

分類群	土器編年 トレンチ 遺構\ほか 大別層 部位\番号	新地~大洞 C2		大洞 BC				大洞 B~C2			
		76T		1G		3G		IV区サブトレ1			
		SK107		S1	S2		S1				
				Ⅲ-1							
		2	1	2	7	1A	2B	SⅢ A	SⅢ B下	SⅢ C	
オニグルミ	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	0.77	
コナラ属	子葉半分	(70)10.66	-	-	-	-	-	-	-	-	
	子葉破片	7.19	-	-	-	0.18	0.09	-	-	-	
ク リ	子葉完形	(3)0.92	-	-	-	-	-	-	-	-	
	子葉破片	17.66	-	0.09	-	-	0.44	0.24	0.38	1.91	
トチノキ	子葉破片	-	0.22	-	-	0.21	0.38	-	0.27	2.07	
不明堅果	子葉破片	4.32	-	0.07	-	-	-	-	-	-	

( ) 内、コナラ属は子葉半分の個数、クリは完形子葉の個数

3～9はオニグルミとコナラ属を出土し、大木7bの試料1,2はオニグルミ、コナラ属、クリを出土した。

新地～大洞C2の後期末葉から晩期中葉にあたる小迫北地区の同定結果は表44に示す。76TのSK107は建物に伴わない柱穴と見られるが、柱穴内堆積物からはコナラ属とクリの子葉をほぼ同量出土した。コナラ属は半分に割れた子葉が多く、クリは完形子葉が3個出土した。大洞BCにあたる1G、3GとⅣ区サブトレ1では、クリ、トチノキを5試料から出土したが、オニグルミはⅣ区サブトレ1のSⅢCで出土したのみであった。

以下に同定された分類群の形態記載を行う。

**オニグルミ** (*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura) : 完形内果皮はやや縦に長い球形で上端が鋭く尖り表面には不規則な凹凸とすじがまばらにある。内果皮壁は堅く緻密で空隙があり、内側にも複雑な凹凸がある。

**クヌギ節近似種** (*Quercus* cf. sect. *Cerris*) と **コナラ属** (*Quercus*) : コナラ属の子葉は球形ないし楕円球で表面に上下方向の粗い溝があることが多く、子葉は縦に2分する構造である。上端には微少な円筒形の胚があり、胚が脱落して孔になっていることが多い。コナラ属にはアカガシ亜属とコナラ亜属の様々な種類があるが、どちらも同様な形態で区別がつかない。ただし、コナラ亜属のクヌギ節はほかの節にはほとんど見られない球形の子葉であるため、球形の子葉はクヌギ節の可能性が高い。ただしコナラ節のカシワもまれに球形に近い子葉があるため、この形態の子葉をクヌギ節近似種とするにとどめた。

表45 SK107クリ計測値

**クリ** (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) : 子葉は三角形で縦方向に波状のやや深いしわがある。表45にはSK107から出土したクリの高さと幅の計測値を示した。

高さ	幅
13.6	13.9
10.8	11.4
12.1	15.7

**トチノキ** (*Aesculus turbinata* Blume) : 完形種子はゆがんだ球形であるが、本遺跡からは破片のみ出土した。種子は炭化しても種皮が子葉に密着していることが多く、本遺跡で出土した種皮破片にも子葉の一部が付着している。種皮表面は光沢がある黒色で指紋状ないし流理状の微細なしわが密布し、種皮壁は3層から成り、層毎に違う方向に割れることが多い。

### 第3項 考察

本遺跡の出土傾向を比較するため、炭化種実の時期別種構成を百分率で示す(図55)。前期後葉ではオニグルミとコナラ属の2種を出土している。前期末葉から中期前葉まではオニグルミとコナラ属が大半を占め、これにクリとわずかにトチノキが付随する。中期中葉から晩期前葉ではオニグルミとコナラ属も出土するがクリの比率が高くなり、トチノキもそれ以前と比較するとやや高い比率で出土するようになる。

オニグルミは前期には少なく、中期で全体の廃棄量が多くなるにつれて増加し、全体をとおして利用されていたと考えられる。コナラ属は出土比率に多少の増減はあるものの連続的に出土し、安定した利用がうかがえる。クリは前期末葉から連続的に出土し、中期中葉から晩期にかけてはコナラ属と逆転して高い頻度を示す。青森県三内丸山遺跡では前期中頃にムラが形成されると同時にクリの積極的な利用が始まったと見られ、約5000～4500年前にクリ属の林が拡大したとされる(吉川ほか2006)。同じ頃に関東平野でも遺跡周辺でクリ属花粉の急増が見られ、これが人為的な変化である可能性を示した(吉川1999)。本遺跡でのクリの出土傾向は時期的に概ねこれと一致している。なお、

晩期前葉の柱穴SK107ではコナラ属とクリの出土がやや多かったが、中期末の福島県和台遺跡では住居跡に祭祀土器とともに多量のクリ、クルミ、トチノキが堆積している例があり（吉川2003）、本遺跡では量は少ないが柱穴内に可食部分が溜まっているという状況から、祭祀などの利用後の炭化物である可能性がある。

トチノキは前期末葉と中期前葉からは微量出土するだけであるが、中期中葉から晩期にかけては頻度が高くなるため、本遺跡での本格的なトチ利用は中期中葉以降と推測される。中期中葉には青森市近野遺跡の水場遺構でおびただしいトチノキ種皮廃棄層が確認され（古代の森研究舎2006）、中期末葉には八戸市新田遺跡の住居覆土や複式炉内から炭化トチノキ種皮が出土する（吉川2006）など、中期にはクリとともに主要な植物資源としてトチノキの食糧としての利用があったと考えられ（吉川ほか2005）、本遺跡でもおおむね調和的な結果となっている。

（吉川純子）

#### 第4章 引用文献

- 古代の森研究舎. 2006. 第4章自然科学分析 第8節 大型植物化石の分析. 青森県埋蔵文化財調査報告書第418集「近野遺跡IX」, 青森県教育委員会. 297-321.
- 吉川純子. 2003. 183号住居跡出土炭化種実の同定分析. 和台遺跡. 飯野町教育委員会福島県東北建設事務所. 733-741.
- 吉川純子. 2006. 第5章自然科学分析 第2節 八戸市新田遺跡縄文時代中期より出土した炭化種実. 青森県埋蔵文化財調査報告書第410集「新田遺跡II」. 青森県教育委員会. 124-127.
- 吉川昌伸. 1999. 関東平野における過去12,000年間の環境変遷. 国立歴史民俗博物館研究報告第81集歴博国際シンポジウム過去1万年間の陸域環境の変遷と自然災害史. 国立歴史民俗博物館. 267-286.
- 吉川昌伸・鈴木茂・辻誠一郎・後藤香奈子・村田泰輔. 2006. 三内丸山遺跡の植生史と人の活動. 植生史研究特別第2号. 日本植生史学会. 49-82.
- 吉川昌伸・吉川純子. 2005. 縄文時代中・後期の環境変化. 日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集. 日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会. 13-22.

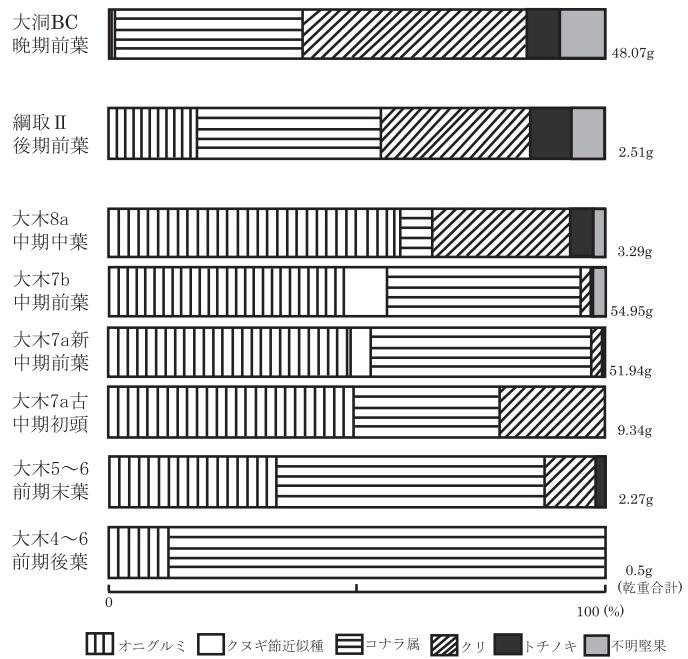
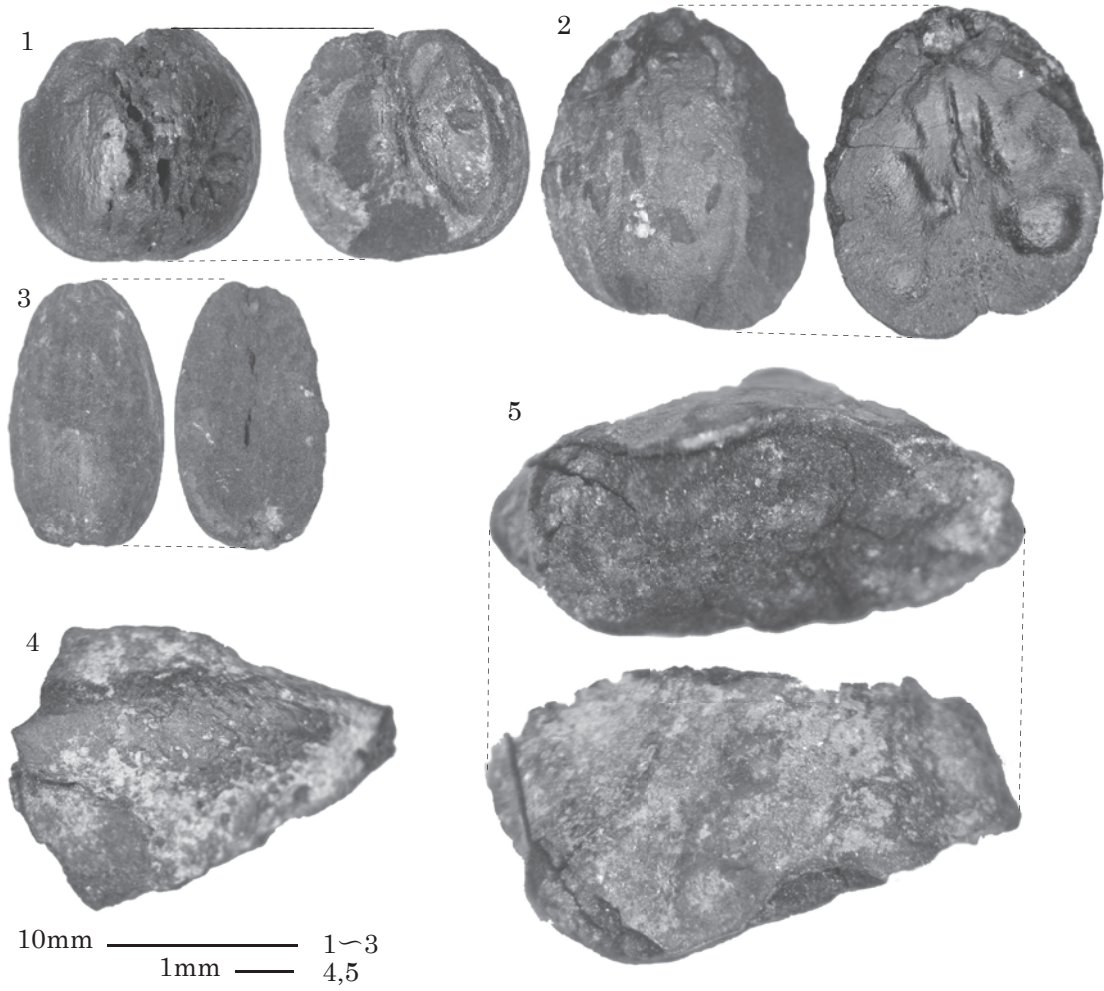


図 55 浦尻貝塚出土炭化種実の種構成（百分率）



写真図版13 浦尻貝塚出土の炭化種実

1・2.クヌギ節近似種、子葉半分 (38T-LⅢg) 3.コナラ属 子葉半分 (76TSK107) 4.トチノキ、樹皮破片 (38T-LⅢ下) 5.トチノキ、子葉つき樹皮破片 (64TS1-6)



# 附 編



## 附編1 浦尻貝塚出土のイノシシ遺体について

### はじめに

浦尻貝塚から出土した動物遺体の概要については、すでに樋泉・植月（2005）によって報告がなされているが、本稿ではイノシシ遺体の分析結果を報告する。

なお、資料の採集方法については樋泉・植月（2005）および本稿に詳しいので、それらを参照されたい。

### 1. 資料と分析方法

ここで扱う資料はイノシシ1種であるが、同定はすでに樋泉岳二・植月学氏らによってなされていたものである。そのため、本分析ではイノシシとして仕分けられ、原則1点ごとに小袋に入れられた資料と同封されたカード（トレンチ、層位、標本番号、採集方法、部位名や左右）を確認しながら、計測作業や観察結果を記録化し、イノシシ遺体からの属性の抽出を行った。また、イノシシとして区別されたテンバコ2箱分の骨であったが、それらのうちイノシシ以外の可能性の残る破片が頭部で4点（イノシシ？1、ブタ？2、イノシシ以外？1）、肩甲骨で2点（シカ2）、四肢骨で10点（ブタ？2、イノシシorシカ7、イノシシ？1）、寛骨で1点（イノシシ以外？）、手足骨で4点（シカorイノシシ2、シカ1、イノシシ？1）、脊椎・肋骨で143点（イノシシorシカ143）あった（表3～10）。なお、ブタの可能性のある骨や銑色を帯び、骨表面に油成分の固着がある新しい様相の骨は、西向貝層に多い傾向があった。そのため、本稿ではこれらの不確実な資料を除いた点数を分析対象とした。骨の部位名称は加藤（1972）に、計測ではvon A. Driesch（1976）の方法に従い、主要な部位のみ表に示した。また観察ポイントは、歯の咬耗や萌出段階および四肢骨骨端の癒合状態、特徴的な形態の有無、骨に残る痕跡の3点を中心とした。歯の萌出や咬耗段階では林ほか（1977）、小池・林（1984）、Grant（1972）に従った。雌雄判定は犬歯の肉眼的・経験的観察により、強大なものを♂、そうでないものを♀とした。

### 2. イノシシ遺体の内容

#### 地区別に見た出土数の変化

本遺跡から出土する陸獣類の中ではシカ・イノシシが主体をなすと指摘されているが（樋泉・植月 2005）、イノシシの同定資料数（NISP）は442点となった。地区別に見たイノシシの割合を見ると、最も多いのは台ノ前北貝層（62.3%）で、次いで西向貝層（12.9%）、小迫貝層（8.7%）、台ノ前南貝層（7.6%）となる（図1、表1）。貝層以外には台ノ前斜面や西向斜面下部、小迫北斜面南、台台地北部の包含層からも出土しているが、点数としては僅かであった。また、地区別に部位骨の出土状況を見ると（表1）、全身の骨

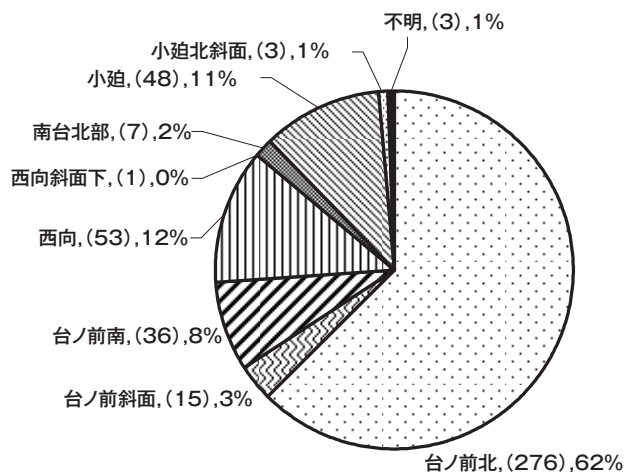


図1 浦尻貝塚出土のイノシシ資料数（NISP）  
（ ）は破片数を示す。



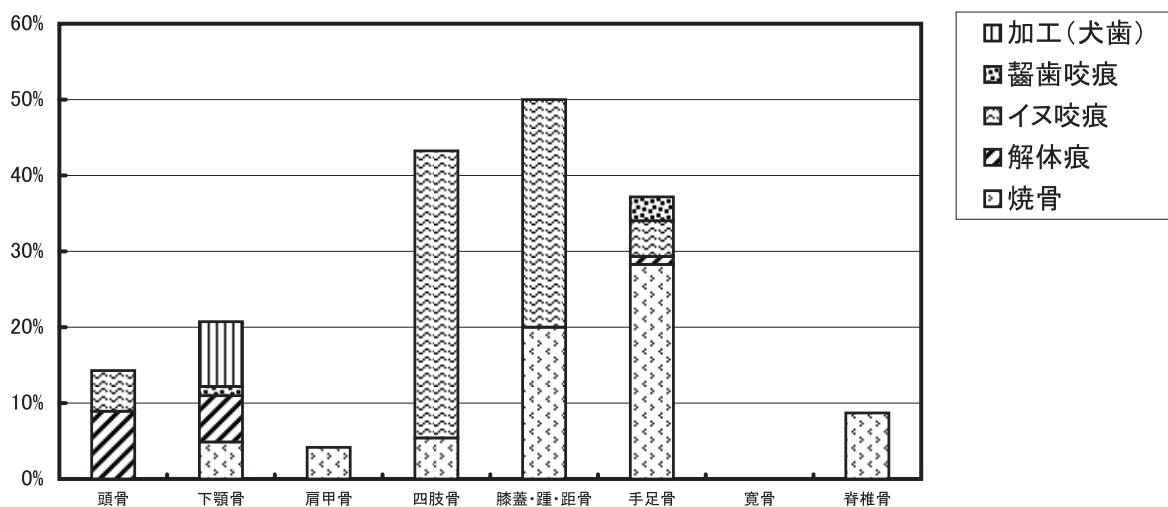


図2 部位別にみる属性分析結果

\*イノシシ資料数(NISP)をもとに痕跡の認められた点数から算出した。なお、解体痕はカットマークや打痕などの明らかなもののみを対象とした

が出土するのは台ノ前北貝層であるが、小迫・台ノ前南・西向貝層では四肢骨が少ない傾向が認められた。なお、今回の調査では大腿骨の遺体はシカとの区別が難しかった骨頭の遊離した大転子のみであり、骨そのものを欠落する点で他の四肢骨との違いが看取された。また、部位ごとに最小動物単位数(MAU)を算定した合計の百分比(%MAU)で見ると(表1)、最も多かった部位は肩甲骨(14.7%)、下顎骨(13.3%)、指趾骨(13.3%)であった。

### 年齢推定

一方、歯については歯牙の萌出や交換、咬耗の状況について林ほか(1977)に従い、年齢推定を行った。その結果、上顎および下顎骨には第1後臼歯の萌出が終了したI段階が1個体、第2後臼歯が萌出したII段階が少なくとも4個体、第3後臼歯が萌出する途中段階のIII段階が2個体、第3後臼歯が萌出終了したIV段階が3個体、第3後臼歯の全咬頭に咬耗が及ぶV段階が4個体であった。現生イノシシではII段階が18ヶ月齢程度、IV段階が42ヶ月齢程度、V段階が45ヶ月齢以上と判定されていることから(林ほか 1977)、本貝塚では比較的若い個体と成獣個体が多く含むと推定される。

次に、四肢骨の骨端癒合状況からと殺率の検討を行った。I段階は生後約18ヶ月まで、II段階は約30ヶ月まで、III段階は約42ヶ月までには癒合すると考えられていることから(Hongo and Meadow 2000)、本貝塚のイノシシもそれに倣って分類した。その結果、貝塚全体としてはI段階が85.7%、II段階65.2%、III段階50%となった。最も多く検出された台ノ前北貝層でも80.5%、63.8%、60%と段階を経て順に減少するが、III段階においても比較的高率に生存していることがわかった。

### 属性分析の結果について

イノシシ遺体の頭骨や四肢骨には、脳髓や骨髄を利用する際に割った痕跡が多く見られるが、ここではこれら以外に骨に残る痕跡を属性として抽出した。痕跡とは、下顎骨から抜き取った後の犬歯からエナメル部分を整形した加工痕、被熱し変色した焼骨、解体に伴って付いたカットマークの痕跡、肉食哺乳類(おそらくイヌ)やネズミなどの齧歯目の咬み痕などの痕跡であり、各部位から多く認められた(表3~9)。それらの中でここでは、特に人為的な行為が関係する焼骨、解体痕、イヌの咬痕に関して、部位別の比較を試みた(図2)。その結果、焼骨は特に手足骨(中手足骨および指趾

骨)に集中することから、他の部位とは異なる取り扱い方があったと推定される。手足骨の利用に際しては火と関係する行為があったことが想定される。また、解体痕としては頭骨と下顎骨で最も多くの痕跡が認められ、四肢骨、手足骨でも若干確認された。捕獲したイノシシから筋肉や腱を除去する際に付いた石器等の痕跡であるが、解体方法を知る手がかりとなる。さらに、頭骨や四肢骨や踵骨・距骨、手足骨にはイヌの咬痕が認められたが、特に四肢骨～手足骨に多かった。このように特定の部位にイヌの咬痕が多いことに関しては、人間がイヌ用の餌として四肢骨を与えた、あるいはイヌが貝層中から咬みやすい骨を咬んだ結果による、の2通りの可能性が想定されよう。現時点では可能性を指摘するのみにとどめるが、人間によるイノシシの利用方法を知る上では興味深い結果となった。

### まとめ

本稿ではイノシシの遺体の属性分析から、出土内容や年齢推定、利用方法を検討した。今回は出土したイノシシの全体をまとめて扱い、個々の貝層ごとの分析をするまでには至らなかった。今後、別の機会に検討を進めていきたい。

(山崎京美)

### 謝辞

末筆ながら、イノシシ遺体を分析する機会を与えていただいた川田強氏・佐川久氏(南相馬市教育委員会)に厚くお礼申し上げます。本研究成果は文科省科研費(基盤C17520527)の一部を使用して行われたものである。

### 附編1 引用・参考文献

- Grant, A. 1982 The use of tooth wear as a guide to the age of domestic animals. B. Wilson, C. Grigson and S. Payne (eds.) . Aging and sexing Animal Bones from Archaeological Sites, BAR British Series 109, Oxford, 91-108.
- 加藤嘉太郎 1972 増訂改版家畜比較解剖図説. 養賢堂
- 小池裕子・林良博 1984 遺跡出土ニホンイノシシの年齢推定について 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書 文部省科学研究費特定研究「古文化財」総括班.
- 林良博ほか 1977 日本産イノシシの歯牙による年齢と性の判定 日本獣医学雑誌39-2
- 樋泉岳二・植月学 2005 浦尻貝塚における動物遺体群の概要 浦尻貝塚I 小高町文化財調査報告第6集 福島県相馬郡小高町教育委員会, 259-274.
- von den Driesch, A. 1976 A guide to measurement of animal bones from archaeological sites. Harvard University, Peabody Museum of Archaeology and Ethnology Bulletin 1.

表1 浦尻貝塚出土のイノシシ資料数 (NISP) \*破片総点数はイノシシ以外の動物も含めた破片数である

	小迫	小迫北 斜面	台ノ前 北	台ノ前 斜面	台ノ前 南	西向	西向 斜面下	南台 北部	不明	部位 総数	最小個体数 (% MAU)
頭 蓋	4		14	1	2	9			2	32	6 (8.0%)
上顎歯	5		12	2	2	3				24	
下顎骨	4		7	2	2	1				16	10 (13.3%)
下顎歯	12		37	2	2	11		1	1	66	
肩甲骨	0	1	14	1	2	6				24	11 (14.7%)
上腕骨	6		6			1				13	5 (6.6%)
橈 骨	1		4		2					7	2 (2.7%)
尺 骨	1		3	1	1					6	2 (2.7%)
大腿骨										0	0 (0%)
脛 骨	2		5		1	1				9	5 (6.6%)
腓 骨			1			1				2	1 (1.3%)
膝蓋骨			2							2	4 (5.3%)
踵 骨	1		9			2				12	1 (1.3%)
距 骨			4				1	1		6	3 (4.0%)
中手足骨	3		49	2	4	8				66	4 (5.3%)
指趾骨	5		89	3	15	9		4		125	10 (13.3%)
寛 骨	4	1	3			1				9	6 (8.0%)
脊椎骨	0	1	17	1	3			1		23	5 (6.6%)
肋 骨											
イノシシ同定 資料数 (NISP)	48	3	276	15	36	53	1	7	3	442	
(% NISP)	10.9%	0.7%	62.4%	3.4%	8.1%	12.0%	0.2%	1.6%	0.7%	100.0%	
破片総点数	78	3	384	22	54	92	1	11	4	649	

表2 浦尻貝塚出土のイノシシ四肢骨による年齢

地区	部位名	小迫		小迫北斜面		台ノ前北		台ノ前南		西向		合計	
		癒合	未癒合	癒合	未癒合	癒合	未癒合	癒合	未癒合	癒合	未癒合	癒合	未癒合
I 幼獣段階	肩甲骨関節臼				1	12	1	2		4		18	2
	寛骨関節臼	4				3				1	1	8	1
	上腕骨遠位端	3				1	1				1	4	2
	橈骨近位端	1				2			1			4	0
	中節近位端	2	1			24	6	2		1		29	7
	踵骨関節面					3	1			2		5	1
		10	1	0	1	33	8	5		8	2	72	12
		(90.9%)	(9.1%)	(0%)	(100%)	(80.5%)	(19.5%)	(100%)		(80%)	(20%)	(85.7%)	(14.3%)
II 若獣段階	基節骨近位端	1				12	1	7	1	3	1	23	3
	中手・中足骨	2				17	16	2	2	2	4	23	22
	脛骨遠位端	1	1			4	1	1		1		7	2
	腓骨遠位端					1				1		2	0
	踵骨隆起					3	3					3	3
		4	1			37	21	10	3	7	5	60	32
		(80%)	(20%)			(63.8%)	(36.2%)	(76.9%)	(23.1%)	(58.3%)	(41.7%)	(65.2%)	(34.8%)
III 成獣段階	上腕骨近位端						1					0	1
	橈骨遠位					1	1			1		1	2
	尺骨近位											0	0
	尺骨遠位					2						2	0
	大腿骨近位											0	0
	大腿骨遠位											0	0
	脛骨近位											0	0
						3	2	0	1			3	3
						(60%)	(40%)	0	(100%)			(50%)	(50%)

表 3 浦尻貝塚出土のイノシシ頭骨一覧

貝層・地区名	トレンチ	層位	No.	採取	部位	残存部位	左右	点数	状態、歯の萌出段階
小迫	1G	III 直上	2315	現地 5mm	側頭骨	関節結節	左	1	破片
	1G	S2-4	1019	現地	dp4		右	1	
	2G	② B	2411	現地	M 2		左	1	
	72T	I	2410	現地	上顎骨	(C-P2P3)	左	1	P2P3 とも萌出直後
	72T	① I	2328	現地	関節突起		左	1	カットマーク
	72T	I	1069	現地	下顎骨		左	1	(M2 (M3))
	72T	I	1022	現地	下顎骨♂	(-P3P4M1-)	右	1	カットマーク
	72T	I	1282	現地	前頭骨	眼下部	右	3	咬痕?
	72T	I	1281	現地	側頭骨	頬骨突起の一部欠損	右	1	
	72T	III-2-b	2291	現地	側頭骨	岩様部	右	1	
	72T	III 直上	1083	現地	下顎骨		左	1	幼獣
	72T	III 直上	1082	現地	下顎骨	(dp3dp4M1 ( ))	左	1	カットマーク
	1G	III-1-a	968	現地 5mm	上顎骨	dp4		1	歯冠一部欠損
	3G	S1-1A	2412	5mm	M1		左	1	
	3G	S1-3B	942	5mm	上顎骨	I2	右	1	萌出直後
	4G	II	1021	現地	M1		右	1	
台ノ前北	54T	13	2317	現地	側頭骨～頭蓋底	関節結節・蝶形骨体周辺	左	3	破片
	54T	15		5mm	上顎骨	P2	左	1	
	54T	18	1036	現地	下顎骨			1	
	54T	18	2281	5mm	側頭骨	岩様部	左	1	
	54T	19	2284	5mm	側頭骨	岩様部	左	1	
	54T	19	2283	5mm	側頭骨	岩様部	右	1	
	54T	22	937	5mm	上顎骨	(dp3dp4-)	右	1	
	54T	23	936	5mm	上顎骨	P3	右	1	
	54T	24	955	5mm	上顎骨	M3	左	1	
	54T	25	2286	5mm	側頭骨	岩様部	左	1	
	54T	26-30	1066	現地	口蓋骨水平版		左右	1	(-M3)
	54T	27	1076	現地	下顎骨	下顎角	左	1	大形個体の破片
	54T	27	1087	現地	下顎骨	下顎骨関節突起	右	1	下顎突起破片
	54T	27	1075	現地	下顎骨	関節突起	左	1	
	54T	27	1272	現地	前頭骨	眼下部	左	1	破片
	54T	27	2287	5mm	側頭骨	岩様部	右	1	
	54T	28	1079	現地	下顎骨	下顎角	左	5	下顎角の大破片と他の破片 5
	54T	28	1070	現地	下顎骨	下顎骨関節突起	左	1	破片、大形成獣
	54T	28	1093	現地	下顎骨♂	(II12-CP2P3P4M1M2M3)	左右	1	V 段階、大形
	54T	29	2288	5mm	側頭骨	岩様部	右	1	
	54T	30	961	5mm	上顎骨	(dp3-)	左	1	
	54T	30	2318	5mm	上顎骨	M1	左	1	
	54T	30	949	5mm	上顎骨	M3	左	1	
	54T	30	969	現地	上顎骨♂	(C-P2P3P4M1M2-)	左	1	IV 以降
	54T	30	1078	現地	下顎骨	下顎角	左	1	大形、カットマーク
	54T	3LIII	1278	現地	前頭骨	眼下部	右	1	破片
	54T	L III c	1094	現地	下顎骨♂	(II12-CP1P2P3P4M1M2M3)	右	1	IV 段階、カットマーク
	58T	LIIa	939	現地	上顎骨	(-P1P2)	右	1	♀か若い個体?
	58T	LIIa	952	現地	上顎骨	(P3P4)	左	1	
	58T	LIIa	938	現地	上顎骨	(P3P4M1M2)	右	1	
	58T	LIIa	956	5mm	上顎骨	M3	左	1	未萌出歯
	58T	LIIa	1271	現地	後頭骨	後頭顆	左	1	イヌ咬痕?
	58T	LIIa	2316	現地	後頭骨	後頭顆	右	1	イヌ咬痕?
	58T	LIIa	1279	現地	側頭骨	関節結節	右	1	破片
	63T	L1	1081	現地	下顎骨	(- (c) -dp3dp4M1 ( ))	左	1	I 段階
	台ノ前斜面	43T		973	現地	上顎骨	M3	左	1
46T		②	1072	現地	下顎骨	突起の下部	左	1	
46T		① II	1023	現地	上顎骨	(M1M2)	左	1	
46T		一括	1277	現地	後頭骨	後頭顆	右	1	破片
46T			1085	現地	下顎骨	下顎角破片	右	1	
台ノ前南	31T	LIII	1068	現地	下顎角		左	2	
	31T	LIII	1086	現地	下顎骨	下顎角破片	右	1	
	31T	S5	945	現地	上顎骨	M2		1	
	38T	LIIIe-f	2280	現地	側頭骨	岩様部	右	1	
	38T	LIII 下	928	現地	上顎骨	M3	右	1	IV 段階
38T	LIII 下	2282	現地	側頭骨	岩様部	左	1		
西向	64T	1	2314	現地	後頭骨	底部		1	
	64T	1- I	1275	現地	後頭骨	後頭顆	左	1	破片
	64T	1- I	1276	現地	側頭骨	関節結節	左	1	破片
	64T	1- I	1280	現地	側頭骨～後頭骨	側頭窩～項後付近	左	1	破片
	64T	1- I	1273	現地	頭頂～側頭骨	前頭骨頬骨突起周辺部	左	1	咬痕?
	64T	1- I	1274	現地	頬骨		左	1	破片
	64T	1- I	964	現地	上顎骨	(M2M3)	左	1	IV 段階
	64T	2-II	1088	現地	下顎角		右	1	破片
	64T	D-13	967	現地	上顎骨	(P2P3P4M1M2 ( ))	左	1	II 段階、M3 未萌出
	64T	D-22	2522	現地	側頭骨	関節結節	左	1	破片
	64T	S3-10	2325	5mm	上顎骨	dp2	左	1	
	64T	S3-6	2289	5mm	側頭骨	岩様部	右	1	
	64T	S3 カベ	2290	現地	側頭骨	岩様部	右	1	
	不明	表採		2279	現地	側頭骨	岩様部	右	1
			1283	現地	側頭骨	関節結節	右	1	破片

表4 浦尻貝塚出土のイノシシ歯一覧

上顎歯	貝層・ 地区名	トレンチ	層位	No.	左右	点数	dp4/P4				M1				M2				
							長さ	前幅	中幅	後幅	長さ	前幅	中幅	後幅	長さ	前幅	中幅	後幅	
上顎歯	小迫	1G	III-1-a	968		1	14.83	12.90	10.97	12.54									
		3G	③B	942	右	1													
		IV区サブトレ1	IIIC.D	2331	左	1									22.72	-	15.54	16.30	
		IV区サブトレ1	IIIF	2340	左	1					19.48	15.58	13.85	16.11					
	台ノ前北	54T	15			左	1												
		54T	22	937	右	1	14.97	12.11	10.09	12.89									
		54T	23	936	右	1													
		54T	24	955	左	1													
		54T	30	2318	左	1					*14.36	11.82	-	-					
		54T	30	949	左	1													
		54T	30	961	左	1													
		54T	30	969	左	1	12.86		13.00		17.16	14.91	12.15	14.67	23.41	17.98	16.17	18.21	
		58T	LIIa	938	右	1	12.12		14.23		17.42	14.91	12.72	14.57	22.45	17.85	16.19	17.70	
		58T	LIIa	939	右	1													
	58T	LIIa	952	左	1	12.03		13.45											
	58T	LIIa	956	左	1														
	台ノ前斜面	46T	①II	1023	左	1					17.15	13.92	12.44	14.26	22.29	17.87	16.15	17.23	
		43T		973	左	1													
	台ノ前南	38T	LIII下	928	右	1													
		31T	S5	945	左	1									24.01	18.58	16.25	18.36	
	西向	64T	1-I	964	左	1													
		64T	2-I	970	左	1					17.41	12.92	15.59						
		64T	D-13	967	左	1	13.13		14.37		19.28	15.57	13.13	15.50	23.66	19.49	16.35	17.95	
		64T	S3-10	2325	左	1													
	小迫	72T	I	2410	左	1													
	下顎歯	小迫	2G	(2)B	2411	左	1								*21.57	15.90	14.21	16.55	
			72T	I	1022	右	1	14.85	9.30	8.81	10.66	17.92	10.77	9.78	11.79				
72T			III直上	1082	左	1	20.45	7.71	8.23	9.96									
1G			S2-4	1019	右	1	18.31	6.41	7.66	8.77									
3G			S1-1A	2412	左	1					16.72	10.80	10.01	11.74					
4G			II(黒土)	1021	右	1					17.93	11.64	10.00	12.90					
IV区サブトレ1			IIIC	2329	右	1													
IV区サブトレ1			IIID	2332	右	1													
IV区サブトレ1			IIIE	2334	左	1													
IV区サブトレ1			IIIE	2335	左	1													
IV区サブトレ1			IIIE	2333	左	1									22.29	15.92	13.41	15.15	
IV区サブトレ1			IIIF	2341	左	1													
台ノ前北			54T	③I	1064	右	1												
		54T	10	1049	右	1													
		54T	10	2523	左	1													
		54T	12	990	左	1													
		54T	15	988	右	1													
		54T	17	986	右	1	15.39	7.96	7.90	8.87									
		54T	18	1036	左	1													
		63T	2	1001	右	1													
		54T	25	1044	左	1													
		54T	25	1077	左	1													
		54T	27	1038	左	1	14.21	9.02	9.19	10.12	15.79	11.29	10.11	11.82					
		54T	27	1065	右	1													
		54T	27	997	右	1													
		54T	28	1043	左	1													
		54T	28	1052	左	1													
		54T	28	1045	左	1	15.25	-	-	-									
		54T	28	999	右	1													
		54T	28	1003	右	1					16.46	11.26	10.66	12.84					
		54T	28	1093	右	1	15.78	10.01	9.47	11.89	14.40	*11.09	10.71	12.62	20.62	16.96	15.09	16.48	
		54T	3	1027	左	1									24.66	16.88	14.72	16.38	
		54T	30	1048	左	1	19.77	7.21	8.41	9.54									
		54T	30	1029	左	1													
		54T	30	1047	左	1													
		54T	30	1034	左	1													
		54T	30	1030	右	1													15.91
		54T	30	1000	右	1	19.45	7.32	8.17	9.57	17.46	11.80	10.77	12.50					
		54T	30	1002	右	1													
		54T	3LIII	981	右	1										22.79	14.59	13.40	14.99
		63T	L I	1081	左	1	19.96	6.90	8.87	9.47	18.17	11.81	10.83	12.31					
		63T	L I	1091	左右	1													
		58T	LIIa	1042	左	1	16.28	10.60	10.14	11.75									
		58T	LIIa	1026	左	1	16.75	9.88	9.66	10.53	16.74	11.90	10.69	12.89					
		58T	LIIa	1035	左	1													
		58T	LIIa	996	右	1									23.69	15.83	14.92	15.53	
58T		一括	1053	左	1														
56T	貝層-1	1006	右	1															
56T	貝層-1	1005	右	1															
台ノ前斜面	46T	一括	1090	左右	1														
	46T	一括	971	右	1														
台ノ前南	31T	LIII	979	右	1	14.61	9.66	9.49	10.93	17.08	11.62	10.32	-						
	38T	LIII下1	972	右	1														
西向	64T	1	1056	左	1														
	64T	1-III上面	1059	左	1														
	64T	1-I	1054	左	1														
	64T	1-I	1055	左	1					14.74	10.76	9.92	11.79						
	64T	1-I	1063	左	1														
	64T	1-I	1084	右	1	20.25		*8.62	9.23	18.84	12.92	11.36	12.65						
	64T	1-I	1012	右	1									*22.92	*15.83	*14.19	*15.66		
	64T	1-I	1009	左	1														
	64T	2-1	1058	左	1														
	64T	2-1	1010	右	1														
	64T	2-I	1008	右	1		7.37		8.61										
	64T	S3-15	1011	右	1														
南台北部	52T	1	995	右	1														
不明	一括		1033	左	1														

附編 1 浦尻貝塚出土のイノシシ遺体について

M3				dp4	P4	M1	M2	Grant	M3	歯式	備考
長さ	前幅	中幅	後幅	Grant	Grant	Koike / Grant	Koike / Grant	M3	萌出段階		
										dp4	
										I2	萌出直後
							I / b			M2	エナメル部分のみ。
						I/a				M1	エナメル部分のみ。
										P2	遊離歯、咬耗進む
										(dp3dp4-)	
										P3	
*34.02	*20.43	*17.66	*12.70					a		M3	未萌出歯のエナメル部分
						I/a				M1	エナメル部分のみ。
40.32	21.85	19.53	14.96					b ?		M3	
										(dp3-)	
						V/g	II / c		IV 以降	(C-P2P3P4M1M2)	
						VII/g	III / f			(P3P4M1M2)	
										(-P1P2)	♀か若い個体?
										(P3P4)	
										M3	未萌出歯
						IV-IV/g	III / d			(M1M2)	
40.69	-	18.06	15.93					c	V	M3	
37.96	21.30	18.91	14.76					c	IV	M3	
							I-II / b			M2	
39.93	21.56	18.42	13.01				VI / g	c	IV	(M2M3)	
						VI/g-h				M1	イノシシ?ブタ?
						II/d	I-II / b	未萌出	II	(P2P3P4M1M2 ( ))	M3 未萌出、
										m1	
										(C-P2P3)	P2P3 とも萌出直後
						VI/g-h	III-IV / f-g			M 2	カットマーク
					d	II/d			II ~	(-P3P4M1-)	カットマーク
					e	II/c				(dp3dp4M1 ( ))	
						II-III/d				M1	
			14.49							M1	エナメル部のみ残存
								a	V	M3	保存状態やや不良
39.49	16.67	15.46	13.87					c	V	M3	第3咬頭欠損
	*16.38	*15.86						未萌出	未萌出	M3	遠心端欠損
							II-III / c-d			M2	遊離した未萌出歯
										P3.P4.M1?	第3咬頭歯根舌側に太い溝
										(-)	
										P2	焼骨、P1 萌出中
										(- (P2))	
39.79	18.09	17.63	14.33					c	V	M3	完形、新しいか?
										P1	
						I/a				M1?	頰側破片、エナメル加工素材
										C	未萌出
	*17.35	*16.06							a	Iic?	M3 焼骨、M3 歯槽のみ
											焼骨、若い
					f	/j				(-P2P3P4M1)	大形オスの犬歯歯槽が残る
										(-)	II2 の歯槽部分、若獣
										(-)	M2 は歯根のみ残存
38.85	17.62	16.24	14.49					b-c	IV-V	(-M3)	未萌出、焼骨?
	*18.11	*17.44	*14.74					未萌出	未萌出	M3	M3 付近に折り取り痕
35.73	16.79	15.65	13.12					a-b	IV	(M3)	
										(P3P4)	
						VII/h-j				M1	歯槽も一部あり
						VII/l				M1	高齡
40.18	18.89	17.97	15.33		f	IX/m	VII/g-h	f	V		M3 未萌出、大形 (オス?)
							II/c			(-M2 (M3))	
										dp4	
										P3	
39.92	-	16.86	14.21					a	III	(-M3)	M3 萌出中
										M2	未萌出
					g-h	II-III/e	I/a		I	(-dp3dp4M1-)	
	15.72	15.09	-				I-II/b-c	a	IV	(M2M3)	
										(-III-)	
										(P3P4)	
					d	VIII/j				(P2P3P4M1-)	
										C	半裁後、エナメルにのみ整形
							I/a		Iic	(-M2 ( ))	M3 は開口開始、齧歯目咬痕
							I-II/c?			M2	
										C	半裁品破片、舌側面
										P2	イノシシ以外?
										(- (II) (II) -)	連合部のみ残して打割
											大形成獣、エナメル質剥取
	*17.62	*16.89	*14.40		b	III/d		a	Iic	(-P4M1- (M3))	大形成獣、近心縁に打痕
	-	18.91	-					b	IV	M3	
		-	-					a		M3	萌出中か
										(-P3-)	連結部~左小臼歯部
						IX/l-m				M1	新しい、イノシシ?ブタ?
										C	大形成獣、半裁して頰側整形
					d or e	II/b-c				(dp4M1-)	
							I/a			M2	未萌出
										C	半裁品頰側面破片、オス成獣
											先端部は生前欠損、完形
											大形成獣舌側、半裁した残り
										(-P4-)	犬歯歯槽残る、オス?
								a	Iic?	M3	未萌出
	18.12	17.55						a	III	(-M3)	
39.32	17.06	16.85	13.25					a	IV	M3	

表5 浦尻貝塚出土のイノシシ肩甲骨一覧

貝層・地区名	トレンチ	層名	No.	採取	残存部	左右	点数	遠位癒合	Ld	SLC	GLP	LG	BG	骨の状態	痕跡
台ノ前北	54T	2	218	現地	遠位端	左	1	+		27.40					
	54T	12	-	現地	体部～遠位端	左	1	+			43.19	34.75	30.16		
	54T	15	224	現地	体部～遠位端	左	1	+		28.16	39.58	37.04	29.44		
	54T	22	222	5mm			1								
	54T	22	217	現地	遠位部	右	1	+		32.19	41.87	36.63	29.47		
	54T	22	222	5mm	体部前縁破片	右	1								シカ
	54T	26	220	現地	遠位部	右	1	+		35.76	47.15	40.08	*32.07		
	54T	27	225	現地	体部後縁～遠位端	左	1	+	23.83	23.32	35.82	33.24			
	54T	27	838	現地	体部～遠位端	右	1	+			39.46	34.64	27.26		
	54T	27	216	現地	遠位部	左	1	+		36.11			32.26	外側表面凹凸	
	58T	LIIa	221	現地	遠位部	右	1	+		-	*42.42	*36.01	28.60		
	58T	LIIa	219	現地	遠位端	右	1	-		12.28				未成獣	
	63T	3	223	現地	遠位端	右	1	+						半欠	
63T	LI	215	現地	近位一部～遠位端	右	1	+		33.10			29.67			
63T	LII	214	現地	遠位部	右	1	+					29.26			
台ノ前斜面	46T	一括	212	現地	遠位端	左	1	+		31.55	41.45	33.29	28.51		
台ノ前南	38T	LIII下1	213	現地	体部～遠位端	左	1	+		29.54	*36.51	*32.33	*26.99		
	38T	LIII下1	211	現地	体部後縁～遠位端	右	1	+		21.86	37.82		26.92		
西向	64T	1-II上面	232	現地	遠位端	右	1	+						焼骨	
	64T	1-I	228	現地	体部	左	1							成獣	
	64T	1-I	233	現地	遠位端	左	1	+							
	64T	1-I	227	現地	体部～遠位端	右	1	+		24.07				シカ	
	64T	2-I	226	現地	遠位端	左	1	+			43.25	36.53	29.01		
	64T	D-10	230	現地	体部～遠位端	右	1	+		37.31	45.49	37.07	30.40		
小迫北斜面		E-1・7	229	現地	体部～遠位端	左	1	-		16.26	-	-	-	幼獣	

表6 浦尻貝塚出土のイノシシ寛骨一覧

貝層・地区名	トレンチ	層名	No.	採取	部位名	残存部	左右	点数	白癒合	LA	LAR	SH	骨の状態	痕跡
小迫	1G	S1-7A	2420	現地	寛骨	寛骨白～腸骨	左	1	+					
	72T	(I)I	381	現地	寛骨	寛骨白	左	1	+					
	72T	III直上	380	現地	寛骨	座骨～寛骨白	右	1	+					
	IV区サブトレ1	IIIC,D	2268	現地 5mm	寛骨	寛骨白	左	1	+				大形成獣	
台ノ前北	54T	24	375	5mm	寛骨	座骨～寛骨白	左	1	+					
	54T	30	377	5mm	寛骨	寛骨白～腸骨	右	1	-				幼獣、イノシシ以外か?	
	63T	LII	374	現地	寛骨	座骨～寛骨白	右	1	+					
	63T	LII	376	現地	寛骨	寛骨白～腸骨	右	1	+					
西向	64T	1-III	782	現地	寛骨	腸骨～白～座骨、恥骨	左	1	+	37.51	31.56	25.20	餡色、新しいのか	
	64T	2-I	379	現地	寛骨	寛骨白～恥骨	左	1	+					
小迫北斜面	G-6		378	現地	寛骨	寛骨白～恥骨	左	1	-				幼獣	

表7 浦尻貝塚出土のイノシシ四肢骨一覽

トレンチ	層名	No.	採取	部位名	残存部	左右	点数	近位癒合	遠位癒合	Bp	SD	SDO	Bd	BT	DC	Dd	骨の状態	痕跡
72T	①I下	2274	現地	上腕骨	遠位体部後面	右	1										破片、イノシシ?	遠位端に咬痕
72T	I	277	現地	上腕骨	遠位半	左	1										遠位端欠損	
72T	I	279	現地	上腕骨	遠位半	右	1		+				5001	41.12				遠位端にイヌ咬痕多数
72T	I	281	現地	上腕骨	遠位体部	右	1											遠位端にイヌ咬痕
72T	I	280	現地	上腕骨	遠位端	右	1		+					41.84				
72T	I	297	現地	橈骨	近位端	左	1		+	34.39								
72T	III	2273	現地	尺骨	滑車部	左	1											滑車部破片、幼獣
72T	III上面	2267	現地	上腕骨	遠位半	右	1											遠位端にイヌ咬痕
72T	III直上	327	現地	脛骨	遠位骨端	右	1		-				3014					未癒合骨端
72T	III直上	2266	現地	上腕骨	遠位体部後面	右	1											遠位部にカットマーク多数
72T	III直上	2286	現地	上腕骨	遠位体部後面	右	1											遠位端にイヌ咬痕?
72T	S1-4B	278	現地	上腕骨	遠位半	右	1		+									遠位端後欠損、癒合線あり
72T	一括	328	現地	脛骨	遠位端	左	1		+									半欠
76T	2	2254	現地	尺骨	遠位部	左	1		-									イノシシ or ブタ?、新しい様相?
54T	2	2254	現地	尺骨	遠位部	左	1		-									イノシシ or ブタ、
54T	2	323	5mm	脛骨	遠位端	右	1		+						2881			破片
54T	11	276	5mm	上腕骨	遠位端	左	1		+						3068			遠位端の破片
54T	13	324	現地	脛骨	遠位端	左	1		+									割れ口に咬痕
54T	17	292	5mm	大腿骨	大転子骨端	不	1		-									シカ or イノシシ
54T	27	839	現地	脛骨	体部→遠位端	右	1		+									遠位端は一部のみ残存
54T	28	271	5mm	上腕骨	遠位端	左	1											滑車外側部破片
54T	28	2242	現地	上腕骨	遠位部	左	1											遠位端後欠損、幼獣、
54T	28	359	現地	尺骨	遠位部	右	1		+									遠位端欠損、幼獣、
54T	28	359	現地	尺骨	遠位部	右	1		+									咬痕
54T	28	325	現地	脛骨	遠位端	左	1		-									大形破片
54T	28	833	現地	腓骨	遠位端	右	1		+									未癒合
54T	29	831	現地	尺骨	近位端→滑車部	左	1											
54T	30	274	現地	上腕骨	近位体部	左	1									42.69		近位端にイヌの咬痕
54T	8b	272	現地	上腕骨	ほぼ完形	左	1		-									割れ口に咬痕?
54T	I	840	現地	橈骨	近位端	左	1		+	35.11								写真掲載
63T	LI	273	現地	上腕骨	遠位半	左	1		+				50.10	41.47				遠位端にイヌ咬痕
58T	LIIa	2246	現地	上腕骨	遠位体部後面	左	1											他に1点部位不明破片(黒髪)
58T	LIIa	2248	現地	橈骨	遠位端	右	1		-									
58T	LIIa	296	現地	橈骨	遠位端	右	1		+									
58T	LIIa	2245	現地	橈骨	遠位端	右	1		+	35.32								
58T	LIIa	291	現地	大腿骨	大転子骨端	不	1		-									イヌの咬痕?
53T	LIII-2	293	現地	大腿骨	大転子骨端	不	1		-						*29.04			シカ or イノシシ
58T	LIIa	780	現地	脛骨	体部→遠位端	右	1		+									シカ or イノシシ
46T	一括	358	現地	尺骨	滑車部	左	1						34.87			31.39		癒合線残る
31T	S9	322	5mm	脛骨	遠位端	左	1		+									大形破片、滑車切痕破片
38T	LIII上	295	現地	橈骨	近位端	左	1		+									イヌの咬痕
38T	LIII下1	357	5mm	尺骨	滑車部	左	1		+									焼けて焦げ色
43T		878	現地	橈骨	遠位骨端	左	1		-									遊離骨端
64T	I-III	326	現地	脛骨	遠位端	左	1		+									
64T	2-II上面	294	現地	大腿骨	大転子骨端	不	1		-									
64T	I-III上面	275	現地	上腕骨	遠位半	左	1											シカ or イノシシ
64T	S3-18	361	現地	腓骨	遠位端	右	1		-									遠位端欠損、一部に未癒合面
64T	S3-4	329	現地	脛骨	近位端	右	1		+									シカ or イノシシ



表8 浦尻貝塚出土のイノシシ中手足骨・指趾骨一覧

トレンチ	層名	No.	採取	残存部	左右	点数	近位癒合	遠位癒合	CL	Bp	Bd	DLS	Ld	骨の状態	痕跡
1G	III-1-A	774	現地5mm	第3 or 4 指趾末節骨完形		1	+					40.36			
72T	I	718	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		1	+		Gp1e1260	10.28	7.96			焼骨	
72T	I	718	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		1	+				18.16				
1G	SI-1B	124	現地	第5 中手骨近位部	右	1					20.61			遠位端にイヌ咬痕?	
3G	I	11	現地5mm	第3or4 中手足骨遠位部	不	1	-				12.12				
3G	I	717	現地5mm	第3 or 4 指趾中節骨ほぼ完形		1	+		26.55	15.03	10.28				
4G	II	638	現地5mm	第2or5 指趾基節骨完形		1	+								
76T	I	10	現地	第3or4 中手足骨遠位部	不	1	+								
53T	サブトレ	2243	現地	第4 中足骨近位部	右	1								近位端破片半欠	
54T	10e	616	5mm	第2or5 指趾基節骨ほぼ完形		1	+							焼骨	
54T	18	750	5mm	第3 or 4 指趾末節骨完形		1	+					33.26	31.79		
54T	18	750	5mm	第3 or 4 指趾末節骨完形		1	+					33.69	32.25		
54T	18	750	5mm	第3 or 4 指趾末節骨完形		1	+						16.44	焼骨	
54T	18	750	5mm	第2or5 指趾末節骨完形		1	+					17.73			
54T	22	4	現地	第3or4 中手足骨遠位部	不	1	+			17.59					
54T	24	119	現地	第4 中手骨完形	左	1	-			15.48					
54T	25	623	5mm	基節骨近位骨端		1	-							第2or5? 遊離骨端	
54T	10	6	現地	中手足骨遠位部	不	1	+							遊離骨端	
54T	10	13	5mm	第2/5 中手足骨遠位部	不	1	+							焼骨	
54T	10	609	現地	第3or4 指趾基節骨完形		1	+		39.20	19.30	16.39				
54T	10	628	5mm	第2or5 指趾基節骨完形		1	+		21.74	11.39	7.34			表面に赤褐色の土	焼けているか
54T	10	759	5mm	末節骨完形		1	+					19.47	17.48		
54T	11	22	5mm	第3or4 中手足骨遠位部	不	1	-				18.31			遊離遠位骨端	
54T	11	3	5mm	第3or4 中手足骨遠位部	不	1	+							遠位部、癒合線残る	
54T	11	25	5mm	第2/5 中手足骨遠位部	不	1	-							遊離遠位骨端	
54T	11	621	5mm	第2or5 指趾基節骨遠位骨端		2	-							遊離骨端2点	
54T	11	713	5mm	第2or5 指趾中節骨ほぼ完形		1	-			9.13					
54T	11	755	5mm	第3 or 4 指趾末節骨完形		1	+						36.80		
54T	13	2525	5mm	第2 中手骨近位部	左	1								焼骨	
54T	13	626	5mm	基節骨近位骨端		1	-							第2or5 指趾? 遊離骨端	
54T	15	110	現地	第2 中手骨完形	右	1								遠位骨端欠落	
54T	15	18	5mm	第2/5 中手足骨遠位部	不	1	-							遊離遠位骨端	
54T	15	615	5mm	第2or5 指趾基節骨ほぼ完形		1	+							亀裂	
54T	15	602	5mm	基節骨ほぼ完形		1	-				7.29			第2or5? 近位骨端未癒合	
54T	15	752	5mm	第3 or 4 指趾末節骨完形		1	+							遊離遠位骨端	
54T	16	20	5mm	第2/5 中手足骨遠位部	不	1	-							遊離遠位骨端	
54T	16	23	5mm	第2/5 中手足骨遠位部	不	1	-							遊離遠位骨端	
54T	17	766	5mm	末節骨完形		1	+								
54T	18	15	5mm	第2or5 中手足骨体部~遠位端	不	1	-							焼骨	
54T	18	2249	現地	第2or5 中手足骨体部~遠位端	不	1	-							遠位骨端は未癒合	近位骨端は未癒合
54T	18	700	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		1	+							遊離骨端	
54T	18	700	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		1	+		Gp1e1125	8.72	7.54				
54T	18	700	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		1	+		Gp1e1109	8.60	7.52				
54T	18	695	5mm	第2or5 指趾中節骨近位骨端		1	-							遊離骨端	
54T	18	762	5mm	第3 or 4 指趾末節骨完形		1	+					33.65	32.22		
54T	18	762	5mm	第2or5 指趾末節骨完形		1	+					15.20	13.05		
54T	19	107	現地	第2 中足骨完形	左	1	-							骨端欠落	
54T	19	603	5mm	基節骨ほぼ完形		1	-				13.22			近位骨端未癒合	

(表8つづき)

トレンチ	層名	No.	採取	残存部	左右	点数	近位癒合	遠位癒合	GL	Bp	Bd	DLS	Ld	骨の状態	痕跡
54T	19	625	5mm	基節骨近位骨端		1	-								
54T	19	720	5mm	中節骨近位端		1	-							焼骨	
54T	2	608	現地	第3or4 指趾基節骨完形		1	+	40.25	20.00	18.04				焼骨	
54T	2	606	5mm	第2or5 指趾基節骨部～遠位端		1				8.36				焼骨	
54T	20	114	5mm	第3中手骨近位部	左	1								焼骨	
54T	20	714	5mm	中節骨近位端		1	+							焼骨	
54T	20	753	現地	第3or4 指趾末節骨完形		1	+							焼骨	
54T	21	113	5mm	第3中手骨近位部	左	1								焼骨	
54T	21	105	5mm	第2中足骨完形	左	1	+		17.81					焼骨	
54T	21	632	5mm	基節骨遠位端		1								焼骨	
54T	21	604	5mm	基節骨ほぼ完形		1	-							焼骨	
54T	21	699	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		1	+							焼骨	
54T	21	760	5mm	末節骨部～近位端		1	+							焼骨	
54T	21	768	5mm	末節骨完形		1	+							焼骨	
54T	21	763	5mm	末節骨部～近位端		1	+							焼骨	
54T	21	624	5mm	基節骨近位骨端		1	-							焼骨	
54T	22	605	5mm	基節骨ほぼ完形		1	-			8.45				第2or5? 遊離骨端	
54T	22	707	5mm	第2or5 指趾中節骨ほぼ完形		1	-			6.35				第2or5? 近位骨端未癒合	
54T	22	698	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		1	+							焼骨	
54T	22	765	5mm	末節骨完形		1	+							焼骨	
54T	22	751	5mm	末節骨完形		1	+						24.63	焼骨	
54T	23	117	5mm	第4中手骨近位部	右	1								焼骨	
54T	24	98	現地	第4中足骨近位部	左	1				15.00				背面部部や第3との接合面に傷あり	
54T	24	21	5mm	中手骨遠位部	不	1	-							大形成獣	
54T	24	617	5mm	第2or5 指趾基節骨完形		1	+	24.93	18.80					遊離遠位骨端	
54T	24	617	5mm	第2or5 指趾基節骨完形		1	+		13.15	8.60				整頓目? 咬痕	
54T	24	627	5mm	基節骨ほぼ完形		1	-		12.66	9.13				近位端の一部に黒こげ	
54T	25	118	現地	第4中手骨近位部	右	1				7.03				第2or5? 近位骨端未癒合	
54T	25	252	5mm	第5中足骨近位部		1								近位端破片	
54T	25	5	5mm	第3or4 中手足骨遠位部	不	1	+			15.13				遠位端	
54T	25	614	5mm	第2or5 指趾基節骨ほぼ完形		1	-							焼骨	
54T	25	703	5mm	第3or4 指趾中節骨完形		1	+			17.38				焼骨	
54T	25	708	5mm	第3or4 指趾中節骨近位端		1	+			14.32				癒合線残る	
54T	25	702	現地	第2or5 指趾中節骨完形		1	+							焼骨	
54T	25	706	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		3	+			11.03				焼骨	
54T	25	706	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		1	+							焼骨	
54T	25	706	5mm	第2or5 指趾中節骨ほぼ完形		1	-							焼骨	
54T	25	701	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		1	+							焼骨	
54T	25	761	5mm	末節骨完形		1	+						13.35	焼骨	
54T	25	758	5mm	末節骨完形		1	+						14.66	焼骨	
54T	26	705	現地	第3or4 指趾中節骨完形		1	+							焼骨	
54T	27	116	5mm	第4中手骨近位部	左	1				14.53				焼骨	
54T	27	251	5mm	第5中手骨近位部	右	1								近位端破片	
54T	27	102	5mm	第5中足骨近位部	右	1				20.85				遠位部	
54T	27	2	5mm	第3or4 中手足骨遠位部	不	1	+							癒合線残る	
54T	27	12	現地	第3or4 中手足骨遠位部	不	1	-							遊離遠位骨端	
54T	27	19	5mm	第2or5 中手足骨部～遠位端		1	-							一部黒こげ	
54T	27	612	5mm	第2or5 指趾基節骨部～遠位端		1	-							焼骨	
54T	27	620	5mm	基節骨近位骨端		1								第2or5? 遊離骨端	
54T	27	704	5mm	第3or4 指趾中節骨完形		1	+			19.15				焼骨	

(表8つづき)

トレンチ名	層名	No.	採取	残存部	左右	点数	近位癒合	遠位癒合	GL	Bp	Bd	DLS	Ld	骨の状態	痕跡
54T	27	692	5mm	第3or4指趾中節骨完形	左	1	+								焼骨
54T	27	690	5mm	第3or4指趾中節骨完形		1	+		Gipe2754	2115	16.42				
54T	27	697	5mm	第3or4指趾中節骨完形		1	+		Gipe2751	1983				癒合線残る	
54T	27	719	5mm	中節骨近位端		1	+							破片	焼骨
54T	27	764	5mm	末節骨完形		1	+					28.34	24.21		
54T	27	764	5mm	末節骨完形		1	+					21.86	19.03		
54T	27	764	5mm	末節骨完形		1	+					17.47	15.26	第2or5指趾	
54T	27	764	5mm	末節骨完形		1	+					17.05	14.39	第2or5指趾	
54T	28	101	現地	第5中足骨完形	左	1		+							
54T	28	108	現地	第2中足骨近位部	右	1		-							
54T	28	24	5mm	第2or5指趾基節骨ほぼ完形	不	1		-							
54T	28	613	5mm	末節骨完形		1	+			9.00			24.24		
54T	28	769	5mm	末節骨完形		1	+						13.83		
54T	28	769	5mm	末節骨完形		1	+								焼骨
54T	28	754	5mm	末節骨完形		1	+						15.68	14.34	
54T	28	767	5mm	末節骨完形		1	+								
54T	28	835	現地	第3or4指趾中節骨完形		1	+		Gipe2740	1963	17.35				
54T	3	619	5mm	基節骨近位骨端		1	-								
54T	30	7	5mm	第2or5中手足骨遠位部	不	1		+		*13.47					焼骨
54T	30	630	5mm	基節骨近位骨端		1	-								焼骨
54T	30	696	5mm	第3or4指趾中節骨完形		1	-								焼骨
54T	30	689	5mm	第2or5指趾中節骨ほぼ完形		1	-		Gipe25.11	15.85	13.13				イスの咬痕
54T	3LI	629	現地	基節骨近位骨端		1	+				4.70				
54T	3LIII	836	現地	第3or4指趾末節骨完形		1	+								
54T	5	618	5mm	第2or5指趾基節骨ほぼ完形		1	-					30.67	27.21		
54T	7	715	5mm	中節骨近位端		1	-								焼骨
54T	8	631	5mm	第3or4指趾基節骨近位端		1	+			*17.39					焼骨
54T	8	622	5mm	基節骨中部～遠位端		1				7.21					焼骨
54T	8	691	5mm	第2or5指趾中節骨完形		1	-								焼骨
54T	8	711	5mm	指趾骨中部～近位端		1	+								焼骨
54T	8下	112	5mm	第3中手足骨近位部	右	1									焼骨
54T	9	712	5mm	第2or5指趾中節骨完形	右	1	+								焼骨
54T		210	現地	第5中足骨完形	右	1		+							体部背面に齧歯目の咬痕？
54T		210	現地	第5中足骨完形	右	1		+							体部背面に齧歯目の咬痕？
54T		611	5mm	第3or4指趾基節骨遠位端		1					15.38				癒合線残る
56T	S-20	2256	5mm	第4中足骨近位部	左	1									遠位端破片
56T	S-20	756	5mm	末節骨中部～近位端		1	+								近位端破片半欠
56T	S-30	693	5mm	第3or4指趾中節骨ほぼ完形		1	-								焼骨
58T	LIIa	2247	現地	第4中足骨近位部	右	1					15.58				
58T	LIIa	106	現地	第2中足骨完形	右	1		+							近位端破片半欠
58T	LIIa	8	現地	第3or4中手足骨遠位部	不	1		+			17.37				
58T	LIIa	709	現地	第3or4指趾中節骨完形		1	+								
58T	LIIa	610	現地	基節骨ほぼ完形		1	-		Gipe28.26	18.60	14.95				
63T	LI	757	現地	第3or4指趾末節骨完形		1	+				12.85				近位骨端未癒合
63T	I-a	111	現地	第2中手足骨完形	右	1	+					43.63	39.69		
63T	I-a	109	現地	第2中足骨完形	右	1		-							近位端と遠位端間週にイスの咬痕
63T	I-a	100	現地	第3中足骨近位部	左	1		+							遠位端にカットマーク、近位端に齧歯目咬痕？
63T	3	121	現地	第5中手足骨完形	左	1		-							近位端間週にイスの咬痕多数
63T	LI	120	現地	第5中手足骨完形	左	1		+							遠位端未癒合欠落
63T	LI	99	現地	第3中足骨近位部	左	1									近位端と遠位端間週にイスの咬痕
63T	LII	1	現地	第3or4中手足骨遠位部	右	1		+							近位端に咬痕多数
					不	1									遠位部

(表8つづき)

トレンチ	層名	No.	採取	残存部	左右	点数	近位癒合	遠位癒合	GL	Bp	Bd	DLS	Ld	骨の状態	痕跡
46T	一括	14	現地	第2or5 中手足骨体部～遠位端	不	1	-							遠位骨端は未癒合	
46T	一括	9	現地	第2or5 中手足骨体部～遠位端	不	1	+						32.30	近位～体部欠損	齧歯目の咬痕?多い
46T	一括	747	現地	第3 or 4 指趾末節骨完形		1	+					33.82			
46T		876	現地	第3 or 4 指趾基節骨ほぼ完形		1	-				16.44			近位骨端遊離	
46T		877	現地	第3 or 4 指趾末節骨完形		1	+					35.87	32.36	癒合線残る	近位端周辺にイヌの咬痕
31T	IV	598	現地	第2or5 指趾基節骨完形		1	+			16.71	11.72			癒合線残る	焼骨、変形と亀裂
31T	LII	600	現地	第2or5 指趾基節骨完形		1	+							遊離遠位骨端	
31T	LIII?	28	5mm	第2/5 中手足骨遠位部	不	1	-				*12.81			遊離遠位骨端	
38T	A12	17	5mm	第3or4 中手足骨遠位部	不	1	-				*19.27			遊離遠位骨端	
38T	LIIId	688	現地	第3 or 4 指趾中節骨完形		1	+		Glpe24.66	18.28	15.62				
38T	LII F 1	599	現地	第3 or 4 指趾基節骨ほぼ完形		1	-				14.57			近位骨端遊離	
38T	LIII F 1	596	5mm	第2or5 指趾基節骨完形		1	+			12.89	7.97				
38T	LIII F 1	687	5mm	第3 or 4 指趾中節骨完形		1	+			11.14	7.93				
38T	LIII F 1	775	現地	末節骨近位端		1	+			19.20	14.64				
38T	A5	601	5mm	第2or5 指趾基節骨近位～遠位端		1	+							縦半分に欠損	
38T	LIII	597	5mm	第3or4 指趾基節骨完形		1	+			18.81	18.35			遠位端に癒合線残る	遠位端周辺にイヌの咬痕
38T	LIIIe-f	776	5mm	末節骨完形		1	+					20.75	18.11		
38T	LIII上	844	現地	第5 中手足骨完形	左	1	+			21.03	19.60				
38T	LIII上	749	5mm	末節骨完形		1	+					17.69	15.54		
38T	LIII下	777	5mm	末節骨体部～近位端		1	+								
38T	LIII下	748	5mm	末節骨体部～近位端		1	+								焼骨
38T	LIII下	834	現地	第3or4 指趾基節骨完形		1	+			18.41	18.12			癒合線残る	
38T		867	現地	第3 中手足骨完形	右	1	+		90.48						
64T	1	103	現地	第5 中足骨完形	左	1	-								
64T	1	104	現地	第2 中足骨完形	左	1	+								
64T	I-I	636	現地	第3or4 指趾基節骨体部～遠位端		1					17.90			新しいか、表面に土固着	
64T	2-II 上面	123	現地	第5 中手足骨完形	右	1	-							遠位端未癒合欠落	背面の体部と遠位端にカットマーク
64T	2-II 上面	27	現地	中手足骨遠位骨端	不	1								遊離骨端の滑車、シカ	
64T	2-I	634	現地	第3or4 指趾基節骨完形	不	1	+			21.23	19.21			新しいか、表面に土固着	近位端と体部割れ口にイヌ咬痕
64T	2-I	115	現地	第3 中手足骨近位部	右	1									
64T	3-III-2	772	現地	末節骨完形		1	+								
64T	I-II 上面	635	現地	第3or4 指趾基節骨完形		1	+			19.84	17.29			新しいか、表面に土固着	
64T	I-II 上面	633	現地	第2or5 指趾基節骨完形		1	+			13.67	8.77			遊離遠位骨端	
64T	SI-3	26	5mm	第2/5 中手足骨遠位端	不	1	-								
64T	S2-10B	122	現地	第5 中手足骨完形	左	1	+								
64T	S3-10	716	5mm	第2or5 指趾中節骨完形		1	+								焼骨
64T	S3-16	773	5mm	末節骨近位端		1	+								
64T	S3-5	771	5mm	末節骨完形		1	+								焼骨?
64T	S3-7	770	5mm	末節骨完形		1	+								焼骨
64T	S3-3	637	5mm	基節骨近位骨端		1	-							第2or5 指趾?遊離骨端	焼骨
64T	S3-6	16	現地	第2or5 中手足骨体部～遠位端	不	1	-							遠位骨端は未癒合	焼骨
52T	LI-II	607	現地	第3or4 指趾基節骨完形		1	+			19.81	17.06			大形成獣	
52T	23	694	5mm	第3 or 4 指趾中節骨完形		1	+		Glpe24.79	17.69	14.43				焼骨
52T	包含層 d	710	現地	第3 or 4 指趾中節骨完形		1	+								焼骨

表9 浦尻貝塚出土のイノシシ踵骨・距骨一覽

具層・地区名	トレンチ	層名	No.	採取	部位名	残存部	左右	点数	近位癒合	遠位癒合	GLI	GL	GLm	GB	骨の状態	痕跡	
南台地北部 台ノ前北	53T	2LI	204	現地	距骨	完形	右	1					41.24				
	54T	2	203	5mm	距骨	滑車部		1							破片	焼骨	
	54T	28	206	現地	距骨	体部→足根骨との接合部		1								焼骨	
	54T	30	832	現地	距骨	完形	左	1			48.30		43.00				
	58T	L1a	205	現地	距骨	ほぼ完形		1					41.54		滑車部一部欠損	焼骨	
	65T	I	207	現地	距骨	完形	右	1				43.70	39.70				
	53T	LIII-2	556	現地	膝蓋骨	ほぼ完形	左	1						26.69	下端欠損	イヌの咬痕？	
	54T	10	555	現地	膝蓋骨	頭面および尾節面	右	1							上端～体部内面を欠損	イヌの咬痕多数	
	54T	3	842	現地	踵骨	完形	右	1	+	+				25.05			
	54T	25	199	5mm	踵骨	近位骨端	右	1	-			105.52				幼獣	焼骨
54T	27	193	5mm	踵骨	近位端	左	1	+									
54T	27	841	現地	踵骨	完形	左	1	+	+		96.81		28.6				
54T	30	197	現地	踵骨	体部	右	1							両端を欠損			
54T	A-O-10-28	198	5mm	踵骨	近位端～体部	左	1		-					遠位端のみ欠損、幼獣			
56T	2LI	196	現地	踵骨	体部～遠位端	左	1		+					近位端に咬痕			
58T	L1a	195	現地	踵骨	近位端～体部	左	1	-						遠位端のみ欠損、			
63T	1-a	194	現地	踵骨	完形	左	1	-						遠位端にイヌ咬痕			
64T	2-1	200	現地	踵骨	体部～遠位端	右	1		+						両端に咬痕多数		
64T	S4-2	201	現地	踵骨	体部～遠位端	右	1		+					近位部欠損			
小庭	72	I	202	現地 5mm	踵骨	体部	左	1						両端を欠損		近位端にイヌ咬痕	

表 10 浦尻貝塚出土のイノシシ椎骨・肋骨一覧

貝層・地区名	トレンチ	層名	No.	採取	種名	部位	残存部	点数	痕跡
小迫	1G	III-1-a	819	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	1G		882	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	3G	S一括	2425	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	2	頭部欠損1
	72T	I	825	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	72T	①I	548	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	72T	①I	547	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	72T	I	467	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	72T	I	446	現地 5mm	シカ/イノシシ	腰椎	棘突起	1	焼骨(黒色)
	72T	I	431	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体、突起破片	5	
	72T	I	420	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	72T	I	549	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	2	焼骨(黒色)1
	72T	I	550	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	焼骨(黒色)
	72T	I	826	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	頭部欠損
	72T	III2A	2260	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体～棘突起	1	
	72T	SI-1	2259	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～棘突起	1	
	IV区サブトレ1	IIIE	2421	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
台ノ前北	53T	LIII-2	2255	現地	イノシシ	頸椎	棘突起	1	
	53T	LIII-2	412	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	イヌ咬痕?
	53T	LIII-2	788	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	54T	12	408	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	54T	27	426	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体～棘突起	1	
	54T	27	823	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	54T	27	824	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	54T	28	513	現地	イノシシ	環椎	腹結節	1	
	54T	28	808	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	54T	③I	801	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	54T	10	435	現地	シカ/イノシシ	腰椎	横突起	1	
	54T	10	537	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	54T	11	437	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	棘突起	1	
	54T	11	797	5mm	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	54T	12	791	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	54T	13	410	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	54T	13	424	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体～横突起	1	
	54T	15	492	5mm	イノシシ	頸椎	突起破片	1	
	54T	18	489	現地	イノシシ	頸椎	椎体～横突起	1	
	54T	18	464	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	54T	19	787	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	54T	2	529	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	54T	22	534	5mm	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体、突起破片	3	
	54T	23	456	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	54T	25	457	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	54T	25	402	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	54T	25	422	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体	1	
	54T	26	830	現地	イノシシ	環椎	横突起～椎体	1	
	54T	26	863	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起～椎体	1	
	54T	26	514	現地	イノシシ	環椎	ほぼ完形	1	
	54T	26	491	現地	イノシシ	頸椎	突起破片	1	
	54T	26	425	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体～棘突起	1	
	54T	26	407	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	54T	26	415	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	54T	26	421	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体	1	
	54T	26	544	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	54T	27	843	現地	イノシシ	軸椎	棘突起～椎体	1	
	54T	27	494	5mm	イノシシ	頸椎	突起破片	1	
	54T	27	436	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	破片	1	
	54T	27	441	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	破片	1	焼骨(黒色)
	54T	27	458	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	54T	27	453	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	2	
54T	27	449	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	椎体	1		
54T	27	405	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	2		
54T	27	414	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1		
54T	27	541	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1		
54T	27	540	5mm	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1		
54T	27	535	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	3		
54T	27	530	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1		
54T	27	811	5mm	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1		
54T	27	822	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1		

(表 10 つづき)

貝層・地区名	トレンチ	層名	No.	採取	種名	部位	残存部	点数	痕跡
台ノ前北	54T	27	821	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	54T	27	792	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	54T	27	786	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	54T	28	525	現地	イノシシ	軸椎	椎体	1	
	54T	28	512	5mm	イノシシ	環椎	腹結節	1	幼獣
	54T	28	2253	現地	イノシシ	仙椎	破片	1	
	54T	28	463	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	椎体	1	
	54T	28	428	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体～棘突起	1	
	54T	28	409	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	54T	28	533	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	54T	28	542	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	2	
	54T	28	817	5mm	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	54T	28	789	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	54T	28	810	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	54T	28	809	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	54T	28	790	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	54T	30	524	現地	イノシシ	軸椎	棘突起～椎体	1	
	54T	30	451	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	54T	30	413	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	54T	30	538	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	54T	31上	813	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	54T	3LI	450	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	54T	3LI	403	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	54T	8	490	5mm	イノシシ	頸椎	椎体破片	1	焼骨(黒色)
	54T	8	440	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	突起破片	1	焼骨(黒色)
	54T	8	454	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	椎体	1	焼骨(灰黒色)
	54T	A-0.10-28	452	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	54T	A-0.10-28	416	5mm	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	54T	一括	829	現地	イノシシ	頸椎	棘突起～椎体	1	
	54T	カイB-3	439	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	棘突起	1	
	56T	1	532	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	58T	LIIa	523	現地	イノシシ	軸椎	棘突起～椎体	1	
	58T	LIIa	493	現地	イノシシ	頸椎	突起破片	1	
	58T	LIIa	455	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	58T	LIIa	406	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	58T	LIIa	536	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	58T	LIIa	539	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	58T	LIIa	531	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	棘突起	1	
	58T	LIIa	806	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	58T	LIIa	820	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	イヌ咬痕
	63T	LI	404	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	63T	LI	411	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	63T	LI	799	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	頭部欠損,新しい?
台ノ前斜面	46T	一括	510	現地	イノシシ	環椎	環椎翼を欠く	1	
	46T	一括	417	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	46T	一括	423	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体	1	
	46T	一括	528	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	46T	2	784	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	46T	2	785	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
台ノ前南	31T	LIII	447	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	31T	S5	527	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	31T	LIII	401	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1	
	31T	S14	462	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体～横突起	1	
	31T	S11	794	5mm	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	38T	LIII d	438	現地	シカ/イノシシ	腰椎	棘突起	1	
	38T	III上	511	現地	イノシシ		環椎翼左	1	
	38T	IVa	522	現地	イノシシ	軸椎	齒突起	1	焼骨(黒色)
	38T	IVa	551	現地	イノシシ	尾椎	完形	1	
	38T	IVa	432	現地	シカ/イノシシ	腰椎	棘突起	1	
	38T	IVa	526	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	
	38T	LIII	448	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	椎体	1	
	38T	LIII e-f	816	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	38T	LIII e-f	795	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	38T	LIII下	434	5mm	シカ/イノシシ	腰椎	破片	1	焼骨(黒色)
	38T	LIII下	433	現地	シカ/イノシシ	腰椎	棘突起	1	
	38T	LIII下	815	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭～体部	1	
	38T	LIII下1	818	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	
	38T	LIVa	400	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	2	

(表 10 つづき)

貝層・地区名	トレンチ	層名	No.	採取	種名	部位	残存部	点数	痕跡	
西向	64T	1-I	429	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体~棘突起	1		
	64T	1-I	545	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1		
	64T	1-I	543	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1	新しい?	
	64T	1-I	800	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭~体部	1	頭部に咬痕	
	64T	2-II 上面	807	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1		
	64T	2-II 上面	802	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭~体部	1	新しい?	
	64T	2-I	495	現地	イノシシ	頸椎	突起破片	1	新しい様相	
	64T	2-I	465	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体~横突起	1	新しい?	
	64T	2-I	419	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1		
	64T	2-I	812	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1		
	64T	D - 33	461	現地 5mm	シカ/イノシシ	腰椎	椎体~横突起	1		
	64T	1	814	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭~体部	1		
	64T	I-III 上面	445	現地	シカ/イノシシ	腰椎	棘突起	1	新しい	
	64T	I-III 上面	430	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体	1		
	64T	I-III 上面	460	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体	1	新しい	
	64T	I-III 上面	805	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1		
	64T	I-II 上面	443	現地	シカ/イノシシ	腰椎	棘突起	1		
	64T	I-II 上面	459	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体~横突起	1	新しい	
	64T	I-II 上面	793	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	新しい?	
	64T	I-II 上面	803	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭~体部	1	新しい	
	64T	S2-10B	804	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	新しい	
	64T	S3-1	546	現地	シカ/イノシシ	脊椎骨	椎体	1		
	64T	S3-10	798	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭~体部	1		
	64T	S3-3	444	現地	シカ/イノシシ	腰椎	棘突起	1	新しい?	
	64T	S3-7	418	現地	シカ/イノシシ	胸椎	棘突起	1		
	64T	S3 カベ	796	現地	シカ/イノシシ	肋骨	肋骨頭	1	新しい	
	64T	S4-5	466	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体	1		
	南台台地北部	52T	1LII	488	現地	イノシシ	頸椎	椎体, 突起破片	1	
		53T	2LII	442	現地	シカ/イノシシ	腰椎	椎体	1	
		53T	2LII	427	現地	シカ/イノシシ	胸椎	椎体	1	
小迫北斜面		F-1・5	515	現地	イノシシ	環椎	完形	1		



## 附編 2 明治期の相双地方の漁業

### 1. 明治12年水産旧慣調について

「明治12年水産旧慣調」（以下「明治12年資料」とする。）は、明治12年に勸農局長から福島県に対して出された水産保護の儀に付いての布達に基づき、福島県浜通り地方の各郡役所が実施した漁業についての慣習や現行の状況についての調査報告である。資料は『福島県史 18』（宮島1970）ならびに『福島県歴史資料館研究紀要第4・5号』（村川1982・1983）に一部掲載されており、明治初期の採魚・漁場・漁法等が絵図入りで詳細に記載されている。特に、「漁法はほとんど変化をみることはなく、近世の漁法をそのまま伝えているものが多い」（村川1982）とされ、漁船の動力化以前の沿岸漁業・内水面漁業を伝える歴史資料・民俗資料としての価値は極めて高い。

今回、浦尻貝塚で確認された貝類・魚類の遺体資料を今後考察する上で、当地方の潜在的な漁法等を確認することが必要であることから、この資料を基に主にその漁場、漁期を整理することとする。

また、対象地は浦尻貝塚が所在する地域である相双地方とし、現いわき市は対象外とする（いわき市の旧榎葉郡地域も対象外とする。）相双地方とは、旧宇多郡（新地町・相馬市）、旧行方郡（南相馬市）、旧標葉郡（浪江町・双葉町・大熊町）、旧榎葉郡（富岡町・榎葉町）である。なお、前記文献に未載の明治12年資料の宇多・行方郡については南相馬市市史編纂係が福島県歴史資料館から複写した資料を用いた。

### 2. 明治12年資料の相双地方の水産資源

対象地で明治12年資料に記載された水産資源は次のとおりである。地方名については、「福島の海産動物方言集—魚の呼び名—」（福島県水産試験場1995）に従った。

#### 魚類（沿岸）

アイナメ、アカウ（カサゴ?）、アンコウ、イワシ、ウナギ、エビ、カスベ（エイ類）、カナガシラ、カレイ、ギス（キス科）、クロカラ（カサゴ科）、サガ（アブラツノザメ）、ササガレイ、サメ、タイ、タラ、ハモ（アナゴ）、ヒラメ、マグロ、レンテ（エイ類?）

#### 魚類（浦〔内水面〕）

ウナギ、スハ（ボラ小型魚）、セイゴ（スズキ小型魚）、ハイ（ウグイ）、サケ、マス

#### 貝類（沿岸）・その他

アサリ、アワビ、タコ

#### 魚種不明魚類（沿岸）

アカウヲ、キミ、タカブ、スセリ、ハト、ヒエリ

以下では、不明の魚種については、言及を行わないものとする。なお、キミは、宇多・行方郡ではアンコウ・レンテ（エイ類?）と同一の記載が多く、標葉・榎葉郡では、キミ・レンテ（エイ類）は、ヒラメ・アンコウ・サガ（アブラツノザメ）との同一漁法の記載が多い。アカウヲ・ヒセリ・ハトは宇多・行方郡でアイナメ・カナガシラ・サメ類・カスベ類と同じ項に記載されている。

また、サケ・マス漁は、宇多・行方の一覧表に記載がないことから整理対象として外しておく。ただし、明治12年資料の文章記載や民俗誌から、当地方で行われていたことは明らかである。

### 3. 明治12年資料の相双地方の沿岸漁法

- ・刺(差)網 宇多・行方郡ではカレイならびにアンコウ、レンテ（エイ類？）等の漁法として記載がある
- ・打瀬網 小型船1艘による風力を用いて網を引く漁法である。宇多・行方郡ではカレイの漁法として記載がある。
- ・請繰(受繰)網 小型船1艘による底引き網である。器具を用いずに引き上げることから手繰網とも言われる。宇多・行方郡ではササガレイ、カスベ（エイ類）の漁法として記載がある。
- ・地引網
- ・張逆網 4艘以上の船を用いる大規模な網漁である。檜葉郡でイワシのほか、サケ・マスの漁法として記載がある。
- ・延縄(縄張)
- ・釣り
- ・殻針 海中10ヒロほどの深さに貝殻をつけた30ヒロの縄に釣針をつけたものである。宇多・行方郡にカナガシラ・サメ等をとる5～6月の漁法として記載がある。

そのほか、特定種を狙ったタコ甕（瓶釣）、マグロ網、アサリ万鋏、アワビを採るナサシなどの記載がある。

### 4. 明治12年資料からみた相双地方の沿岸漁場と漁期

記載されている沿岸漁業の魚種ごとに漁場・漁期を表1のとおりまとめた。漁法は、宇多・行方郡と標葉・檜葉郡では記載が異なる。宇多・行方郡は全体をまとめた形で記載があり、標葉・檜葉郡では各村の魚種、漁場、季節とともに一覧表に記載がある。このため、表1の宇多・行方の漁法の記載は、全体でまとめて記載している漁法を記入した。また、市町村名のうち、南相馬市は合併前の旧市町単位の自治区に分別して示した。これを基に魚種ごとに漁場・漁期を確認していく。なお、福島県史（宮島1970）によると「当時もっとも重要であったのはいわし漁とかつを漁であった」とされる。

#### (1) イワシ

イワシ漁は広く宇多～檜葉までの多くの村で行われており、全て地引網で行われる。記載される距離はいずれの地域でもほぼ15町以内で行われる。漁期は、5・6月と9・10月の2つの漁期に限定される。

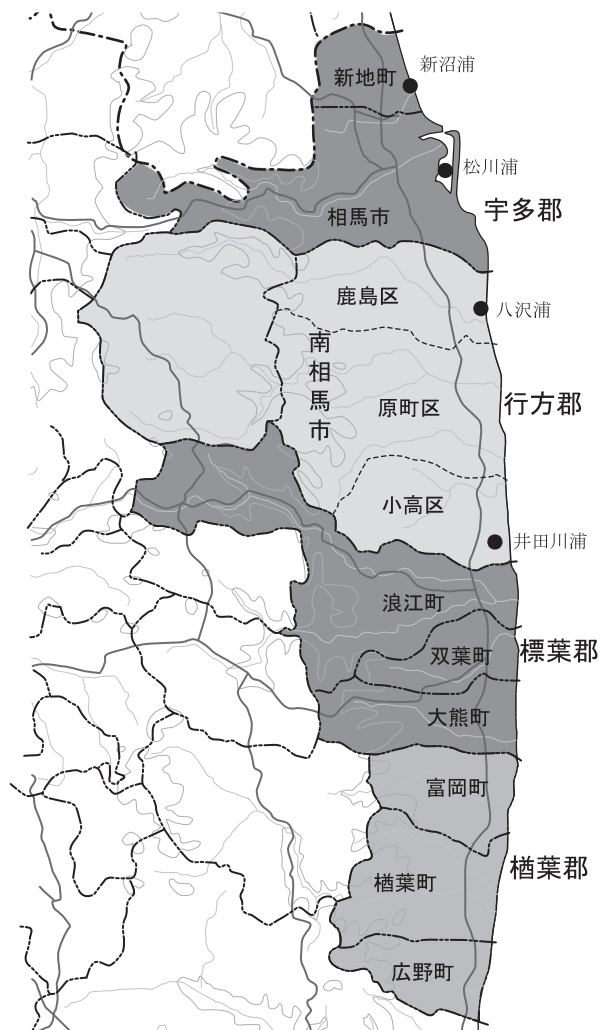


図1 相双地方全体図

(2) カツオ

カツオ漁も広く宇多～檜葉までの多くの村で行われており、全て釣漁である。距離は25里以内とあるが、ほぼ4～15里に収まり、10里前後が中心である。漁期は6～10月とあるが、中心は7～9月とすることができる。なお、明治12年資料の小名浜の項には、「該漁業他ノ漁業ニ比スレバ頗ル危険ヲ冒サザルヲ得ズ・・・(中略)・・・五月初メニ漁ヲ為其時ハ魚未タ近海ニ至ラザルガ故ニ一葉ノ舟ニ乗ジテ五拾里外ニ出ルコトアリ・・・(中略)・・・六七月ノ頃ニ至ラバ陸ヲ距ルニ三里ニシテ大ニ漁スルヲ得ベシ其時ハ朝ニ出テ昼ニ帰帆スル事ヲ得」とある(宮島1970)。

表1 明治12年水産旧慣調より作成した相双地方沿岸漁業の内容

註) 漁獲高の※印は別欄記載の複数の魚種や漁期のものが合せて記載されたものであり、単独の漁獲高を示すものではない。

郡	村	現市町村名	漁法	魚種	距離(里)	月												漁獲高	単位
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
宇多	釣師浜	新地町	地引	イワシ	5～20町														
宇多	原釜	相馬市	地引	イワシ	10～20町												250		
宇多	磯部	相馬市	地引	イワシ	7.8町, 1.5丁														
行方	南右田	鹿島区	地引	イワシ	5～6丁, 1.0町												130		
行方	烏崎	鹿島区	地引	イワシ	1.3丁												400		
行方	南海老	鹿島区	地引	イワシ	5～6丁, 1.2～1.3町												102		
行方	下洪佐	原町区	地引	イワシ	5・6, 1.0丁												60		
行方	北泉	原町区	地引	イワシ	5町, 1.0丁												100		
行方	小浜	原町区	地引	イワシ	6・7丁, 1.5町												4500		
行方	堤谷	原町区	地引	イワシ	5町, 1.0丁												580		
行方	下浦	小高区	地引	イワシ	8町, 1.5町												100		
行方	角部内	小高区	地引	イワシ	1.5町												450		
行方	塚原	小高区	地引	イワシ	1.0～2.0町												119		
標葉	棚塩	浪江町	地引	イワシ	6町												※140		
標葉	棚塩	浪江町	地引	イワシ	5～6町												※140		
標葉	中浜	浪江町	地引	イワシ	5町												※145		
標葉	中浜	浪江町	地引	イワシ	6町												※145		
標葉	熊川	大熊町	地引	イワシ	1.0町														
檜葉	仏浜	富岡町	地引	イワシ	6														
檜葉	毛萱	富岡町	地引	イワシ	6町														
檜葉	下北迫	広野町	地引	イワシ	6町												100		
宇多	釣師浜	新地町	釣	カツオ	1.0～2.5												9486		
宇多	原釜	相馬市	釣	カツオ	1～2												3500		
行方	烏崎	鹿島区	釣	カツオ	1.3												4000		
行方	南海老	鹿島区	釣	カツオ	1.3, 1.5												700		
行方	下洪佐	原町区	釣	カツオ	1.5, 2.0												740		
行方	北泉	原町区	釣	カツオ	1.5, 2.0												1300		
行方	小浜	原町区	釣	カツオ	1.2												2300		
行方	堤谷	原町区	釣	カツオ	1.1												1800		
行方	下浦	小高区	釣	カツオ	1.3												1200		
行方	村上	小高区	釣	カツオ	4												1100		
行方	角部内	小高区	釣	カツオ	4												300		
行方	塚原	小高区	釣	カツオ	1.3												4926		
標葉	請戸	浪江町	釣	カツオ	1.0～1.2												31464		
標葉	中浜	浪江町	釣	カツオ	1.0～1.2												4019		
標葉	郡山	双葉町	釣	カツオ	1.0～1.2												4500		
標葉	大沢	大熊町	釣	カツオ	3, 4, 6												10		
標葉	小入野	大熊町	釣	カツオ	8, 1.0, 1.3												1400		
標葉	熊川	大熊町	釣	カツオ	7, 5, 1.3,												2710		
檜葉	小良ヶ浜	富岡町	釣	カツオ	5, 7, 1.3												5500		
檜葉	仏浜	富岡町	釣	カツオ	4, 6, 7												3945		
檜葉	毛萱	富岡町	釣	カツオ	4～7												2520		
檜葉	井出	檜葉町	釣	カツオ	4, 8, 1.0												9300		
檜葉	波倉	檜葉町	釣	カツオ	5～6												※1050		
檜葉	山田浜	檜葉町	釣	カツオ	5, 1.0												1500		

(表 1 つづき)

郡	村	現市町村名	漁法	魚種	距離 (里)	月												漁獲高	単位
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
宇多	釣師浜	新地町	網	カレイ	4													※ 23908	枚
宇多	釣師浜	新地町	網	カレイ	5													※ 23908	枚
宇多	原釜	相馬市	網	カレイ	3													※ 72000	枚
宇多	原釜	相馬市	網	カレイ	3													※ 72000	枚
宇多	磯部	相馬市	網	カレイ	2													※ 7135	枚
宇多	磯部	相馬市	網	カレイ	6													※ 7135	枚
行方	南右田	鹿島区	網	カレイ	4													1500	枚
行方	烏崎	鹿島区	網	カレイ	3													7200	枚
行方	南海老	鹿島区	網	カレイ	4													4100	枚
行方	下洪佐	原町区	網	カレイ	1													1968	枚
行方	北泉	原町区	網	カレイ	1.0													1790	枚
行方	小浜	原町区	網	カレイ	5													4500	枚
行方	堤谷	原町区	網	カレイ	5													3200	枚
行方	下浦	小高区	網	カレイ	1													500	枚
行方	村上	小高区	網	カレイ	3													2500	枚
行方	角部内	小高区	網	カレイ	3													50	枚
行方	塚原	小高区	網	カレイ	1													1586	枚
標業	請戸	浪江町	延縄	カレイ	5													3500	枚
標業	棚塩	浪江町	打瀬網	カレイ	6													2000	枚
標業	中浜	浪江町	打瀬網	カレイ	4													500	枚
標業	郡山	双葉町	請繰網	カレイ	3													700	枚
標業	小入野	大熊町	打瀬網	カレイ	3													4300	枚
標業	熊川	大熊町	打瀬網	カレイ	8													7500	枚
檜業	小良ヶ浜	富岡町	打瀬網	カレイ	4.5, 5													11000	匹
檜業	仏浜	富岡町	打瀬網	カレイ	2.5, 3													2331	枚
檜業	井出	檜業町	打瀬網	カレイ	3.5, 7													2000	枚
檜業	波倉	檜業町	釣	カレイ	5~6													※ 1050	本
檜業	下北迫	広野町	刺網	カレイ	1町													48	枚
標業	棚塩	浪江町	打瀬網	ギス	6													3000	枚
標業	中浜	浪江町	打瀬網	ギス	4													1500	匹
標業	小入野	大熊町	打瀬網	ギス	3													5350	匹
檜業	小良ヶ浜	富岡町	打瀬網	ギス	4.5, 5													10000	匹
檜業	下北迫	広野町	刺網	タイ	1町													44	枚
宇多	釣師浜	新地町	網	ヒラメ	4													※ 1519	枚
宇多	釣師浜	新地町	網	ヒラメ	1													※ 1519	枚
宇多	釣師浜	新地町	網	ヒラメ	2													※ 1519	枚
宇多	原釜	相馬市	網	ヒラメ	2.1													※ 64000	枚
宇多	原釜	相馬市	網	ヒラメ	3													※ 64000	枚
宇多	磯部	相馬市	網	ヒラメ	1													※ 4137	枚
宇多	磯部	相馬市	網	ヒラメ	6													※ 4137	枚
行方	南右田	鹿島区	網	ヒラメ	3													250	枚
行方	烏崎	鹿島区	網	ヒラメ	3													4100	枚
行方	南海老	鹿島区	網	ヒラメ	5.5													500	枚
行方	下洪佐	原町区	網	ヒラメ	1.5													2110	枚
行方	北泉	原町区	網	ヒラメ	1.5													648	枚
行方	小浜	原町区	網	ヒラメ	7													2100	枚
行方	堤谷	原町区	網	ヒラメ	7													1500	枚
行方	村上	小高区	網	ヒラメ	5													1150	枚
行方	塚原	小高区	網	ヒラメ	9													1702	枚
標業	請戸	浪江町	請繰網	ヒラメ	1.2													※ 1558	枚
標業	請戸	浪江町	刺網	ヒラメ	1.2													※ 1558	枚
標業	中浜	浪江町	請繰網	ヒラメ	1													150	枚
標業	郡山	双葉町	請繰網	ヒラメ	6, 1.0													100	枚
標業	大沢	大熊町	請繰網	ヒラメ	2.5町, 3.0町													※ 35	枚
標業	小入野	大熊町	請繰網	ヒラメ	1.8町, 2.0町, 3.0町													※ 90	枚
標業	熊川	大熊町	刺網	ヒラメ	1.0														
標業	熊川	大熊町	請繰網	ヒラメ	1.0町														
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	ヒラメ	4.5, 7													400	枚
檜業	毛萱	富岡町	刺網	ヒラメ	8													600	枚
檜業	井出	檜業町	刺網	ヒラメ	6~7													5000	枚
檜業	井出	檜業町	請繰網	ヒラメ	1, 1.5													※ 500	枚
檜業	波倉	檜業町	刺網	ヒラメ	8, 1.0													560	枚
檜業	山田浜	檜業町	打瀬網	ヒラメ	3													12000	枚
標業	中浜	浪江町	請繰網	カスベ	1													70	枚
標業	郡山	双葉町	請繰網	カスベ	3													200	枚
標業	大沢	大熊町	請繰網	カスベ	2.5町, 3.0町													※ 35	枚
標業	小入野	大熊町	請繰網	カスベ	1.8町, 2.0町, 3.0町													※ 90	枚
標業	熊川	大熊町	請繰網	カスベ	1.0町														
檜業	井出	檜業町	請繰網	カスベ	1, 1.5													※ 500	枚
檜業	下北迫	広野町	刺網	カスベ	1町													123	枚

(表1つづき)

郡	村	現市町村名	漁法	魚種	距離(里)	月												漁獲高	単位
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
標業	熊川	大熊町	打瀬網	カナカシラ	8													60	駄
檜業	仏浜	富岡町	打瀬網	カナカシラ	2.5.3													3503	枚
檜業	井出	檜業町	打瀬網	カナカシラ	3.5.7													1000	匹
檜業	山田浜	檜業町	打瀬網	カナカシラ	5													4000	匹
標業	請戸	浪江町	延縄	カナカシラ														2000	匹
檜業	井出	檜業町	延縄	アカウ	1													※500	匹
標業	請戸	浪江町	延縄	アイナメ	1													1000	枚
標業	請戸	浪江町	延縄	クロカラ	1													1500	枚
檜業	小良ヶ浜	富岡町	延縄	クロカラ	1.2.0町													1250	匹
檜業	井出	檜業町	延縄	クロカラ	1													2000	匹
檜業	井出	檜業町	延縄	ハモ	1													※500	本
宇多	釣師浜	新地町	網	カナガシラ・サメ・カスベほか	4町～15町													3030	枚
宇多	原釜	相馬市	網	アイナメ・カナガシラほか	1～3													133060	枚
標業	請戸	浪江町	刺網	アンコウ	12													841	杯
標業	熊川	大熊町	刺網	アンコウ	10													120	盃
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	アンコウ	4.5.7													70	枚
檜業	毛萱	富岡町	刺網	アンコウ	9													130	杯
檜業	井出	檜業町	刺網	アンコウ	6～7													1500	杯
標業	請戸	浪江町	刺網	サガ	12													225	本
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	サガ	4.5.7													40	本
檜業	毛萱	富岡町	刺網	サガ	12													80	本
檜業	下北迫	広野町	刺網	サガ	1町													73	本
標業	請戸	浪江町	刺網	タラ	12													570	本
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	キミ	4.5.7													※50	枚
檜業	毛萱	富岡町	刺網	キミ	10													※115	枚
檜業	井出	檜業町	刺網	キミ	6～7													※500	枚
檜業	波倉	檜業町	刺網	キミ	8.10													280	枚
行方	烏崎	鹿島区	網	レンテ	30													300	枚
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	レンテ	4.5.7													※50	枚
檜業	井出	檜業町	刺網	レンテ	6～7													2500	枚
檜業	波倉	檜業町	刺網	レンテ	8.10													560	枚
檜業	山田浜	檜業町	打瀬網	レンテ	4													25	枚
行方	下洪佐	原町区	網	キミ・レンテ・アンコウ	20														
行方	北泉	原町区	網	キミ・レンテ・アンコウ	20													500	枚
行方	村上	小高区	網	キミ・レンテ・アンコウ	10													700	枚
行方	角部内	小高区	網	キミ・レンテ・アンコウ	10													140	枚
行方	塚原	小高区	網	キミ・レンテ・アンコウ	15													319	枚
標業	請戸	浪江町	刺網	キミ・レンテ・アンコウ	12													255	枚
標業	熊川	大熊町	刺網	タカフ	10													17	枚
檜業	小良ヶ浜	富岡町	刺網	タカフ	4.5.7													60	枚
檜業	毛萱	富岡町	刺網	タカフ	11													※115	枚
檜業	井出	檜業町	刺網	タカフ	6～7													※500	枚
宇多	釣師浜	新地町	まぐろ網	マグロ	2～3														
宇多	磯部	相馬市	まぐろ網	マグロ	18～30町													534	本
行方	烏崎	鹿島区	まぐろ網	マグロ	1													150	本
宇多	釣師浜	新地町	瓶釣	タコ	3～5														
宇多	原釜	相馬市	瓶釣	タコ	1(20町)														
宇多	磯部	相馬市	殻針	スセリ	20～26町													580	枚
宇多	磯部	相馬市	網	ハト	20～26町													350	枚
標業	熊川	大熊町	請繰網	ヒセリ	10町														
宇多	原釜	相馬市	アサリ万鉢	アサリ	1～2													400000	
宇多	磯部	相馬市	アサリ万鉢	アサリ	18町													81538	個
行方	烏崎	鹿島区	アサリ万鉢	アサリ	30丁													15000	
行方	小浜	原町区	アサリ万鉢	アサリ	28町													8500	
行方	堤谷	原町区	アサリ万鉢	アサリ	25町													17600	
行方	下浦	小高区	アサリ万鉢	アサリ	15町													1000	
行方	塚原	小高区	アサリ万鉢	アサリ	14町													4110	
宇多	磯部	相馬市	ナサシ	アワビ	7丁													585	個

### (3) カレイ

カレイ漁も広く宇多～檜葉まで多くの村で行われている。漁法では、各種網漁のほか、釣漁、延縄漁もわずかにみられるが、これはカツオ漁、また後述するカナガシラ漁に伴ったと考えられ、カレイを主とした漁法ではなかったと考えられる。

網漁の漁期は1～6月が多く、特に3・4月が中心である。宇多・行方が1～5月、標葉・檜葉が2～6月とわずかな漁期の差があるほか、行方郡の鹿島区以北では11・12月にも行われており、以南との地域差がみられる。距離は1～10里の記載があるが、いずれの地域もほぼ6里以内に収まり、3～5里の記載が多い。

標葉・檜葉郡では打瀬網によるカレイ漁にギス（キス科）または後述するカナガシラが伴うことがみられ、少量ながら刺網ではタイ・カスベ（エイ類）も含まれることが記されている。

### (4) ヒラメ

ヒラメ漁も広く宇多～檜葉まで多くの村で行われている。漁法は各種網漁がある。ヒラメの漁期・漁場は大きく3つに分類される。

宇多と行方の原町区北泉以北の漁期は2～11月の記載があるが、5～10月が多く、特に6～9月を中心とする。漁場は1～7里が多く、カレイ漁との大きな差はない。

行方の小浜以南は1～6月と9～12月の2つの漁期がみられる。このうち1～6月の漁期は刺網・打瀬網で行われ、宇多等よりやや早い漁期である。また、7～12里の漁場が中心で、カレイ漁や宇多等のヒラメ漁に比較し距離のある漁場と言える。

9～12月は請繰網で行われ、漁場も1里以内で行われることが多い。また、この9～12月の漁はヒラメのほかカスベ（エイ類）が伴うことが多く、ヒラメの漁獲量も少ない特徴が見られる。

### (5) カナガシラほか

カナガシラ・アイナメ・クロカラ（カサゴ科）はまとめて記載されることがある他、同様の時期の漁法・漁期であることが多く、まとめて整理しておく。イワシほか前述の魚種に比較し、記載数は減少している。これらは漁法と地域により、漁期・漁場が異なっている。

標葉・檜葉では、1～6月に打瀬網でカナガシラ漁行われているが、これは前述のカレイ漁に伴うものである。このほか、標葉・檜葉ではカナガシラ・アイナメ・クロカラ（カサゴ科）を主として、アカウ（カサゴ?）、ハモ（アナゴ）、カレイが伴う延縄漁がある。漁期は、10～12月で距離は1里以内と近い。

宇多では4～11月に網漁が行われているが、1～3里以内の距離とやはり近い漁場である。カナガシラのほか、アイナメ・サメ・カスベ（エイ類）が伴う。

### (6) アンコウほか

行方以南では、アンコウにはサガ（アブラツノザメ）、レンテ（エイ類?）などのほか、わずかにタラが伴う刺網を中心とした漁が行われている。漁期は1～6月で、3～5月が中心であり、距離は標葉・檜葉は4～12、行方では10～20里と遠い距離が多く記載されている。

### (7) その他

マグロは宇多・行方の一部の村のみ6～8月に距離3里以内でマグロ網による漁が行われている。タコは宇多のみで5里以内の距離で9～11月に行われている。アサリは宇多・行方の比較的多くの村で記載があり、通年の記載と10～2月の記載がある。アワビは宇多の磯部のみで6～8月に漁が行われた記載がある。

### 5. 明治12年資料からみた相双地方の内水面（浦）漁場と漁期

宇多・行方郡に記載されている内水面（浦）の魚種・漁場・漁期を表2にまとめた。漁具等の解説があり、新沼浦・松川浦・八沢浦・井田川浦ほぼ同様である旨の記載がある。それぞれの村を面していた浦に分けて示した。浦の漁法として、ウナギ、エビ、雑魚（セイゴ、ウグイ、ボラ）の3つの方法が書かれている。民俗例としてはこれにシジミ漁の記述が多く認めることができ（佐々木2004・2006）、シジミ漁も多く行われていたと考えられるが、明治12年資料には記載がない。

表2 明治12年水産旧慣調より作成した相双地方内水面（浦）漁業の内容

郡	村	市町村名	河川・浦	魚種	月												漁獲高	単位	
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
宇多	新沼	新地町	新沼浦	ウナギ													63400	貫、目	
	長老内	相馬市	新沼浦															105	貫
	塚部	相馬市	新沼浦															30	貫
	駒ヶ嶺	新地町	新沼浦															120	貫
	今泉	新地町	新沼浦															10	貫
	和田	相馬市	松川浦															200	貫
	岩子	相馬市	松川浦															70	貫
	新田 浦庭	相馬市 相馬市	松川浦 八沢浦															117 9.5	貫 貫、目
行方	柚木	相馬市	八沢浦	ウナギ													17	貫	
	南柚木	鹿島区	八沢浦														170	貫	
	北屋形	鹿島区	八沢浦														170	貫	
	北海老	鹿島区	八沢浦														40	貫	
	耳谷	小高区	井田川浦														40	貫	
	行津	小高区	井田川浦														35	貫	
	下浦	小高区	井田川浦														74	貫	
	蛭沢 浦尻	小高区 小高区	井田川浦 井田川浦														75 5	貫 貫	
宇多	新沼	新地町	新沼浦	エビ												43.8			
	長老内	相馬市	新沼浦													4.5	石、斗、		
	塚部	相馬市	新沼浦													4.5	石、斗、		
	駒ヶ嶺 浦庭	新地町 相馬市	新沼浦 八沢浦													8 7.5	石 石、斗、		
行方	南柚木	鹿島区	八沢浦	エビ												14	石		
	北屋形	鹿島区	八沢浦													23	石		
	北海老	鹿島区	八沢浦													1100	匹		
	耳谷	小高区	井田川浦													2	石		
	行津	小高区	井田川浦													3	石		
	下浦	小高区	井田川浦													3	石		
	蛭沢	小高区	井田川浦													3.1	斗、		
	浦尻	小高区	井田川浦													1.5	石、斗、		
宇多	長老内	相馬市	新沼浦	雑魚 (セイゴ、ウグイ、ボラ)												12300	匹		
	塚部	相馬市	新沼浦													10300	匹		
	駒ヶ嶺	新地町	新沼浦													12000	匹		
	今泉	新地町	新沼浦													8500	匹		
	和田	相馬市	松川浦													80000	匹		
	岩子	相馬市	松川浦													50000	匹		
	新田	相馬市	松川浦													9100	匹		
	浦庭	相馬市	八沢浦													500	匹		
行方	柚木	相馬市	八沢浦	雑魚 (セイゴ、ウグイ、ボラ)												500	匹		
	南柚木	鹿島区	八沢浦													7000	匹		
	北屋形	鹿島区	八沢浦													8000	匹		
	北海老	鹿島区	八沢浦													3	石		
	耳谷	小高区	井田川浦													1500	匹		
	行津	小高区	井田川浦													2500	匹		
	下浦	小高区	井田川浦													3500	匹		
	蛭沢	小高区	井田川浦													1300	匹		

### (1) ウナギ

ウナギには3つの漁法が記されている。ウナギカキは、湾曲した刃先を竹の柄をつけた道具で、泥の中にいるウナギを引っ掛ける漁法である。冬季の10月～翌3月までに行われたとの記載がある。ウナギドウは、ドウの中に餌をいれて沈めておく漁法である。5～6月に行われたとの記載がある。フクベは、竹筒を数本結び付けて沈めておく漁法である。季節は4～9月との記載がある。

漁法からは1年を通して行われたと考えられるが、表2をみると、いずれの地域でも4～9月を中心に漁が行われている。このことから、ウナギドウ・フクベがウナギの主な漁法であったと推察される。井田川浦のみ、冬季にも行われている。全体的な記載の中で、冬季のウナギカキ漁法があることから、他の地域でも行われていた可能性は高い。

### (2) エビ

エビは細竹に笹を結んで、5～6日間後に引き上げてとる漁法であるとの記載がある。漁期は新沼浦で10月～3月、八沢浦で5～9月を中心とし12月まで、井田川浦で11月～3月である。八沢浦のみ夏季に漁を行っており、地域ごとの漁期の差が認められる。

### (3) 雑魚（セイゴ、ウグイ、ボラ）

刺網により8～11月に漁をしたとの記載がある。表2をみると、漁期はおおむね7～11月前後であり、ウナギの漁期より若干遅い傾向が認められる。新沼浦・松川浦では8～11月、八沢浦・井田川浦では7～10月が中心時期であり、浦ごとの微妙な漁期の差も認められる。また、井田川浦のみ冬季の記載があり、ウナギ、エビ漁の記載と一致していることが興味深い。

## 6. 明治35年水産試験場の資料との対照

『福島県史 18』に明治35年の水産試験場のデータが記載されている（以下「明治35年資料」とする。）。ここには福島県全体の魚・貝・海藻の漁期、最盛期、産卵期が一括して掲載されている。明治35年は、動力船導入が進んでいない時期とされ（宮島1970）、明治初期の漁業と大きな差はないものと推察される。しかし、イワシ・カツオの減少等、乱獲ならびに環境の変化があったとされることや、前節までに対象としなかったいわき地方の内容も含まれた福島県全体の漁期が記載されていることから、先の明治12年の資料から得られた結果と正確な一致はみないものと考えられる。しかしながら、この資料には明治12年の中に含まれない魚種も認められることから、明治12年資料の不足する点を補うため、明治35年資料の記載内容を表3にまとめ、明治12年資料と比較対照しておく。

両資料がほぼ一致するものは、カツオ、カレイ、ヒラメ、アンコウである。カナガシラ・アイナメ・クロカラ（カサゴ科）は、明治35年資料では最盛期が3～5月であり、これは明治12年資料でカレイ等の網漁が行われる時期と考えられる。明治12年資料で延縄漁が行われたとする時期も漁期に入っている点も両資料が整合的といえる。マグロ・タコも大きな差はない。スズキは明治35年資料には7・8月の夏期が中心とされている。スズキは明治12年資料には沿岸漁業としては記載がないが、内水面漁業の中のセイゴ（スズキの小型魚）の漁期は夏期が中心とみられることから、両資料は一致していると言えよう。

逆に一致しないものとしてイワシがあげられる。イワシは12月～4月が最盛期となっており、明治12年資料の5・6月、9・10月の漁期と一致しない。これは地引網漁の衰退、漁法の変化の影響が大きいと推測される。

このほか、明治12年資料に記載が少ないことから、対比が難しいものとしてサメ・小サメがある。



イシモチ、タイ、ブリ、アジ、サバも明治12年資料に記載がない。明治35年資料によると、イシモチは1・2月、タイ・アジは5・6月、ブリは6～7月、サバは8・9月が最盛期となる。

また、貝も明治12年に記載が少なく、比較検討が難しい。明治35年資料では、冬から夏にかけて、ナマコ・カキ⇒アサリ・ハマグリ⇒シジミ⇒ウバガイ⇒アワビと最盛期が推移している。このうち、明治12年資料に記載があるのは、アサリ、アワビである。明治35年資料ではアサリは2～6月が漁期であり、3・4月が最盛期である。明治12年資料は冬季を中心とした10～2月と通年の漁期とあるので、この差が生じた理由は不明である。アワビはいずれの資料も夏期を中心としており、ほぼ一致する。

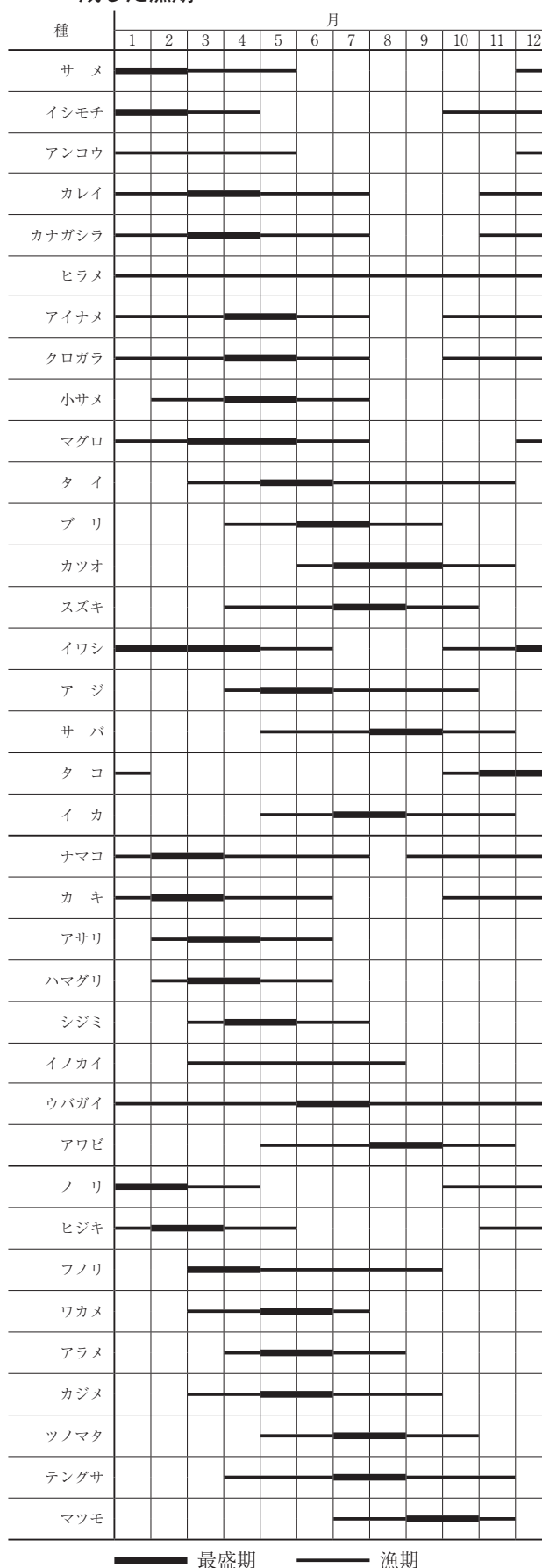
海藻類も相双地方では明治12年資料に記載がなく、比較検討はできないが、明治35年資料に、種によって漁期が異なることが示されている。

### 7. 明治期の相双地方の漁業

これまでの検討から、明治12年と明治35年はおおむね一致することから、これらのデータは整合性があり、これらのデータが当地方の動力船導入以前の漁業状況であり、現代漁業に比較し、縄文時代に近い漁場や漁期を示唆させるものと言えよう。

ただし、イワシ・アサリの漁期は大きく異なり、注意が必要であるとともに、明治35年資料は県内の地域差を無視した資料であるので、必ずしも相双地方の状況を示しているとは言えない。また当然記載されない漁や不明な魚種もあろう。

表3 明治35年福島県水産試験場事業報告より作成した漁期



今回はこのような問題点があることを認識した上で、明治12年資料を中心に明治期の魚類等の漁場、漁期を表4のようにまとめた。明治35年資料だけ記載されているものは、明治35年資料をそのまま記載した。両資料に相違があるイワシは明治12年資料を記載した。

魚魚を中心にみると、浦ではウナギ漁がほぼ通年で行われるが夏期を中心としている。これにやや遅れてセイゴ（スズキ小型魚）・ウグイ・ボラの雑魚漁が夏期から秋期にかけて多く行われている。

明治期の中心漁業とされる地引網によるイワシ漁は、初夏、初秋の2度の漁期がある。もう一つの中心漁業である外洋でのカツオ漁は夏期を中心とする。同じ回遊魚であるブリ、アジ、サバなども主に夏期を中心として漁が行われるようである。その他の網漁・延縄漁は、カナガシラ・アイナメ・カ

表4 明治期の相双地方の漁業概要

種	月												距離 (里)	漁法	場所	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
ウナギ														~1	フクベほか	新沼・松川・八沢浦
														~1	フクベほか	井田川浦
セイゴ・ウグイ・ボラ														~1	刺網	新沼・松川浦
														~1	刺網	八沢・井田川浦
エビ														~1	籠浸	新沼・井田川浦
														~1	籠浸	八沢浦
イワシ														~1	地引	全
マグロ														1~3	マグロ網	宇多
タコ														1~5	瓶釣	宇多
カナガシラ・アイナメ・カサゴ科 (アナゴ・カレイ)														1	延縄	標葉・檜葉
カナガシラ・アイナメほか (サメ・エイ類)														1~3	網	宇多
カレイ・キス科・カナガシラ (タイ・エイ類)														3~5	網	行方南部・標葉・檜葉
カレイ														3~5	網	宇多・行方北部
ヒラメ														1~7	網	宇多・行方北部
														7~12	網	行方南部・標葉・檜葉
カツオ														4~15	釣	全
アンコウ・アブラツノザメほか														4~20	網	全
イシモチ																明治35年資料
タイ																明治35年資料
ブリ																明治35年資料
アジ																明治35年資料
サバ																明治35年資料
イカ																明治35年資料

■ 最盛期    — 漁期

サゴ科⇒カレイ⇒ヒラメの順に、より沿岸の漁場となっており、カナガシラ等とカレイが冬～春期、ヒラメは春～秋期が主な漁期である。その他に外洋でのアンコウ漁が春～夏期に行われている。

貝類・海藻は明治12年資料に記載が少ないため、明治35年資料を基準資料としておく。浦尻貝塚で多く出土するアサリ・ハマグリ・シジミは3～5月が最盛期であり、主に春期にその漁期があるが、ウバガイはほぼ通年であり、夏期が最盛期とされている。

ここで得られた明治期の漁業の内容は、漁獲高の比較や民俗誌を含めた他文献資料の検討を行っておらず、魚等の生態、自然条件・漁業技術の相違、水産資源への時代的な需要、漁期の制限などの社会制度による影響の有無などの検討も行っていないため、その概要が示されたに過ぎない。また、明治12年資料によれば、当地方は漁業専門のものはほとんどおらず、半農半漁であったとされる。この記載が正しければ、農業の季節的なスケジュールなども漁期に影響があると考えられよう。このような事柄の漁期・漁場への影響については、十分な検討が必要である。さらに、浦尻貝塚ではほとんど出土していないが、近世～現代まで行われているサケ・マス漁についても、その様相を把握する必要があるだろう。

これらのことから、短絡的に今回の結果を縄文時代の漁業を反映しているとは当然いえないが、ここで記載された魚種は、縄文時代との共通性も高い。また、動力船以前の状況であるので、現代漁業より縄文時代に近い様相を持つといえる。よって、これまでの検討によって得られた内容は、縄文時代の漁業を考える参考資料として有益なものと言えるだろう。

さらに、今回の整理により同じ相双地方でも漁期や漁場にわずかながらも地域差がみられている。この地域差がどのような要因で生じたか、今後、自然条件だけではなく、民俗誌や文献資料、聞き取り調査などを踏まえ、検証していく必要がある。

(川田強)

## 附編2 引用・参考文献

- 佐々木長生 (2004) 「第4章 生業」『鹿島町史 第6巻 民俗』鹿島町
- 佐々木長生 (2006) 「海と川のなりわい」『原町市史 第9巻 特別編Ⅱ 民俗』南相馬市
- 福島県 (1879?) 『水産旧慣調』
- 福島県水産試験場 (1995) 『福島の海産動物方言集—魚の呼び名—』
- 宮島宏志郎 (1970) 「第2編 第5章 水産業」『福島県史 18 産業経済1』
- 村川友彦 (1982) 「明治12年水産旧慣調～明治初期の浜通り漁労習俗～」『福島県歴史資料館 研究紀要第4号』福島県文化センター
- 村川友彦 (1983) 「明治12年水産旧慣調 (二) ～明治初期の浜通り漁労習俗～」『福島県歴史資料館 研究紀要第5号』福島県文化センター

## 附編3 角部内南台貝塚・片草貝塚の動物遺体

### 1. はじめに

角部内南台貝塚は南相馬市小高区角部内字南台の、現海岸線から約200m離れた段丘上に位置する。昭和61(1986)年、治山工事に伴い、小高町教育委員会により段丘東側の斜面(註1)で調査面積10㎡の発掘調査が実施されている。この調査では縄文時代前期前葉～中期後葉までの土器が出土した他、小規模なブロック貝層が確認され、貝類などの動物遺体が採取されている(小高町教育委員会1988)。資料が得られた貝層は径1.2m、厚さ30cmほどと記載されている。

片草貝塚は南相馬市小高区片草字金場台にあり、小高川中流域の現海岸線から約4.5km離れた段丘斜面に貝層が形成されている。これまで本格的な発掘調査はされていないが、竹島国基による分布調査がなされており、大木1・2a式の土器などの他、貝類などの動物遺体が採取され、その一部は小高町史(竹島1975)などに報告されている。竹島の採取資料は現在、南相馬市博物館に寄贈されている(南相馬市博物館2008)。

両遺跡の動物遺体は、その概略が紹介されてきたにとどまり、資料全体の同定はされていなかった。これらの資料は少量ではあるが、浦尻貝塚の比較資料としても重要であることから、ここに報告する。

### 2. 分析の方法

貝類の同定・計数部位は、二枚貝では殻頂とし、巻貝では種類ごとに殻口・殻軸など特定部位を適宜設定した。魚類の同定部位は主上顎骨、前上顎骨、歯骨、角骨、主鰓蓋骨、椎骨を必須とし、他の部位も分類群に応じて同定可能なものは適宜対象に加えた。鳥獣類の同定対象部位は部位を判別できた資料とした。

### 3. 角部内南台貝塚の動物遺体

動物遺体はLⅡ層・LⅢ層から多く出土している。同層準の年代は大木8a～8b式期と推定されている。なお、調査では大木2a～9式までの土器が出土しており、大木2a・2b式、大木7a・7b式の土器も比較的多い。

資料は1mmメッシュのふるいで水洗選別されたと記載があるが、採取された資料には小型資料は少ない。

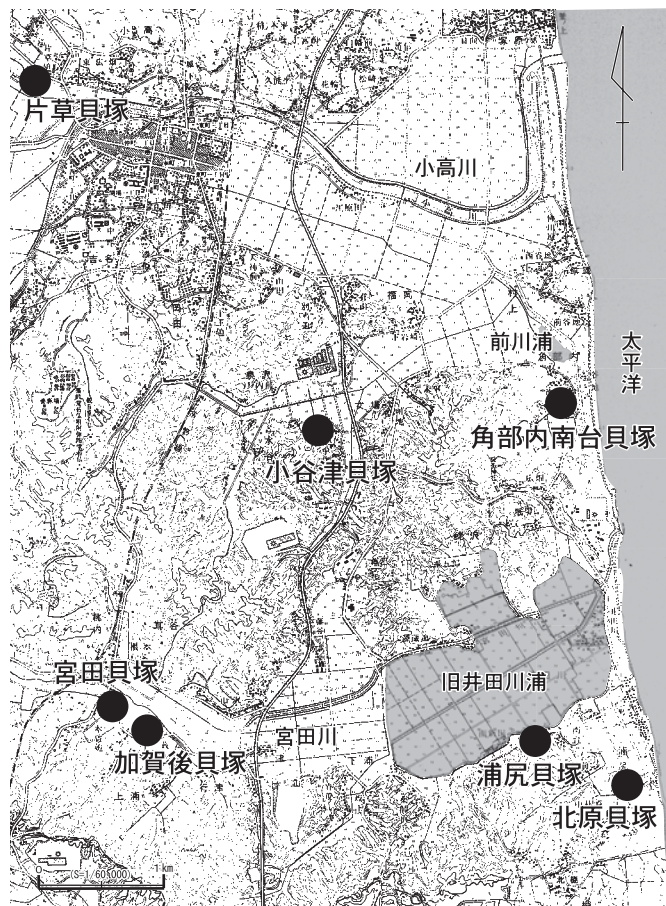


図1 南相馬市小高区の貝塚分布図 (S = 1/60,000)

同定結果を表1～3に示す。同定対象となった資料は貝類149点、魚類24点、鳥獣類3点である。貝類は腹足綱3種、二枚貝綱6種が同定された。イボキサゴが最も多い。二枚貝では、アサリが最も多く、次いでハマグリ・カガミガイが目立つ。ごく少量だが、マガキ・イタボガキ・レイシなども認められる。魚類は軟骨魚綱（板鰓類）1分類群、硬骨魚綱11分類群が同定された。スズキ・クロダイ属・ウナギ属・カレイ科などがあり、浦尻貝塚の現地採集・水洗5mmメッシュで回収された大型資料とほぼ同様である。鳥獣類では種不明の鳥類とシカが確認されたが、いずれも少数である。

#### 4. 片草貝塚の動物遺体

片草貝塚の資料採取方法は不明な点が多い。比較的大型のものが多いので、現地で目立った資料のみ採取したものと思われる。これまでに報告されている土器は大木1・大木2a式であり、動物遺体も前期前葉～中葉のものである可能性が高い。

同定結果を表4～6に示す。同定対象となった資料は貝類117点、魚類29点、鳥獣類71点である。貝類は腹足綱7種、二枚貝綱10種が同定された。腹足綱ではイボキサゴが多く、ツメタガイも目立つ。二枚貝ではアサリとマガキがほぼ同数で多く、周辺貝塚群の中ではマガキが多いことが特徴的である。他に、イタボガキ、オキシジミ、ハマグリ、オオノガイが多い。1点のみであるが、ウバガイも含まれている。なお、貝類以外の無脊椎動物として、カニ類の鋏脚が1点確認されている。魚類は硬骨魚綱4分類群が同定された。スズキが最も多く、次いでクロダイ属が多い。マダイ亜科・ヒラメ科も1点見られる。鳥獣類ではイノシシが最も多く、次いでシカが多い。ほかに、ノウサギと未同定の鳥類が若干出土している。

#### 5. 考察

両遺跡から得られた資料は少量であり、不明な点も多いが、今回の同定結果を浦尻貝塚等周辺遺跡の成果とあわせて記すこととする。なお、両遺跡の時期は確定されていないが、片草貝塚は前期前葉～中葉（大木1～2a式期）、角部内南台貝塚は中期中葉（大木8a～8b式期）に伴う資料として述べることにする。

##### (1) 貝類

前期前葉の北原貝塚（植月・樋泉2004）や加賀後貝塚（山崎2001）では、貝類はいずれも内湾砂質干潟に生息するイボキサゴが中心であった。片草貝塚でもイボキサゴが多い点はこれに一致し、同じ砂質干潟に生息するアサリ、ハマグリなども多いことも類似する。しかし、片草貝塚では内湾泥質干潟に生息するマガキも多く、オキシジミ・オオノガイが目立つこともこれと調和的である。このことから、片草貝塚では、砂質干潟を主な漁場とするが、泥質干潟も多く利用していたことが示唆される。宮田川流域においても、内陸に位置する加賀後貝塚では海岸部にあたる北原貝塚に比較するとマガキが多いことが指摘されており（植月・樋泉2004）、マガキ等が目立つことは、片草貝塚が当時の湾奥にあたっていたという立地環境を反映している可能性がある。

角部内南台貝塚でもイボキサゴが多く、同じくアサリ・ハマグリ・カガミガイが多いことから主な貝類の漁場は内湾砂質干潟であったと考えられる。中期段階の浦尻貝塚でもほぼ同様の内容を示しており、小高川流域の中期段階でも、角部内南台貝塚が立地する海岸部では、宮田川流域と同様の砂質干潟が広がっていた可能性を指摘できる。また、少量のマガキなども含まれることから、泥質干潟も漁場として利用されているようである。

浦尻貝塚で中期前葉に多く中期後葉以後に激減する暖流種のイタボガキは、片草貝塚で比較的多くあり、角部内南台貝塚でもわずかに1点出土している。浦尻貝塚の動向に、周辺遺跡も一致する傾向があると言えよう。

## (2) 魚類

片草貝塚では、少量ではあるが内湾性のスズキ・クロダイ属が比較的多くみられ、ほぼ同じ時期の前期前葉にあたる北原貝塚の大型資料や宮田貝塚の報告資料（渡辺1975）と共通し、これらの報告で指摘されているように片草貝塚においても内湾が主な漁場であったと推察される。一方で、わずか1点であるが外海沿岸性のマダイ亜科も確認されている。マダイ亜科は同じく内陸部に位置する宮田貝塚でも比較的多くみられること、片草貝塚の貝類に外海沿岸性のウバガイがみられることから、前期段階において内陸部にある立地でも外洋沿岸での漁労を行っていた可能性を指摘できよう。

角部内南台貝塚では、クロダイ属・ウナギ属・スズキ・ヒラメ科など浦尻貝塚の中期前葉段階とほぼ同じ魚種がみられる。1点ではあるがブリ属もみられ、この点も浦尻貝塚と一致する。魚類については、角部内南台貝塚と浦尻貝塚の差は、この資料からは認められない。

## (3) 鳥獣類

鳥獣類は片草貝塚ではシカ・イノシシを中心とし、ノウサギ、鳥類がわずかに見られる。角部内南台貝塚でもシカ・鳥類が出土している。これらは浦尻貝塚等の周辺遺跡においても多く出土しており、両遺跡の資料数が少ないこともあり、周辺遺跡との差は認められない。また両遺跡とも少ない資料数でありながら、鳥類が出土しており、北原貝塚・浦尻貝塚においても前期前葉、中期前葉～後葉は鳥類が多い時期であることから、この傾向と一致しているとも評価されよう。

## (4) まとめ

角部内南台貝塚・片草貝塚の両資料は断片的な資料に過ぎないが、今回の分析により両遺跡の動物遺体群の傾向は明らかとなった。片草貝塚の内容は、小高川流域でも、内陸部という立地にありながら、前期段階において、宮田川流域と同じく積極的な漁業が行われていたことを示している。角部内南台貝塚は、周辺貝塚群の中では、浦尻貝塚以外に中期段階に営まれた唯一の貝塚であり、前期後葉～中期中葉にかけては浦尻貝塚同じく拠点的な海岸部の集落であった可能性がある。今回得られた動物遺体の内容は浦尻貝塚と整合的であった。この両遺跡の比較検討は今後行う必要がある。

このような浦尻貝塚周辺の複数の時期にわたる貝塚は、時期的、立地的に補完的な関係にあると考えられ、浦尻貝塚の成果をより活かしていくためにも、今後は、これらの貝塚群の調査成果を統合して検討していくことが重要であるといえよう。（川田強・樋泉岳二）

註1 現在は、これまで称されてきた角部内南台東貝塚・西貝塚を統合し、角部内南台貝塚とすることとしている。

註2 本資料は竹島(1975)ならびに南相馬市博物館(2008)にアシカの牙製と記載されるもので、これはイノシシの誤りである。

## 参考文献

- 植月学・樋泉岳二（2004）「北原西貝塚の動物遺体」『北原貝塚遺跡群』小高町教育委員会  
 竹島國基（1975）「第一編 第一章 郷土文化のよあけ」『小高町史』小高町  
 小高町教育委員会（1988）『角部内南台東貝塚』  
 樋泉岳二・植月学（2005）「浦尻貝塚における動物遺体群の概要」『浦尻貝塚1』小高町教育委員会  
 南相馬市博物館（2008）『先人の足跡—竹島國基が歩いた遺跡—』  
 山崎京美（2001）「加賀後貝塚出土の動物遺存体」『小高町内埋蔵文化財調査報告1』小高町教育委員会  
 渡辺誠（1975）「第3章 遺物 A自然遺物 1. 貝類および魚類遺体の分析」『宮田貝塚』小高町教育委員会

表1 角部内南台貝塚（現地採集・水洗資料）の貝類遺体の同定結果

\*左右のあるものは左/右で表示(表2～表5も同様)

種名		L II	L III
腹足綱 (巻貝類)	イボキサゴ	62	1
	ウミニナ	1	
	レイシ	1	
二枚貝綱	イタボガキ	1 /	
	マガキ	2 / 2	1
	カガミガイ	9 / 10	1 / 3
	アサリ	20 / 10	/ 2
	ハマグリ	11 / 8	2 /
オオノガイ	1 / 1		
合計		139	10

表3 角部内南台貝塚（現地採集・水洗資料）の鳥獣類遺体の同定結果

種名	層名	部位	左右	位置	数
シカ	L V	下顎骨	R	[M 2]	1
鳥類	L III	椎骨			1
鳥類	L III	中足骨	?	遠位端	1

表2 角部内南台貝塚（現地採集・水洗資料）の魚類遺体の同定結果

種名	部位	L II	L III
サメ類	椎骨		1
板鰓類	椎骨		2
ウナギ属	前鋤骨板	1	1
ウナギ属	主上顎骨		1 /
ウナギ属	腹椎		1
ボラ科	腹椎		1
スズキ	主鰓蓋骨		/ 1
スズキ属	主上顎骨	1 /	
アジ科?	尾椎	1	
ブリ属	尾椎		1
クロダイ属	前上顎骨		/ 1
クロダイ属	歯骨		1 /
クロダイ属	角骨		1 /
クロダイ属	第2腎鱗棘		1
アイナメ属	尾椎		1
コチ科	主上顎骨		/ 1
ヒラメ科	尾椎		1
カレイ科	腹椎	1	
カレイ科	尾椎		2
フグ科	前上顎骨	1 /	
フグ科	方骨	/ 1	
合計		6	18

表4 片草貝塚（現地採集資料）の貝類遺体の同定結果

種名		L II
腹足綱 (巻貝類)	イボキサゴ	27
	スガイ	1
	ウミニナ	4
	ホソウミニナ	1
	ツメタガイ	5
	アカニシ	1
二枚貝綱	イボニシ	1
	サルボウ	/ 1
	イタボガキ	2 / 6
	マガキ	14 / 11
	ウバガイ	/ 1
	マテガイ	1 / 1
	カガミガイ	2 / 1
	アサリ	6 / 11
	オキシジミ	3 / 4
	ハマグリ	4 / 3
オオノガイ	3 / 3	
合計		117

表5 片草貝塚（現地採集資料）の魚類・甲殻類遺体の同定結果

種名	部位	資料数
スズキ	主鰓蓋骨	6 / 2
スズキ	主鰓蓋骨破片	4
スズキ属	前鰓蓋骨	/ 1
スズキ属	角骨	1 / 1
スズキ属	第1椎骨	1
スズキ属	椎骨	2
クロダイ属	主上顎骨	/ 1
クロダイ属	前上顎骨	/ 1
クロダイ属	歯骨	1 / 1
クロダイ属	口蓋骨	/ 1
クロダイ属?	第1血管間棘	1
マダイ亜科	歯骨	1 /
ヒラメ科	椎骨	1
魚類	棘	1
魚類	同定不可	2
カニ	鋏脚	1
合計		30

表6 片草貝塚（現地採集資料）の鳥獣類遺体の同定結果

種名	部位	左右	位置	数
イノシシ	下顎C※	R		1
イノシシ	下顎M2	L		1
イノシシ	橈骨	L	近位端	1
イノシシ	尺骨		遠位端	1
イノシシ	脛骨	R	遠位端	1
イノシシ	第2中足骨	R	近位端	1
イノシシ	第5中手骨	R	完形	1
イノシシ	基節骨		完形	1
イノシシ	中節骨		完形	1
イノシシ	末節骨		完形	1
シカ	下顎M2	R		1
シカ	肩甲骨	R	近位端	1
シカ	寛骨	L	寛骨白	1
シカ	基節骨		完形	1
シカ	角		破片	4
シカ/イノシシ	腰椎			1
ノウサギ	踵骨	R	完形	1
鳥類	尺骨	R	近位端	1
鳥類	鳥口骨			1
鳥獣類	肋骨			2
鳥獣類	不明			47
合計				71

※は骨角器（牙斧）(註2)

報告書抄録

ふりがな	うらじりかいづか3						
書名	浦尻貝塚3						
副書名	第2分冊 - 自然遺物編 -						
シリーズ名	南相馬市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第11集						
編著者名	川田強・佐川久・樋泉岳二・江田真毅・黒住耐二・谷畑美帆・吉川純子・山崎京美						
編集機関	福島県南相馬市教育委員会文化財課						
所在地	〒975-0012 福島県南相馬市原町区三島町二丁目 45						
発行年月日	2008. 3. 31						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡				
うらじりかいづか 浦尻貝塚	みなみそうましおだかくらじり 南相馬市小高区浦尻字  みなみだい 南台ほか	072125	52 53 54 114	37° 31' 00"	141° 01' 40"	5,140	道路・ 保存目的範囲 内容確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
浦尻貝塚	貝塚・集落跡・ 古墳・館	縄文～近世		貝塚・竪穴住居 柱穴・貯蔵穴等	動物遺体・人 骨・炭化種実・ 縄文土器・土製 品・石器	縄文時代前期～晩期貝塚・ 貝層等から出土した縄文時 代の自然遺物	



---

印刷 2008年3月28日  
発行 2008年3月31日

南相馬市埋蔵文化財調査報告書第11集

---

浦尻貝塚3  
第2分冊－自然遺物編－

編集 南相馬市教育委員会 文化財課  
発行 南相馬市教育委員会  
〒975-0012 福島県南相馬市原町区  
三島町二丁目45番地  
印刷 有限会社 ライト印刷  
〒975-0018 福島県南相馬市原町区北新田字信田370-1

---